

令和5年度
研究紀要
第2号

探
究

令和5年度北海道函館高等支援学校(開校五周年記念)研究紀要の発刊にあたって
「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」
～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～

北海道函館高等支援学校長 源 一 広

この度、令和5年度北海道函館高等支援学校開校5周年記念公開研究会兼地域連携研修会を開催できましたことを大変うれしく思っております。本校が平成三十一年に開校しすぐに新型コロナウイルス感染症が拡大したことで、開校からのコンセプトである地域に出て共に学ぶ「地域貢献活動」や、ハコカフェクローバー(カフェ運営)を通した「四学科協働学習」も思うように教育活動を展開することができない日々が続いておりました。その中でも教育活動を工夫しながら特別な支援の必要な児童生徒の学びの質の向上に日々取り組んでまいりました。

さて、本校では、校内研究を通し新学習指導要領の趣旨をとらえて、今、学校で学んでいる子どもたちが卒業後、社会で自立した生活をしていくために何を学び、どのように資質能力を身に付けていかななくてはならないかを考え、研究に取り組んできました。そのためには、私たちが日々行っているひとコマひとコマの授業をより良いものとして改善していくことが不可欠であると考えています。

そこで、本校の校内研究テーマを「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～副題として「わかる」「できる」「いきる」という視点による授業改善の取り組みとして3年計画で進めてきました。

本校は、平成31年4月1日にここ道南函館市で唯一の職業学科と普通科を設置する知的障害教育校高等部単置校として開校しました。「自己と社会をつなぎ、共生社会を創造する教育の追求」を理念に「共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成」を教育目標に掲げ、「探究」「協働」「健全」を校訓として知徳体の調和のとれた総合的な人格形成を目指しています。

その基盤としての社会貢献活動、ボランティア活動の積極的参加、又、地域とつながる場として「カフェ」の運営を通した学び等の特徴的な教育活動は徐々に教育効果を現し地域からのニーズも加えて高くなってきています。

今回の3カ年の研究では、それらの理念を具現化するための授業改善の工夫、学びのデザインガイドブックの作成活用などを実践評価してきています。今、社会では、多様な価値観の中で他者と協力して様々な課題と向き合いながら主体的に問題を解決していく力の育成が求められています。これからそのような社会に出る生徒たちが卒業後に学校で学んだことを活かして、地域で自己実現していくことができるようになるためにこの研究が一つのきっかけとなることと期待し、私たち学校も生徒たちと共に学び続けていく必要があると考えます。このような中、弘前大学大学院教育学研究科 菊地一文教授をお迎えし、本校の「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」についてご助言をいただき、学校現場における様々な課題や児童生徒の指導・支援の在り方、多様な背景を持つ子どもたちの学びを支える授業改善に大きな示唆をいただけたことは大変有意義でした。

そして、この度、3カ年の研究を評価し研究集録としてまとめることができましたことに御協力いただきました全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げますとともに、詳細は、本研究紀要に示されておりますので、御高覧頂ければ幸いです。今後とも御指導と御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。更なる特別支援教育の発展・充実を祈念して御挨拶とさせていただきます。

収録内容一覧

研究紀要の発刊にあたって 校長 源 一 広

R3 年度

令和 3 年度北海道函館高等支援学校校内研究計画

R3 年度 校内研究のまとめ

研究授業学習指導案 外国語

研究授業学習指導案 音楽

研究授業学習指導案 理科

研究授業研究協議記録

R4 年度

令和 4 年度北海道函館高等支援学校校内研究計画

R4 年度 校内研究のまとめ

研究授業学習指導案 作業学習

研究授業学習指導案 総合的な探究の時間

研究授業学習指導案 数学

研究授業研究協議記録

R5 年度

令和 5 年度北海道函館高等支援学校校内研究計画

R5 年度 校内研究のまとめ

公開授業学習指導案 総合的な探究の時間

公開研究会研究協議記録 総合的な探究の時間

公開研究会研究協議記録 作業学習

公開授業学習指導案 保健体育

公開研究会研究協議記録 保健体育

学習デザインガイドブック

R5 年度版 学習の手引き

あとがき 校長 源 一 広

過年度研究の概要

令和3年度 校内研究

【本校の校内研究の目的】

- 1 本校の教育課程の改善充実を目指す。
- 2 教職員の専門性の向上を図る。
- 3 教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- 4 研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援における **HKS** スタンドアードの確立を目指す。

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

～1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

2年次副題：体験的な学習・生活に結びついた学習の充実と指導技術の向上に向けて

3年次副題：研究のまとめとHKS授業デザインガイドブックの作成

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基礎・基本を押さえ、体験的な学習・生活に結びついた学習の実現を目指し、実践を通してその在り方を考察、共通理解をしてまとめることで、本校における「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図ることができるであろう。

3 テーマ設定の理由

今回の学習指導要領で示された5つの改訂基本方針に対して、本校では令和元年度に「カリキュラム・マネジメント」を、令和2年度には「学習評価の在り方」をテーマとするなかで「育成を目指す資質・能力の明確化」について研究してきた。

これにより本校では、教育課程の基本となる計画と各教科等の年間指導計画、さらにはそれらとの関連させた単元・題材指導計画による実践と評価というPDCAサイクルの構造を確認、共通理解した。

その骨組みに肉付けをしていく作業が学習指導要領改訂の基本方針の一つでもある「主体的・対話的で深い学び」による授業改善である。

学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な基礎基本を押さえ、「これからの時代に求められる資質・能力」を身につけることのできる学習の在り方を再認識するとともに、知的障害教育が重きを置いてきた「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点を合わせて考察することにより、本校における学習活動のあるべき姿についての理解を深め、日常の実践を充実させていくことができることをねらいとして本テーマを設定した。

4 今年度の研究の視点（研究仮説を検証するために取り組む内容の具体化）

- (1) 学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」と、知的障害教育における「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点の基礎基本を確認する。
- (2) 基礎基本を踏まえた授業研究を実施し、学習改善の在り方をまとめる。

5 過年度研究と今年度以降の研究内容

内容 年度		カリキュラム・マネジメントの確立	「主体的・対話 的で深い学びの 実現」に向けた 授業改善	教科等横断的 な視点に立っ た資質・能力 の育成	
		教育課程の基本 となる計画の確 認			単元・題材の計画 と学習評価
第 1 期	R1年度	◎	○	△	△
	R2 〃	○	◎	△	△
第 2 期	R3 〃	○	○	◎	△
	R4 〃	△	△	◎	△
	R5 〃	△	△	◎	△
第3期 R6以降		研究主題(仮)知識基盤社会における知的障害教育の生きる力、働く力の再考			

◎：重点となる内容 ○：重点と合わせて取り組む内容

△：今後に向け試行、準備すべき内容・テーマに沿って必要に応じて取り組む内容。

6 推進計画

取組	実施日	取組内容	備考
校内研究 1	4/23 金	○ 1次案提案 ○ アンケート 1 ・進め方への意見、質問 ○ グループ希望集約	全体研究 25分
校内研究 2	5/27 木	○ 研究計画案提案 ○ グループ編成 ○ 学習指導要領解説の内容確認 ・「主体的・対話的…な視点」につい ての学習指導要領の趣旨に照らし た授業の構想 ○ 今後の進め方について ○ アンケート 2 ・授業研究計画の視点への意見・質問 ・今後の研究の進め方への意見・質問	全体研究 50分
個人研究	※校内研究 3までの期 間	○ 研究授業とする単元・題材の予定 ○ 「主体的・対話的…な視点」につい ての学習指導要領の趣旨に照らし た授業の構想	個人研究 1～5時間
校内研究 3	7/26 木	○ 授業研究の取組について ・研究グループについて ・授業研究計画の視点 ・単元・題材指導計画様式 ○ 校内研究会授業者選出	全体研究 20分 グループ研究 30分
個人研究	※校内研究 4までの期 間	○ 研究授業に向けての取組 ・単元・題材指導計画作成 ・学習指導案作成	個人研究 5～10時間
校内研究 4	8/23 月	○ 研究アドバイザーによる助言 ○ グループによる研究授業指導案検討	全体研究 50分 グループ研究 30分
個人研究 研究授業	9月～10月 ※期間内の 設定が難し い場合はこ の前後で	○ 各自の研究授業の実施 ・教材研究 ○ 研究授業の振り返り	個人研究 5～10時間 研究授業 50分 授業の参観 150分(3回)

取組	実施日	取組内容	備考
校内研究 5	11/25 木	○研究協議 ・研究授業の成果と課題 ・校内研究会指導案検討	グループ研究 50 分
校内研究会	12/1 水	○研究授業・研究協議	全体研究 7 時間
地域連携研修会	1/12 水	○講演 ※主体的・対話的…な視点をテーマに	全体研究 3 時間
校内研究 6	2/24 木	○今年度研究のまとめ ・今年度研究の成果と課題 ・次年度の研究について	全体研究 50 分
取組時間の目安の合計(最長時間)			約 33 時間

6 今年度研究推進の方針・方法

- (1) 日常実践を通じた研究を推進し、成果を日常の学習指導に生かす。
 - ア 文部科学省から示された資料を中心に研究を進める。
 - ・学習指導要領および同解説
 - ・高等部の指導の手引き」(平成 8 年、文部省)
 - イ 個人研究、グループ研究、全体研究に必要な時間の目安を示し、計画的に取り組めるようにする。※グループ編成については別途提案
 - ウ 個々の日常実践に位置づけ、実践、交流、協議等により研究を進める。
 - エ 今後の日常実践に実用的であることを大切にする。
- (2) 授業研究に全員で取り組む
 - ア 期間を設けて研究授業を設定し発表する。
 - イ 研究成果のまとめを校内研究会として研究授業を実施する。
- (3) 研究広報の活用
研究推進のための説明の補足、協議で出された意見や討議内容の交流など、限られた時間のなかでの研究の充実を図る。
- (4) 公開研究会
 - ア 1 年次、2 年次は校内研究会とする。
 - イ 3 年次研究のまとめを公開研究会として発表する。(令和 5 年度予定)
- (5) 研究紀要作成
1 年毎に紀要としてまとめ、3 年次に 3 年次及び 3 カ年の研究成果を研究紀要としてまとめる。
- (6)その他
研究アドバイザーへの協力を依頼する。

7 3 カ年の取組一覧

年度	研究会	研修会(講演会)	研究紀要の内容
R3	× 校内研究会(12 月)	○ 地域連携研修(講演会)	△ R3 年度の研究の概要と まとめ
R4	× 校内研究会(時期未定)	○ 実施予定(講演会)	△ R4 年度の研究の概要と まとめ
R5	○ 公開研究会(時期未定) ※一般参加者あり	○or△ 実施予定(講演会) ※公開研究会で設定?	○ R5 年度の概要とまとめ 3 カ年の研究のまとめ

令和3年度

北海道函館高等支援

校内研究のまとめ

令和3年度 研究のまとめの内容

- 1 今年度研究計画の概要
 - (1)研究テーマ
 - (2)研究仮説
 - (3)まとめの内容、研究の視点
 - (4)今年度の研究の視点

- 2 今年度研究の経過

- 3 今年度研究のまとめ
 - (1) 研究授業のアンケート集約より
 - (2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解
 - (3) 次年度を取組案

(1) 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

2年次副題：体験的な学習・生活に結びついた学習の充実と指導技術の向上に向けて

3年次副題：研究のまとめとHKS授業デザインガイドブックの作成

（２）研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」を実現するための基礎・基本を押さえ、体験的な学習・生活に結びついた学習の実現を目指し、実践を通してその在り方を考察、共通理解をしてまとめることで、本校における「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を図ることができるであろう。

(3) テーマ設定の理由

今回の学習指導要領で示された5つの改訂基本方針に対して、本校では令和元年度に「カリキュラム・マネジメント」を、令和2年度には「学習評価の在り方」をテーマとするなかで「育成を目指す資質・能力の明確化」について研究してきた。

これにより本校では、教育課程の基本となる計画と各教科等の年間指導計画、さらにそれらとの関連させた単元・題材指導計画による実践と評価というPDCAサイクルの構造を確認、共通理解した。

その骨組みに肉付けをしていく作業が学習指導要領改訂の基本方針の一つでもある「主体的・対話的で深い学び」による授業改善である。

学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に必要な基礎基本を押さえ、「これからの時代に求められる資質・能力」を身につけることのできる学習の在り方を再認識するとともに、知的障害教育が重きを置いてきた「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点を合わせて考察することにより、本校における学習活動のあるべき姿についての理解を深め、日常の実践を充実させていくことができることをねらいとして本テーマを設定した。

(4) 今年度の研究の視点

(研究仮説を検証するために取り組む内容の具体化)

- (1) 学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」と、知的障害教育における「体験的な学習」「生活に結びついた学習」の視点の基礎基本を確認する。
- (2) 基礎基本を踏まえた授業研究を実施し、学習改善の在り方をまとめる。

2 今年度研究の経過

取組	実施日	取組内容
校内研究 1	4/23金	○1次案提案 ○グループ希望集約
校内研究 2	5/27木	○令和3年度 北海道函館高等支援学校 校内研究計画(案)について ○「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項について
校内研究 3	7/26木	○「研究授業の視点」とグループ研究の進め方 ○「単元・題材指導計画」、「略案」、「計画とまとめ」様式
個人研究		○研究授業に向けての取組
校内研究 4	8/23月	○研究アドバイザーによる基調提言 ・助言者 北海道教育大学函館校 教授 北村博幸 様 ・提言 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について」 ○グループによる研究授業指導案検討
個人研究 研究授業	9月～10月	○各自の研究授業の実施 ○研究授業の振り返り
校内研究 5	11/25木	○研究協議 ・各研究授業の成果と課題 ・校内研究会指導案検討
校内研究会	12/1水	○研究授業・研究協議 ・助言者：北海道教育大学函館校 教授 北村博幸 様 ・授業者：松本真紀江先生(英語) 高橋直樹先生(音楽) 渡部一博先生(理科)
地域連携研 修会	1/12水	○本校の実践発表「地域とつながる4学科協働によるカフェの実践」 ・発表者 北海道函館高等支援学校 教諭 岡山 努 ○講演「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」 ・講師：北海道教育大学函館校 教授 北村博幸氏
校内研究 6	2/22火	○今年度研究のまとめ

3 今年度研究のまとめ

(1) 研究授業のアンケート集約より

(2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

①本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方

②本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点

ア 「わかる・できる・いきる授業のデザイン」

イ 「わかる・できる・いきる授業のデザイン」の構造

(3) 次年度の取組案

(1) 研究授業アンケート集約より

(「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についてのアンケート)

各先生が取り組んだ研究授業を通して『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の基本的事項』(以下：基本的な事項)の内容に対する成果や課題をまとめていただきました。

以下は、その中から、授業改善のポイントやキーワードとなると考えられる事項を集約したものです。

これをもとに、「主体的・対話的で深い学び」についての共通理解を深めたいと思います。

なお、「基本的な事項」には、内容の重複した箇所がありましたので、まとめるに当たり項立てを整理しました。

また、いただいた御意見につきましては、同等の内容の場合は1つにまとめたり、内容を簡略化するなどしておりますので御了承ください。

※アンケート集約の原版は別添の資料をご覧ください。

資料2 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についてのアンケート 集約

アンケート集約の項立て

A 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について

(1)①「主体的な学び」の視点について

②「対話的な学び」の視点について

③「深い学び」の視点について

(2) 3つの柱を偏りなく実現することについて

(3) 内容や時間のまとまりの構成について

(4) 「見方・考え方」と過程を重視した学習の充実について

(5) 「思考・判断・表現」の過程について

2 言語環境の整備と言語活動の充実について

3 コンピュータ等や教材・教具の活用について

4 見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする学習活動について

5 体験活動について

6 学校図書館、地域の施設の利活用について

B 1 知的障害の学習上の特性等

2 知的障害ある生徒の教育的対応の基本

A 1 (1) ① 「主体的な学び」の視点について

【主体的な学びを引き出す学習内容】

- 興味関心がある
- わかる、できる
- 生活との関連、生活に生かせる
- 個の目的、将来への意識と結びつく
- 自分の課題として理解

(1)「主体的な学び」が実現できているかという視点。
・自己のキャリア形成の方向性と関連付けている
・見通しをもって粘り強く取り組んでいる
・自己の学習活動を振り返って次につなげている

【主体的な学びを引き出す学習場面】

- 見通しと振り返り
- ・具体的な見通し
- ・単元のオリエンテーション
- ・毎回の振り返り
- ・的確な自己評価
- 自己決定、自己選択

【主体的な学びを引き出す支援】

- 授業の展開
- ・繰り返し
- ・知識技能を生かす場面
- ・授業のパターン化
- ・次第に支援を減らし自立へ向かう
- 参考例
- 苦手意識の軽減
- 講師、プロフェッショナル
- 外部者との対話・接客、受注での感想

【主体的な学びを引き出す教師の姿勢や配慮】

- 実態把握
- 待つこと
- 時間の保障
- 探究に向かう発問
- 意見の言える環境づくり
- 集団構成、リーダー
- 失敗を生せる

【主体的な学びの課題等】

- 繰り返して飽きる
- やらされている感
- 意欲がない
- 主体的な学びが対話的、深い学びにつながる
- 主体的な取り組みの保障が学習計画に影響(時間配分)
- 主体性が引き出せない

A 1(1)②「対話的な学び」の視点について

【対話的な学びを引き出す学習内容】

- 関心意欲 ○意義、必要性がある

(2)「対話的な学び」が実現できているかという視点

- ・子供同士が協働している
- ・教職員や地域の人との対話している
- ・先哲の考え方を手掛かりに考え自己の考えを広げ深めている

【対話的な学びを引き出す学習場面】

- 話し合い活動 ・協議 ・意見発表 ・交流 ・友達へアドバイス ○協働
- 対話の対象 ・地域、外部 ・自然、文化、スポーツ
- 自分との対話 ・意見、感想 ・計画、アイデア ・自己評価

【対話的な学びを引き出す手立て】

- 集団構成 ・グループ、ペア ・異学年 ・役割 ○話し合いのルールやマナーの理解
- 話し合い以外の対話の工夫 ・ワークシート ・図書館 ・講演、講師による指導 ・クラウド上で意見交流

【対話的な学びを引き出す教師の姿勢や配慮】

- 否定しない ○教師の言葉遣い ○気付き、つぶやきを大切にする ○普段のコミュニケーション
- 生徒の関係性の理解 ○STの役割 ○ファシリテーションスキル ○どの生徒も話せる環境作り

【対話的な学びの課題等】

- 他者評価で自信をなくさないか ●生徒がやらされている感 ●意見の共有ができない(時間、手立て)
- 意見が出ない ●相手の気持ちになれない ●まとめられない
- 生徒により積極性に参加できる、できないが分かれる

A 1(1)③「深い学び」の視点について

【深い学びを引き出す学習内容】

- わくわくなどの期待感をもたせる
- 日常生活で使うものを題材に
- 必要性
- 関心・意欲
- わかる、できる + α

【深い学びを引き出す学習場面】

- 体験
- 感性を働かせる
- 知識・技能を活用する
- 事前事後学習
- 活動の録音や録画による振り返り
- ステップアップ
- 対話
- 問題解決

【深い学びを引き出す手立て】

- 深められるタイミング
- 繰り返し
- 振り返りが抽象的にならない
- 映像や体験など文字以外の資料、情報
- 他者との対話、共有
- 外部講師

【深い学びを教師の姿勢や配慮】

- 時間をかける
- 丁寧に取り組む
- 時間配分・授業の柔軟性、学習予定の変更
- アドバイス
- ・気づきを促す支援

(3)「深い学び」が実現できているかという視点

- ・「見方・考え方」を働かせる
- ・知識を相互に関連付けてより深く理解している
- ・情報を精査して考えを形成している
- ・問題を見いだして解決策を考えている
- ・思いや考えを基に創造している

【深い学びの課題等】

- 取り組みやすい題材だと深まらない。
- 興味関心意欲がない
- 分量が多すぎる
- 深い学びは難しい

A(2) 3つの柱を偏りなく実現することについて

- 概ね取り組んでいる
 - 3つの柱をバランス良く設定するよう意識している
 - 評価を授業改善につなげられている
 - 3つの柱を意識し、学習内容や指導方法の改善ができた。
 - 計画的な観察、記録の実施
 - 単元毎に振り返りを行った
 - 自校評価を次の個人目標に生かすことができています
- 適切な評価についての課題
- ・評価のイメージがもてない
 - ・毎時間でできていない
 - ・知識、技能に偏る
 - ・適切か判断できない
 - ・自己評価が時間の余裕がない
 - ・シラバスの改善までには至っていない

A(3) 内容や時間のまとまりの構成について

- 3つの学びの構成を意識した
 - 繰り返し行い定着してきた
- 3つの学びを効果的に構成するイメージがわからない
- できているか自信がない
- 対話的な学びができなかった
- 時間足りない、深められない
- 深い学びができなかった
- 単元の内容により偏る
- 考える時間が無い
- 1時間計画の授業での設定が難しい
- 主体的な学びは計画しているつもりだが、対話的、深い学びはできていない

A(4) 「見方・考え方」と過程を重視した学習の充実について

【「見方・考え方」を働かせるための授業内容】

- 将来の社会的自立を念頭にした
- 生徒の経験を生かす
- 自分の知識になるように
- 自分に置き換えて考える
- 生徒が自分で考え実践できるようになってきている
- 役割を明確にし繰り返す
- ペアで共通の目的に向かって解決するように授業を計画している
- 知識を実感できるように
- 成功体験を増やす
- 習慣
- 何を学ぶか、どのように学ぶかを工夫
- 自己理解から卒後に必要な力を理解
- 意義を理解させる
- 卒後につながることを意識させる
- 日常生活に結びつける
- 感受性を深め人生を豊かにする
- さらなる興味関心、深い学びにつながる

【「見方・考え方」を働かせるための授業の組み立て】

- 基礎基本から課題解決に向け試行錯誤することを大切にしている
- イメージと結びつけたりや体験したりするなかで活用させるようにした
- 授業の連続性を重視して計画した
- 繰り返しで身につける
- 素地を3年間で作る
- 3年間の学びの系統
- 生徒の自己目標～自己評価サイクルができてきた

3「見方・考え方」

- ・社会の中で生きて働くものとして習得
- ・思考力、判断力、表現力等を豊かなものとする
- ・社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりする学びの過程の中でより質の高い深い学びにつなげることが重要

【「見方・考え方」の課題】

- 経験不足、様々な体験、経験が大切
- 実践力になっていない
- 知識が断片化しないように
- すぐ力を付けたり活用できたりするものではなく、社会で経験をする中で深められる
- 知識偏重傾向にある
- こちらが「見方・考え方」を意識しておくべき
- 「見方・考え方」押さえや具体化を共有したい
- 授業での学習を日常生活に結びつけるのはとても難しいと感じる
- 今の生徒の声を聞く、生徒理解のヒント
- 具体的なイメージが持てていない
- 自己研鑽が必要

A(5)「思考・判断・表現」の過程について

【「思考・判断・表現」の過程について】

- 自分に置き換えて相手のことを考える力をつける
- ロールプレイで考える
- 正しい知識と情報
- 基礎基本があつての思考・判断・表現
- 理由を説明
- 自分の強み(得意)弱み(苦手)を意識し選択させる
- 自己決定に責任をもたせる
- 授業の組み立て 基礎・基本→発展して思考・判断・表現
- 情報、材料を用意し場面設定をする。
- 考えを伝え合う場面を設定
- 調べた内容をまとめる作業
- 問題を見いだす部分が重要

【「思考・判断・表現」の過程についての課題】

- 判断できるようになるまで時間がかかる
- 苦手を避けたりやりたいことだけやろうとする
- 中途半端で何を学んだかわからなくなることも…

4「思考・判断・表現」の過程

- (1)「問題発見・解決につなげていく過程
- (2)考えを形成したりしていく過程
- (3)思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

A 2 言語環境の整備と言語活動の充実について

- 社会生活に対応できる言葉遣い ○学習の基礎基本となる言葉の理解
- 教師の姿勢や態度
 - ・簡潔な説明 ・丁寧語 ・わかりやすい ・自分で答えを導き出せるような発問の工夫
 - ・言語のみによらない説明 ・ルビの振り方 ・理解できる専門用語 ・発言を否定しない
- 教師の姿勢や態度 ・説明が長い ・言語のみで説明 ・座学になりがち

A 3 コンピュータ等や教材・教具の活用について

- iPad ・情報収集、記録、振り返りに活用 ・どの授業でも活用が進められている
- クラウドの利用検討 ○多様なアプリケーション、学習ソフトの利用 ○木材加工でPC利用 ○新聞を活用している
- 何を調べるのか分からなくなる、調べられない ●遊び始める ●教師の技術不足 ●新聞が活用できていない

A 4 見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする学習活動について

- 見通しをもたせる ・導入で説明、板書、PP ・作業前ミーティング ・学習の意義を理解させる ・目標内容の自己決定
- ・授業の流れのパタン化
- 振り返り ・振り返りシート、作業日誌 ・確認テスト ・振り返りを数量やグラフ化の検討中 ・ICT、ビデオ活用
- ・十分な時間を設定できない ・自己評価できない

A 5 体験活動について

- 教科等の特質に応じた体験活動は「主体的…学び」につながっている。 ○外部講師、地域、受注
- 興味関心 ○カフェ ○生活との関わりを考えると結びつく体験が ○言葉で考える以外の感覚を使う工夫

A 6 学校図書館、地域の施設の利活用について

- 図書館は単元により活用している ○この地域は施設が充実 ○町会館清掃 ○地域の施設利用を今後検討
- 学校図書館は活動できていない ●読書習慣をつける必要

B 1 知的障害の学習上の特性等

【特性への対応】

- 実際の生活場面に即した指導内容の精選
- 生徒の実態に応じた言葉掛け
- 環境条件の中には教師との信頼関係も
- 上手くできた支援が引き継がれると良い
- 丁寧で適切で内面に寄り添った実態把握が必要
- わかる、できる状況作り・学習進度差への対応
- レディネスの把握、ST
- 随時見通しをもたせ、学習のポイントを示す
- 音声、視覚、具体物、ジェスチャーなどによる理解

【課題】

- 自分のスタンダードへの固執が妨げ
- 時間の経過で定着が薄れる
- 生活に汎化されない

B 2 知的障害ある生徒の教育的対応の基本

【教育的対応の基本】

- 楽しさを感じる学校
- 生徒の興味関心を優先
- 自己肯定感
- 興味関心から生活に結びつくように展開
- 信頼関係の構築
- ユニバーサルデザイン
- 日常生活を軽んじない
- 感謝の心
- 出口の教育
- 自分で判断する生徒
- 自己理解、他者理解
- 学習の意義を理解

【課題】

- できないのは教師の責任
- 物、金、人
- T.Tを機能させていない
- 実態差、出席状況 対応
- 大人が一貫した指導を
- 生活への結びつきは教科によっては難しい
- 挨拶、コミュニケーション…働く力の不足を感じる
- 社会性育成の場の理解が乏しい
- 卒業後への意識、目的、ルール、軸をしっかり

アンケートを集約して…

先生方が感じたことはこんなことでしょうか

- 「主体的・対話的で深い学び」をやってみただけどこれでいいのかな、という感じ。
- 主体的な学びが対話的な学び、深い学びにつながる。主体性が大切。
- 主体性を導き出すのは、関心・意欲や必要性の実感、授業がわかること、できること。

そもそも

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善は…

- ・ これまでのテストで点数を取ることが優先された受験教育
- ・ 知識偏重で教師が教え生徒が覚える講義的な授業
- ・ 問題解決力のない受け身な学生を送り出す大学教育の在り方
等への反省から出てきたもので

- 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではない。
- 優れた授業改善の等の取組に共通し、かつ普遍的な要素である。
- これまでも学習指導要領において重視してきたものであり
～中略～学習活動の質を更に改善・充実させていくための視点としてしめしている。(○3点は学習指導要領解説より出典)

(2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方

そこで、本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方について次のように押さえたいと思います。

- 1 これまで行ってきた学習指導を、学習指導要領に示された『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の趣旨に照らして整理し、学習活動の質を改善・充実させるものである。
- 2 生徒の実態に応じ、生徒自身の学びとなり、生徒の生活にいきる学力の育成を目指すものである。
- 3 本校における学習指導の基礎・基本として共通理解を図り、各授業の実践に反映させるものである。

北村教授のアドバイスを参考にしました

(2) 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点
「わかる・できる・いきる授業のデザイン」

- わかる
- ・何をすることがわかる【学習内容】
 - ・何ができるようになるかがわかる【学習目標】
 - ・どのように進めるかがわかる【学習予定】
 - ・何ができるようになったかがわかる【学習評価】

- できる
- 「見方・考え方」を働かせ
- ・より深く理解することができる
 - ・考えを形成することができる
 - ・問題を見だし解決することができる
 - ・思いや考えを創造表現することができる

- いきる
- ・次の学習にいきる
 - ・日常生活にいきる
 - ・社会生活にいきる
 - ・他の学習にいきる
 - ・心身にいきる

「わかる・できる・いきる授業のデザイン」の各項目は、『本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方』で押さえた内容を基に、単元・題材指導計画等が、生徒の実態に応じた目標や手立てになっており、生徒の「できる状況」が計画されているかを考察、確認し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための視点として、授業を組み立てる基本的な内容をまとめたものです。

(3) 次年度の取組

次年度の取組

「わかる・できる・いきる授業のデザイン」に沿った授業作りを通して、本校の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の実践を深める。

取組方法

「わかる・できる・いきる授業のデザイン」の授業について、生徒向けのガイドブック「学習の手引き」(仮称)と教師用の「学習指導デザインブック」(仮称)を対応させる形で作成し、学習活動全般に授業の基本的な形や活動の名称について教師間の共通理解を図り実践に反映させるとともに、その内容について生徒への意識付けも行う中で、生徒の主体的な学びを引き出す実践を試みる。

(3) 次年度の取組 HKS学習の手引き、HKS学習指導デザインブックについて(案)

1 作成の概要

- (1) どの学習においても共通して取り組むことで本校のスタイルとして生徒への定着を図るとともに、「主体的・対話的で深い学び」を引き出すことに資する内容とする。
- (2) 具体的な取組がイメージでき、実際的であるとともに、教師間及び生徒と教師が理念や考え方など共通理解ができる内容とする。
- (3) 必要だと思ったことを全部詰め込むのではなく、汎用的で覚えられて、合い言葉のように思い出して使えるような表現や分量でまとめる。
- (4) 作って終わりではなく、授業のオリエンテーションや日常の授業など、実際の授業の中で使えるように、年間指導計画などに位置づけられるようにする。

2 内容

- (1) 「HKS学習の手引き」は、生徒向けの学習への取り組み方について説明するもの。「HKS学習指導デザインブック」は教師向けに作成し、「HKS学習の手引き」の内容と具体的な指導の手立てや留意点、本校における共通理解などをまとめたもの。
- (2) 手引きとデザインブックを対応させて制作することで、生徒、教師が学習の進め方について、姿勢、考え方、ルールやマナー、基本的な手順等を共通理解でき、どの学習においても学習の進め方や各場面の学習の仕方について本校としての基本的な形がもてるようにする。
- (3) 各授業において、また授業間においての取り組み方や、言葉の使用のパターン化、共通化を図ることで、生徒の主体的な学習を引き出し、対話的で深い学びにつなげる学習支援を目指すもので、あまり肩のこらないものとしたい。

(3) 次年度の取組 (研究グループ案)

内容項目	学習ハンドブック	学習指導デザインブック	担当グループ(部署)
○校訓とこれからの時代に求められる力	校訓の示す意味を理解する	校訓と担当教科等の関連	教務
○学習の種類とねらい 教科の学習 職業、作業学習 特活・道徳 総合	各授業の意義や生活に役立つ視点を理解する	シラバス、単元・題材指導計画の作成について	教務・各教科部会
分掌と教科部会を混合した形で編成			
○授業の組み立てと受け方 ・学習内容 ・学習目標 ・学習予定 ・振り返り(自己評価) ・学習活動	授業の基本的な組み立てと授業を受けるポイントを理解する。	学習指導案(略案)の作成と「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について理解する	教務
学習活動	話し合いの仕方	話し合いの方法、対話的な学びについてのポイントや技術について理解する。	国語・生徒指導部
	調べ学習	iPadの使い方、活用、管理について	情報・社会・総合担当
自立活動	自立活動の目的と自己理解と他者理解	自立活動の目標設定と学習の進め方について	自立活動担当・養護教諭
進路学習	3年間の進路学習の概要	進路決定の過程と位置付け	進路指導部・担任
ガイダンスと個別の指導計画	個別の指導計画について	個別の指導計画とガイダンスの在り方について	教務・担任

令和3年度 校内研究

校内研究会研究授業

学習指導案

資料

外国語（英語）科 学 習 指 導 案

日 時 令和3年12月2日（木）1校時
場 所 視聴覚室
学 科 普通科
学 年 1学年
指 導 者 教諭 松本 真紀江（MT）
教諭 三笠 加奈子（ST）

1 単元名（題材名）「Show & Tell」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 生徒観

普通科1年の生徒7名は知的障害と学習障害や自閉スペクトラム症などの発達を併せ有している。

本校入学までの英語の学習歴の幅は大きく、小学生のときから英会話教室に通っていた生徒、中学校1、2年生の基礎的な学習内容を一部理解できている生徒、挨拶や簡単な英単語を中心の授業を受けた生徒、また、英語の学習経験自体が少ない生徒が在籍している。中学校での学習の様子は様々であるが、英語に対して興味関心の高い生徒が多く、全体としては毎時間、意欲的に学習に取り組んでいる。ほとんどの生徒が板書やパワーポイントの提示、口頭による説明などで、学習目標や学習内容を理解し、学習することができている。しかし、文法事項や新出語の定着に時間を要するために、授業中の発問に対して自信をもって応答できる生徒は多くない。学習活動によって得手不得手が見受けられるため、苦手意識が強い活動や理解が不十分と思われる課題活動のときは、個別に指導・援助を行い、学習に参加できるよう配慮している。また、課題を早く終えた生徒が他の生徒に教えるなど、生徒同士で学び合う場面も見られる。

(2) 単元（題材）観

ア「生活との結びつき」

「Show & Tell」は、英語のスピーキングの学習方法の一つであり、また、欧米の小学校などで取り入れられている簡単なプレゼンテーションの技法である。自分にとって身近な物を実際に見せて（Show；展示）、それについて伝える（Tell；説明）。

本単元では、身近な学習用具である筆記具についての「発表」を通して、それらの語彙のほか、身の回りにある物の英語名について興味関心を高めるなど、日常生活の中にある英語、また、外国との結びつきについて考えたり、深めたりする機会としたい。

イ「何を学ぶか」

本単元の最終目標として、自分の筆記具ではなく、「クラスメイトの筆記具について英語で発表することができる」とした。

発表を行うために、筆記具の英語名のほか、疑問詞（How many）の用法（数を聞く表現と応答の仕方）について学習する。そして、クラスメイトに筆記具の数について質問をし、その結果を発表原稿にまとめる（He / She has 数と筆記具名。）。その際、一般動詞の三人称単数現在形のs、可算名詞複数形のsなどの文法事項についての説明はごく簡単に行う。そして、話す（やり取り）活

動や書く活動等を通して、単元の最終目標であるアウトプット活動「発表」を行う。仲間やALTの前で発表したり、仲間の発表を聞いたり、仲間の原稿を読んだりもする。

本単元での学習を通して、筆記具の英語名の知識を増やしたり、数を聞く表現と応答の仕方、また、持っているものを伝えたりする表現を学ぶ。

(3) 指導観（指導の工夫）

見通しをもって毎時間の学習に取り組めるよう単元構成を工夫した。単元開始時に最終目標である発表（Show & Tell）や学習予定を明確に伝える。発表のモデルを提示したり、疑問や感想を交流したりする場面を設定する。単元の最終目標から逆算した学習予定を作成し、毎時間、段階的な言語活動を行う。生徒自身が毎時間に学ぶ意味を理解し、主体的に学習に取り組めるよう努める。単元期間、「発表」というアウトプットを目指した総合的な言語活動を行いたい。

また、実態差を補うために、英語にルビのある・なしのワークシートの2種類を作成する。自分に合った学習課題を使って取り組んだり、分からない語彙はICT機器で検索したりできるような環境を整える。生徒が日付や英単語を板書する活動や毎時間、生徒同士でやり取りを行う言語活動を設ける。また、生徒が英語や外国に関する「知りたい」と思うことならについては、時間の許す限り、応じた。

教場を「安全・安心・挑戦」の場にするために、称賛したり励ましたりするなどのプラスの言葉掛けに努めたり、間違いを恐れることなく安心して言語活動に取り組める和やかな雰囲気を作りたい。

(4) 評価観

題材の評価、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」については、1、2時間目の「インタビュー」活動、3時間目の「発表原稿作成」、4時間目の「Show & Tell」（発表）における各言語活動時の観察、ワークシートへの記入状況、自己評価によって評価する。モデルとなる英文を記載したワークシートを参考にしながら学習に取り組むことで、英語力の実態差が大きい学習集団でも一つの題材で評価できると考えている。

「学びに向かう力、人間性等」については、観察による学習の様子や生徒の毎時間の振り返りなどから、自分なりの工夫をしたり、自己調整を図りながら課題解決へ向けて粘り強い取組をしているかどうかを評価する。

本時は、「クラスメイトの筆記具について英語で発表する」という単元の最終目標や学習予定、また、目標達成へ向けて必要な「数を聞く表現とその応答の仕方」などを学習する。生徒が疑問詞（How many）の用法を理解し、応答できれば、「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」を学習できたことになる。

指導案作成の段階では、今までの生徒の状況から個別目標を設定しているが、前時の学習状況を評価し、本時の目標と援助の手立てを再設定し授業を進めたいと考えている。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	「学部・教科・段階・記号」の順 特高外 2-ア-(ア)	①疑問詞 (How many) の用法を知り、相手に質問したり、応答したりすることができる。 ②筆記具の語彙の知識を増やすことができる。	①新しく学んだ表現を用いてやりとりしている。(観察) ②英語で表現(話す・書く)している。(観察・ワークシート)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	例) 高職2Aイ (ア)㊦㊧ 特高外 2-イ-(ア) 特高外 2-ウ-(イ)(ウ)	①数を聞く表現を理解し、相手に質問したり、それに適切に応答したりできる。 ②相手から聞き取ったことばをまとめたり、発表したりできる。	①聞かれている事柄を理解したり、適切に応答したりしている。(観察) ②英文で書いたり、発表したりする。(ワークシート、観察)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全		学習課題の解決へ向けて、自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。	工夫や自己調整を図りながら各学習活動に取り組んでいる。(観察・ワークシート)。

4 指導計画（全4時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 学びの場の設定【主】【対】【深】	備 考
12/2(木)	1	○本単元の最終目標「Show & Tell」、学習予定【主】 ○数を聞く表現【主・対】 ○語彙調べ【主】	本時(1/4) 「聞く」「話す(やりとり)」「書く」
12/6(月)	1	○クラスメイトにインタビュー【主・対】	「話す(やりとり)」
12/13(月)	1	○発表原稿製作【対・深】	「読む」「書く」
12/20(月)	1	・「Show & Tell」【主・対・深】 ・振り返り【主・深】	「話す(発表)」「聞く」「読む」 ALT 来校

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標						
A.T	<ul style="list-style-type: none"> ローマ字の知識は自分の名前の読み書き程度である。英文を読んだり、書いたりすることは難しい。 口頭による指示理解が難しいときがある。ICT使用時の学習効果が高い。 例文を提示すると課題に沿ったコミュニケーション活動を行うことができる。 	<table border="1"> <tr> <td>知・技</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。 </td> </tr> <tr> <td>思・判・表</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問したり、簡単な表現で応答したりできる。 相手から聞き取ったことばを教師と一緒にまとめたり、発表したりできる。 </td> </tr> <tr> <td>主体的</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。 </td> </tr> </table>	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。 	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問したり、簡単な表現で応答したりできる。 相手から聞き取ったことばを教師と一緒にまとめたり、発表したりできる。 	主体的	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。 							
思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問したり、簡単な表現で応答したりできる。 相手から聞き取ったことばを教師と一緒にまとめたり、発表したりできる。 							
主体的	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。 							

I.H	<ul style="list-style-type: none"> 英語に対する興味関心が高く、積極的に発言ができる。教科書程度の単語、英文であれば読むことができる。 書字の際、乱雑な文字になりがちである。 文法事項を習得したり、正しく運用したりすることは難しいが、例文を提示すると自信をもってやりとりができる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 筆記具名の語彙を増やす。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使いながら、相手に質問したり、応答したりできる。 モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
K.T	<ul style="list-style-type: none"> 授業への出席は4月1時間(オリエンテーション)のみである。 提示された例文を参考にして、自己紹介文を作ったり、クラスで発表したりすることができた。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問することができる。
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> 教師と一緒に学習課題に取り組もうとすることができる。
S.N	<ul style="list-style-type: none"> 英語に対する興味関心が高い。中学校2年生程度の部分的な知識がある。興味のある事柄に関する単語の知識が豊富である。 文字を丁寧に書くことができるが、時間を要する。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 筆記具名の語彙を増やす。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを使いながら、相手に質問したり、応答したりできる。 モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> 周りのペースに合わせながら、学習に取り組もうとすることができる。
S.R	<ul style="list-style-type: none"> 消極的な授業参加に見受けられるが、英語に対する興味関心は高い。知識の定着を図ることが難しいと自身で感じている。 例文を提示すると自信をもってやりとりができる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問したり、応答したりできる。 モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
T.H	<ul style="list-style-type: none"> 英語に対する興味・関心が高く、積極的に質問することができる。 ICT 使用時の単語入力など、効率的な方法を考え、行うことができる。 書字の際、乱雑な文字になりがちである。 英単語の習得などに時間を要するが、例文を提示すると自信をもってやりとりができる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問したり、簡単な表現で応答したりできる。 モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。
T.R	<ul style="list-style-type: none"> アルファベットやローマ字の知識がある。食べ物の名前などを英語で言い表すことができる。 英語の学習に対して不安感が見られるが、繰り返し学習すると自信をもって活動できる。 例文を提示するとやりとりができる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、相手に質問したり、適切に応答したりできる。 モデル文を参考に相手から聞き取ったことがらをまとめたり、発表したりできる。
		主体的	<ul style="list-style-type: none"> 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞 (How many) の用法を知る。 筆記具名を知る。 	新しく学んだ表現を用いて、仲間に質問することができる (観察)。
思考力、判断力、表現力等	数を聞く表現を理解し、質問したり、応答したりすることができる。	聞かれている事柄を理解したり、適切に応答したりしている。(観察)
学びに向かう力、人間性等	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとするすることができる。	仲間とやり取りしようとしたり、語彙検索に取り組みだしている (観察・ワークシート)。

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

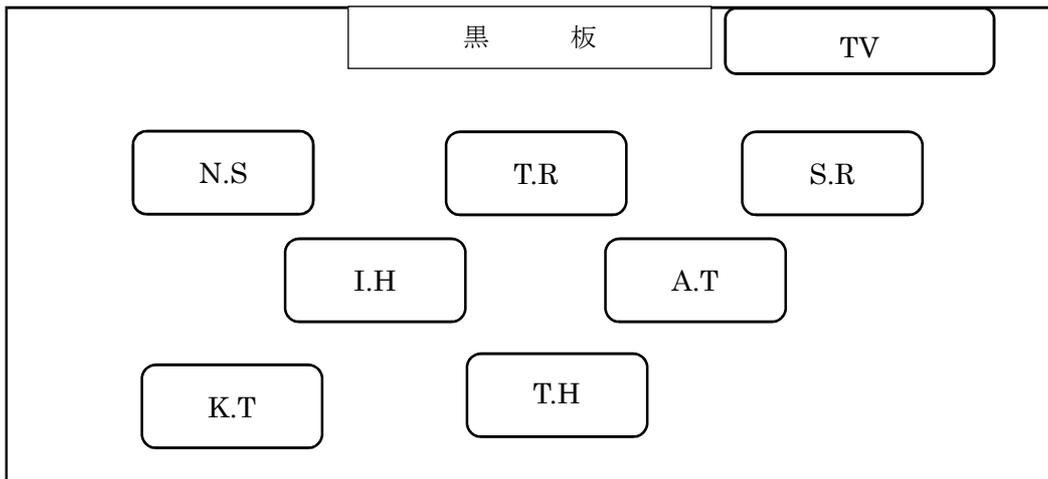
生徒	本時の個別目標		個別の手立て
A.T 【抽出】(記録担当者)	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 筆記具名を一つ知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 指示を正しく理解できているか確認する (ワークシートの記入箇所等)。 ルビ付きのワークシートで学習する。 英単語の記入の際、ルビを振らない語を読むか、確認する。 応答の際、ごく簡単に答えてよいことを伝える。
	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとするすることができる。 	
I.H	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知り、ワークシートに記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ルビなしのワークシートで学習する。適宜、正しく読めているか確認する。 正しいスペリングで記入ができているか確認する。
	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとするすることができる。 	
K.T	知・技 思・判 表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 もっている物の数を答えることができる。 教師と一緒に学習課題に取り組もうとすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本人が取り組みそうな課題を選びながら、学習に参加するよう促す。
	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。 	
S.N	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ルビなしのワークシートで学習する。適宜、正しく読めているか確認する。 学習課題の優先事項を伝えたり、周りのペースに合わせて書写を行うよう言葉掛けをしたりする。
	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用いながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 周りのペースに合わせてながら、学習に取り組もうとすることができる。 	
S.R	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 いくつかの筆記具名を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ルビなしのワークシートを用い学習するが、必要に応じてルビありのワークシートで読み方等を自分で確認できるようにする。 指示を正しく理解できているか確認する (ワークシートの記入箇所等)。 スペリングや序数の書き方 (second, 2nd) が正しいか確認する。
	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 日付を正しく板書することができる。 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとするすることができる。 	
T.H 【抽出】(記録担当者)	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 興味のある筆記具名を一つ知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ルビ付きのワークシートで学習する。 指示を正しく理解できているか確認する (ワークシートの記入箇所等)。 正しいスペリングで記入ができているか確認する。 応答の際、ごく簡単に答えてよいことを伝える。
	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとするすることができる。 	
T.R	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 疑問詞(How many)の用法が分かる。 筆記具名を調べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ルビ付きのワークシートで学習する。 効率的な単語検索が行えるよう援助する。 自信がもてるよう繰り返し学習する。
	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを見ながら、数を聞く質問をしたり、応答したりすることができる。 自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組みようとするすることができる。 	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ○：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【主】【対】【深】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (15) 分	1 挨拶	○：日直が挨拶をする。「(「気を付け、礼。)」英語で応答する。【主・対】	○：日直の生徒に言葉を掛ける。日本語での挨拶の後、英語で挨拶を行う(呼名等)。	△：MTに注目するよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート(ルビあり・なし)を用意し、自分で選択し使用する。 教師用PC、TV等 WIFIルーター iPad(教師、生徒用)
	2 日付	※：ワークシートに日付を記入する。	○：「今日の曲」を流す。日付の記入、発音を確認する。	△日付等記入、または、タブレットを使用しているか確認する。	
	3 3 hints quiz (8分)	○日直の生徒は日付を板書する。 ※：3ヒントクイズに取り組む。指名された生徒は答えを板書する。	○：クイズの質問文と答えを確認する。		
	4 前時の振り返り (5分)	○前時の学習内容を思い出す。【主】 ※：スライドを見て、前時の学習を思い出す。	○：スライドを提示しながら、学習内容を想起させる。		
	5 本単元の説明・12月の学習予定 (5分)	○12月の学習：Show & Tell【主】 ※：Show & Tellについて知っていることを発表する。 ※：Show & Tellを見る。 ※：疑問点や感想などを話す。 ※：12月の学習予定を知る。【主】	○：Show & Tellを知っているかどうかを聞く。 ○：Show & Tellを行う。 20日はクラスメイトの筆記具について発表することを伝える。 ○：学習予定を伝える。		
展開 (22) 分	6 本時の学習 (2分)	※：本時の目標を知る。【主】	○：本時の学習目標、内容を伝える。		【12月の学習予定】 Show & Tell 2日：数を聞く表現と答え方を知る。筆記具の名前を調べる。 6日：クラスメイトにインタビューをする。 13日：発表原稿を作る。 20日：Show & Tell(発表する。) *Jack 来校日 ・筆記具名は日本語で言う。
	7 疑問詞 (How many) の用法と応答の仕方 (5分)	※：疑問詞 (How many) の用法、応答の仕方を知る。 How many pencils do you have? I have (数).	○：疑問詞 (How many) の用法、応答の仕方についてスライドで説明する。 ○：数のみを答えてもよいことを伝える。	△MT、TVに注目するよう促す。	

	8 言語活動 (8分)	<p>※: 生徒同士、”How many pencils do you have? のやり取りをする。【主】</p> <p>※: 全員とやり取りが終わった生徒は着席する。</p> <p>※: 自分の持っている本数を答える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>How many pencils do you have? I have (数).</p> </div>	<p>○: 鉛筆を数本ずつ、配る。</p> <p>○: クラスメイト全員と質問をし合うことを伝える。</p> <p>○: 一人ずつ、鉛筆の本数を尋ねる。</p>	<p>△適切にやり取りが行えるよう援助する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【評価の場面】 ■言語活動 (観察)</p> </div>
	9 語彙調べ (7分) 9:33まで	<p>○: 自分の持っている筆記具名をタブレットで調べてワークシートに記入する。【主】</p>	<p>○: 筆記具名を調べるよう伝える。</p> <p>○: 正しく検索できているか確認する。</p>	<p>○: 正しく検索できているか確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【評価の場面】 ■語句調べ (観察、ワークシート)</p> </div>
まとめ (7) 分	6 本時の振り返り (6分)	<p>○: 本時の学習内容を振り返る。【主・対】</p> <p>○: 本時の振り返り【主】(理解度、学習への取組、授業の難易度、覚えた語句)を記入する。</p>	<p>○: 本時の学習内容を振り返る。検索した筆記具名を確認する。</p> <p>○: 本時の学習の取組について振り返りシートに記入するよう伝える。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>【評価の場面】 ■振り返り (観察、振り返りシート)</p> </div> <p>△: MTに注目するよう促す。</p>
	7 次時の予告 (1分)	<p>※: 次時の学習予定を知る。【主】</p>	<p>○: インタビューをすることを伝える。</p>	
	8 挨拶	<p>○: 日直が挨拶をする。(「気を付け、礼。」)</p>	<p>○: 日直の生徒に言葉を掛ける。</p>	

(4) 配置図



① 教材・教具：

ワークシート（ルビあり・なし）／学習予定表（振り返りシート）／鉛筆（配布用）
 タブレット／生徒用 ipad／教師用 ipad／TV／HDMI ケーブル／WIFI ルーター
 筆記具（提示用：鉛筆・シャープペンシル・赤ペン・ボールペン・蛍光ペン・消しゴム・
 定規・修正テープ）

②板書計画

ショウ アンド テル
Show & Tell
 今日の目標
 「数を聞く表現と答え方を知る。」
Thursday, December 2nd, 2021
 *生徒が板書する。

今日の学習

- 1 日付
- 2 ヒント クイズ 3 hints quiz
- 3 前時の振り返り
- 4 12月の学習予定
- 5 今日の学習
- 6 振り返り

lemon
 *生徒が板書する。

(5) 本時の評価

知識及び技能	疑問詞（How many）の用法を知ることができたか。 筆記具名を知ることができたか。
思考力、判断力、 表現力等	数を聞く表現を理解し、質問したり、応答したりすることができたか。
学びに向かう力、 人間性等	自分なりの工夫をしながら、粘り強く取り組もうとすることができたか。

(資料)

シ ョ ウ ア ン ド テ ル
Show & Tell

マイ ペンシル ケース
My pencil case

デ ィ ス イ ズ マ イ
This is my pencil case.

ア イ ハ ヲ
I have 1 (鉛筆)。

I have 1 (シャープペンシル) .

I have 1 (赤ペン) .

I have 1 (ボールペン) .

I have 1 (蛍光ペン) .

I have 1 (消しゴム) .

I have 1 (定規) .

I have 1 (修正テープ) .

ラ イ ク デ ィ ス
I like this (消しゴム) .

ビ コ ウ ズ イ ッ ツ キ ュ ー ト ウ
Because it's cute.

サ ン キ ュ ー
Thank you.

音楽科学習指導案

日 時	令和3年12月2日(木)	2校時
場 所	音楽室	
学 科	4科	
学 年	3学年	
指 導 者	教諭	高橋直樹 (MT)
	教諭	蛭沢和音 (ST1)
	教諭	住谷亮 (ST2)

1 単元名(題材名) 創作「作曲してみよう」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本学年の音楽は、学年(4科)で取り組んでいる。生徒は知的障がいや主障がいとした発達障がいを併せもつ生徒が多い。

授業における取り組みでは、指示理解や音楽表現、技能に差はあるものの、明るい雰囲気最後まで粘り強く学習に取り組める生徒が多い。今まで、歌唱、器楽、鑑賞など、様々な学習内容を経験することで、音楽に対する興味関心の幅を広げながら、意欲的に学習に取り組んでいる。

しかし、教師の説明を理解し、それを表現することはできていても、自分の感じたことを表現することは難しかったり、様々な要因から、気持ちが不安定になったりする生徒もいる学習集団である。

(2) 単元(題材)観

ア「生活との結びつき」

既習した楽曲は、多様な方法で作られており、普段、身の回りにある音楽も生徒の生活に影響を与えたり、結びついたりしている。本単元を通し、音楽の構成や要素などを学習することで、音楽が生活や社会のあらゆる場面で結びつき、音楽に親しんだり豊かな情操を培ったりできる動機付けとする。

イ「何を学ぶか」

生徒が生活している場には様々な音や音楽があり、何気なく興味をもったり、気に入ったりすることがある。その理由は様々で、雰囲気やイメージもその一つとなる。学習指導要領では、創作活動について、いろいろな音の響きや組み合わせの特徴や、音やフレーズのつなげ方や重ね方の特徴を理解し、音楽をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け、表現活動を創意工夫することとしている。本単元では、音楽の構成がどのようになっているか、作曲を通してひもとき、音の長さや高さなどの音の特徴や、音の素材が集まって音楽を形作っている要素が生まれ、その要素が相互に関連し音楽が構成され、聴く人によって様々な影響を与えていくことを学んでいく。

(3) 指導観（指導の工夫）

「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

楽譜や音符に苦手意識をもっている生徒がいるので、学習に取り組みやすいようタブレットを使用し、音の素材が集まっているアプリを使用して、簡易的に創作活動できるようにする。

主体性は生徒によって違うので、目標や課題解決の方法を明確にし、ST を効果的に配置することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。

対話的な活動では、話す手順や内容をワークシートなどで整理してから活動に取り組めるようにし、グループや全体など、様々な形態で取り組むことで、お互いのよさや工夫を認め合うなど、活動を深め、前後の変容を振り返られるようにする。

音楽的な見方・考え方を働かせ、様々な働きが生み出す特質や雰囲気を感じることによって、生活や社会の音や音楽、また、音楽文化と豊かに関わられるようにする。

(4) 評価観

「何が身についたか」

本単元では、創作「作曲してみよう」の学習活動を通して、音のもっている特徴や、音楽を形づくっている要素を感じながら作曲活動をする学習である。その活動の中で、生徒自らがもっている音楽に対する感性を働かせ、音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものと捉え、自己のイメージや感情と関連付けることは、音楽的な見方・考え方につながり、音楽科を学ぶ本質的な中核をなす力となる。また、将来生活する中で、音楽を愛好する心情や音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培うことにつながっていく。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標
知識及び技能	探究協働	特高音ウ(イ)㉞㉟ ウ(ウ)	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	特高音ウ(ア)	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	共通事項ア	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。

4 指導計画（全5時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 学びの場の設定【主】【対】【深】	備 考
11/8(月)	1	・音楽の構成とは【主・深】 ・作曲アプリの使い方【主】	
11/15(月)	1	・作曲アプリの使い方【主】 ・メロディーの決定【主】 ・作曲活動【主・深】	

11/22(月)	1	・作曲アプリの使い方【主】 ・作曲活動【主・深】	
12/2(木)	1	・作曲した楽曲のまとめ【主】 ・曲紹介（グループ）【主・対・深】	本時（4/5）
12/6(月)	1	・曲紹介（全体）【主・対・深】 ・音楽とは【主・深】	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
普 K.K.	<ul style="list-style-type: none"> どのような学習内容でも、目標を認識し、見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができる。 音楽的な知識はあまりないが、雰囲気やイメージを言語化したり、感じたりすることができる。 	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
普 S.T.	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は欠席の為、出席が一度もない。昨年度は数回の出席だったが、授業参加したときは、意欲的に取り組めることが多い。 	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。
		主体的	・支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
普 S.K.	<ul style="list-style-type: none"> 授業内容が理解しにくい場合は、注意をひこうとする行動があるが、目標に見通しをもつと意欲的に学習に取り組むことができる。 タブレットを使用するときは、支援を受けると創作活動に取り組むことができる。 	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。
		主体的	・支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
普 M.S.	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動に興味関心が深く、家庭でも学習した楽曲をピアノで弾いたりすることがある。 音や音楽の素材を感じ取り、表現活動に取り入れることができる。 	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
普 Y.T.	<ul style="list-style-type: none"> 音楽的な感性があり、意欲的に学習に取り組むことができる。 音の素材や要素などの特徴を感じ取り、楽曲にふさわしい音を選択することができる。 	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。

		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 S.A.	・目標や課題を解決しようと、意欲的に学習に取り組むことができる。 ・時間はかかるが、タブレットの音の素材の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 S.K.	・気持ちが不安定なときは、遅刻したり、教室の端や別室で授業を受けたりすることがある。 ・タブレットの使用方法を理解し、音の特徴をつかんで創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 T.K. 【抽出】	・どのような学習内容でも、最後まで粘り強く、目標を達成しようと努力することができる。 ・音の素材の特徴を説明すると、イメージをもって創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 N.M.	・どのような学習内容でも、主体的に、既習した内容を生かして学習に取り組むことができる。 ・音や音楽の特徴を理解することで、雰囲気やイメージをもちながら創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
生 N.Y.	・目標を意識して、課題を解決しようと学習に取り組むことができる。 ・日常生活で聴いている音楽と関連させ、創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
生 H.T.	・音楽表現を自分なりに創意工夫し、主体的に学習に取り組むことができる。 ・音や音楽に関する創造性が高く、雰囲気やイメージをもって創作活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	・音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	・音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
生 H.N.	・支援を受けると、学習内容に見通しをもち、活動に取り組むことができる。	知・技	・音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。

	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽の素材の特徴を支援を得ることで理解し、創作活動に取り組むことができる。 	<p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。 支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
生 M.S.	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちのコントロールができないときは、意欲が低下し、授業に取り組めないことがある。 想定通りの活動ができないと納得できないことがあるが、タブレットを使用しての創作技術は高い。 	<p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
食 K.N	<ul style="list-style-type: none"> 座席の環境によっては授業態度に差はあるが、理解力があり、音楽活動に創意工夫をこらし取り組むことができる。 音の素材を厳選したり、創意工夫をこらしたりして創作活動に取り組むことができる。 	<p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 S.Y	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を把握し、課題に対する具体的な解決方法を理解すると主体的に活動に取り組むことができる。 音や音楽に対するイメージのきっかけを得ると、創作活動に取り組むことができる。 	<p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
食 S.S	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境で授業に取り組む姿勢に差はあるが、学習内容を理解し、課題解決に向けて取り組むことができる。 音や音楽の特徴にイメージや根拠をもち、創作活動に取り組むことができる。 	<p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 S.S	<ul style="list-style-type: none"> 思ったことを言葉にだすことはあるが、課題を把握し、主体的に学習に取り組むことができる。 日常生活で聴いている音や音楽の内容を生かして創作活動に取り組むことができる。 	<p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
食 S.K	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容を把握し、課題解決に向けて努力し活動に取り組むことができる。 音や音楽の特徴に対する雰囲気やイメージを具体的に提示すると、創作活動に取り組むことができる。 	<p>知・技</p> <p>思・判・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に

			取り組むことができる。
食 T.S.	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の興味関心が高く、どのような学習でも、意欲的に目的をもって学習に取り組むことができる。 音や音楽に関する創造性が高く、雰囲気やイメージをもって創作活動に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 H.K.	<ul style="list-style-type: none"> 気持ちの落ち込みで意欲が低下することはあるが、主体的に活動に取り組むことができる。 音や音楽に関する素材の知識があり、創意工夫をこらして創作活動に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
食 W.K.	<ul style="list-style-type: none"> 周りの影響により、集中をそがれることはあるが、学習内容を理解し活動に取り組むことができる。 音や音楽の素材の特徴を理解すると、イメージをもって創作活動に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 K.R.	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動の把握に努め、見通しをもって学習に取り組もうとすることができる。 音楽の構成や音の特徴を具体的にイメージすると、創作活動に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 S.K.	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことはできるが、活動内容を勘違いして活動に取り組むことがある。 音や音楽の素材の特徴を把握すると、主体的に創作活動に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。
		主体的	音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 S.Y. 【抽出】	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことはできるが、学習内容がわからなくても質問や確認ができないことがある。 音や音楽の特徴を、支援を受けることで感じ取り、創作活動に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。
		思・判・表	音や音楽の形づくっている特徴を感じ、音を選択したり、よさを支援を得ながら感じたりすることができる。
		主体的	支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
福 T.S.	<ul style="list-style-type: none"> 活動に消極的な場面も見られるが、見通しをもつと主体的に取り組むことができる。 	知・技	音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を、支援を得ながら理解することができる。

	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の方法を、支援をうけると、主体的に創作活動に取り組むことができる。 	思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 支援を得ながら創作活動に取り組むことができる。
福 T.Y.	<ul style="list-style-type: none"> 学習活動を確認し、やるべきことに見通しをもつことで、主体的に活動に取り組むことができる。 音や音楽に関する感性が高く、音の特徴を把握すると、創意工夫をこらした創作活動をすることができる。 	知・技 思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。
福 N.T 【抽出】	<ul style="list-style-type: none"> どのような学習内容でも、目標を認識し、見通しをもって意欲的に学習に取り組むことができる。 音や音楽のもっている雰囲気やイメージを感じながら、創作活動に取り組むことができる。 	知・技 思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴をよく理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じ、雰囲気やイメージをもちながら選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら、よりよい楽曲ができるよう、試行錯誤を繰り返し、創作活動に取り組むことができる。
福 Y.S.	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に学習に取り組むことはできるが、内容を自己解釈して取り組むことがある。 音や音楽のもっている特徴を意識しながら、創作活動に取り組むことができる。 	知・技 思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の構成や、音や音楽のもっている特徴を理解することができる。 音や音楽の形づくっている要素を感じながら、音を選択したり、よさや美しさを感じたりすることができる。 音や音楽の特徴を感じながら創作活動に取り組むことができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

知識及び技能	
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 作曲した楽曲の特徴をまとめ、発表することができる。 音楽の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 音や音楽のもつ要素に興味関心をもち、音楽活動に取り組むことができる。

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本時の個別目標		個別の手立て
普 K.K.	知・技 思・判・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> 作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、発表できるようにする。 発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
	知・技		<ul style="list-style-type: none"> 本人の選んだ旋律の特徴を、選択肢

普 S.T.	思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> から発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
普 S.K.	知・技 思・判 ・表 主体的		現場実習中の為、欠席。
普 M.S.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入した音や音楽の特徴のポイントをまとめ、発表できるようにする。 ・楽曲の特徴や聴いてほしいポイントに注目して聴けるようにする。
普 Y.T.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音や音楽の素材から、生み出される特徴をまとめ発表できるようにする。 ・音や音楽の素材の特徴に注目して聴けるようにする。
生 S.A.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入している作曲をするために選んだ素材の雰囲気やイメージなどをまとめ、その特徴を発表できるようにする。 ・楽曲の特徴に注目し、聴けるようにする。
生 S.K.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートから、楽曲の雰囲気やイメージのポイントをまとめ発表できるようにする。 ・楽曲の聴いてほしいポイントに注目して聴けるようにする。
生 T.K. 【抽出】	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の素材を選んだ理由やメロディーとの関係をまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の楽曲のポイントからイメージをもちながら聴けるようにする。
生 N.M.	知・技 思・判 ・表 主体的		現場実習中の為、欠席。
生 N.Y.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気やイメージがどのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、イメージをもって聴けるようにする。
生 H.T.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲する際に使用したワークシートに基づき、楽曲のよさや、聴いてほしいポイントを整理し、具体的に発表できるようにする。 ・本人の感性を尊重し、感じたことやイメージしたことを言語化しながら聴けるようにする。
生 H.N.	知・技 思・判 ・表 主体的	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入したメロディーを選んだ理由や、他の音を選択した理由などを、支援を受けながら事前にまとめ、発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
	知・技		・ワークシートを基に、雰囲気やイメ

生 M.S.	<p>思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一挙、工夫した点などのポイントを絞り発表できるようにする。 ・聴いてほしいポイントに注目しながら聴けるようにする。
食 K.N	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、具体的に発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
食 S.Y	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入している作曲をするために選んだ素材の雰囲気やイメージなどをまとめ、その特徴を発表できるようにする。 ・発表者の楽曲の説明から、雰囲気やイメージをもって聴けるようにする。
食 S.S	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、具体的に発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
食 S.S	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入した楽曲の特徴をまとめ、ポイントを絞り具体的に発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントをイメージしながら聴けるようにする。
食 S.K	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今単元は、初めての参加となる。本人の選んだ旋律の特徴を、選択肢から発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
食 T.S.	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲する際に使用したワークシートに基づき、楽曲のよさや、聴いてほしいポイントを整理し、具体的に発表できるようにする。 ・本人の感性を尊重し、感じたことやイメージしたことを言語化しながら聴けるようにする。
食 H.K	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。 ・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートから楽曲のよさや美しさなどの特徴を整理し、具体的に発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントに注目し、イメージをもちながら聴けるようにする。
食 W.K.	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>		現場実習中の為、欠席。
福 K.R.	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートから、楽曲の雰囲気やイメージを整理し、全体の構成にイメージをもち、発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントに注目しながら聴けるようにする。
福 S.K.	<p>知・技 思・判 ・表</p> <p>主体的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 ・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音の素材を選んだ理由やメロディーとの関係をワークシートで確認してまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の聴いてほしいポイントに注目し、イメージをもって聴けるよ

		ことができる。	うにする。
福 S.Y. 【抽出】	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入したメロディーを選んだ理由や、他の音を選択した理由などを、支援を受けながら事前にまとめ、発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
	主体的	・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	
福 T.S.	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の特徴を発表することができる。 ・音楽の特徴を感じながら聴くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入したメロディーを選んだ理由や、他の音を選択した理由を事前にまとめ、発表できるようにする。 ・予めポイントを絞って聴けるようにする。
	主体的	・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	
福 T.Y.	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入した楽曲の特徴をまとめ、ポイントを絞り発表できるようにする。 ・本人の感性を尊重し、感じたことを言語化できるようにする。
	主体的	・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	
福 N.T 【抽出】	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲のよさを整理し、具体的に発表することができる。 ・音楽のよさや美しさをイメージしながら聴くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の雰囲気やイメージが、どのようなよさや美しさを生み出しているのかをまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の楽曲紹介のポイントをおさえ、よさや美しさを感じ取りながら聴けるようにする。
	主体的	・楽曲のよさを感じながら活動に取り組むことができる。	
福 Y.S.	知・技 思・判 ・表	・作曲した楽曲の雰囲気やイメージを発表することができる。 ・楽曲の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・音の素材を選んだ理由やメロディーとの関係をまとめ、発表できるようにする。 ・発表者の楽曲のポイントからイメージをもちながら聴けるようにする。
	主体的	・楽曲の特徴を感じながら活動に取り組むことができる。	

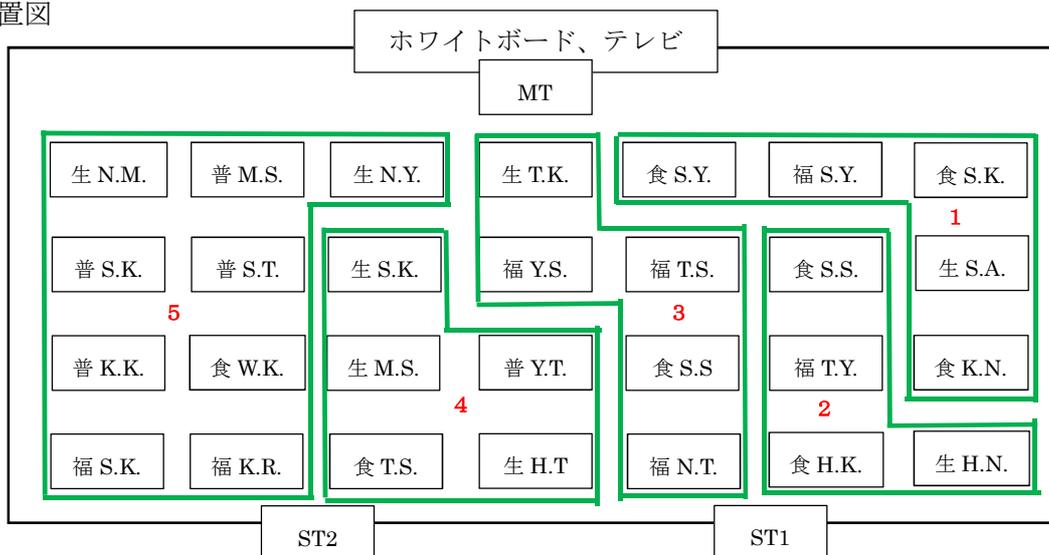
(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ○：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【主】【対】【深】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、 教材等 特記事項(関連 チェック)
			MT	ST	
導入 10分	1 号令、出席確認	○入室時に座席の確認、タブレットの準備 ○挨拶 普通科日直	○座席や持ち物の準備指示 ・タブレットは机の中に入れておくよう指示する。 ○挨拶後、出席確認を行う。	△座席の確認 △持ち物の確認 △学習を開始する姿勢や態度になるよう指示する。	
	2 前時の振り返り	○前時の学習内容を思い出す。【主】	○前回学習した内容を振り返る。 ・創作「作曲してみよう」について学習内容を振り返る。	△MTの話に注目できるようにする。	情報機器 (テレビ、タブレット)
	3 本時の説明	○本時の学習内容を確認する。【主】	○日程確認 ・作曲した楽曲のまとめ ・曲紹介 (グループ) ○本時の学習目標の確認	△MTの話に注目できるようにする。	情報機器 (テレビ、タブレット)、ホワイトボード
		<p>【本時の目標】</p> <input type="checkbox"/> 作曲した楽曲の特徴をまとめ、発表することができる。 <input type="checkbox"/> 音楽の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができる。 <input type="checkbox"/> 音や音楽のもつ要素に興味関心をもち、音楽活動に取り組むことができる。			

展 開 35 分	4 作曲した楽曲の まとめ (17分)	○作曲した楽曲をまとめる。 【主】 ・MTの説明を受けた後、ワークシート3に作曲した楽曲を項目に沿ってまとめる。	○ワークシート3を配付し、楽曲をまとめる記入の仕方を説明する。 ・ワークシート2から、メロディーや使用した音の素材について全体的に、どのような雰囲気やイメージなどの特徴をもって作曲できたかを記入できるようにする。 ・雰囲気やイメージは、ワークシート2の例を参考に考えられるようにする。 ・工夫した点については、具体的な例はあまりあたえず、生徒独自のもっている感性を尊重する。 ・作曲した楽曲を聴き返しながらまとめられるようにする。 ～机間指導～ △良い取り組みを評価し、必要な援助をする。 ○記入の状況を見て、全体に確認することやアドバイスすることがあれば、記入を止めて説明する。	△ST1は主に女子、中央の男子、ST2は主に男子の記入を援助する。 △ワークシートの記入の援助として、言語化するための具体例や選択肢を、個別の目標に応じて行う。	ホワイトボード、ワークシート3
	5 曲紹介（グループ） (18分)	○作曲した楽曲をグループで紹介する。 【主・対・深】 ・各グループに分かれ、それぞれ楽曲の説明をした後、紹介する。紹介者以外は、紹介された感想を記入する。	○グループを発表した後に、楽曲の紹介の仕方を説明する。 ・ワークシート3を基に雰囲気やイメージなどの特徴、工夫した点などを説明してから楽曲を紹介するよう指示する。 ・楽曲を披露するときは、数回又は、繰り返し再生するよう指示する。 ・感想を記入するときは、雰囲気やイメージは文章ではなく単語で、感想は友達の注目してほしいポイントを絞りながら記入できるようにする。	△ST1は女子、ST2は3グループの発表を援助する。 △ワークシートに記入している内容を基に、発表や感想を記入できるよう記入の具体例をあげたりしながら援助する。	ホワイトボード、ワークシート3
		【評価の場面】 ■ワークシートを基に、楽曲の構成や特徴の把握し、をまとめ発表できたか、また、楽曲の特徴を意識して聴けたかを確認する。			

ま と め 5 分	6 本時の振り返り	○本時の目標を振り返る。	○本時の目標について、ポイントを基に振り返る。	△MT の話に注目できるようにする。	ホワイトボード
	7 次時の予告	○次回の学習について理解する。	○全体での曲紹介、音楽の構成について学習することを伝える。	△MT の話に注目できるようにする。	
	8 号令	○挨拶 普通科日直 ○タブレットをしまう。	○タブレットをしまい退出するよう指示する。	△片付けの確認	

(4) 配置図



(5) 本時の評価

知識及び技能	
思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作曲した楽曲の特徴をまとめ、発表することができたか。 ・ 音楽の雰囲気やイメージを感じながら聴くことができたか。
学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音や音楽のもつ要素に興味関心をもち、音楽活動に取り組むことができたか。

理 学 習 指 導 案

日 時 令和3年12月2日(木) 3校時
場 所 理科室
学 科 食品デザイン科
学 年 1学年
指 導 者 教諭 渡部 一博 (MT)
教諭 山本 正彦 (ST1)

1 単元名(題材名) 「【物質・エネルギー】水溶液の性質」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本学級は男子6名、女子2名の計8名で構成されている。8名中2名は欠席が多く、これまでほとんどの授業を6名で実施している。授業ではタブレットを活用しているが、全体的に文字の入力や写真撮影などの機器の扱いについて基礎力が身に付いている。実験や観察では積極的に取り組むことが多く、理科に対する関心は高い。授業時に理科に関連した報道記事を取り上げるようにしているが、直接生活に関連した話題でなければ興味をもたないことも多く、話題提供にとどめるようにしている。一部、集中力に欠ける生徒もいるが授業に対する取り組み姿勢は、活気があり質問に対する反応が良く、記述や入力も概ねできている。

(2) 単元(題材)観

ア「生活との結びつき」

理科の区分「物質・エネルギー」の“水溶液の性質”を題材に取り上げた。学習指導要領では水溶液の性質について、水溶液には酸性、アルカリ性及び中性のものがあること。水溶液には気体が溶けているものがあること。水溶液には、金属を入れると金属が溶けて気体を発生させたり、金属の表面の様子を変化させたりするものがあること。など、溶けているものによる性質や働きの違いについて理解すること。と、ある。本単元では“水溶液の性質”を知ることが、安全で健康、便利な生活に繋がることを理解し、生活の中で生かせるようにすることをねらいとしている。具体的には、洗剤の「まぜるな危険」や虫歯の予防、クエン酸や重曹の使い方などを水溶液の性質である酸性、アルカリ性及び中性と関連させることで生活と結びつけている。

イ「何を学ぶか」

今回の単元で目指すのは、日頃生活の中で目にする事象等について原理・法則を知識として学ぶだけでなく、生徒が理科の見方・考え方を働かせ、観察、実験を行うことなどを通して、問題を科学的に解決できる資質・能力を身に付けることに重点を置いた。具体的には①将来の社会生活の中で疑問に感じたことを理科的な見方・考え方で問題解決できるように、既習事項や生活経験を基に客観的に比較したり確かめたりする技法。②分からないことを調べる方法や他者の意見を聞きながら自分の予想と比べ、より妥当な考えを作り出そうとする姿勢や力。について学習を通して身に付けさせたい。また、安全・健康・便利に暮らすために主体的に理科的な視点から解決しようとする姿勢や解決方法を学ぶなかで、1つの原理法則が生活の様々なことに関連していることに気付き、より興味や関心が高まることで新たな疑問が生じたときに、主体的に調べたり学習したりすることでより深い学びに繋がられるような姿勢を身に付けさせたい。

(3) 指導観（指導の工夫）

理科の授業を行うにあたり、これまでの課題として、授業時数に対して学習内容が多く、実験・観察を柱として、種明かしの原理法則を教師側から一方的に教えることが多く、知識・技能の観点に配分が偏りがちであった。本単元では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すために、生徒の能動的な活動を多く取り入れることを考えた。ある事象について観察する場合、教師からは生徒が観察するために必要なヒントを示すにとどめ、どこを見たらよいか分かった生徒が自分の目で違いに気づき自分の言葉で表現したことをグループ内で共有することで確信または見落としていたことに気付くことができる。新しい知識に関する情報は最小限にとどめ、できるだけ既習事項や生活経験から知っていることを問題解決に生かせるようにアドバイスし、生徒は他者との話し合い、調べることで考察できるよう促すことに徹する。限られた時間の中で効率的に意見共有や調べる道具として、また観察記録や資料の整理のためタブレット端末を活用する。タブレット端末は単体でも活用するが、授業中は基本的にクラウドに接続し、配布資料や意見共有や課題の提出を行う。クラウドを活用することで、振り返りや欠席時の授業内容を校外からでも確認することができる。

(4) 評価観

観点ごとの評価について、「知識・及び技能」については、毎授業で行っているグループフォームによる確認テストで知識の定着や理解度を、実験や観察の取組の中で器具を正しく取扱うことができるかなどについて評価する。「思考力・判断力・表現力等」については、既習事項や生活経験を基に考えようとしているか、他者の意見を取り入れたり調べる中で正しい情報を選択したりして、考えをまとめ表現できているか、タブレットで自分の意見を表現できているかなどを評価する。「学びに向かう力、人間性等」については、実験や観察に主体的に取り組むことができているか、これまでに学んだことや経験で知っていることを関連させて考えようとしているか、分かったことを生活の中で生かしていこうと思うことができるかなど、授業内の発言や単元のまとめで感想を書くことで評価する。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	高理2Cイ (ア) ㉞㉟㊱	水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 毎回の確認テストで知識の定着を確認。 指示通りに適切な方法で実験を行うことができる。(観察、振り返り)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高理2Cイ (イ)	水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。	適切な方法で調べ、自分の考えを記述したり発言したりできる。(観察、記述)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高理2Cウ	水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。	水溶液の性質を生活の中で生かしたり活用したりしようとするすることができる。(観察、記述)

4 指導計画（全 10 時間扱い）

月 日	時数	学 習 予 定 学びの場の設定【主】【対】【深】	備 考
8/31(火)	1	洗剤の「まぜるな危険」について正しい知識を確認する【主・対】	
9/7(火)	1	塩素系洗剤と酸素系洗剤の成分について成分表を見て酸性かアルカリ性かを確認する。【主】 酸性とアルカリ性の特徴について知る。	
9/14(火)	1	酸性の液体「酢」に生卵と 10 円玉を漬ける実験を行う。【主】	
9/21(火)	1	実験の考察。酸性の液体がカルシウムを溶かすことを酸性雨、虫歯予防に関連させる。【主・対・深】	
11/2(火)	1	・酢に漬けた 10 円玉を観察し何が起こったか自分の言葉で表現し、スプレッドシートで共有する【主・対】	
11/9(火)	1	・10 円玉に起きたことを考えるために必要な情報を調べる。【主・深】	
11/16(火)	1	・10 円玉に起きたことをこれまで学習したことと、調べたことを関連させて妥当な理由を考えてまとめることができる。【主・対・深】	
12/2(木)	1	・食器用洗剤の液性について考える。【主・対】	本時 (8/10)
12/7(火)	1	・界面活性剤について考える。【主・対・深】	
12/14(火)	1	・アルカリ性の重曹と酸性のクエン酸の使い分け方を考える【主・深】	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標		
KR	・理科に対しての関心は高く主体的に取り組むが、分からないことを聞けず記述など表現するまでに時間がかかることがある。また、手指の巧緻性が低く実験器具の取り扱いに時間が掛かる。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。	知・技 思・判・表 主体的
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。	
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。	
SK	・理科に対しての関心が高く実験や調べ学習、記述などすべて素早く取り組むが雑なところや、説明を最後まで聞かず指示と違う授業と関係ないことをすることがある。タブレットの使い方は慣れている。	知・技	・水溶液の性質について知り、観察・実験などに関する初歩的な技能について落ち着いた丁寧に取り組むことができる。	知・技 思・判・表 主体的
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。	
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。	
SS	・この単元では出席していない。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。	知・技 思・判・表 主体的
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。	
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。	
TW	・一見関心が低いように見えるが、理科に興味はある。自信が無いため質問ができずに作業に時間がかかったり、分かっていないのに頷いたりすることがある。発言は得意ではないが、記述では自分の考えを伝えるこ	知・技	・水溶液の性質について知り、観察・実験などに関する初歩的な技能について自信をもって取り組むことができる。	知・技 思・判・表
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、自分の考えをつくりだし表現することができる。	

	とができる。タブレットの入力は苦手。	主体的	・水溶液の性質について、 学んだことと生活を関連させよう とすることができる。
TT	・この単元では1時間しか出席していない。経験や知識が比較的豊富なため途中から参加しても授業の理解度は高い。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付けることができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
TR	・理科に対する興味関心は高く、授業中の態度はとて熱心に見えるが、分かっていなくても質問ができないため、指示しても行動に移せないときがある。	知・技	・水溶液の性質について 知り 、観察・実験などに関する初歩的な技能について 自信をもって取り組む ことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、 自分の考えをつくりだし 表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、 学んだことと生活を関連させよう とすることができる。
YT	・理科への興味関心は高く実験や課題に熱心に取り組むが、集中力が続かず、時折落ち着きのなさや自信の無さが見られたり、周りから活動が遅れいらいらしたりすることがある。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付け、 自信をもって落ち着いて取り組む ことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。
YK	・理科への関心が高く活発に発言することが多く、実験などは熱心に取り組む。時折ふざけた内容の発言をしたり体調や授業者に対する苦手意識からか授業中に教室を離れたりすることがある。	知・技	・水溶液の性質についての理解を図り、観察・実験などに関する初歩的な技能を身に付け、 落ち着いて最後まで集中して取り組む ことができる。
		思・判・表	・水溶液の性質について調べる中で、性質や規則性及び働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現することができる。
		主体的	・水溶液の性質について進んで調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	食器用洗剤の液性について、これまで学習したことを基に調べることができる。	・リトマス紙で液性を調べることができるか。 ・説明書きから液性を確認しようとする。
思考力、判断力、 表現力等	・液性を調べる方法について意見を述べたり、他者と共有したりすることができる。 ・食器用洗剤が汚れを落とす仕組みについて、妥当な答えを調べまとめることができる。	・これまでの学習を基に自分の意見を表現することができる。 ・インターネットを活用して調べる場合に、より正確な情報を得ようとする。
学びに向かう力、 人間性等	主体的にタブレットを活用したり実験に取り組んだりして、課題を解決しようとする。	・タブレットを適切に活用できている。 ・実験に主体的に取り組むことができる。

(2)個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

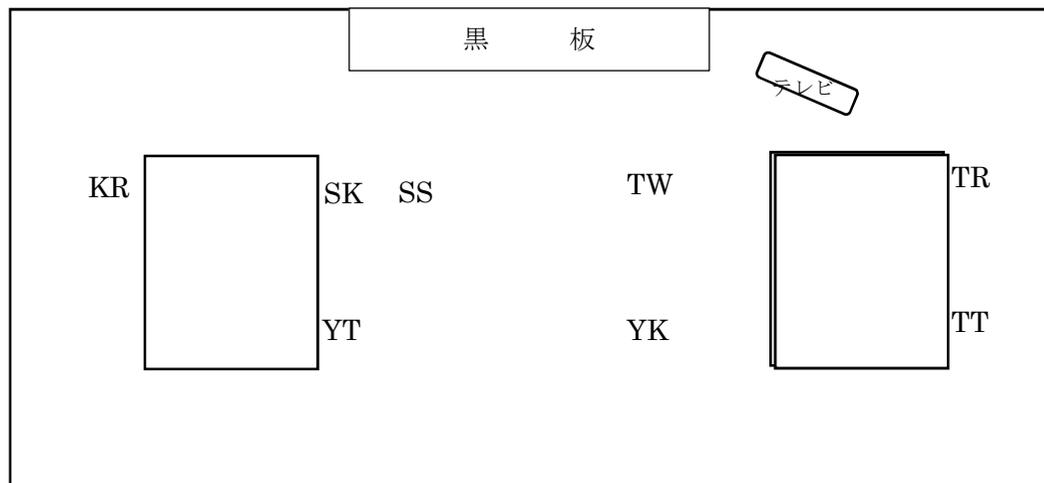
生徒	本時の個別目標		個別の手立て
KR	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 クラウド上の記述は何でもいいこと、同じ意見でもいいことを伝える。
	思・判	・クラウド上に意見や分かったことを記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・タブレットを使って進んで調べようとしたり、進んで実験に取り組もうとしたりすることができる。	
SK	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 過去のクラウドを自由に見てよいこと、説明をよく聞いて落ち着いて取り組むように言葉を掛ける。
	思・判	・クラウド上に意見や分かったことを記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・進んでタブレットを活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
SS	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 欠席機関の学習内容をクラウドを活用し、本時の活動に必要な資料がみられるように支援する。
	思・判	・クラウド上に意見を記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・進んでタブレットを活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
TW	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 自信をもって記述したり実験に取り組んだりできるような言葉掛けを行う。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・自信をもって進んで実験に取り組もうとすることができる。	
TT	知・技	・洗剤の液性についてリトマス紙を適切に使って調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。
	思・判	・クラウド上に意見や分かったことを記述して、仲間と共有することができる。	
	・表 主体的	・調べたことを基に食器用洗剤が汚れを落とす仕組みについて考えることができる。 ・主体的にタブレットを活用したり実験に取り組んだりして、課題を解決しようとするすることができる。	
TR	知・技	・洗剤の液性についてリトマス紙を適切に使って調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 指示したことを理解できているか、言葉掛けをするなどして確認を行うようにする。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・説明をよく聞き進んでタブレットを活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
YT	知・技	・洗剤の液性についてリトマス紙を適切に使って調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 自信をもって記述したり実験に取り組んだりできるような言葉掛けを行う。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・自信をもって進んでタブレット端末を活用して調べたり実験に取り組もうとしたりすることができる。	
YK	知・技	・食器用洗剤の液性をリトマス紙で調べられることに気づき、正しく実験ができる。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、液性を調べる方法に気付けるようにする。 STが注意を払いながら、適度な言葉掛けで授業の最後まで取り組めるようにする。
	思・判	・自分の意見をクラウド上に入力し述べることができる。	
	・表 主体的	・授業の終わりまで進んで学習しようとする姿勢でタブレット端末を活用したり実験に取り組もうとしたりすることができる。	

(2) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【主】【対】【深】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (5分)	1 号令	・Googleclassroom に接続する【主】	○タブレットをクラウドに接続するよう指示	○必要に応じてクラウドへの接続支援	・テレビ、iPad
	2 前時の振り返り	●前時の学習内容を思い出す。 ・Googleforms で振り返る。【主】	取組状況と提出状況を確認 ■正答率と取組状況から総合的に評価する		
	3 本時の説明	●今日の学習内容を知る ・Googleclassroom で今日の学習内容を知る。 【本時の目標】 食器用洗剤の液性を調べる。油污れが落ちる仕組みを考える。	○Googleclassroom に予め本日の学習内容を示しておく。	○生徒がタブレットで指示した通り取り組んでいるか確認	・ワークシート
展開 (00分)	4 液性を調べる方法の確認 (5分)	●食器用洗剤の液性を調べる方法をこれまでの学習内容を基に適切な方法を生徒が考え、スプレッドシートに入力することで共有する。【対】 ・生徒はクラウド上のスプレッドシートに自分の考えを入力し、他者と共有する。思いつかない場合は、他者の意見からヒントを得る。	○洗剤や酢、清涼飲料水などの液性を調べて、特に酸性の水溶液の性質について学習してきたことに触れ、本日の学習では食器用洗剤を扱うこと、まずは液性を調べたいことを説明。 ■スプレッドシートに自分の意見を入力出来たか	○タブレットの操作やスプレッドシートの入力支援。 △集中できない生徒の支援	予めスプレッドシートを作成しておく
	5 実験① (5分)	※生徒からリトマス紙を使う方法と洗剤の容器に示された説明書きから判断する方法が意見として出る予定 ●洗剤容器の説明書きを代表者が写真に記録し、クラウドで共有する ●テーブルごとにリトマス紙で液性を調べる。比較のため水道水と洗剤を調べる、結果を共有する	○生徒から出た意見を基に、調べる方法を指示する ■主体的に実験に取り組むことができているか、必要に応じて他者と協力できているか	○実験用具の配付と実験の支援	洗剤、水道水 リトマス紙 ピンセット シャーレ キッチンペーパー

	6 考察	<ul style="list-style-type: none"> ●経験的に食器や弁当箱の油汚れは水やお湯だけでは落ちないことを共有し、食器用洗剤は酸性でもアルカリ性でもないが油汚れを落とすことができるはなぜか考える。また、どうしたら解決できるか考える。 ※既習事項から Google で調べるなど。 ●このとき正しい情報を得るためのキーワードを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ○食器用洗剤の液性が水道水と同じ中性であることを確認。水だけで油などの汚れを落とせないことを経験から確認。油などの汚れが落ちる理由を問いかける。既習事項や経験で分からないことをどう解決するかも投げかける。 		
	7 調べる	<ul style="list-style-type: none"> ●身近な調べる方法であるインターネットで情報を検索する。 「洗剤 汚れが落ちる仕組み」など ●発信している機関、キーワードを共有※界面活性剤 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットで調べる場合は、公的機関が発している情報かが一つのポイントとなることを説明。 経済産業省「よごれが落ちるしくみ」 	検索のキーワードなど支援	
	8 実験	<ul style="list-style-type: none"> ●調べた結果、洗剤に含まれる界面活性剤が汚れを落とす成分だと分かる。界面活性剤が入っているか成分を確認する→最初にとった写真から ●水と油と界面活性剤で実験を行う。 ①水と油だけでは混ざらない ②水と油に界面活性剤(洗剤)を入れると混ざる 	<ul style="list-style-type: none"> ○水と油だけでは混ざらないことを確認。 ○最初に撮影した容器の説明書き写真を開き、編集のマークアップ機能で界面活性剤をマーカーなどで印をつける 	iPad の使い方支援	
まとめ (00) 分	9 本時の振り返り				
	10 次時の予告		<ul style="list-style-type: none"> ○界面活性剤について実験を行う。1円玉を10枚くらい持ってくること。 		
	11 号令				

(3) 配置図



(4) 本時の評価

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・ Googleforms で振り返ることができたか。・ リトマス紙を使った実験を適切に行うことができたか。・ タブレットを適切に活用することができたか。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">・ 洗剤の液性を調べる方法をこれまでの学習を基に考えることができたか。・ 中性の洗剤が汚れを落とす仕組みについて、適切な方法で調べ妥当な答えを得ることができたか。・ 自分の考えを記述したりクラウド上に入力したりすることで他者と共有できたか。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none">・ 進んでタブレットを活用したり実験に取り組んだりすることができる。・ 主体的に調べたり、互いの意見を伝え合ったりすることができる。

校内研究会 研究授業研究協議記録

日時：令和3年12月2日（木）14：25～ 場所：本校体育館

1 研究協議

(1)外国語

【授業者より】

- ・ 普段と違う場所や時間で取り組んだが、集中していた。
- ・ 3ヒントクイズへの取り組み方もいつもと異なっていた。
- ・ 曜日が違ったが、事前に調べてきていた。
- ・ 音楽をかけ始めたのは最近である。時間の始めにかけようとした。音楽によって集中が途切れる様子はみられなかった。
- ・ 基本的な事項を一つ一つ行った。単元デザインや授業の構成を考えながら取り組んだ。単元の目標を最初に伝えていなかったが、伝えることで見通しをもって学習できるようにした。
- ・ 授業は概ね予定通りに進めることができた。
- ・ 参観者がいないときはもっと自由にやりとりができています。
- ・ 展開では普段と大きく変わらなく出来ていたと感じる。
- ・ 後半では、タブレットの使用は教育効果が高いと感じるが、正しい使い方を伝える必要がある。
- ・ ゆっくり学習する生徒にとっては、課題の量が多かったと感じた。

1 つめは単元の目標を明示することの有効性

2 つめに集団の中で個々への教えるための方法について、ご意見をいただきたい。

【生徒の様子】

- ・ Tさんは、チャイムと同時に姿勢を正していた。3ヒントクイズを早く終えても教師がすぐに指示を出していた。言語活動では、テレビを見ながらやりとりしており、そのうちにテレビを見なくてもやりとりできるようになった。早く終えたため、文房具以外のものを調べていた。読み方を自分で訂正し、学んで振りかえることができていた。
- ・ Aさんは、積み重ねていることが学習に生かされていると感じた。主体的～について、他者の発言を聞いて自分の意見を修正しようとする姿が見られなかった。鉛筆を何本もっていたのかを忘れてしまったことがあった。指示されたことをしっかりと聞いて学習に取り組むことができていた。

【質問・意見】

- ・ 私が担当している美術と異なり、英語は目標が特殊だと思う。最終イメージはどこなのかについて聞きたい。
- 記憶が難しいので、将来、外国人に会ったときになんとかコミュニケーションをとろうとすることだと考えている。YouTube を英語で見るなど言語を身近に感じている。学習方法を学ぶことが目標

であると考えている。

- ・単元題材の目標の提示について、デザインや学びを共有することが大事だと感じた。終わりの部分で目標をどのようにして評価するのか。

→自己評価を ALT による他者評価をしていきたいと考えている。

- ・英語の独自性で、普段と異なる言語で表現することに抵抗がある生徒もいただろうが、先生が和やかな感じで進めていたことで明るい雰囲気であった。主体的に活動するためには材料が必要で、一つ一つが積み重なることで勉強したことで表現できるようになると感じた。
- ・生徒が落ち着いていた。本来は実態差があるのだろうが、普通に組み合わせていたことが素晴らしいと感じた。
- ・実態差についてのところでは、答え方を伝える際に複数のパターンを提示されていたことで配慮されていると感じた。
- ・普段よりも頑張っていた様子だった。間違ってもしゃべるようにと伝えている。
- ・タブレットを使用して生活に根付いた学びをしていると感じた。辞書で調べたことがあるのか、選択肢を用意しておくなどするとどうかと感じた。タブレットがなくても学べる環境があっても面白いと感じた。

(2)音楽

【授業者より】

- ・創作の作曲を授業した。卒業単元に向けて、これまでの学習を生かしていけるようにと本単元を設定した。
- ・主体的～について、見通しにポイントを絞った。普段の授業から、ホワイトボードに目標を書いて提示している。
- ・語彙は少なくし、発言しやすい環境作りを行っている。
- ・音楽的な見方、考え方、感性を働かせて聴くことを伝えている。
- ・言語活動と問題解決活動を行った。課題を解決するためにはというところで伝えている。
- ・やったことを積み重ねる学習になる。タブレットを使用することに苦手意識のある生徒もいるので、音楽的なことは少なくしている。
- ・ワークシートを使用して説明しながら進めた。自分の感性で能動的な活動ができた。イメージを膨らませられたと感じる。発表の仕方もよかった。タブレットの画面を回して見せるなどの生徒の様子も見られた。
 - ① 学年で学習をする際のベースの置き方、援助の工夫
 - ② 評価の仕方、どのような工夫をしているのかなどについて聞きたい

【生徒について】

Tさんについて

- ・姿勢を正して聞いていた。
- ・言葉掛けに答えていた。
- ・プリントに記入出来ていた。

- ・分かりやすくまとめていたが、先に曲を流してしまい、発表があとになっていた。

Sさんについて

- ・指示をよく聞いており、MTを注目していた。
- ・ワークシートへの記入の際には、STの言葉掛けが必要な様子が見られた。

Nさんについて、

- ・元気でパワーのある授業だった。対話をしていると感じた。
- ・一斉授業の中での難しさがああり、授業計画を苦労されていたと思うが、それを感じさせない授業であった。
- ・指示通りに活動できていた。
- ・曲紹介のときには、いいまとめ方をしていた。
- ・曲を聴き終えた際には、最初に話し始めるなどグループを進めようとしていると感じた。
- ・もっとやりたかったという発言があった。

【質問・意見】

- ・アプリで作曲する工程はどのようなものか。
→ガレージバンドの5つのメロディから選択する。見本を示してから行った。失敗することはほとんどないようなアプリである。自分でメロディを選ぶことで曲を作る。
- ・体育からの視点では、興味関心を重要視している。グループ分けについても、バランスを考えて混ぜている。少し頑張ると達成できそうな目標を設定するなどしている。家庭で取り組む生徒がいると、主体的に学ぶ機会になるのではないかと考えている。
- ・美術では、全員が取り組めそうなものを行っている。発展性のある課題などを設定する。難易度が高くなると説明が多くなり、伝えたことを忘れてしまう生徒が出てくる。
- ・評価に関して、音楽では一人では見られないので、STに見てもらいながら行っている。プリントの整理についての言葉掛けが大変勉強になった。言葉掛けの仕方について気を付ける必要性について感じた。
- ・音楽で事実と感性を分けるとより深い学びになるのではないかと感じた。

(3)理科

【授業者より】

- ・研究授業の実施により、授業を考え改善するきっかけとなった。
- ・8名のクラスで2名欠席がちである。抽出生徒の一人が欠席であった。緊張していたようだが、始まるといつも通りであった。
- ・授業改善を意識した。ICTを活用することも意識しての授業であった。
- ・理科に興味関心のある生徒が多い。実験などを行うと主体的に取り組む。
- ・理科的な視点から法則や知識を知ることによって生活に役立つという流れがこれまでの展開であった。
- ・驚きと楽しみはあるが、身についてはいないことが反省点だった。

- ・題材は同じでも、ねらいを考える中で疑問をもつ、関心をもつなどしてどのように解決するかを考えることを目標にしていこうと考えた。
- ・ネットの情報の中からどれが信頼できるのかを知ることができるようにすることも伝えている。
- ・道具として ICT を組み入れて、タブレットも筆記具と同じ感覚で使用できるようにと考えている。
- ・授業の中では、ここは ICT でなくてもいいと感じる部分もあった。なるべく活用することを目指しているが、ICT の活用についてご意見をいただきたい。
- ・対話の深まり方について、ご意見をいただきたい。

【生徒について】

Tさんについて

- ・発問に対し、少しずつ表情も柔らかくなり、声が大きくなった。
- ・サイトについて、タブレットを見て打ち込むことは記憶できず、難しい様子だった。ワークシートに記入してから打ち込む様子が見られた。

【質問・意見】

- ・自分も見ているワクワクするような授業であった。ICT も活用されていて、勉強になった。知的好奇心をもたせることで成長していくと感じた。ICT の活用について、生徒の様子から手で触って確かめる経験が少ないと感じる。リアルに感じる部分と ICT の活用のバランスが良かったと感じた。
 - ・学びの過程では、意識されていることを聞きたい。
- 使用してみたの効果は生徒の活動内容として、発言することに抵抗のある生徒でも他の生徒の意見をみて自信をもって発言できる。発言した内容が消えずに残る。
- ・自分の意見を入力することで、書字や発言が苦手な生徒でも取り組むことができる。iPad の使用で良い点と難しい点を聞かせて欲しい。
- 使っていないと分からないことがある。始めは面倒だと思うが、便利さを感じて欲しい。クラウドに資料を載せると自分のタイミングで資料をみることができる。しかし、まだ見せる予定ではない情報を先に見ることもできてしまう。そのやりとりに課題があると感じる。

2 助言 アドバイザーより

- ・外国語は主体的を具現化した授業であった。目標を提示し、ペアを変えていくなどしていた。
- ・音楽では、手立てが細やかで感銘を受けた。音楽のイメージを言語化するのは難しいと思ったが、いくつもの手立てをとっていた。サンプルの用意や単語でよいという言葉掛けによって、書くことができていた。
- ・理科では、子供の生活課題に即した内容であった。授業の作り方、組み立て方が素晴らしかった。
- ・3人とも素晴らしかった。カリマネの視点で、知的障害のある生徒の学習特性としては、知識の断片化、生活に応用できない、抽象的思考が難しい、経験が少なく、意欲的に取り組めないなどがある。高等支援学校の生徒への授業ではつい、忘れがちであるが、十分に配慮が必要。
- ・見通しは大前提であるが、興味関心が必要である。入り口になる。
- ・対話の仕方が明示されていた。フリーでの対話する前にロールモデルを学ぶ必要がある。基礎基本が

大切だと感じた。

- ・発表が大事だと思う。言語での発表もあるが、クラウド上での発表なども方法である。
- ・手立てについて、生徒の強みが大事である。趣味趣向を含めて手立てに生かせることが必要。
- ・弱さについて、配慮をいかにしていくか。補っていけるようにしていく必要がある。
- ・手立てについて、評価をすることが必要になる。目標を達成できなかったとき、それは手立てが適切ではなかったのかもしれないという視点が必要である。
- ・生徒の生活に生かせる学習内容を設定することが必要である。
- ・なぜ、その指導をしているか、エビデンスが大事になってくる。認知的な特性になるかもしれない。
- ・PDCA サイクルは通常教育であり、特別支援教育では、アセスメントが必要である。得意なこと、苦手なことを把握しておくことが必要である。
- ・教材、教示の分かりやすさが大事である。
- ・常に授業改善をする視点をもつことが大事である。

令和4年度 校内研究

令和4年度 北海道函館高等支援学校 校内研究計画

【本校の校内研究の目的】

- 1 本校の教育課程の改善充実を目指す。
- 2 教職員の専門性の向上を図る。
- 3 教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- 4 研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

～2年次副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

3年次副題(案)：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用(研究のまとめ)

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図り、実践をするとともに、生徒も授業の内容や進め方を理解し、教師と同じイメージをもって学習に取り組むことができるようになれば、生徒が見通しをもった「わかる」「できる」「いきる」授業となり、それぞれの学びの場における授業改善を深めることができるであろう。

3 テーマ設定の理由

(1)昨年度のまとめから

本研究は「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善をテーマとした3か年研究の2年次の研究である。

1年次には、学習指導要領より「主体的・対話的で深い学び」についての基礎・基本をまとめ、それを基に各自が研究授業を通して、その在り方について考察した。

その中で、「主体的・対話的で深い学び」においては、学習が、「生徒自身の学びとなっている」ことが大切であること、そのためには、生徒にとって学習内容や方法が「わかる」ことが重要であることなどについて改めて認識することができた。

2年次の研究は、1年次の実践を通じた成果や課題を基に、授業をデザインしていくための具体的な視点を設定し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を充実させることをねらいとする。

(2)授業改善の視点「わかる」「できる」「いきる」

前出のように、「主体的・対話的で深い学び」のキーワードを「生徒自身の学びとなっている」と押さえながら、授業改善の視点として設定したものが「わかる」「できる」「いきる」である。

「わかる」は、主に「主体的な学び」と関連し、授業の導入段階において、生徒が学習目標を理解しながら学習に見通しをもてるようにすることと、学習目標の達成に必要な基礎的、基本的な知識・技能を習得し、次の発展的な段階への準備ができるような授業作りを目指す視点である。

「できる」は前段階での基礎・基本をもとに、授業の展開の段階において学びを発展し深める学習活動を目指す視点である。

ここで「できる」という言葉を使用している理由は、「できているというのはどういう状況か」を明らかにし、「わかる」段階での指導が十分であったかの、指導の評価が大切であることを示している。

「いきる」については大きく2つの意味を含んでいる。

1つ目は、次の授業、次の単元や次年度の学習に生かされる力が付いたかという意味である。

2つ目は、本研究のテーマである「体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方」として、学習内容が生徒の現在の生活や卒業後の生活に生きてはたらく力となっているかという意味である。

「いきる」は授業のまとめの段階において、自己評価等により学習の成果や課題を振り返り、次の学習の目標や課題を設定し、より主体的な学びができるように意識を高めるための視点であるとともに、教師が指導の評価を行う際に単元・題材等の計画全体を評価する視点となるものでもある。

(3) 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本を押さえた授業作りについて、教師全員が共通理解を図り、教科の種類や学習内容によらず、「生徒自身の学びになる」授業作りができるようになるために、前出の「わかる」「できる」「いきる」を視点とした授業改善を進めるにあたり、「授業デザインガイドブック」を本研究を通して作成する。

また、その内容と対応する生徒向けの「学習の手引き」を合わせて作成する。

これは、生徒が本校の学校教育目標や校訓に示された意味、「授業」の組み立てや受け方を理解することにより生徒の主体性を引き出すことを期待するものである。

教師が「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を進めるとともに、学習の場について生徒への意識づけを図ることで、より「生徒自身の学びになる」授業作りを目指したい。

4 今年度の研究の視点（研究仮説を検証するために取り組む内容の具体化）

(1) 『「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項』を基に、「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点を設定し、各教師が担当する日常の授業で次のような実践を行う。

ア 単元・題材の導入時、毎時間の導入時

- ・学習予定の提示
- ・学習目標の提示
- ・学習の基礎・基本となる知識、技能の習得

イ 単元・題材の展開時、毎時間の展開時

- ・「ア」の指導が生かされて、「できる」状況ができているかについての評価

ウ 単元・題材のまとめ、毎時間のまとめ

- ・自己評価、振り返り
- ・指導の評価

(2) 各自の日常実践とグループ研究により、『「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点』を基に、生徒向けの「学習の手引き」と教師向けの「授業デザインガイドブック」を、内容を対応させて作成し、研究授業等を通して成果を確認する。

5 「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」について

(1)概要

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の在り方を、「生徒自身の学びになる」授業作りを目指すことと押さえ、『「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点』を中心に、学習指導全般に共通理解すべき内容を基に作成する。
- イ 『「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点』について、具体的、実地的であるとともに、教師間及び生徒と教師が共通して理解し、日常実践において活用される内容となるようにする。
- ウ ア、イについて、必要なことを全て詰め込むのではなく、合い言葉のように思い出し、普段から様々な場面で使えるような表現や分量でまとめる。
- エ 年度初めの授業のオリエンテーションや日常の授業など、実際の活用場面を想定して制作し、年間指導計画などに位置づけられるようにする。

(2)作成手順

- ア 「学習の手引き」
 - ・教務部研究係が作成した（案）をたたき台とし、グループ研究を通してそれぞれの担当箇所を作成する。
- イ 「授業デザインガイドブック」
 - ・「学習の手引き」の作成と並行して各グループが担当する箇所について指導のポイントや共通理解を図るべき事項についてまとめる。

(3) 「学習の手引き」の内容と趣旨、ねらい

項目	「学習の手引き」の内容	項目の趣旨、ねらい	「授業デザインガイドブック」で押さえない事項
ア 本校の教育が育成を目指す力について	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代を生きるために大切な力 ・学校教育目標 校章とスクールカラー ・校訓について 探究 協働 健全 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代に求められている資質能力と「校訓」を関連させ、学校教育が育成を目指す力について説明し、日常の学習活動の中で意識できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・育成目指す資質・能力と各教科等の関連を再確認し、授業改善の視点とする。
イ 授業の組み立てについて	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の組み立て 3つの段階 第1段階「わかる」何をするのかを理解する段階 第2段階「できる」「基礎・基本」をもとに考えたり表現したりする段階 第3段階「いきる」学習をふりかえり次の学習や生活に生かせるようにする段階 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が「学習予定」、「学習目標」、「基礎・基本」を理解して、それを基に学習を展開、深めていく授業の組み立てについてイメージをもつとともに、「主体的・対話的で深い学び」についての意識をもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の日常的な学習指導の基本的な形を整理し、各授業における組み立てを共通理解することにより、「生徒自身の学びになる」授業改善の視点とする。
ウ 学習の取り組み方について	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のルール、心得、マナー ・話し合いでのルールとマナー ・調べ学習のポイントについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における学習活動の基本的なルールやマナーなどについて理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールやマナーを守りながら、「主体的…な学び」となるための指導のポイントを押さえる。
エ 個別の教育支援計画と個別の指導計画について		<ul style="list-style-type: none"> ・2つの計画についてより有効に活用されるよう、意識付けを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各計画をより有効活用するとともに、適切な目標設定と学習評価のポイントを押さえる。
オ 教科等について	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等について ・自立活動について ・進路学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の概要を理解するとともに、障害の受容や他者理解、多様性理解、出口の教育として在り方などについて、本校の特徴に照らして生徒の理解を深められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個への指導の充実と学校、集団としての指導の在り方について、教育課程全体の中での位置付けを押さえ、各教科等の授業改善の視点とする。 ・年度初めのLHRや学年集会など、実際の学習活動や年間指導計画へ位置付ける。

6 研究推進日程

取組	実施日	取組内容	備考
校内研究 1	5/19(木)	○令和 4 年度北海道函館高等支援学校 校内研究計画提案・意見集約アンケート ○研究グループ希望集約	全体研究 50 分
校内研究 2	6/28(火) 29(水)	○学習の手引き・授業デザインガイドブ ック案作成① ●グループ担当分について検討 ・原案とアンケートからの意見 ・作成の進め方、分担など	グループ研究 35 分×2 回
分掌部会	7/1(金) 5(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・分掌に関連した内容について分掌部 会で検討する。	
校内研究 3	7/21(木)	○学習の手引き・授業デザインガイドブ ック案作成② ○校内研究会授業者の選出	グループ研究 50 分
教科会議	8/23(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・各教科等に関連した部分の内容につい て検討	
校内研究 4 研究アドバ イザー研修	8/24(水)	○研究アドバイザー基調講演 ○グループ研究の中間報告 ○校内研究授業期間の研究授業指導案検 討	全体研究 グループ研究 合わせて 120 分
校内研究授 業期間	9 月～10 月		
校内研究 5	10/27(木)	○校内研究授業期間の研究授業指導案研 究協議 ○学習の手引き・授業デザインガイドブ ック案作成③ ・グループ担当分についての最終案検討	グループ研究 50 分
校内研究会	12/5(月) (予定)	○研究授業(3 本) ○研究協議	午前授業 全体研究 7 時間
校内研修会	1/11(水) (予定)	※地域連携研修としての実施を検討	全体研究 3 時間
校内研究 6	2/22(水)	○今年度研究のまとめ ・今年度研究の成果と課題 ・次年度の研究について	全体研究 50 分

7 研究グループ

(1) グループ編成について

- ア A～D4グループを編成し、「学習の手引き」の担当箇所について原案を基に内容の検討、作成をしながら、合わせて教師用の「授業デザインガイドブック」案を作成します。
- イ 各先生から参加希望を集約し、人数を調整して編成します。(第3希望まで)
- ウ 校内研究2までに調整、ご確認いただきます。
- エ 研究計画アンケートの意見等により、今後編成を変更する場合があります。

(2) グループと担当する項目 ・メンバーの※はご参加をお願いしたい先生です

	項目	「学習の手引き」の内容	教務担当者	メンバー
A	本校の教育が育成を目指す力について	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの時代を生きるために大切な力 ・学校教育目標 校章とスクールカラー ・校訓について 探究 協働 健全 	○菊地 祐川 今村	
	授業の組み立てについて	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の組み立て 3つの段階 第1段階「わかる」 何をするのかを理解する段階 第2段階「できる」 「基礎・基本」をもとに考えたり表現したりする段階 第3段階「いきる」 学習をふりかえり次の学習や生活に生かせるようにする段階 		
B	学習の取り組み方について	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のルール、心得、マナー ・話し合いでのルールとマナー ・調べ学習のポイントについて 	○関口 厚谷	(5名)
C	個別の教育支援計画と個別の指導計画について		○能代 構口	※進路・支援部から (5名)
D	教科等について	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科等について ・自立活動について ・進路学習について ・その他 	○吉田 佐々木 高佐 木戸 山谷	※自立活動担当 ※進路・支援部から (15名)

8 過年度研究と今年度以降の研究内容

内容 年度	カリキュラム・マネジメントの確立		「主体的・対話的で深い学びの実現」に向けた授業改善	教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成
	教育課程の基本となる計画の確認	単元・題材の計画と学習評価		
第1期	R1年度	◎	○	△
	R2 〃	○	◎	△
第2期	R3 〃	○	○	◎
	R4 〃	△	△	◎
	R5 〃	△	△	◎
第3期 R6以降	研究主題(仮)知識基盤社会における知的障害教育の生きる力、働く力の再考			

◎：重点となる内容 ○：重点と合わせて取り組む内容

△：今後に向け試行、準備すべき内容・テーマに沿って必要に応じて取り組む内容。

9 今年度研究推進の方針・方法

- (1) 日常実践を通じた研究を推進し、成果を日常の学習指導に生かす。
- (2) 授業研究について
 - ア 原則として3年に1回以上は当該年度の研究テーマに基づいた研究授業に取り組む。
 - エ 初任段階研修3年次までの対象者は初任段階研修の一環として研究授業に取り組むこととする。
- (3) 研究広報の活用
- (4) 公開研究会
 - ア 1年次、2年次は校内研究会とする。
 - イ 3年次研究のまとめを公開研究会として発表する。(令和5年度予定)
- (5) 研究紀要作成
 - 1年毎に紀要としてまとめ、3年次に3年次及び3カ年の研究成果を研究紀要としてまとめる。
- (6)その他

10 R4 校内研究会及び R5 公開研究会の研究授業の授業者について

- (1) 校内研究会及び公開研究会の授業者は前記「7(2)ア」によらず教諭全員より選定する。
- (2) 今年度は、今年度校内研究会の授業者と合わせて次年度公開研究会の教科等の選出を行う。
- (3) 校内研究会及び公開研究会の授業者は、原則として令和元年度以降の校内、公開研究会の授業者を除いて選出する。

11 3カ年の取組一覧

年度	研究会	研修会(講演会)	研究紀要の内容
R3 (終了)	× 校内研究会(12月)	○ 地域連携研修(講演会)	△ R3年度の研究の概要と まとめ
R4	× 校内研究会(時期未定)	○ 実施予定(講演会)	△ R4年度の研究の概要と まとめ
R5	○ 公開研究会(時期未定) ※一般参加者あり	○or△ 実施予定(講演会) ※公開研究会で設定?	○ R5年度の概要とまとめ 3カ年の研究のまとめ

R4年度

校内研究のまとめ

1

本校の校内研究の概要

1 校内研究計画の概要

(1)研究期間 令和3年度～令和5年度

※令和4年度は3年計画の2年次

(2)テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

2 令和3年度 校内研究の概要とまとめ

(1)1年次研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

副題 : 「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

(2)研究内容

ア 「『主体的・対話的で深い学び』」についての基本的な事項」の作成

※学習指導要領及び解説等から「主体的…学び」の主旨についての基本的な内容を整理したもの。

イ 「ア」を基に各自が研究授業を行い、成果や課題について考察する。

ウ 「イ」により考察した内容を基に本校における「主体的…学び」についてまとめ、共通理解を図る。

2 令和3年度 校内研究の概要とまとめ

(3) 校内研究会研究授業

- ・ 英語 普通科1年 松本教諭
- ・ 音楽 3学年 高橋教諭
- ・ 理科 生産技術科1年 渡部教諭

(4) 成果と課題

ア 成果

- ・ 学習指導要領等に示された「主体的・対話的で深い学び」の趣旨を確認できた。
- ・ 各自が研究授業を通して「主体的…学び」を実践し、それを基に本校における「主体的…学び」について考察することができた。

イ 課題

- ・ 「主体的…学び」の考え方については確認したが、実際の指導に生かすことや、指導がその趣旨に照らして妥当なのかどうかの判断が難しい。

2 令和3年度 校内研究の概要とまとめ

(5)本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方

本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方を、R3年度の研究成果と課題を基に次のようにまとめました。

【本校における『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の在り方】

- 1 これまで行ってきた学習指導を、学習指導要領に示された『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善』の趣旨に照らして整理し、学習活動の質を改善・充実させるものである。
- 2 生徒の実態に応じ、生徒自身の学びとなり、生徒の生活にいきる学力の育成を目指すものである。
- 3 本校における学習指導の基礎・基本として共通理解を図り、各授業の実践に反映させるものである。

【本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点】

「生徒自身の学び」となるための視点としての「わかる・できる・いきる授業のデザイン」

2

令和4年度 校内研究計画

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」
～2年次副題：「わかる」「できる」「いきる」
授業のための授業改善 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図り、実践をするとともに、生徒も授業の内容や進め方を理解し、教師と同じイメージをもって学習に取り組むことができるようになれば、生徒が見通しをもった「わかる」「できる」「いきる」授業となり、それぞれの学びの場における授業改善を深めることができるであろう。

3 テーマ設定の理由

(1) 昨年度のまとめから

「主体的・対話的で深い学び」について、「生徒自身の学びになる」ことが大切であることを再認識した。

(2) 授業改善の視点「わかる」「できる」「いきる」

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業改善を実践を通して考察するため。

(3) 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成

教師と生徒、双方が「生徒自身の学びになる」授業作りについて共通理解を図るため。

4 今年度の研究の視点（取組の具体的な内容）

- (1) 『「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項』を基に、「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善の視点を設定し、各教師が担当する日常の授業で次のような実践を行う。
- ア 単元・題材の導入時、毎時間の導入時
 - ・学習予定の提示
 - ・学習目標の提示
 - ・学習の基礎・基本となる知識、技能の習得
 - イ 単元・題材の展開時、毎時間の展開時
 - ・「ア」の指導が生かされて、「できる」状況ができているかについての評価
 - ウ 単元・題材のまとめ、毎時間のまとめ
 - ・自己評価、振り返り
 - ・指導の評価
- (2) 各自の日常実践とグループ研究により、「『わかる』『できる』『いきる』授業のための授業改善の視点」を基に、生徒向けの「学習の手引き」と教師向けの「授業デザインガイドブック」を、内容を対応させて作成し、研究授業等を通して成果を確認する。

3

令和4年度 校内研究の実際

1 研究の経過

取組	実施日	取組内容
校内研究 1	5/19(木)	○令和 4 年度北海道函館高等支援学校 校内研究計画提案・意見集約アンケート ○研究グループ希望集約
校内研究 2	6/28(火) 29(水)	○学習の手引き・授業デザインガイドブック案作成① ○グループ担当分について検討
分掌部会	7/1(金) 5(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・分掌に関連した内容について分掌部会で検討する。
校内研究 3	7/21(木)	○学習の手引き・授業デザインガイドブック案作成② ○校内研究会授業者の選出
教科会議	8/23(火)	○授業デザインガイドブック案検討 ・各教科等に関連した部分の内容について検討
校内研究 4 研究アドバイザー研修	8/24(水)	○研究アドバイザー基調講演 ○グループ研究の中間報告 ○校内研究授業期間の研究授業指導案検討
校内研究 5	10/27(木)	○校内研究授業期間の研究授業指導案研究協議 ○学習の手引き・授業デザインガイドブック案作成③
校内研究会	12/5(月)	○研究授業 1年数学 2年作業学習 3年総合的な探究の時間 ○研究協議
校内研究 6	2/22(水)	○今年度研究のまとめ ・今年度研究の成果と課題 ・次年度の研究について

2 「校内研究1」について

- (1) 内容
- ① R4校内研究計画の提案
 - ② 「学習の手引き」原原案提案
 - ③ アンケート(①、②について)

(2) アンケートの結果から

- ・ 研究の内容、方法については妥当。
- ・ 「学習の手引き」については、活用できるものにするための内容の工夫が必要。

3 「校内研究 2, 3」について

- (1) 内容 ①「学習の手引き」原案提案
②「学習の手引き」「授業デザインガイドブック」の作成要領について説明

(2) 取り組みの進め方

内容②について、アンケートの結果を含めてグループ別に「手引き」「ガイドブック」の内容を検討。

4 「校内研究4」について

(1) 内容

- ①研究アドバイザー研修
- ②各グループの「手引き」「ガイドブック」作成の中間報告と今後の取り組み方について

(2) 研究アドバイザーからの助言

- ・「手引き」は文字を少なく。
- ・「できる」から「いきる」へつなげることが難しい。

(3) 各グループからの中間報告

- ・「手引き」「ガイドブック」の加除修正案について説明し、今後の作成手順を説明

5 「校内研究5」について①

(1) 内容

①校内研究会指導案検討

- ・教科等 田野教諭 (1年普通科数学)
- ・普通科 大町教諭 (3年普通科総合)
- ・職業学科 能代教諭 (2年生産技術科作業)

②「本校における『授業デザインガイドブックと「わかる」「できる」「いきる」の視点』の具体的な内容と、日常実践における共通理解について」提案

③アンケート (上記②について) 集約結果より主な意見を次ページに

「わかる」「できる」「いきる」の視点の具体的な内容について

令和3年度の
取組

学習指導要領における「主体的、対話的で深い学び」

「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項

学習指導要領に示された「主体的…学び」の趣旨を整理してまとめたもの

「主体的…学び」について各自が研究授業の実践を基に考察

・まだまだ教師主導・活動しているけど、
考えたり感じたりしているのか？

「主体的…学び」のポイント：「生徒自身の学び」となること

各先生の研究授業を通じた考察からまとめられたキーワード

「生徒自身の学び」になるための視点「わかる」「できる」「いきる」

授業改善の視点を指導場面と対応させて整理

「わかる」「できる」「いきる」の視点の具体的な内容について

「生徒自身の学び」になるための視点「わかる」「できる」「いきる」

「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得

「できる」

何がどのように「できる」かのイメージを具体的に「見方・考え方」による学習目標達成に向けた学習活動を工夫し、「対話的な学び」「深い学び」となるための視点

○授業者が学習目標に対して「ただできる」のではなく、どのように「できる」ことが目標の達成かのイメージを明らかにすること。
○そのような学習活動となるための、教材教具、体験などの「どのように学ぶか」を工夫すること。

「いきる」

育成された資質・能力が、どこでどのように「いきる」かを明らかにして、そこで「生きて働く力」となるために、どのような学習活動が「できる」ことが必要かを考えるための視点

○3つの「いきる」場

☆次の学習に「いきる」

→「見方・考え方」を生かした学習活動

☆他の学習に「いきる」

→教科等横断的な視点「学習の基盤となる力」

☆生活に「いきる」

→教科等横断的な視点「現代的な諸課題に対応する力」

※校訓の活用

○学習の基本的な指導事項

- ・「自己評価」

5 「校内研究5」について②

(2) 校内研究5 アンケートから

「本校における『授業デザインガイドブックと「わかる」「できる」「いきる」の視点』の具体的な内容と、日常実践における共通理解について」（案）に対しては、「わかる…」他3つの視点が分かりやすく説明されていた。作成手順がよく整理されている。など、概ね妥当な内容との意見が多く出されました。

また、考え方としては理解できるが、実践で取り組む場合の課題として次のような事項があげられました。

- ・活動の良さや目標を理解することが難しい生徒の指導に対応できるか。
- ・「生徒自身の学び」が難しい。講義形式になりがち。
- ・「なぜ学ぶか」をなかなか伝えられない。
- ・学習目標と事後の評価がリンクしない。
- ・「わかる」→「できる」だけでなく「できた」ことで「わかる」こともある。
- ・目標、予定の提示や板書なども共通した方法で行えば生徒が捉えやすい。
- ・教科学習では、校訓や「いきる」との関りが見いだせないものもある。

6 校内研究会 研究授業の概要

①授業者 ②クラス ③教科等 ④単元名	研究授業のあらすじ	指導案における「わかる、できる、いきる」の視点		
		わかる	できる	いきる
①能代教諭 ②生産2学年 ③作業学習 ④コーヒー豆加工	コーヒー豆の製造について、生徒が現在の製造状況を基に製造の量や役割分担を主体的に協議し作業を進めていく過程を通して、社会的な自立につながる力を付ける。	作業内容、量を主体的に判断できる情報の提示。	作業内容を主体的に話し合える環境づくりや言葉がけなどによる支援。	次の学習にいかす自己評価。
①大町教諭 ②普通3学年 ③総合的な探究の時間 ④地域の魅力を発信	自分たちの住む地域を題材に、その歴史や文化の魅力を調べ、音声付きスライドで発表するまでの調べ学習を通して、探究的な活動の基礎基本を学ぶ。	試作品の提示で発表方法に見通しをもたせる。	ゲストティーチャーの活用や、グループの発表内容の相互評価による学習の深化。	課題設定から情報収集、整理分析、発表の一連の流れを理解し、調べ学習の基礎的な力を付ける。
①田野教諭 ②普通科1年 ③数学 ④円柱の体積の求め方	飲料水を例にしながら、公式を用いて体積の計算や比較を行うことを通して、生活の中の数量を数学的に処理することを学ぶ。	基礎基本となる公式の確認と学習内容の提示の工夫で見通しをもたせる。	日常生活において経験したことを基に理解を深められるように、問題解決的に進める。	学習したことを生活に生かせるような振り返りの活用。

6 校内研究会 研究協議

研究協議・意見シートで出された主な意見

能代教諭・作業

- ・展開の冒頭で受注数や納期などから、本日の作業内容や製造数などを決める場面は、生徒の意識付けとして、「わかる」（必要な情報から判断）から「いきる」（何をどのくらいどうする）につながる重要な場面だった。
- ・見通しをもてる「わかる」状況作りが、対話を生み、また、知識・技能を活用した上で、個々の主体性や判断につながっていると感じた。
- ・情報の伝達は最小限ながらもきちんとポイントを抑えており、生徒の「わかる」支えとなり、生徒自身が自分で「できる」実感をもてた。
- ・コーヒー豆の作業についての流れや見通し、仕組みなどがわかっていないと、生徒たちが主体的に動けないと思います。「わかる」が「できる」「いきる」につながるということがわかった。

大町教諭・総合

- ・探究の一連の過程を繰り返すことで「わかる…」状況作りができていた。
- ・ゲストティーチャーにより事前に情報を得、それを生かす手立てが有効で、より「わかる」に繋がったと思う。
- ・音声ガイド付きスライドの活用が「できる」に生かされていた。
- ・伝え方を学ぶ学習にも繋がると思った。「聞き手に端的にわかりやすく伝える」という国語との絡めることができると思った。
- ・探究して作成したスライドが今後活用されることで、さらに「主体的・対話的で深い学び」につながるのではないかと思う。

田野教諭・数学

- ・体験的に学習を進めることで深い学びが「できる」ことに繋がっていた。
- ・提示されている「わかる」「できる」「いきる」、「主体的・対話的で深い学び」というキーワード全てが網羅されている授業だと感じた。
- ・必要事項を理解しているため、スムーズに実践で公式を使うことができていた。「理解して、実際に使って、できるようになる」というサイクルができていた。
- ・教室のなかだけではなく、普段の暮らしの中でも「わかる」「できる」が実感できる題材研究をしていると感じた。
- ・体験的な活動を通して、生徒たちの「わかる」深めていた。生徒たちの主体的・対話的で深い学びにつながっていると思う。

6 校内研究会 アンケートより要点を抜粋

(1) 「わかる・できる・いきる」の日常実践と「学習の手引き」による生徒への意識付けについて

【成果】

- ・授業を「わかる…」の視点で考えて作り上げる取組は、生徒にとっても、教師にとっても分かりやすく、授業を計画する上で効果的だと思う。
- ・生徒に示す「学習の手引き」でもキーワードとして取り上げられているので、教師、生徒ともに「共通言語」と教育的効果が高まることを期待。
- ・基礎、基本となる知識・技能の積み上げが「わかる」につながり、そこから「できる」という達成感が得られるような授業計画が必要と改めて理解。
- ・3つの授業を通して、「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業改善のイメージが、少しつかめたような気がする。
- ・「いきる」は確かに単元レベルでは本当にいかせたか把握できない部分はあるかもしれないが、こんなところに生かせたらとイメージをもつことだけでも大切だ。
- ・手引きにあるように、次の単元（学習）に前回の評価をどのように生かせたかを見ていけたらと思った。

【課題】

- ・「わかる」「できる」の結果は、授業内や単元に取り組んでいる短期間で見えるものだと思うが、「いきる」については、現場実習や家庭生活など我々教員側が居合わせない場面で発揮されることが多い力だと思う。卒業後の職業生活や社会生活の中で、生徒自身が実践したり感じたりすることを願い、これからの授業実践に取り組んでいきたいと思う。
- ・まず、「気づく」「わかる」を目指している。
- ・「理解して、実際に使って、できるようになる」というサイクルをいかに作っていくか。
- ・「いきる」については、学校生活や授業の中でどのような指導をし、どうすれば成果がでるのかということが見えにくいというのが正直な気持ちだ。卒業後の職業生活や社会生活の中に必要なことであり、学校生活で身に付けられることを、春に卒業した生達を見て、課題や足りなかった点を反省し、これからの授業実践に取り組んでいきたい。
- ・「わかる」「できる」「いきる」は、教師が学習の組み立ての中で意識して作らなければいけないが、特に、「いきる」は、学習と生活をリンクさせた授業を展開していくと思うので、生徒自身も実生活の中で「いかせる」ように日常的に意識付けられると、より効果的に生きる力につながると思う。

(2) 「学習の手引き」案と今後の取組について

- ・「Hako cafe clover（学校が運営するカフェ）」の取組や関連する学習について、学習の手引きに追加して生徒に説明できるとよい。
- ・細部まで見切れていませんが、大枠で良いと思います。
- ・学習の手引きをきちんと読もうとする生徒は、授業もきちんと受ける。新しい取り組みが生徒の中にどれだけ入っていけるかだと思う。
- ・生徒に分かりやすいものは誰がみても分かりやすいので、大人もガイドブックよりも手引きの方をよく見るかもしれない。

6 校内研究会 研究協議及びアンケートから

校内研究会の研究授業及び研究協議等を通して、「わかる、できる、いきる」の視点について以下のようにまとめました。

- ①研究授業を通して「わかる…」の視点について共通理解を図ることができた。
- ②「授業デザインガイドブック」に示された内容は「主体的…学び」による授業改善の視点として概ね適当であると判断できた。
- ③「手引き」により「わかる…」の視点を生徒と教師の「共通言語」としながら、学校全体での授業改善を進めていくことを確認できた。

7 今年度の研究で助言者などからいただいた アドバイスなど

北海道教育大学 北村教授より（校内研究4 研究アドバイザー研修）

- ・「いきる」とは、獲得した資質・能力を発揮すること。「わかる」「できる」まではなんとかいけそうだが「いきる」が難しい。
- ・「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」をうまく連携させられるとよい。
- ・「手引き」は文字による説明を減らすとよい。

北海道北斗高等支援学校 渡辺教頭より（校内研究会）

- ・「わかる」「できる」「いきる」がわかりやすい。
- ・生徒と先生方が同じ方向を向いて取り組み、共通した授業の流れができるので、生徒は安心して取り組めるのでは。学習の手引きをぜひ活用していただきたい。

横浜市立本郷特別支援学校 坂本副校長より（地域連携研修 本校の研究についての説明へのアドバイス）

- ・学習は、「わかる」→「できる」の流れだけではなく、わからないままでも「できる」ことや、やってみたことで「わかる」など、往還的に進んでいくことも踏まえると良い。

※いただいたアドバイスを参考に、「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」の内容に追加、修正を加えました。

4

令和4年度 校内研究のまとめ

1 令和4年度 校内研究の成果と課題

(1)成果

- ア 昨年度の研究を受け、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善の在り方を「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学びの視点を「わかる」「できる」「いきる」として整理することができた。
- イ アについての内容をグループ研究及び校内研究会研究授業を通して考察し、その妥当性について全体で検討、確認することができた。
- ウ アを実践に生かすための生徒向けの「学習の手引き」と教師向けの「授業デザインガイドブック」を、グループ研究を中心に加除修正し、全体で協議しながら作成を進めることで、より活用、教育効果の期待できる内容にまとめることができた。

(2)課題

研究授業を通して、「わかる…いきる」の視点による授業についての内容や、妥当性について、考え方としての共通理解を図ることはできたが、各先生の日常的な実践での取組状況やその成果や課題について具体的な調査、分析を行っていないため、まだ、日常レベルにおける指導での、学校全体としての有効性の確認には至っていない状況である。

2 研究仮説の検証

(3) 研究仮説の検証

【研究仮説】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図り、実践をするとともに、生徒も授業の内容や進め方を理解し、教師と同じイメージをもって学習に取り組むことができるようになれば、生徒が見通しをもった「わかる」「できる」「いきる」授業となり、それぞれの学びの場における授業改善を深めることができるであろう。

今年度研究の成果と課題でまとめたように、各自の実践や研究授業を通して教師がその基礎・基本を踏まえた授業の在り方や組み立て方について具体的に共通理解を図ることはできたが、「学習の手引き」を生徒に示すまで至らなかったため、生徒も「わかる」「できる」「いきる」を意識した実践には取り組むことができなかったため、研究仮説については次年度の研究に継続し、そのまとめにおいて検証する。

3 「授業デザインガイドブック」と「学習の手引き」 及び関連資料の最終提案

別添の資料をご覧ください。

校内研究6アンケートにより、加除修正についてご意見をいただきます。

新年度の職員会議で確認し、活用していきます。

【資料】

- ① 「授業デザインガイドブック 本編」(資料3)
- ② 「学習の手引き」(資料4)
- ③ 「学習の手引き説明資料」(資料5)
- ④ 学習のルールとマナーチェックリスト(資料6)

5

令和5年度 校内研究の概要

1 令和5年度 校内研究の概要

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

3年次副題(案)：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用

2 取組内容

今年度の研究の成果と課題を受け、また、3か年の研究のまとめとして次の内容に取り組みます。

- (1) 「わかる、できる、いきる」視点による授業の日常実践における有効性の確認
 - ア 「授業デザインガイドブック」から、改めて日常における学習指導の共通理解を図る。
 - イ 「学習の手引き」の生徒への説明と活用
 - ウ 前期終了時点での生徒へのアンケート調査
 - エ 年度初め、前期終了時点に先生方へのアンケートを実施し、生徒へのアンケートと比較
- (2) (1)を基に「わかる、できる、いきる」視点の修正
- (3) (2)を基にした公開研究会における研究授業
- (4) 「わかる…いきる」視点による各教科等の単元・題材指導計画の作成

2 令和5年度 公開研究会

1 研究テーマ

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

3年次副題(案)：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用

2 実施予定日 令和5年 11月17日(金) ※講師の予定により前後に調整

3 内容

(1)研究授業

ア 予定教科、学科

- ①教科等 体育科
- ②普通科 総合的な探究の時間
- ③職業学科 作業学習(食品デザイン科)

イ 研究授業の内容

「わかる、できる、いきる」視点による授業実践

(2)講演

6

今後の取組

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

「生徒自身の学び」となっているか、を意識して授業を進めていきましょう。

- ・教師の話だけを聞いているだけでは？
- ・生徒が考えたい、感じたいしているか？
- ・知的障害への配慮
- ・学習の内容、方法が実態に合っているか？

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- 「学習目標」の提示
- 「学習予定」の提示
- 「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- 「自己評価」の実施

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

☆各教科等の特質や、単元の内容や期間によって、上記の設定や指導が難しい場合もあると思いますが、基本的には指導に含めることとします。

※特に「学習目標」は板書やプリントなど、授業時間中に意識できる状態にして提示することが望ましいですが、口頭などでもよろしいので、提示するようにしましょう。

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

☆文言については、「学習のねらい」などの類似した表現は、生徒の混乱をさけるために用いないで、上記の表記をお願いします。

「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業実践について～当面の取り組み～

☆「基本的な指導事項」とした次の4つについては、どの授業でも、基本的に指導に含めてください。

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得
- ・「自己評価」の実施

新年度はじめに、生徒に「学習の手引き」を使って「わかる、できる、いきる」の学習の取り組み方を説明しますが、先生方には、今年度の残りの授業も引き続き取り組んでいただければと思います。よろしくお願いします。

令和4年度 校内研究

校内研究会研究授業

学習指導案

資料

生産技術科 学習指導案

日 時	令和4年12月5日(月) 1～3校時
	(※研究授業は1校時)
場 所	生産技術科実習室②
学 科	生産技術科
学 年	2学年
指 導 者	教諭 能代 岳 (MT)
	教諭 田中 のぞみ (ST1)
	指導実習助手 旦尾 幸康 (ST2)

1 単元名(題材名) 「コーヒー豆加工」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本クラスは、男子6名、女子2名の計8名で構成されている。8名とも主たる障害は知的障がいであり、多くの生徒が自閉スペクトラム症を併せ有する。実態は様々であるが、学習面では、日本漢字能力検定6級程度の漢字は読むことができ、四則計算については、概ねの生徒が小学校中学年から高学年程度の内容を理解している。コミュニケーション面においては、穏やかで落ち着いてはいるが、共通の趣味をもつ者同士で休み時間は賑やかに過ごすことがある。欠席の多い生徒に対しては、思いやりをもつことができ、登校した際にはHRの生徒間でコミュニケーションを図ろうとすることができる。

作業学習においては、コーヒー豆加工と木材加工の作業学習自体には、大変意欲をもっている。自己の将来に興味や関心をもって、行事や他の学習と関連させながら学習に取り組むことができる。反面、取組に自信がもてなかったり、過信しすぎたりすることもある。

本単元前の8月から、徐々に当日の作業内容を自分たちで決めるように促した。当初は教師が会話の内容を整理していたが、徐々に自分たちで考えたり、生徒同士で相談したりするようになった。生徒が主体的に時間と判断材料となる受注数や納期、在庫などを確認することで、状況を判断して学習に取り組むことができるようになった。

(2) 単元(題材)観

ア「体験的な学習・生活に結びついた学習について」

本単元では、学校祭でのグアテマラ産のコーヒー豆製品を製造・販売したことを受けて、事前に今月のカフェ担当である3学年に販売内容と量を確認し、現在の受注数と在庫及び今後の納期などを考えて製造する。

この学習を通して、生徒が主体的に自立して作業学習を進める力を養いたいと考えている。生徒が発注書や受注数、納期、在庫などを把握して、主体的・対話的に本時の取組について考え、活動内容がわかり、自ら役割分担などができるよう教材や教具の工夫をする。

普段の学習に加えて10月の現場実習や11月の学校祭でそれぞれが体験したであろう将来の社会的・職業的自立に向けた経験を本単元に繋げられるように指導に当たる。

イ「教育課程における教科等横断的な視点等について」

本単元における全体計画、重点を置く教育活動、行事教科等との関連や連携については、以下のように考える。

キャリア教育全体計画より、生徒一人一人の社会的・職業的自立に向け、自己の将来とのつながりをもちながら、コミュニケーション能力の涵養を図りつつ、自己や他者の理解、役割理解を意識して指導に当たる。

また、学ぶこと・働くことの意義や将来設計、自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択できる力が育成されるように教育活動を進める。

道徳教育全体計画より、本単元では、「A 主として自分自身に関すること」から「3 向上心、個性の伸長」、「B 主として人との関わりに関すること」から「9 相互理解、寛容」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」から「12 社会参画、公共の精神」「13 勤労」に重点を置いて指導に当たる。これらは生徒の将来の社会的・職業的自立に向けて、必要な要素になるコミュニケーションの部分や卒業後の生活、勤労を通しての社会貢献などについて関わる部分となる。

重点を置く教育活動から、主権者教育における資料や対話的な活動から情報をまとめることや、学習や体験したことを将来の社会的・職業的自立に向けて結び付け、見方・考え方を図って互いに合意形成を図る力を涵養できるように指導に当たる。

行事、教科との連携については、現場実習を通してより働くことと、将来の社会的・職業的自立について考えたことを生かす場としたい。学校祭では、販売に向けて異学年との学習活動を通して学んだ協働して取り組むことで、合意形成や言語活動を含めたコミュニケーションの伸長を図る場となれば良いと考える。

Hako cafe clover での学習を通してドリンク提供だけでなく、接客やレジでの会計などカフェ運営に必要な業務であることを理解して行動できるように指導に当たる。その他、特別活動のHR活動や日常生活の指導を通して集団生活、ADLの向上を意識した学習展開、社会科における将来の社会生活に向けたきまりや義務と各産業の学習などを連携して学習指導に当たること、将来の社会的・職業的自立にむけた意欲喚起につながると良いと考える。

(3) 指導観（指導の工夫）

「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

ア「わかる」の視点による授業改善

学習内容やそれらとのつながりがわかり、見通しと意欲がもてるように、主体的に状況や受注数や納期、在庫などを理解・把握・共有できるようにする必要がある。作業中に次の展開ないし今後、必要な作業について「わかる」ため、生徒が判断しやすいように情報をまとめ視覚化して整理する。

イ「できる」の視点による授業改善

主体的・対話的・深い学びのもとに、生徒が主体的に作業内容について話し合い、協議・検討することと、それらを理解して作業学習に取り組むことを大切にしたい。コーヒー豆加工だけでなく、行事やカフェ、これまで学んだ学習から、将来の社会的・職業的自立に必要なスキルを活用「できる」ように、振り返り、見方・考え方を促す言葉掛け、具体的な成果を確認できるようにする。

ウ「いきる」の視点による授業改善

学んだことを次の学習や生活、卒業後の生活に生かすために、生徒の自己目標や学習目標について、提示の仕方と自己評価と他者評価を大切にしたい。取組の意味付けと価値付け、何のためにコーヒー豆加工作業に取り組んでいるのか、それらと学習や将来の社会的・職業的自立に向けた力が「いきる」ようにするため、関連する行事のほか教育活動全体を通して客観的な視点をもって、理解したり考えたりすることができるように授業改善に取り組む。卒業後の生活に何がどのように生きるのかの視点ももてるようにする。

(4) 評価観

「何が身についたか」

ア 生徒がより主体的に取り組む力の育成を大切にするために、業務内容や生徒の言語活動の整理をする。教師は極力少ない支援に徹し、以下の視点で生徒の評価をする。

イ 生徒自身が考え、仲間と状況を判断することができたか。合意形成を図る過程に各々が無理なく取り組み、次の学習に生かそうとすることができたか。

ウ 個々の生徒が自ら受注数や納期、在庫を知り、共有することができたか。互いに状況を把握し、次の学習展開について、自ら理解し行動するために様々な方法を模索することができたか。

エ これまでの作業学習での経験を生かし、挨拶や礼儀などの将来の社会的・職業的自立に必要な基礎的・基本的な行動ができたか。

オ 安全に正確に道具や機械の操作をしてコーヒー豆加工作業に取り組むことができたか。

3 単元（題材）の目標 ※「学習指導要領の内容との対応」欄については、別紙資料より関連させて記入した。

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	専-農(1)ア① 専-農(1)イ① 専-農(1)ウ① 専-農(2)カ① 専-農(4)ア① 専-農(4)イ① 専-工(1)ア① 専-工(1)イ① 専-工(1)ウ① 専-流(1)ア① 専-流(1)イ① 専-流(1)ウ① 専-流(2)ア① 専-流(2)イ① 専-流(3)ア① 専-流(3)イ①	①コーヒー豆加工の作業に取り組みながら、機械の安全性と正確な操作に気を付け、学習を通して必要な知識・技能を身に付けることができる。 ②各工程及び、将来の社会的・職業的自立に向けた基礎的・基本的な知識及び技能を理解して作業学習に取り組むことができる。	・安全に気を付けて機械の操作をしている。 ・落ち着いて取り組んでいる。 (行動観察・グループでの話し合い・自己評価と他者評価の状況及び作業日誌の記入) ※評価方法は他の柱も同様に色々な視点をもって評価する。
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	専-農(1)ア② 専-農(1)イ② 専-農(1)ウ② 専-農(2)カ② 専-農(4)ア② 専-農(4)イ② 専-工(1)ア② 専-工(1)イ② 専-工(1)ウ② 専-流(1)ア② 専-流(1)イ② 専-流(1)ウ②	①時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、仲間と課題解決することで、必要な思考力や判断力、表現力等を身に付けることができる。 ②コーヒー豆加工を通して身に付けた知識及び技能活用し、見方・考え方を働かせて作業学習に取り組むことができる。 ③教育活動全体を通して、知識及び技能を作業内容についての話し合いなどの課題を解決する	・状況把握しようと、受注数や納期、在庫などを確認しようとすることができ、それらについて考えて意見を他者に伝えることができている。 ・発注書や納品数を確認し、考え判断し、仲間と協議・検討することができる。

		専-流(2)ア② 専-流(2)イ② 専-流(3)ア② 専-流(3)イ②	ために必要な思考力、判断力、表現力等の実践的な態度を身に付けることができる。	ている。
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	専-農(1)ア③ 専-農(1)イ③ 専-農(1)ウ③ 専-農(2)カ③ 専-農(4)ア③ 専-農(4)イ③ 専-工(1)ア③ 専-工(1)イ③ 専-工(1)ウ③ 専-流(1)ア③ 専-流(1)イ③ 専-流(1)ウ③ 専-流(2)ア③ 専-流(2)イ③ 専-流(3)ア③ 専-流(3)イ③	①コーヒー豆加工作業と現場実習やカフェでの活動を関連させながら、将来の社会的・職業的自立に向け、意欲をもって作業学習に取り組むことができる。	・自らや仲間、教師などと、言語活動や学校祭などの行事やカフェなどのことについて、進級後も含めた自己の将来について、考えて作業学習に取り組むことができる。

4 指導計画（全14時間扱い）本時 5/14

月 日	時数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
11/30(水)	6	<ul style="list-style-type: none"> 学校祭明けで、現在の受注数や納期、在庫などを知る。【わかる】 それに向けてどうするかを共有する【できる】 3学年にカフェの販売量について確認することができる。それらを学年で共有する。今後の活動について共通理解を図る。【いきる】 	
12/2(金)	3	<ul style="list-style-type: none"> 前回から、現在の在庫と受注数や納期及び今後の作業学習やカフェの日程を再確認する。【わかる】 本時の取組について話し合い、実践する。【できる】 次回以降の作業学習についてある程度、話し合いができる。【いきる】 	
12/5(月) 本時（1/3）	3	<ul style="list-style-type: none"> 前回から、現在の在庫と受注数や納期及び今後の作業学習やカフェの日程を再確認する。【わかる】 本時の取組について話し合い、実践する。【できる】 次回以降の作業学習についてある程度、話し合いができる。【いきる】 	
12/7(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 前回から、現在の在庫と受注数や納期及び今後の作業学習やカフェの日程を再確認する。【わかる】 本時の取組について話し合い、実践する。【できる】 次回以降の作業学習についてある程度、話し合いができる。【いきる】 来週の見学旅行前に生産技術科2年としての作業計画について話し合う。【わかる】 	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
K.K.	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて何をすべきかを自分で考えることができる。 ・話し方はゆっくりだが、自分の考えを伝えることができる。 ・話し合いでは、リーダーシップを取ろうとすることができる。 ・他グループの取組状況や時刻などを確認して、適切な作業種を判断することができる。 ・作業自体は丁寧で意欲も高い。 ・大きい音には配慮が必要である。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら自分の技能を高め、時間や周囲の状況を予測しながら自分の役割を果たすことができる。
		思・判・表	・主体的に時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、仲間と課題解決することができる。
		主体的	・自分の役割に責任をもって作業全般に取り組むことができる。
K.R.	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、何をすべきかを自分で考えることはできるが、まとまらないことがある。 ・他者からどう思われるか、間違っただけを言っていないか不安になりやすい。 ・話し合いでは、考えがまとまらなかったり、発言することに緊張したりすることがある。 ・時刻を確認しながら、量や個数を予測しながら作業に取り組むことができる。 ・作業自体は丁寧で意欲も高く、責任感がとても強い。 ・挨拶や返事は適切な声量ではっきりしている。 	知・技	・自分の役割を果たしながら、機械の安全性と正確な操作に気を付け、時間や周囲の状況を考えて取り組むことができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を仲間と確認して取り組むことができる。
		主体的	・自分から必要と感じた仕事に進んで取り組むことができる。
S.M.	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて何をすべきかを自分で考え、仲間に伝えることができる。 ・話し合いでは、状況を冷静に判断し、考えもまとまっているが、自ら発言することは控えようとする。 ・周囲の状況を見て、他グループの手伝いに行くことができる。 ・作業自体は丁寧で意欲も高い。 ・挨拶や返事は小さな声量だが、伝え方は丁寧で親切である。 ・大きい音には配慮が必要である。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、受注数や納期、在庫などを意識したり、友達と確認したりしながら取り組むことができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、仲間と課題解決したり、自分からより良い方法を提案したりすることができる。
		主体的	・自分から必要と感じた仕事に主体的に取り組むことができる。
T.S.	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて何をすべきかを自分で考えることができる。 ・自分から在庫状況の確認をすることができる。 ・作業自体は丁寧で意欲も高い。 ・声量は非常に小さいが、自分から報告することができる。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、自分の役割と周囲の取組の状況を理解して取り組むことができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、仲間と課題解決したり、より良い取組や安全確認などについて提案したり、自分で判断して取り組むことができる。
		主体的	・主体的に仲間や教師に相談したり、協力したりすることができる。

H.Y.	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて何をすべきかを自分で考えることができるが、自ら伝えることが少ない。 ・話し合いへの参加は少ない。 ・受注数や納期、在庫を冷静に考えることができる。 ・作業自体は丁寧で意欲も高い。 ・声量は適切だが、言葉遣いについては学習中である。 ・写真やビデオ、人前に行くことを好まず、結果的に不適切な言動がある。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、自分の役割を果たすことができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握したり、仲間や教師と課題解決しようとしたりすることができる。
		主体的	・主体的に作業学習全般に取り組むことができる。
H.N. 【抽出】	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて何をすべきかを自分で考えることができる。 ・話し方はゆっくりだが、自分の考えを伝えることができる。 ・話し合いでは、自分の考えをまとめて発言することができる。 ・他グループの取組状況や時刻などを確認して、適切な作業種を判断することができる。 ・作業自体への意欲が高い。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、自分の役割を果たしたり、周囲の状況を理解したりしながら取り組むことができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を主体的に作把握して、仲間と課題解決したり、より良い方法を考えて提案したりすることができる。
		主体的	・自分で必要と感じた仕事に進んで取り組んだり、仲間や教師と確認したりすることができる。
H.K. 【抽出】	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて自分で考え、仲間に伝えることができる。仲間をまとめようとするすることができる。 ・話し合いでは、リーダーシップを取ろうとすることができる。 ・状況に応じた判断には、仲間や教師との確認が必要である。 ・声量はやや小さいが、自分で考えたことを仲間に伝えることができる。 ・作業自体はゆっくりだが、丁寧で意欲も高い。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、自分の役割を果たしたり、周囲の状況を理解したりしながら取り組むことができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、仲間と課題解決したり、状況を確認したりしながら取り組むことができる。
		主体的	・自分から必要と感じた仕事に進んで取り組むことができる。
Y.S.	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて、時間をかけて自分で考えることができる。 ・声量は小さいが、時間をかけながら報告することができる。 ・作業自体はゆっくりだが、丁寧で意欲も高い。 	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、自分の技能を高めたり、役割を果たしたりすることができる。
		思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握したり、仲間と課題解決したりするために、状況を確認しながら取り組むことができる。
		主体的	・自分の役割に責任をもって果たそうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	①コーヒー豆加工における基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、正確かつ安全に作業学習に取り組むことができる。 ②将来の社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができる。	・安全に気を付けて機械の操作をしている。落ち着いて取り組んでいる。
思考力、判断力、表現力等	①受注数や納期、在庫、自他の取組状況を考えて、主体的に思考・判断・表現して作業学習に取り組むことができる。 ②本単元やこれまでの学習や行事を中心にして、知識及び技能を活用して、作業内容についての話し合いなどの課題を解決するために必	・状況把握しようと、受注数や納期、在庫などを確認しようとすることができ、それらつい

	<p>要な思考力、判断力、表現力等の実践的な態度を身に付けることができる。</p>	<p>て考えて意見を他者に伝えることができる。</p>
<p>学びに向かう力、 人間性等</p>	<p>本単元や現場実習、カフェ、学校祭などの教育活動全体を通して卒業後の自立について意識しながら作業学習に取り組むことができる。</p> <p>評価方法はすべての柱で、「行動観察・グループでの話し合い・自己評価と他者評価の状況及び作業日誌の記入」をもって評価する。</p>	<p>・自らや仲間、教師などと、言語活動や学校祭などの行事やカフェなどのことについて、進級後も含めた自己の将来について、考えて作業学習に取り組むことができる。</p>

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本時の個別目標		個別の手立て
K.K.	知・技	・機械の安全性と、正確な操作に気を付けて作業に取り組み、時間や周囲の状況を予測しながら自分の役割を果たすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、学科や作業内容の目標を確認する。 ・必要な情報を整理できるように言葉掛ける。 ・受注数や納期、在庫などを分かりやすく視覚化することで、本人が判断しやすいようにする。
	思・判・表	・仲間と時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、課題解決することができる。	
	主体的	・自分の役割に責任をもって作業全般に取り組むことができる。	
K.R.	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付け、時間や周囲の状況を考えて作業に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、時間や状況を本人と確認する。 ・意図的に他者と関わる場面設定をすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。
	思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を仲間と判断したり、自分から表現したりして取り組むことができる。	
	主体的	・自分から必要と感じた仕事に進んで取り組んだり、言葉にしたりすることができる。	
S.M.	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、受注数や納期、在庫などを友達と確認しながら取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・受注数や納期、在庫などを分かりやすく視覚化することで、本人が判断しやすいようにする。 ・協議・検討したり、提案や相談したりすることで、意図的に設定することで、コミュニケーション能力の向上を図る。
	思・判・表	・仲間と課題解決にむけて自分からより良い方法を提案することができる。	
	主体的	・自分から必要と感じた仕事に主体的に取り組むことができる。	
T.S.	知・技	・自分の役割と周囲の取組の状況を理解して取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・提案や自分で判断して取り組みやすいように、状況に応じて個別で言葉掛ける。 ・意図的に他者と関わる場面設定をすることで、コミュニケーション能力の向上を図る。 ・必要な情報を整理できるように言葉掛ける。
	思・判・表	・時間や自他の取組状況、受注数や納期、在庫を把握して、仲間や教師と課題解決や提案をすることができる。	
	主体的	・主体的に仲間や教師に相談したり、協力したりすることができる。	
H.Y.	知・技	・本時の学習内容を理解して、自分の役割を果たすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・報告や提案がしやすいように、状況に応じて個別で言葉掛ける。 ・本人の気付きに応じて、情報を視覚化して理解しやすいようにする。
	思・判・表	・時間や自他の取組状況、などを仲間や教師と確認して課題解決しようとするすることができる。	
	主体的	・主体的に作業学習全般に取り組むことができる。	
H.N.	知・技	・機械の安全性と、正確な操作に気を付けて作業に取り組み、時間や周囲の状況を予測しながら自分の役割を果たすことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・判断しやすいように、前後の状況を言葉掛けしたり、視覚化したりする。 ・受注数や納期、在庫などを分かりやすく視覚化することで、本人が判断しやすいようにする。
	思・判・表	・受注数や納期、在庫などを把握して、仲間と課題解決したり、より良い方法を考えて自分から提案したりすることができる。	
	主体的	・自分で必要と感じた仕事に進んで取り組んだり、仲間や教師と確認したりすることができる。	
H.K.	知・技	・自分の役割を理解して主体的に取り組んだり、周囲の状況を理解したりしながら取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な情報を整理できるように言葉掛ける。 ・本人の状況次第では、個別に言葉掛けをして、内容を理解して作業学習に取り組めるようにする。
	思・判・表	・状況を確認して、仲間や教師と課題解決に向けた方法を考えたり、表現したりすることができる。	
	主体的	・自分から必要と感じた仕事に進んで取り組むことができる。	

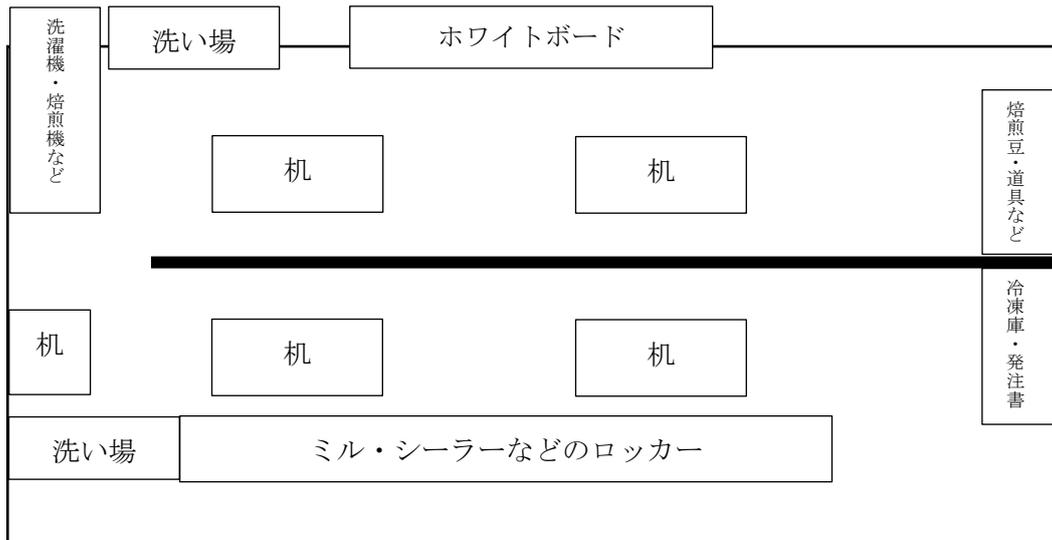
Y.S.	知・技	・機械の安全性と正確な操作に気を付けながら、自分の役割を果たすことができる。	・適宜、本人の負担にならないように言葉掛けして、状況を確認する。
	思・判 ・表	・仲間と課題解決したりするために、状況を確認しながら取り組むことができる。	
	主体的	・自分の役割に責任をもって果たそうとすることができる。	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動		教師の働きかけ		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
		●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点	MT	ST	
導入 (10分)	1 号令	●当日の日直が挨拶する。	【本時の目標】 <input type="checkbox"/> 安全に正確に作業に取り組むことができる。(通年) <input type="checkbox"/> 自分たちで今日の作業内容について、確認共有して決めることができる。(本時)			<ul style="list-style-type: none"> ・足裏消毒用雑巾 ・消毒用付近 ・消毒用アルコール ・作業日誌 ・ホワイトボード
	2 前時の振り返り 本時の説明	●作業前ミーティング ①朝礼②日常の五心 ③本日の作業内容や手順の確認 ④安全ミーティング (体調のチェック・服装の確認・危険予知活動) ⑤本日の目標の確認 ⑥担当教員から ●前時の学習内容を思い出す。【わかる】 ●振り返りシート、在庫確認表、カレンダーをその場で見る。【わかる】【いきる】		○カレンダーや在庫管理表、発注書などを見るように言葉掛けする。 ○現場実習、学校祭のことに触れる。 ○本時の目標について生徒に言葉掛けをして確認する。 ■確認しているかどうか	△生徒に応じて注目できるように言葉掛けする。	
展開 (100分)	3 作業内容の確認・決定と、役割分担 (○15分)	●ホワイトボードの前に集まり、話し合い活動を経て、本時の作業内容を決定する。 ●各自、ミニホワイトボードで今後の受注数や納期、在庫(生豆、焙煎豆、製品、ラベルシールなど)を書き込む。【わかる】 ●各自で作業内容について考え、協議、検討、決定する。【わかる】	○△どのように行動に移せばよいか、迷っている生徒に空いている業務内容を伝えたり、周りの仲間に言葉掛けしたりする。 ○△発言の少ない生徒が発言できるように、言葉掛けする。 ○△話し合いの内容次第では、整理する。	△どう行動に移せばよいか、迷っている生徒に空いている業務内容を伝えたり、周りの仲間に言葉掛けしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニホワイトボード ・発注書 ・在庫管理表 ・ビニール手袋 ・マスク ・バット ・ボウル ・ざる ・蛇腹の紙 ・ピンセット ・紙の箱 ・デジタルスケール ・生豆、焙煎前 ・焙煎機 ・保管用の缶 ・じょうご 	
			【評価の場面】 ■話し合いの内容が、実際と合っているか。 ■発言機会をそれぞれもてたか。 ■受注数や納期、在庫を考えているか。			
		【想定される話し合いの結果】 ① 2ループ程度の分担(製品化担当・選別担当) ② 受注数や在庫、日程などの関係で一つの作業に全員で取り組んだ後に分担(製品化担当・選別担当) ③ 兼務しつつの3～5グループでの分担(ミルがけによる焙煎豆の粉碎担当・ラベルシール貼りとシーラーによる密封担当・生豆選別担当・焙煎豆選別担当)				

	4 作業開始 (85分)	<ul style="list-style-type: none"> ●学習活動に取り組む【できる】 ●適宜、時刻や他のグループの様子を確認する【わかる】 ●状況次第で、フォローすることができる。【できる】【いきる】 ●状況判断に迷ったら、仲間や教師に相談することができる。【できる】【いきる】 ●生徒の判断なし、教師の言葉掛けで片付けを行う。(11:00頃を予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○△安全に配慮できるように適宜確認する。 ○△手順書の確認ができているか言葉掛けす 	<ul style="list-style-type: none"> △安全に配慮できるように適宜確認する。 △手順書の確認がで 	<ul style="list-style-type: none"> ・袋 ・電動ミル ・シーラー ・ピン
まとめ (20) 分	5 本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習内容を思い出す。【わかる】 ・作業日誌に記入する。 ●作業後ミーティング【いきる】 ①本日の作業の振り返り、出来高の確認 ②作業日誌への記入、自己評価(→記入済みのため、実際はカットしている) ③成果交流(→各生徒が本時について日誌の内容を発表する。) ④担当教員から 	<ul style="list-style-type: none"> △日誌に評価を書き込む。 ○本時の評価をする。 	<ul style="list-style-type: none"> △日誌に評価を書き込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品化したコーヒー
	6 号令	<ul style="list-style-type: none"> ●日直が挨拶する。 ●挨拶して退室する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶する。 	

(4) 配置図（生徒の配置は話し合い後に決定するため、物品の配置のみを記載する。）



(5) 本時の評価

知識及び技能	<p>①コーヒー豆加工における基礎的・基本的な知識及び技能を活用して、正確かつ安全に作業学習に取り組むことができたか。</p> <p>②将来の社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けることができたか。</p>
思考力、判断力、表現力等	<p>①受注数や納期、在庫、自他の取組状況を考えて、主体的に思考・判断・表現して作業学習に取り組むことができたか。</p> <p>②本単元やこれまでの学習や行事を中心にして、知識及び技能を活用して、作業内容についての話し合いなどの課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等の実践的な態度を身に付けることができたか。</p>
学びに向かう力、人間性等	<p>現場実習やカフェ、学校祭を通して卒業後の自立について意識しながら作業学習に取り組むことができたか。</p>

総合的な探究の時間 学 習 指 導 案

日 時	令和4年12月5日(月) 2校時
場 所	3F 職業実習室
学 科	普通科
学 年	3学年
指 導 者	教諭 大町 利矢子 (MT) 教諭 今村 直樹 (ST)

1 単元名(題材名) 「地域の魅力を発信」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本学級の生徒は、知的障がいと発達障害を併せ有している。何事にも一生懸命取り組み、授業に対する姿勢も積極的な生徒が多い。

総合的な探究の時間においては、すでに1年生のときから、地域を題材とした学習に取り組み、ICT機器を活用して、情報を収集し、プレゼンテーション用ソフトなどにまとめる作業を行ってきた。

また、2年生からは、学校と地域のつながりの場であるカフェで、実際に地域の人と接し、その過程で生じる課題に、仲間と協力して取り組む経験を積んできた。これらの学習から、地域への愛着とともに探究活動に対する意欲及び技能についても一定のレベルまで身に付いていると思われる。

しかし、さらにレベルの高いものを作りあげていこうとする意欲・技能については課題がある。その要因として、課題解決の進め方や学び方を十分に身に付けていないことが考えられる。

(2) 単元(題材)観

ア 体験的な学習・生活に結びついた学習について

本単元は、歴史や文化を素材とした学習である。生徒たちにとって、慣れ親しんだ地域を対象とした学習であり、関心をもって取り組むことが期待される題材である。課題発見や課題を解決する学習を通して、生徒自身が地域の魅力を再発見し、その魅力を地域の人に発信することが、地域を維持、発展させることにつながるという思いをもてれば、地域の将来を担う生徒たちにとって、意義のある学習であると言える。

学習活動は、開港によってもたらされた函館の文明開化について、日本初、北海道初で、函館に伝わった「もの、こと」の中から、現在の自分たちの生活につながる、興味深い「もの、こと」をグループで選択する方法で、課題(テーマ)設定を行う。

「箱館開港による文明開化で、人々の暮らしはどのように変わったか?」という視点で課題(テーマ)に沿った情報収集を行い、生徒自身による収集が難しい場合には、教師側が資料を提示する。また、ゲストティーチャーから直接、話を聞く活動を有効に取り入れることで、学びを深められるようにする。

収集した情報は、整理・分析して、音声付きスライドとしてまとめる。中間発表の場を設け、グループ間で、互いの良い点や改善点を出し合い、スライドの完成を目指せるように計画する。

各学習場面で、教師の援助が必要になると思われるが、スライドを完成させる学習を通して、探究学習における課題解決のための方法や手順を身に付け、今後の調べ学習に生かせるようになることを期待される。

イ 教育課程における教科等横断的な視点等について

地域の歴史や文化を題材とすることで、地域の一員としての自覚をもてるようにする。

また、課題解決に向けて、自分の考えを伝えたり、他者の異なる意見を尊重したりして、仲間と協働して取り組む力を育てる。

さらに、社会科の単元「我が国の国土の様子と国民生活、歴史」「外国の様子」と関連づけながら、ICTを活用して、地域の魅力を分かりやすく伝える技能を身に付けられるようにする。

(3) 指導観（指導の工夫）

「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

ア 「わかる」の視点による授業改善

①学習の目的や流れを知る。

ガイダンスを行い、函館市は観光としての魅力度は高いが、地域住民の幸福度は低いというデータとともに、昨年の探究学習で取り組んだ函館の人口減少問題について振り返る。

そして、今回、「地域の人でもこれまで知らなかった函館の魅力を知ることができたら、もっと、函館のよさを実感し、そのことが、地域の維持・発展につながるのではないか。」という視点を設け、そのための発信手段として音声ガイド付きスライドを作成することを示す。

合わせて、完成までの学習の流れを理解できるようにする。

②歴史を知る。

1859年、函館が横浜、長崎とともに開港したことで、日本や北海道の中でいち早く、文明開化が函館にもたらされた歴史を伝え、その歴史が函館のまちの魅力につながっていることを理解できるようにする。

③試作品の提示

どのようなスライドを作成すべきか、見通しがもてるように、教師が予め、試作品を提示する。

その上で、本単元における「ねらい」と「身に付けたい力」を確認する。

ねらい：地域の魅力を伝える学習を通して、自ら課題を発見し、解決を図るための「学び方」を学び、探究的な学習につながる力を高める。

身に付けたい力：・集めた情報から、課題に沿った情報を取り出し、整理して、分かりやすく伝える力

・自分と地域社会とのつながりについて考え、主体的に行動する力

・課題解決に向けて他者と積極的に関わったり、仲間と協働して取り組んだりする力

イ 「できる」の視点による授業改善

情報収集の学習では、まず、インターネットや教師が提示した資料を用いて、自分で調べ、情報を集める。その上で、ゲストティーチャーによる話を聞く場面を設定し、メモを取ったり、必要なことを質問したりして、課題解決に向けて積極的に関わることで、学びを深められるようにする。

まとめ・表現の学習では、スライド作成のポイントを確認しながら作業を進め、中間発表の場面を設定して、グループ間で、互いの良い点や改善点を出し合い、より良いスライドの完成を目指せるようにする。

ウ 「いきる」の視点による授業改善

スライドの完成という目標に向かって、課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という学習段階を踏むことで、探究学習の基本や学び方を学び、次の探究学習へとつなげられるようにする。

(4) 評価観

「何が身についたか」

本単元は、開港によってもたらされた函館の文明開化の魅力を地域の人に伝える学習を通して、課題に応じた情報収集の仕方や整理・分析、まとめ・表現する力とともに、地域社会と自分とのつながりについて考えようとする資質や能力を身に付けられるようにする。

また、自分の考えを伝えたり、他者の異なる意見を受け止めたりしながら、課題解決に向けて、仲間と協力して取り組んだり、ゲストティーチャー※1から話を聞く機会を有効に活用するなど、相手や目的に応じたコミュニケーション能力を身に付けられるようにする。

その具体的な評価場面・方法としては、情報収集の学習では、①「箱館開港による文明開化で、人々の暮らしはどのように変わったか？」という視点で、情報を集められているか【思】、②ゲストティーチャーによる話を集中して聞き、必要なことをメモを取ったり、質問したりして課題解決に向けて、積極的に関わりをもっているか【思】、ワークシート、観察を基に評価する。

整理・分析の学習では、収集した情報を関連づけながら、伝えたい必要な情報について整理・分析しているか【思】、ワークシートを基に評価する。

まとめ・表現の学習では、①スライド作成のポイントを理解し【知】、②地域の人に分かりやすく伝えたり、興味をもってもらったりするための工夫を行っているか【思】、③自分の考えを伝えたり、仲間の意見を尊重したりして、グループで協働して取り組んでいるか【学】、制作スライド、観察を基に評価する。

特に中間発表の場面では、①グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表しているか【知】、②相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、良い点や改善点を判断して、表現しているか【思】、③相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していこうとしているか【学】、制作スライド、相互評価シート、観察を基に評価する。

さらに、最終発表の場面では、①地域の人が分かりやすく、興味深いと思えるスライドを完成させているか【思】、今回の探究学習で学んだことを次の学習へとつなげていこうとしているか【学】、制作スライド、観察を基に評価する。

※1 函館市役所教育委員会生涯学習部文化財課主査野村祐一氏をゲストティーチャーとして10月25日の授業にお招きしました。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準（評価方法）
知識及び技能	探究協働	「学部・教科・段階・記号」の順 高総（6）ア	地域の歴史や文化を学び、その魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を身に付けることができる。	地域の魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を身に付けている。（ワークシート、観察）
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高総（6）イ	地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択して、情報を収集、整理・分析して、まとめ、分かりやすく伝えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択している。 課題の解決に向けて、情報を収集、整理・分析してまとめ、分かりやすく伝えている。（ワークシート、制作スライド、観察）
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高総（6）ウ	地域の課題解決に向けて、他者と積極的に関わったり、仲間と協働して取り組んだりしながら、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとすることができる。	課題の解決に向けて、他者と積極的に関わったり、仲間と協働して取り組んだりしながら、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとしている。（観察）

4 指導計画（全 29 時間扱い） 本時 12/5

月 日	時 数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
10/11(火) 1, 2 校時	2	<p>ガイダンス</p> <p>○学習活動の目的と流れを知る。【わかる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光としての魅力度は全国1位、2位だが、市民が感じる幸福度は低いことを知る。 <p>視点：地域の人もこれまで知らなかった函館の魅力を知ることができたら、もっと、函館のよさを実感できるのではないだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に函館の魅力を伝える音声ガイド付きスライドを作ろう。 ・観光客が感じる函館の魅力について確認する。 <p>○歴史を知る。【わかる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1859年、函館が横浜、長崎とともに開港したことで、文明開化が日本や北海道の中でいち早く、函館にもたらされた歴史を知り、そのことが函館のまちの魅力につながっていることを理解する。 <p>○試作品の提示【わかる】</p> <p>学習を通しての「ねらい」や「身に付けたい力」などを 知り、学習に見通しをもつ。【わかる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市区町村魅力度ランキング2021（資料：ブランド総合研究所が実施した「地域ブランド調査」） ・中核市幸福度ランキング2020年（資料：東洋経済新報社） ・函館市観光動向調査2019年度（資料） ・教師が制作したスライド
10/11(火) 3 校時	1	<p>課題の設定</p> <p>○日本初、北海道初で、函館に伝わった「もの、こと」の中から、現在の自分たちの生活とつながる、興味深い「もの、こと」をグループで選択する方法で、課題設定を行う。【できる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北の文明開化—函館事始め百話 若山徳次郎監修 早坂秀男 井上能孝 著
10/12(水) 5 校時 10/19(水) 5 校時 10/25(火) 1, 2, 3 校時	5	<p>情報の収集</p> <p>○箱館開港による文明開化で、人々の暮らしはどのように変わったかという視点で、課題に沿った情報を集める。【できる】</p> <p>○ゲストティーチャーから、函館の文明開化についての話を聞き、必要なことを質問する。【できる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・函館市「出前講座」
10/25(火) 4 校時 10/26(水) 5 校時	2	<p>情報の整理・分析</p> <p>○調べたことをまとめ、音声ガイド付きスライドを作成するために、伝えたい必要な情報を取り出す。【できる】</p>	
11/2(水) 5 校時 11/4(金) 3, 4 校時 11/8(火)	19	<p>まとめ・表現</p> <p>○スライド作成のポイントを理解する。【わかる】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド作成

<p>2, 3 校時 11/15(火) 2, 3 校時 11/18(金) 3, 4 校時 11/29(火) 2, 3 校時 11/30(水) 5 校時</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・見やすいスライドを作成する。 ・音声ガイドの原稿を作成する。 ・分かりやすい話し方を考える。 ・スライドと音声の調整を行う。 <p>○スライド作成のポイントに従いながら、分かりやすく、興味深いスライドとなるように工夫を行う。【できる】</p> <p>○自分の考えを伝えたり、仲間の意見を尊重したりして、協働して取り組む。【できる】</p>	<p>のポイントを示したスライド</p>
<p>12/2(金) 3, 4 校時</p>		<p>○中間発表時に必要な役割をグループで話し合い、分担を決める。【できる】</p>	
<p>12/5(月) 2 校時 (本時)</p>		<p>○スライドの中間発表を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表を鑑賞する際の評価ポイントを確認する。【わかる】 ・グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表する。【できる】 ・グループ間で、互いのスライドの良い点や改善点を出し合う。【できる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価シート ・発表に向けての原稿 ・制作スライド
<p>12/6(火) 1 校時 2, 3 校時</p>		<p>○内容の見直し、完成を目指す。【できる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出された改善点を基に各グループで見直しを行ったり、新たに調べたいことを考えたりする。 	
<p>12/6(火) 4 校時</p>		<p>○発表会を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成させたスライドの発表会を行う。【できる】 ・今回の探究学習で学んだことを次の学習へとつなげられるようにする。【いきる】 	<ul style="list-style-type: none"> ・制作スライド

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
I.K.	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習に対する意欲が高く、歴史にも興味がある。漢字の読み書きが苦手であるため、収集した資料の解読や整理・分析が難しい。 ・タブレット端末の使い方に慣れていて、スライド作成の構想力や表現力も高い。しかし、理想が高く、手順や説明を聞かずに自分のやり方で進めってしまうため、見通しが立たず、制作期日を過ぎることが多い。 	知・技	<p>地域の歴史や文化を学び、その魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を手順に従って、身に付けることができる。</p>
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択することができる。 ・スケジュールに沿って、課題の解決に応じた情報を収集し、教師の支援を得ながら読み解き、必要な情報のみを取り出して、スライドにまとめ、分かりやすく伝えることができる。
		主体的	<p>分からないことを積極的に質問したり、仲間と協働して取り組んだりしながら、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとすることができる。</p>
S.Y.	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を好み、読解力もあるため、提示した資料への関心が高く、理解度も高い。しかし、学習に消極的であるため、 	知・技	<p>地域の歴史や文化を学び、その魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を教師の支援を得ながら身に付けるこ</p>

	<p>主体的に学習を進めていくことは難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末の使用は、文字の入力などの簡単な操作は可能である。 	<p>思・判・表</p>	<p>とができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、教師の支援を得ながら課題を選択することができる。 ・教師と一緒に課題の解決に向けて、情報を収集、整理・分析して、スライドにまとめ、伝えることができる。
		<p>主体的</p>	<p>地域の課題解決に向けて、自分の役割を自覚して、仲間と協働して取り組み、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとすることができる。</p>
<p>F.M</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習に対する興味・関心が高く、意欲的である。自ら質問することが苦手であるため、分からないまま目的から逸れて、学習を進めてしまうこともある。 ・タブレット端末の使い方に慣れていて、スライド作成の構想力や表現力も高い。 	<p>知・技</p>	<p>地域の魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を身に付けることができる。</p>
		<p>思・判・表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択することができる。 ・課題の解決に応じた情報を収集し、整理・分析して、スライドにまとめ、分かりやすく伝えることができる。
		<p>主体的</p>	<p>課題の解決に向けて、分からないことを質問したり、仲間と協働して取り組んだりしながら、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとすることができる。</p>
<p>M.H.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究学習に対する興味・関心が高く、意欲的である。自分の考えに自信がもてずに、教師に答えを求めてしまう傾向にある。 ・タブレット端末の使い方に慣れていて、スライド作成の構想力や表現力も高いが、本来の学習の目的から逸れて、デザインなどにこだわってしまう場面も見られる。 	<p>知・技</p>	<p>地域の魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を身に付けることができる。</p>
		<p>思・判・表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択することができる。 ・課題の解決に向けて、教師の説明を基に、自分の力で情報を収集、整理・分析して、スライドにまとめ、分かりやすく伝えることができる。
		<p>主体的</p>	<p>課題の解決に向けて、他者と積極的に関わったり、仲間と協働して取り組んだりしながら、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとすることができる。</p>
<p>M.N.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の説明をよく聞き、手順に従って、積極的に探究学習を進める力がある。目標を高くもつことで、学びを深めていくことが期待される。 ・タブレット端末の使い方に慣れていて、スライド作成の構想力や表現力も高い。試行錯誤して、さらに良いものにしようという姿勢が期待される。 	<p>知・技</p>	<p>地域の魅力に気付くとともに、課題の発見や解決に必要な技能を身に付けることができる。</p>
		<p>思・判・表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択することができる。 ・課題の解決に向けて、情報を収集、整理・分析して、まとめ、分かりやすく伝えることができる。
		<p>主体的</p>	<p>課題の解決に向けて、さらに良いものにしようとして試行錯誤したり、仲間と協働して取り組んだりしながら、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこ</p>

			うとすることができる。
M.S.	授業に出席しているが、学習への参加はできていない。課題を出題し、家庭で取り組み、提出する方法を用いている。	知・技	地域の魅力に気付くとともに、課題の発見を行うことができる。
		思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史や文化と自分の生活とのつながりから問いを見だし、自ら課題を選択することができる。 自ら選択した課題について、情報を収集し、まとめることができる。
		主体的	自ら選択した課題について情報を収集し、まとめる作業を通して、自分と地域社会とのつながりについて、主体的に学んでいこうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表することができる。	グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表している。(制作スライド、観察)
思考力、判断力、表現力等	相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、良い点や改善点を判断して、表現することができる。	相手グループの発表を正しく鑑賞し、良い点や改善点を判断して、表現している。(相互評価シート、観察)
学びに向かう力、人間性等	相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していくことができる。	相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していっている。(観察)

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本時の個別目標		個別の手立て
I.K.	知・技	グループでの自分の役割を意識し、自立してスライドを発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手グループからの評価をメモできるように援助する。 指示に従って、活動の切り替えができるように言葉掛けを行う。
	思・判・表	相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックしたり、気付いた点を文章で表したりして、発表することができる。	
	主体的	相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していくことができる。	
S.Y. (抽出)	知・技	グループでの自分の役割を意識し、仲間や教師の援助を受けながらスライドを発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 意図的に発表の場面を設定し、積極的に学習に参加できるようにする。 相手グループへの評価を分かりやすく伝えられるように相互評価シートを工夫する。
	思・判・表	相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックし、発表することができる。	
	主体的	相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していくことができる。	
F.M.	知・技	グループでの自分の役割を意識し、自立してスライドを発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 意図的にまとめ役を設定し、仲間の意見を引き出したり、調整したりする活動を通して、広い視野で物事を捉
	思・判	相手グループのスライド発表を正しく鑑	

	・表	賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックしたり、気付いた点を文章で具体的に表したりして、発表することができる。	えられるようにする。 ・まとめ方に迷ったときには、自ら教師や仲間に助言を求めることができるように促す。
	主体的	相手グループからの評価を基に、グループの中心となって、スライドの完成を目指していくことができる。	
M.H. (抽出)	知・技	グループでの自分の役割を意識し、自立してスライドを発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手グループへの評価を自分の言葉で自信をもって伝えられるように相互評価シートを工夫する。 意図的にまとめ役を設定し、仲間の意見を引き出したり、調整したりする活動を通して、コミュニケーション能力を身に付けられるようにする。
	思・判 ・表	相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックしたり、気付いた点を文章で具体的に表したりして、発表することができる。	
	主体的	相手グループからの評価を基に、グループの中心となって、スライドの完成を目指していくことができる。	
M.N	知・技	グループでの自分の役割を意識し、自立してスライドを発表することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 相手グループの作品の良い点を取り入れながら、スライドの完成を目指していけるように言葉掛けを行う。 仲間一人一人の立場や意見を尊重しながら、さらに良いスライドの完成を目指していけるように言葉掛けを行い、行動を促す。
	思・判 ・表	相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックしたり、気付いた点を文章で具体的に表したりして、発表することができる。	
	主体的	相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していくことができる。	
M.S.	知・技	自ら選択した課題(テーマ)について、情報を収集し、ワークシートにまとめた結果を提出することができる。	<ul style="list-style-type: none"> 学習に見通しがもてるように学習の流れを分かりやすく黒板に示す。 相互評価シートへの記入の仕方を分かりやすく示し、家庭で取り組めるようにする。
	思・判 ・表	相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、良い点や改善点を判断して相互評価シートにチェックしたり、気付いた点を文章で表したりして、提出することができる。	
	主体的	グループの一員として、仲間の話し合い活動の様子を見たり、聞いたりすることができる。	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動	教師の働きかけ		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
		●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点 MT	ST	
(10) 分	1 号令	●日直の号令で挨拶を行う。 ●Google classroom に接続する。	○Google classroom への接続を指示する。	○必要に応じて、Google classroom への接続支援を行う。	・タブレット端末
	2 前時の振り返り	●学習計画表で、これまでの学習の流れと現在の学習進捗状況を確認する。【わかる】 ●前時の学習内容を思い出す。【わかる】	○学習計画表をスライドで示し、注目を促す。 △M.H.を指名し、発言を促す。 発言に迷った場合には、ヒントを示す。	△S.Y.へ、スライドへ注目するように言葉掛けを行う。	・タブレット端末、テレビ
	3 本時の説明	●本時の目標と学習予定を知る。【わかる】	○Google classroom と黒板へ掲示する。	○必要に応じて、タブレット操作の支援を行う。	・タブレット端末
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の目標】</p> <p><input type="checkbox"/> 【知】 グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表しよう。</p> <p><input type="checkbox"/> 【思】 相手グループのスライド発表を鑑賞して、良い点を伝えたり、さらに良くなるようにアドバイスをしたりしよう。</p> <p><input type="checkbox"/> 【学】 相手グループからのアドバイスを生かして、スライドをさらに良いものにしよう。</p> </div>				

<p>(35) 分</p>	<p>4 発表 (20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●スライドの中間発表を行う。 ・相手グループの発表を鑑賞する際の評価ポイントを確認する。【わかる】 ・グループでの自分の役割（発表に向けてのスライドの紹介、タブレットの操作）を意識して、スライドを発表する。【できる】 ・Aグループ→Bグループの順番で発表する。 ・相手グループの良い点や改善点を相互評価シートに記入する。【できる】 ・記入後、教師の指名に従って、順次、相手グループの良い点や改善点を発表し合う。【できる】 ・BグループからAグループへの評価 ・AグループからBグループへの評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○相互評価シートに注目するように促す。 △必要に応じて、M.H. I.K. へ、相互評価シートに注目するように言葉掛けを行う。 ○必要に応じて、スライドの紹介やタブレット操作の支援を行う。 ○評価ポイントに着目して鑑賞するように促す。 ○相互評価シートのチェック項目だけでなく、良い点や改善点を文章として記入するように言葉掛けを行い、行動を促す。 ○意見の共有と発表への意欲を喚起するためにグループ間で出された意見を板書する。 	<p>△S.Y へ、相互評価シートに注目するように言葉掛けを行う。</p> <p>○必要に応じて、タブレット操作の支援を行う。</p> <p>△S.Y.へ、評価ポイントに着目して鑑賞するように言葉掛けを行う。</p> <p>○必要に応じて、積極的に評価できるように支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価シート、タブレット端末、テレビ
		<p>【相互評価のポイント】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ①文字や文章、②写真や図、③アニメーション、④全体的な色、⑤音声、⑥関心もてる内容か、の6項目について5段階評価を行おう。 2. その上で、具体的に文章として記入し、発表しよう。 <p>☆相手グループの改善点を見つけるだけでなく、良い点にも着目して、自分たちのグループに生かせるようにしよう。</p>			

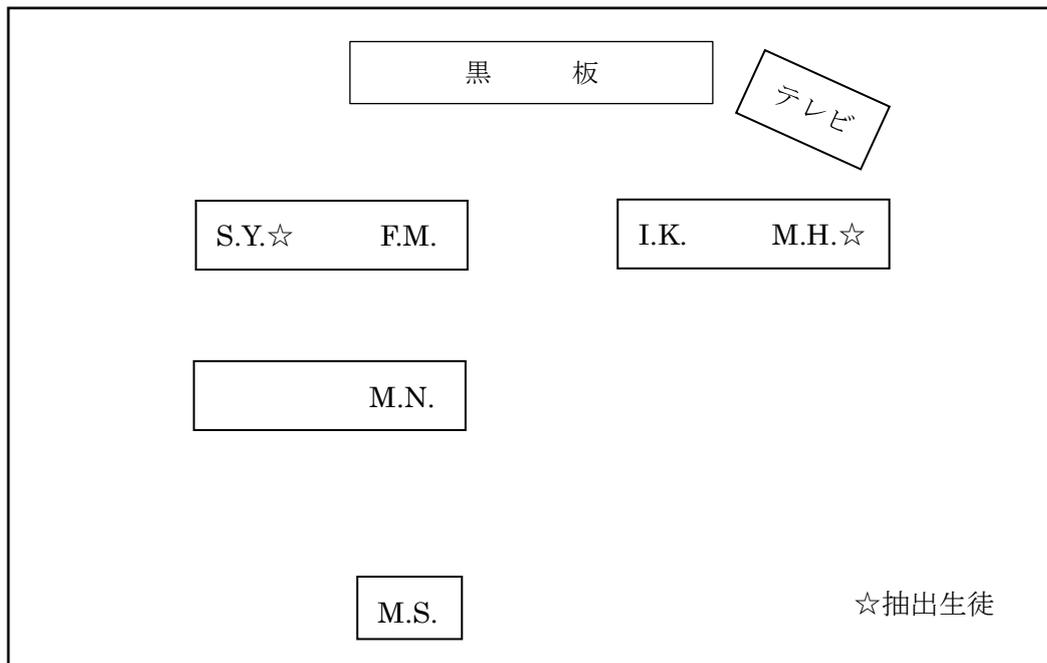
	5 スライドの見直し (15分)	<p>●内容を見直し、完成を目指す。【できる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出された改善点を基に各グループで見直しを行ったり、新たに調べたいことを考えたりする。 	<p>○担当した自分の課題(テーマ)だけでなく、グループ作品として、仲間の課題(テーマ)にも全員で協力して改善に取り組むように言葉掛けを行い、行動を促す。</p>	<p>△S.Y.へ、協力して取り組むように言葉掛けを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末
まとめ (5分)	6 本時の振り返り	<p>●本時の学習内容を振り返る。【いきる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに記入する。 	<p>△必要に応じて、I.K.へ、作業を終了し、振り返りへの切り替えができるように言葉掛けを行う。</p> <p>○全体としての取組についての評価を伝える。</p>	<p>△S.Y.へ、振り返りに丁寧に取り組むように言葉掛けを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート
	7 次時の予告	<p>●次時の予告を行う。</p>			
	8 号令	<p>●日直の号令で挨拶を行う。</p>			

【評価の場面】

- 【知】グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表しているか、制作スライド、観察を基に評価する。
- 【思】相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、良い点や改善点を判断して、表現しているか、相互評価シート、観察を基に評価する。
- 【学】相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していこうとしているか、観察を基に評価する。

(4) 配置図

3階職業実習室



(5) 本時の評価

知識及び技能	○グループでの自分の役割を意識して、スライドを発表することができたか。 ・グループでの自分の役割を意識し、自立してスライドを発表することができている。 ・グループでの自分の役割を意識し、仲間や教師の援助を受けながらスライドを発表することができている。
思考力、判断力、表現力等	○相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、良い点や改善すべき点を判断して、表現することができたか。 ・相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックしたり、気付いた点を文章で具体的に表したりして、発表することができている。 ・相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックしたり、気付いた点を文章で表したりして、発表することができている。 ・相手グループのスライド発表を正しく鑑賞し、評価項目に従って、良い点や改善点を判断してチェックし、発表することができている。
学びに向かう力、人間性等	○相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していくことができたか。 ・相手グループからの評価を基に、グループの中心となって、スライドの完成を目指していくことができている。 ・相手グループからの評価を基に、グループで協働して、スライドの完成を目指していくことができている。

数 学 科 学 習 指 導 案

日 時 令和 4 年 12 月 5 日 (月) 3 校時
場 所 2F 視聴覚室
学 科 普通科
学 年 1 学年
指 導 者 教 諭 田 野 寛 行 (MT)
教 諭 菊 地 大 輔 (ST)

1 単元名 (題材名)

「 円柱の体積の求め方 (体積と表面積) 」

2 単元 (題材) 設定の理由

(1) 生徒観

本学級は男子 8 名で構成されるクラスである。8 名中 1 ~ 2 名は欠席が多く、これまでほとんどの授業を 6 ~ 7 名で実施している。授業では **Power Point** を主に活用し説明に用いている。全体に説明 (一斉) 時には **Power Point**、計算練習 (個別) 時にはプリントの活用という授業パターンが定着しつつある。

生徒は計算により、自力解決しようとする気持ちは高く、数学に対する興味関心は低くはない。授業では、日常生活の数学に関連した話を意図的に取り上げるようにしているが、直接生活に関連した話題でない場合、生徒が興味をもたないこともあり、その場合は話題提供にとどめている。

一部集中力に欠ける生徒もいるが、授業に対して取り組む姿勢自体は賑やかさや活気が見られ、質問に対する反応も悪くはない。発言したり表現したりすること (**output**) はよいが、相手の話をしっかり聴く (**input**) に課題のある生徒が多いと感ずる。

(2) 単元 (題材) 観

ア 「体験的な学習・生活に結びついた学習について」

数学の区分「体積と表面積」の“体積の求め方”を題材に取り上げた。学習指導要領では、体積の求め方について「立方体、直方体、角柱、円柱などがあり、その体積の求め方を考え、最終的には簡潔かつ的確な表現に高め、公式として導く力を養う」とある。さらに発展的課題としては「その体積を数学的に表現・処理したことを振り返り、数学のよさを実感し、学習したことを生活や学習に活用しようとする態度を養う」とある。授業では、円柱の体積を求め、比較することにより、よりよい飲料水購入の仕方に結びつけていきたいと考えている。

イ 「教育課程における教科等横断的な視点等について」

今回の単元で目指す学びは、日頃生活の中で目にする事象 (飲料水) について、知識を学ぶだけでなく、生徒が数学の見方・考え方を働かせながら、観察、体験を行うことなどを通し、問題を数学的に解決できる能力を身につけることと考えた。

将来の社会生活の中で疑問に感じたことを、生活経験をもとに比較したり確かめたりする方法を通して、他者の意見を聞きながら自分の予想と比べるやり方もある。そのことを授業を通して学習

し、身につけられればと考えている。また、興味や関心が高まり新たな疑問が生まれたとき、主体的に調べたり学習したりすることで、深い学びにつながれることが最終的な目標である。

(3) 指導観（指導の工夫）

「どのように学ぶか」「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

ア「わかる」の視点による授業改善

第1段階「わかる」は「何をするのかを理解する段階」である。

生徒が、学習予定の「見通し」をもつため、また、どのように授業が進められていくかを理解するため、はっきりと学習内容を提示する工夫を考える。また、公式や計算を交え、基礎・基本となる知識を1つひとつ確認していく。

イ「できる」の視点による授業改善

第2段階「できる」は「「基礎・基本」をもとに考えたり表現したりする段階」である。

今まで学習したこと、経験したこと（特に日常生活において）を基に、理解を深めたり、問題を解決したりする学習を行っていく。さらに、できれば生徒同士で確認するなど、対話的な場面の設定も試みたいと考えている。

ウ「いきる」の視点による授業改善

第3段階「いきる」は「学習をふりかえり次の学習や生活に活かせるようにする段階」である。

まとめとしての時間、どんな学習をしたのかをふりかえる時間とする。ふり返しを通して、自分のできたことや課題について考え、次回の学習に対して見通しをもつ。できれば日常生活につながる学習というものを意識させたい。

(4) 評価観

- 「知識及び技能」については、前時の学習内容を思い出し、円柱の体積は「底面積×高さ」という決まった【公式】で求められることを理解しているかどうかを評価する。（わかる）
- 「思考力・判断力・表現力等」については、授業の展開において、円柱の体積「底面積×高さ」という【公式】に関連づけながら、2～3種類の円柱の体積を求めることができることなどで評価する。（できる）
- 「学びに向かう力、人間性等」については、円柱の求積に主体的に取り組むことができているかこれまでに学んだ【公式】や、生活の経験で知っていることを関連させて考えようとしているか。さらに日常生活の中で生かしていこうと思うことができるかなど、授業中の発言や単元のまとめなどで評価する。（いきる）

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	高2段階－ Bウ(ア)㊦ Bエ(ア)㊦	円柱の体積と表面積について、言葉やその意味など、基本的な知識を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回のふりかえりで知識の定着を確認している。 ・教師の指示通りに、適切な方法で知識を理解している（観察、プリント）
思考力、判断力、	探究協働	高2段階－ Bエ(イ)㊦	円柱の体積と表面積について、見たり比べたり考	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現したり、発言したりすることができる。

表現力等	健全		えたりしながら、公式を用いて正確に計算し、発表する力を身につけることができる。	(観察、プリント)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高2段階－ Bエ (ア)㊦(イ)㊧	日常生活に活用できる円柱の体積と表面積を発見することができる。友達の話題にも触れ、話し合い、認め合う力を身につけることができる。	・日常生活と関連させながら、学んだ知識を活用することができる。 (観察、プリント)

4 指導計画 (全9時間扱い)

月 日	時数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
11/30(水)	1	円柱の体積① ・「体積」の意味 (体積とは何か) 【わかる】 ・言葉・式を導く (公式) 【できる】 ・「円柱の体積は、どのように求めるのか」 【できる】	
12/ 1(木)	1	円柱の体積② 「体積」の定義をふりかえる 【わかる】 体積の求め方 (【公式】を基にした計算練習) 【できる】	
12/ 5(月) 本時 (3/9)	1	円柱の体積③ ABCの体積の求め方 (計算) 【できる】 体積の比較 A/B/C 【できる】	
12/ 6(火)	1	いろいろな円柱の体積の求め方 【できる・いきる】 (日常生活の中にあるすべての円柱形状に関する立体図形をさがし、その体積を求めてみる)	
12/ 7(水)	1	円柱の表面積 表面積①－1 【わかる】 表面積の求め方 【できる】	
12/13(火)	1	円柱の表面積 表面積①－2 【わかる】 表面積の求め方 【できる】	
12/14(水)	1	円柱の表面積 表面積②－1 【わかる】 表面積の比較 (AB) 【できる】	
12/20(火)	1	円柱の表面積 表面積②－2 【わかる】 表面積の比較 (CD) 【できる】	
12/21(水)	1	・円柱の体積と表面積 復習 まとめ 【できる】 冬季休業中の【課題】へ 【いきる】	

5 本単元 (題材) における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元 (題材) に関する実態	単元 (題材) の個別目標
A.H	<ul style="list-style-type: none"> 数学への関心は高くないが、理解できることに関しては活発に発言することが多い。気持ちが落ち着いている時は熱心に取り組む。 時折、体調不良や数学の苦手意識からか、頭を抱えたり、授業中に教室を離れたりすることがある。 	知・技 ・円柱の体積、表面積を求める計算方法について理解を図り、落ち着いて最後まで取り組むことができる。
		思・判・表 ・円柱の体積や表面積を比較する中で、どちらがどれだけ大きいのか、自分の言葉で表現することができる。
		主体的 ・円柱の体積や表面積について調べ、学んだことを生活に生かそうとすることができる。

I.S	<ul style="list-style-type: none"> この單元にはまだ出席していないが数学に対する関心は高い。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積を求める計算方法について考えることができ、落ち着いて取り組むことができる。
K.K	<ul style="list-style-type: none"> 一見関心が低いように見えるが、数学に興味はある。自信のなさから計算に時間がかかることが多い。 授業前にトイレに行ってしまうと戻ってくるのに20～30分かかる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積を求める初歩的な計算方法について考えることができ、落ち着いて最後まで取り組むことができる。
K.S	<ul style="list-style-type: none"> 数学への関心は高く理解力もある。 活発に発言したり、計算や筆算は早く正確である。自分で先に進みすぎ、教師の話聞いていないことがあるため、全体で一緒の早さで学習できるよう、時折声がけしている。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積の求積方法について、予想したり考えたりすることができ、落ち着いて最後まで取り組むことができる。
T.S	<ul style="list-style-type: none"> 数学に対しての興味関心は高く、授業中の発言はとても多い。 指名される前に発言してしまい、よくH.Kに止められることがある。 活発な生徒で、授業に関しては発言が多いため、落ち着きがないように見られがちである。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積の求積方法について考えることができ、落ち着いて最後まで取り組むことができる。
H.K	<ul style="list-style-type: none"> 数学に対しての興味関心は高く、授業中も内容をよく理解している。 教師が全体に指示している時に途中で言葉を挟むなど、今まで個別でのみ学習してきた様子が時折うかがえる。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積の求積方法について、予想したり考えを確認したりすることができ、落ち着いて最後まで取り組むことができる。
Y.H	<ul style="list-style-type: none"> 数学に対して興味関心は高くないが能力は高い。 今は少なくなったが、以前は発言や活動の少ない時、気づくと寝ている時があった。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積を求める計算方法について理解を図り、落ち着いて最後まで確認したり、取り組んだりすることができる。
W.Y	<ul style="list-style-type: none"> 数学に対しての興味関心は高く、授業中も内容をほぼ理解している。 	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積、表面積の求積方法について理解を図り、落ち着いて最後まで集中して取り組む

<ul style="list-style-type: none"> 心にひっかかることがあるとずっとそこに固執するため、その都度、切り替えが必要と声がけはしている。 	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> ことができる。 円柱の体積や表面積を比較する中で、どちらがどれだけ大きいのか、理由とともに表現することができる。
	主体的	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積や表面積について進んで調べ学んだことを生活に生かそうとすることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 前時を振り返り体積の求め方を思い出すことができる。 3つの円柱の体積を、公式を使って正確に計算することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 公式を使って、体積の計算することができる。(観察、プリント)
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積について予想し、最初は目視により、やがて計算し、大きさの比較をすることができる。 自分の計算結果について説明し、仲間との対話などにより、答えを確認することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の大きさを目視などにより比較することができる。 計算結果について、自分の考えを表現することができる。(観察、プリント)
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 実際にビーカーからビーカーに水を写し、水の体積を目視で比較し、大小関係を確認することができる。 3つのビーカーの体積を、計算結果を基に、多い順番から並べることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ビーカーの移水の様子を集中して観察することができる。 体積を求めた結果を大きな順に並べることができる。(観察、プリント)

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本時の個別目標		個別の手立て
A.H ★抽出	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の支援が必要(正確さ)。 自信をもって筆算に取り組むよう、言葉掛けを行う。 頑張りや集中する姿が見られたら、個別に賞賛する。
	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積を筆算により求め、仲間の計算方法や結果を、自分と比較することができる。 	
	主体的	<ul style="list-style-type: none"> 授業の終わりまで進んで学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に取り組んだりすることができる。 	
I.S	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 欠時期間の学習内容を簡単に説明し、本時の活動を具体的に支援する。
	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積を筆算により求め、結果を振り返ることができる。 	
	主体的	<ul style="list-style-type: none"> 進んで学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に取り組んだりすることができる。 	
K.K	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を、理由とともに理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の支援が必要(早さ)。
	思・判・表	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積を筆算により求め、仲間の計算方法や結果を、自分と比較することができる。 	
	主体的	<ul style="list-style-type: none"> 集中して学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に取り組んだりすることができる。 	
K.S	知・技	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を、理由とともに理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、体積を求める方法や公式などに気づけるようにする。
	思・判	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積を筆算により求め、仲間の計算方 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・表 主体的 	<ul style="list-style-type: none"> 法や結果について、自分と比較し原因を知ることができる。 主体的に学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に参加したりすることができる。 	
T.S ★抽出	<ul style="list-style-type: none"> 知・技 思・判 ・表 主体的 	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を、理由とともに理解することができる。 円柱の体積を筆算により求め、仲間の計算方法や結果について、自分と比較しながら振り返ることができる。 進んで学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に参加したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、体積を求める方法に気づけるようにする。
H.K	<ul style="list-style-type: none"> 知・技 思・判 ・表 主体的 	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方とその理由を、理解することができる。 円柱の体積を筆算により求め、仲間の計算方法や結果を自分と比較することができる。 主体的に学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に取り組んだりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、体積を求める方法に気づけるようにする。
Y.H	<ul style="list-style-type: none"> 知・技 思・判 ・表 主体的 	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を、理由とともに理解することができる。 円柱の体積を筆算に正確により求め、仲間の計算方法や結果を自分と比較することができる。 主体的に学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に参加したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、体積を求める方法に気づけるようにする。 質問がある場合は、順番を待つてするよう言葉掛けを行う。
W.Y	<ul style="list-style-type: none"> 知・技 思・判 ・表 主体的 	<ul style="list-style-type: none"> 円柱の体積の求め方を理解することができる。 円柱の体積を筆算により求め、仲間の計算方法や結果を自分と比較することができる。 授業の終わりまで進んで学習しようとする姿勢で、体積を計算したり、ビーカーの移水実験に参加したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習内容を振り返り、体積を求める方法に気づけるようにする。 最後まで進んで授業に参加するよう、様子を見ながら声掛けする。

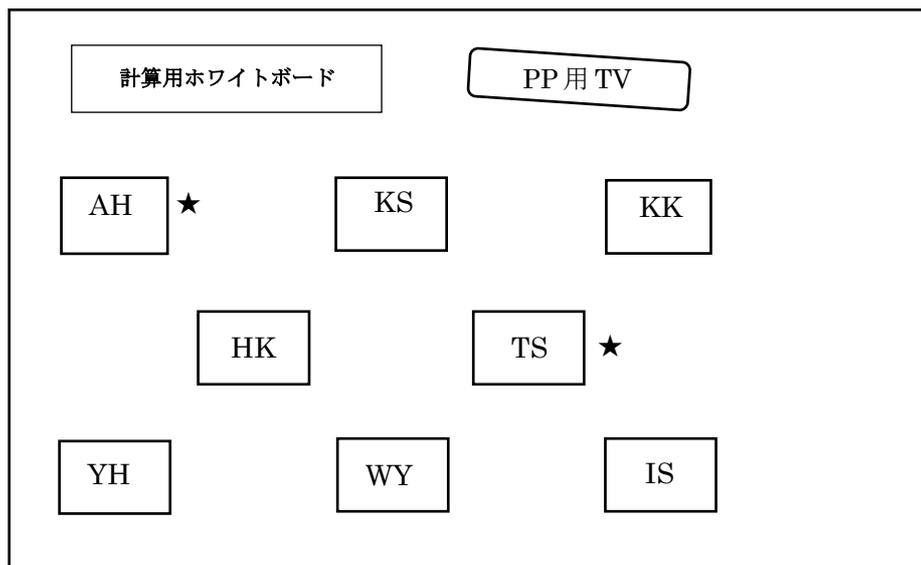
(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 学びの場の設定【わかる】【できる】【いきる】	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項 教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (5) 分	1 号令	日直の号令 ・あいさつ	○姿勢を正して気持ちを切り替えるよう指示	○必要に応じて援助	・テレビ、 Power Point 教材 ・実際のジュース缶 250ml・350ml 500ml など ・PP スライド
	2 今日の学習内容を知る ・前時の振り返り ・円柱の体積の求め方	●前時の学習内容を思い出す。【わかる】 ・体積について ・体積の求め方に触れる	○前の TV 画面に注目するよう呼びかける。 ○前時を振り返りながら体積の求め方を思い出そう促す。		
	3 本時の目標の確認 ・本時の授業内容を確認する。	●今日の学習予定を知る【わかる】 ・Power Point で今日の学習内容を知る。	○Power Point に、本日の学習内容を示す。	○生徒が前時を確認しつつ本時の学習を見通しているか目視確認。	
展開 (40) 分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> <p>【本時の目標】 対象となる3つの円柱の体積を、計算により求め、比較することができる。</p> </div>				・PP スライド
	4 円柱の体積の求め方について公式と関連づけながら学習 【体積＝底面積×高さ】 ・ワークシートに書き込む (5分)	●これまで学習してきた円柱の体積を調べる方法について復習する。【わかる】 ●【体積＝底面積×高さ】という公式に関連づけ、ABC3つの円柱の体積を計算により求める。 ・必要に応じ、計算結果をまわりの生徒と確認する。【わかる】	○すべては体積＝底面積×高さという公式に関連づけで計算できることを伝える。 ■公式を利用し、ひとつひとつの体積を求める式を立てることができたか。 ■正確に計算し円柱の体積を求めることができたか。	△計算が苦手な生徒の支援 △集中できない生徒の支援	

<p>5 ABCの体積について</p> <p>(1) 予想 (どのビーカーの体積が大きいか)</p> <p>(2) 目視・触れる・持つなど</p>	<p>●生徒からの予想(どの体積が大きいか) A/B/Cにある程度分かれる。予想の理由を聞く。 (場合によってはまちがいを称賛。失敗を恐れるあまり、自己の考えに消極的になるのを防ぐ) 【わかる】</p>	<p>○生徒から出た予想をもとに、ABCどの体積が大きいのか比較する</p> <p>■主体的に計算に取り組むことができているか</p> <p>■必要に応じて他者と協力することができるか。</p>	<p>○ワークシートの配布と計算の支援</p>	<p>ワークシート配布</p> <p>ABC 3種類のビーカー バケツ・タオル・水 計算用ホワイトボード</p>
<p>(3)実際に計算し、予想があっていたかどうか確かめる</p> <p>(25分)</p>	<p>●A/B/Cの体積を、公式に当てはめながら、実際に計算する。</p> <p>●A/B/Cの体積を、大きい順にならべる。</p> <p>●予想結果を確かめる。 【できる】</p>			
<p>6 考察</p> <p>(1)実際に容器A→B B→Cなどへ水を移してみる</p> <p>(5分)</p>	<p>●実際に容器へ水を移す作業を見る。</p> <p>●体積の大きい方の水を、小さい方の容器に移したら、水があふれてしまうことを目視で確認する。 【わかる】</p>	<p>○実際に水を移すという【動き】のある作業を行う。安全に気をつける。</p>	<p>○MTがビーカーに水を移す際の補助。</p>	
<p>7 まとめ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体積A～Cを求めることができる。 ・本時の目標に関して自己評価をすることができる。 ・日常生活にきつと役立つことを述べる <p>(5分)</p>	<p>●日常生活の中での具体的な場面に活用できるよう、考える力を養う。</p> <p>※「自動販売機」や「お店」 日常生活の中で買い物をする際数学を用いると、お得に購入できる場合があることも知る。 【いきる】</p>	<p>○いろいろな場所で数学を利用する力は大切。</p> <p>※やがて500mlで¥130 350mlで¥100など 単位量あたりの大きさの学習につなげる (お得にジュース購入) → 数学的知識の拡がり (日常生活との関連)</p>		

まとめ (5) 分	8 次時の予告	<ul style="list-style-type: none"> ●パワーポイントを見ながら振り返り、 【体積＝底面積×高さ】であることをもう1度確認する。 ●A・B・Cの体積が多い順に並べると (→ →) であった。 【いきる】 	○Power Point		・PP スライド
	9 あいさつ	日直の号令	○姿勢を正し、挨拶をしっかり行うよう指示。		

(4) 配置図



★抽出生徒

(5) 本時の評価

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none">・円柱の体積について、その意味を理解することができたか・前回の振り返りで、体積の求め方を思い出すことができたか。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none">・円柱の体積を求め方を振り返り、公式を使い、筆算で計算することができたか。・自分の考えた結果を、根拠をもって説明することができたか。
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none">・ビーカーに汲まれた青い水を、目視などで比較することができたか。・主体的に調べたり、互いの意見を伝え合ったりすることができたか。

1 研究協議

(1) 作業学習

ア 授業者から

- ・ H.K さんはお客さんがいると興奮する。
- ・ 視覚化して指導するとより効果があると思うが、今回は準備できなかった。
- ・ 2名で焙煎をする。
- ・ 生徒から MT に「アイデアがあります。」と相談があった。
- ・ アイデアを取り入れたことで作業場所(机)に不具合が出てしまった。
- ・ S.M さんは状況把握をするが、発言できない。
- ・ 今後も主体性を引き出していきたい。
- ・ 生徒同士のやり取りも増えてきた。言語活動の充実や社会的、職業的自立に向けて進めていきたい。

イ 抽出生徒についての報告

- ・ H さん必要最低限の指示で動いていたのは、普段の指導の積み重ねの成果が出ていた。
- ・ 教師からの指示があまりなくてもでき、作業も正確にできていた。
- ・ おおむね個人目標が達成されていたのではないかと。
- ・ ダブルチェックは自らのアイデア。褒められたことでより意欲的になった。
- ・ 星見さん
- ・ いくつかアドバイスをもらい、その後からは改善する様子が見られた。
- ・ ペアでの活動も良くなってきていた。

ウ 研究協議

- ・ 授業の開始時に生徒同士での話し合いの場があった。
- ・ O 先生が基礎作り(1年次に指導)をしている。
- ・ 扱っている物はコーヒー豆や木工。日常の五心を唱和。安全点検をしている。自己目標を確認。
- ・ 授業のミーティングでは、発注書を確認している。期日や数量、在庫、1日の準備できる時間などを明確に示している。生徒が見て分かるように示している。
- ・ 毎度の授業で、生徒同士が今日の取組を確認する時間がある。(時間は日による)
- ・ 生徒が何をやっているか、自分たちで把握していることが大事。
- ・ 落ち着いて静かに作業できているのはとてもうらやましかった。
- ・ 生徒が見通しをもって作業ができている環境であった。
- ・ 心掛けていること(工夫していること)を教えていただきたい。
→ 段階を踏んで伝える。結論から伝えるようにしているし、生徒にも伝えている。
- ・ 生徒に生産目標を考えさせているのを取り入れていきたい。これまでは MT がノルマをきめていた。
- ・ 研究のテーマ「わかる、できる、いきる」、指導案を見て、「いきる」が難しい。作業学習を通して、「いきる」は現場実習やカフェ、学校行事の準備、給食の配膳などで話し合い、協力する、将来の就労に生かしていけるのではないかと。普段の様子や現場実習の様子を見て、日ごろの指

導に生かしていく。窯業（工業、農業）→農業は他学科作業で行っている。職業の要素もあるのに、実際に教育課程上の届け出は違う。作業学習における見方、考え方が変わる。軽量だったら数学…など。今回の内容を参考にしていきたい。

（２）総合的な探究の時間

ア 授業者から

- ・地域の魅力を発信、生徒の意見ができてよかったが、意見交換の場を設け、再検討の時間を確保したかった。
- ・「わかる」という視点が大事。学習することのゴールが分かると目的意識をもって、学習に取り組むことができる。
- ・今回の学習では特にコミュニケーションを大事にしてきた。ゲストティーチャーも呼んだ。
- ・今後の学習に生きていけばいいと思っている。
- ・作成しているものをカフェで映像を流したい。待っているお客様に見ていただく。

イ 抽出生徒についての報告

- ・メモを見ながら大きな声で発表することができていた。
- ・相手の発表を聞くときはよかったが、自分の役割が終わったら
- ・初めは身体を伏せている様子が見受けられた。特に説明を受けるとき。
- ・発表やワークシートに記入するなど見通しのもてる活動は意欲的に取り組むことができていた。

ウ 研究協議

- ・1～3年生の積み重ねを大事に、集大成は発表活動する。
- ・単元が長くなったことで、生徒が飽きたり欠席したりすることがあった。的確なアドバイスをしながら問題解決、探究をすることができてきた。音声を入れることは良かった。文字は小さいのではないかな。函館市民でも分からない情報を知ることができた。
- ・課題を生徒が考えるのが苦手で、なかなか意欲をもつことができない。そのため、深めることも難しさがある。生徒の実態を考慮し、段階的な指導をすることができている。
- ・グーグルフォームで作成しているので、文字や絵、音声が入っていて、とても新鮮だった。参考にさせていただきたい。
- ・資料がカフェや他のところで見れることが楽しみ。「自分の役割を意識して」…どのような役割か。
 - 初めの言葉を言う人、スライドを操作する人の2つ
 - MTが原稿を作成したが、生徒から「こうしたい。こうではありませんか。」などが出てきたので、MTの作成したものではなく、生徒の物になっていった。
- ・個人のまとめの中に「調べて、自分はこう思った。」など気付いたことを取り入れていただきたい。個人や全体のまとめを行う。

（３）数学

ア 授業者から

- ・ピーカーが割れ、生徒や先生方にご迷惑をおかけした。
- ・円柱の体積の求め方。ジュースを買うときに形の違う缶ジュース
- ・体積の違いを視覚的に理解してもらうために、色付きの水を用意した。
- ・時間が押してしまい、最後まで行うことができなかった。

- ・思った以上に早く、正確に生徒が計算をすることができた。
- ・座学だけではなく、動きを入れた。視覚優位の生徒が多いため。
- ・目標については、毎回は貼れていない。
- ・抽出生徒：滝谷さんは数学が好き。意欲的。阿部さんは数学が苦手。あまり取り組まない。しかし、やる気が出る時は取り組めるかと期待して。
- ・やる気を出させる方法などのご助言いただきたい。

イ 抽出生徒についての報告

- ・すぐに髪や顔を触っている。
- ・コミュニケーションの反応が速い。
- ・問題も解けたり、終わったときには報告をしたりすることができた。
- ・学ぶ意欲が感じられた。
- ・「手伝ってくれますか。」に対して、意欲的に行動していた。
- ・苦手意識があるが、手立てがあり、やりきることができた。
- ・日常生活や実験があり、意欲が出てきた。
- ・MT や ST からの言葉掛けにより、安心して取り組むことができた。
- ・事前に取り組んだプリントを見ながら自分で見通しをもち、取り組むことができていた。

ウ 研究協議

- ・日常生活に結び付けた取り組みがよかった。
- ・どんな授業でどのような教材を活用するか。→気温の変化。ワールドカップの確立など。
- ・「わかる」に加えて、「楽しい」授業展開にできている。
- ・計算の繰り上がり、繰り下がりについての言葉掛けがあった。
- ・生徒のやる気の持続の方法…「楽しい」と思える言葉掛けが現時点でできているのではないか。
- ・好き勝手に発言することを我慢したことで、表情が暗くなってくる。普段は好き勝手にしゃべると明るくなってくる。
- ・数学に苦手意識のある生徒が多い。教え合う場面を設定している。やる気を引き出せているかは分からないが、伝え合う場面は継続していきたい。
- ・計算が作業化。どのような工夫を？→教え合いは、自分が分かっていると伝えられない。興味関心のもてるもの。文字が記号に見えてくる生徒は難しいかも。計算せざる状況にもっていく。(買い物、バスの乗車など生活に関連させて)

2 助言者から

(1)作業学習について

- ・見通しをもって活動できていた。先生方からの指示も少なく、生徒同士で見通しをもっていく。
- ・生徒一人一人が分かっている。これまでの積み重ね。
- ・作業スピード、安全性など、自分の言葉で話をしていく。
- ・1年生でどこまでできていけばいいのか、3年生ではどこまでできるようになるといいのかを明確にする。
- ・合わせた指導のため、他教科との連携を取りながら進める。横のつながりを大切に。

(2)総合的な探究の時間について

- ・指導案を見たときに発表だけで終わるのか？と思ったが、引き込まれる内容だった。
- ・調べて、発表するだけだと思ったが、探究されていた。

- ・題材が函館市。関わりが多いのもあるが、コーヒーや自転車など題材を自分事として選択することは難しいと思うが、MT がよく導いている。カフェで生かされる。他学科、他学年にも見てもらえたら。
- ・やってきたことを生かしながら、探究していくことが大切。
- ・振り返りシートが次回につながるものだった。他者評価だけでなく、自己評価もあるので、考え込まれている授業になっていた。

(3)数学について

- ・ハプニングがあったが、授業に入るまでの時間が短かった。ST の動きも含めて、素晴らしかった。安全性。
- ・PPT とホワイトボードの活用、見せ方が上手だった。
- ・ワークシート、先々進める生徒もいたが、見通しをもてるものだった。
- ・デジタル、アナログ、実態物を活用して行うため、生徒の関心を惹く内容だった。
- ・まとめに入れなかったのが残念だった。
- ・予想と現実が違ったという経験がよかった。実際にしてみないと分からないという体験。
- ・学習資料要領にある数学を楽しめる、生活に生かせる実践できる、が網羅されていた。

(4)本校の研究について

- ・わかる、できる、いきるがわかりやすい。
- ・授業の流れは変わらないため、生徒は安心して取り組める。
- ・次は「分かる」、その次は「できる」など、見通しをもった活動ができるのではないか。
- ・3つの授業とも、対話的な学びができていた。
- ・生徒と先生方が同じ方向を向いて取り組んでいるのはよい。学習の手引きをぜひ活用していただきたい。

令和5年度 校内研究

令和5年度 北海道函館高等支援学校 校内研究計画

【本校の校内研究の目的】

- 1 本校の教育課程の改善充実を目指す。
- 2 教職員の専門性の向上を図る。
- 3 教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- 4 研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

1 研究主題

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

3年次副題：「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」・「学習デザインガイドブック」の活用～

2 研究仮説

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方を、学習活動が「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学習活動となるための基礎・基本としてまとめた「わかる」「できる」「いきる」視点による学習指導と「学習の手引き」の活用により、生徒と教師が同じイメージをもって学習に取り組むことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善ができるであろう。

3 主題設定の理由

(1)研究の経過

本研究は令和3年度から取り組まれた3カ年計画の3年次の研究である。

研究主題は1, 2年次同様に設定し、副題を、

1年次副題：主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解

2年次副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善「学習の手引き」・「学習デザインガイドブック」の作成

として取り組んできた。

1年次は学習指導要領及び解説等から「主体的…学び」の主旨についての基本的な内容を整理し「『主体的・対話的で深い学び』についての基本的な事項」としてまとめ、教師全員がその内容に沿って取り組んだ研究授業を通して「主体的…学び」による授業改善の在り方を考察し、その成果と課題をまとめた。

2年次は、1年次の成果と課題を基に、本校としての「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の在り方を、学習活動が「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学習活動となるための基礎的基本的な視点を「わかる」「できる」「いきる」として整理し、「学習デザインガイドブック」としてまとめた。

また、その内容と対応させ、生徒も授業の組み立てや進め方を理解することで、より「主体的な学び」を引き出すことをねらいとし「学習の手引き」を作成した。

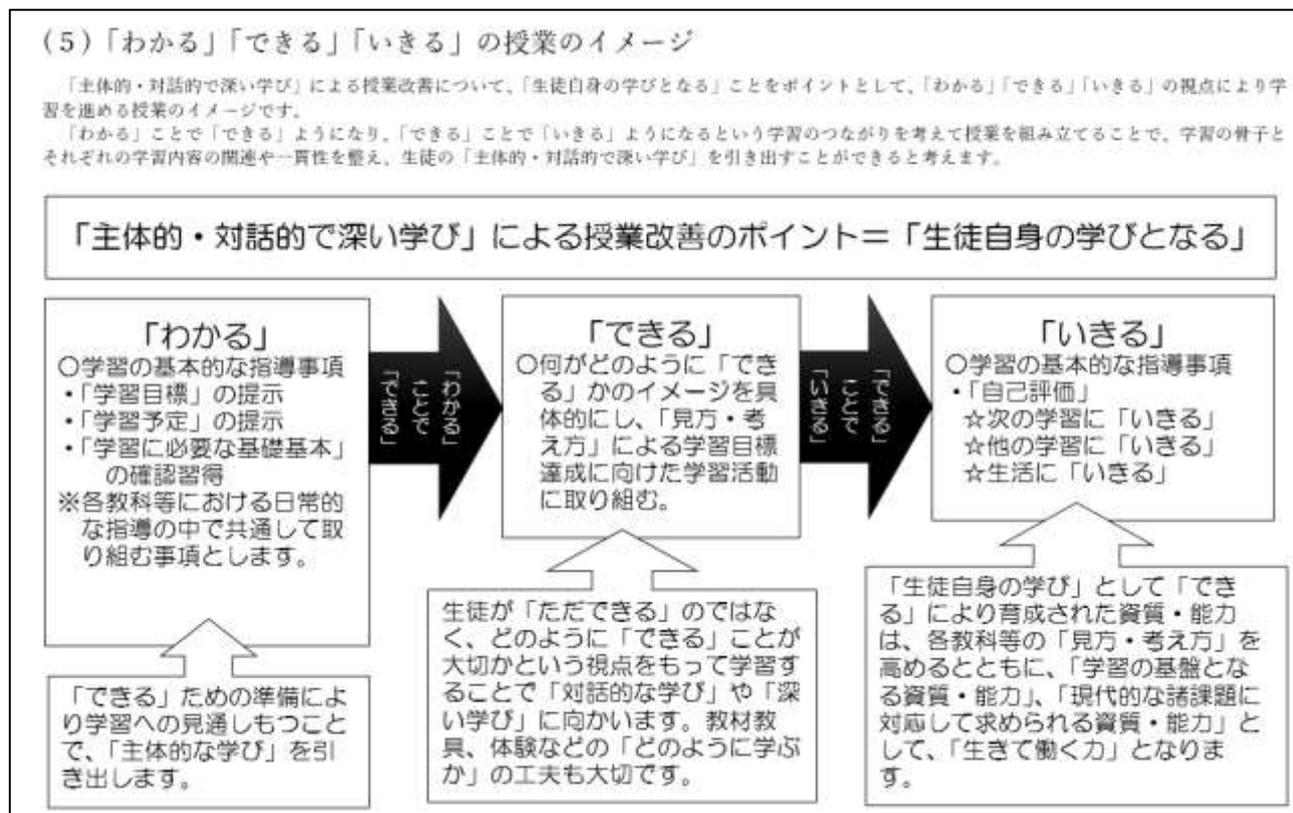
また、校内研究会では「わかる・できる・いきる」の視点による研究授業を実施し、それらの視点が「主体的…学び」の実現に向けた授業改善に対して適切な内容としてまとめられているかを考察し、その考え方や方向性について概ね妥当であるとの共通理解を図ることができた。

(2)「わかる・できる・いきる」の視点による授業改善

「わかる・できる・いきる」の視点としてまとめた内容の中で、本校の学習指導に具体的に位置づけたものが、「学習の基本的な指導事項」として設定した「学習目標の提示」、「学習予定の提示」、「学習に必要な基礎基本の確認習得」、「自己評価」の4点である。

これらについては、どの教科等においても、各教師が日常の学習で指導することとした。

この4点を指導に位置付け、「わかる」「できる」「いきる」それぞれの視点により授業を組み立てることにより、学習の全体像とその骨子を確かなものとし、生徒が見通しをもって取り組むことのできる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を目指すこととした。



学習デザインガイドブックより

(3) 研究の経過を踏まえた今年度の取組

昨年度、2カ年の研究で取り組んだ「わかる」「できる」「いきる」の視点による授業の在り方を「学習デザインガイドブック」と「学習の手引き」にまとめ、「わかる…」の視点による授業改善は、昨年度後半から各教師の日常実践に反映させることとして取り組んできて、アンケート等で成果や課題は集約してきたが、各教師がどの程度日頃の学習指導に位置付けているかなど、実際の状況を評価してはいない。

また、「学習の手引き」の内容については、今年度始めに生徒への説明を行ったばかりである。

今年度はそれらを実際の授業の中で「活用」し、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善ができたかを評価する1年となる。

このことから、今年度の研究主題の副題は

「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の活用～
とした。

「わかる…」の視点は、例えば「深い学びを引き出す発問の在り方」のような、具体的な指導技術の向上の参考となる手立てや要点について示したものではない。

学習活動を計画するために必要な基本的な形を整理整頓し、学校全体で共通して取り組むことで、生徒が学習の組み立てやポイントを理解して、見通しをもって取り組める状況をつくり、主体的な学びを引き出そうとするものである。

副題に、この「活用」という言葉を用いたのは、まず、各教師が普段の学習指導で、「わかる…」視点による授業改善に取り組んでいき、それが生徒にも教師にもスタンダードになる状況をつくるのが取組のポイントとなることを示している。

生徒は1度の「学習の手引き」の説明だけでは理解できていない。各教師の「わかる…」視点による授業を重ねる中で、「学習予定」で活動の見通しをもつことや、「学習目標」を理解して、何ができる

よくなればよいか意識しながら取り組むこと、また、そのために「基礎・基本」となる知識や技能を身に付ける大切さなどを理解して「授業の組み立て～3つの段階～」「わかる」「できる」「いきる」を自分のものにすることができる。そのような状況ができた中で見られた生徒の変容が本研究の成果である。

「わかる…」の視点を「活用」することで、それが学習を進める上での生徒と教師の共通言語となり、生徒と教師が「協働」で授業を作っていくながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けたより良い授業改善がなされることを目指して、本主題、副題による研究を進め、3カ年の成果や課題をまとめたいと考える。

4 今年度の研究の視点（研究仮説を検証するための具体的な取組内容）

(1)「学習デザインガイドブック」の活用

- ア 「わかる・できる・いきる」視点の確認
 - ・「基本的な指導事項」4項目
 - ・各教師の学習指導に反映するポイント
- イ 「わかる・できる・いきる」視点による学習指導
 - ・各教師の日常の学習指導で実践する。
- ウ 日常の学習における指導状況の確認
 - ・6月に教諭対象にアンケートを実施
- エ 実践の成果と課題
 - ・前期終了時に職員全員にアンケートを実施

(2)「学習の手引き」の活用

- ア 生徒への配布と説明
 - ・学年集会で「校訓」、「わかる・できる・いきる」「学習のルールとマナー」について説明。
- イ 日常の学習指導での活用
 - ・「学習のルールとマナー」の他、「話し合いのルールとマナー」など、全校で共通理解を図るべき内容は、折に触れて確認していく。
- ウ 生徒へのアンケート
 - ・前期終了時に、「わかる・できる・いきる」授業についてアンケートをとる

(3)単元・題材指導計画の作成、改訂作業

各教科等の改訂作業を行うグループを編成し、シラバスで設定している学習内容について、単元・題材指導計画の作成状況を確認するとともに、「わかる・できる・いきる」視点による授業改善の一環として、単元・題材指導計画の新様式での改訂、作成を行う。

※取組の内容等については別途提案

(4)公開研究会による外部評価

3カ年の取組による成果を公開研究会において発表し、参加者からの評価を得て、客観的な視点で研究のまとめを行う。

※詳細は公開研究会実施計画参照

5 研究推進日程

実施日	内容	校内研究全般の取組	単元・題材指導計画の改訂、作成作業	公開研究会の取組
4月初旬	○「学習デザインガイドブック」配布 ○生徒への「学習の手引き」配布、説明			
5/25(木)	校内研究 1	○R5 校内研究計画提案	○単元・題材指導計画の改訂作業について提案 ○研究グループ希望集約	○公開研究会実施計画提案 ※以降 研究授業者選出
6/15(木)	校内研究 2	○授業改善実践状況アンケート (教師)	○各教科等における単元・題材指導計画の改訂、作成作業 1 ・シラバスに対応した単元…計画の有無の確認 ・作成の問題点、課題の考察	○公開研究会研究授業者決定 ○公開研究会ポスター発表資料制作について
6月中	公開研関連			○指導案作成説明(教務、授業者)
8/23(水)	校内研究 3		○各教科等における単元・題材指導計画の改訂、作成作業 2 ・グループで作業分担 ・各自の担当する単元…計画の作成	
9/1(月)	教務部会			○公開研究会係打ち合わせ(教務内)
9/15(金)	公開研関連			○公開研究会案内発送
9/21(木)	校内研究 4	○授業改善実践状況アンケート (教師)	○各教科等における単元・題材指導計画の改訂、作成作業 3 ・各自の担当する単元…計画の作成	○公開研究会研究授業学習指導案検討 (グループ)
前期終了時	○「学習の手引き」生徒へのアンケート			
10/16(月)	公開研関連			○公開研究会参加申し込み〆切り
10/26(木)	校内研究 5	○授業改善実践状況アンケート 結果の評価		○公開研究会研究授業学習指導案検討 (全体)
11/16(木)	公開研関連			○前日準備
11/17(金)	公開研究会(当日)			
2/22(木)	校内研究 6	○校内研究のまとめ	○全教科等の単元・題材指導計画の作成完了	

6 研究グループ 研究グループの編成は、希望集約をして調整し決定します。

(1) 公開研究会研究授業指導案検討グループ (公開研究会研究協議にも参加)

- ア 体育科 体育科、体育 ST
- イ 普通科 普通科
- ウ 食品デザイン科 食品デザイン科、作業担

(2) 単元・題材指導計画の作成、改訂作業グループ

作業グループ	担当者
国語(普通・職業)	「単元・題材指導計画の作成、改訂作業」のグループ編成の考え方は別途提案
社会(普通・職業)	
数学(普通・職業)	
理科(普通・職業)	
音楽(+選択音楽)	
美術(+選択美術)	
保健体育・保健	
職業(普通・職業)	
家庭(普通・職業)	
外国語	
情報(普通・職業)	
特別活動	
総合(普通・職業)	
日常生活の指導	
作業学習(生・食・福)	
自立活動	

7 研究推進の方針・方法

(1) 授業研究について

本校では授業実践に基づく研究推進を基本として、開校3年目まで毎年一人1回の研究授業を行ってきたが、職員数が増え、参観や研究協議などの時間の確保が難しくなったことから、昨年度より各自、3カ年に1回の研究授業に取り組むことに変更した。

しかし、今年度は3カ年研究のまとめとなり、次年度からは新たな研究を進めていくことから、研究テーマや内容も、より学校課題の解決に資するものが必要となると考えられるため、研究授業の取り組み方も、次年度の研究テーマ、内容に合わせて見直すこととしたい。

ただし、研究授業は指導力向上に欠かすことのできない研修であり、研究のテーマに関わらず、授業改善の努力は、学校全体として常に取り組むべきものであることから、研究授業の取組は何らかの形で校内研究に位置付けていきたいと考え、次のように確認することとした。

ア 開校年度からの公開研究会、校内研究会の研究授業サイクルを基本として、毎年研究授業を実施する。(各教科、普通科、職業学科作業学習から1つの研究授業を実施)

イ 初任段階研修3年次までの対象者は初任段階研修の一環として研究授業に取り組むこととする。

公開研究会、及び校内研究会に実施した研究授業(数字は学年)

令和年度	全学科を対象とした各教科・領域等													普通科		職業学科 作業学習		
	国	社	数	理	音	美	保体	職(職)	家	外国(普)	特別	日生	自立	職業	総合	生産	食品	福祉
元															1 普	1	1	1
2	2 食					1 全												2
3				1 食	3 全					1 普								
4			1 数												3 普	2 生		
5							予 定								予 定		予 定	

(2) 研究広報の活用

限られた研修時間を補うために、広報で研究の進め方や、先生方の意見の交流（アンケート結果など）を行う。

(3) 研究紀要作成

令和3，4，5年度のまとめとして作成する。

令和3, 4, 5年度 研究のまとめ

研究主題

「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」

研究期間

令和3年度から3年計画

今年度は3年目で、まとめの年
になります。

1年次副題

「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

2年次副題

「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の作成～

3年次副題

「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手びき」・「学習デザインガイドブック」の活用～

1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

・学習指導要領の読み込み

・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる

「主体的・対話的で深い学び」について、学習指導要領、同解説に示された内容から、その必要性や留意点、配慮事項など、日常の学習に反映させるべきと思われるポイントをまとめ、さらに「知的障害のある生徒の教育的対応の基本」を掲載したものの。

1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

- ・学習指導要領の読み込み
- ・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる

- ・「基本的な事項」に沿って全員が研究授業を実施
- ・成果と課題から本校の「主体的...学び」の在り方を考察

本校の「主体的...学び」のポイント→「生徒自身の学びとなる」
そのような学びとなるための視点→「わかる」「できる」「いきる」

生徒が、教師の指示通りに活動するだけでなく、目標達成に向けて、自ら考えたり、感じたり、気づいたりしながら活動しているということ。

1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

- ・学習指導要領の読み込み
- ・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる



- ・「基本的な事項」に沿って全員が研究授業を実施
- ・成果と課題から本校の「主体的...学び」の在り方を考察



本校の「主体的...学び」のポイント→「生徒自身の学びとなる」
そのような学びとなるための視点→「わかる」「できる」「いきる」

1年次の取組

副題：「主体的・対話的で深い学び」の基礎・基本の共通理解

- ・学習指導要領の読み込み
- ・「主体的、対話的で深い学び」についての基本的な事項をまとめる

- ・「基本的な事項」に沿って全員が研究授業を実施
- ・成果と課題から本校の「主体的...学び」の在り方を考察

本校の「主体的...学び」のポイント→「生徒自身の学びとなる」
そのような学びとなるための視点→「わかる」「できる」「いきる」

【1年次のまとめ】

「わかる...」の視点を、教師だけでなく、生徒にも説明することで、生徒の主体性を引き出すことができるのではないか。→「学習の手引き」の作成も計画

2年次の取組

副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の作成～

「わかる」「できる」「いきる」の視点を具体的な指導に反映させるための「学習デザインガイドブック」の作成を開始。

「学習デザインガイドブック」と内容の一部を対応させた、生徒向けの説明資料「学習の手引き」も並行して作成。

研究係が「ガイドブック」「手引き」の原案を作成し、グループに分かれて内容の検討、加除修正を行う。

「学習デザインガイドブック」と

「わかる」「できる」「いきる」

の視点

「学習デザインガイドブック」の内容について

- ・1年次より作成は計画されていたが、研究開始時は、具体的な内容は未定。
- ・各教師の研究授業を経て、学習指導要領の「改訂の基本方針」に示された「主体的・対話的で深い学び」の内容を基本として、特に次の2点に重きを置いて考えることとした。

ア 授業の方法や技術の改善のみを意図するものでない
オ 基礎・基本に課題がある場合は確実な習得を重視

・学習指導要領から「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業の在り方を読み取り、その趣旨に沿って各教師の普段の学習指導を整理整頓し、「生徒自身の学びとなる」ための授業改善の視点を「わかる」「できる」「いきる」としてまとめた。

「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認・習得

「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認・習得

→各教科等の指導において指導することとした事項

「できる」

何がどのように「できる」かのイメージを具体的に
して「見方・考え方」による学習目標達成に向けた学習
活動を工夫し、「対話的な学び」「深い学び」となるた
めの視点

- 「ただできる」のではなく、どのように「できる」かのイメージを明らかにする。
- そのための、教材教具、体験などの「どのように学ぶか」の工夫。

「いきる」

育成された資質・能力が、どこで「生きて働く力」となるか、また、そのような力となるための学習活動を考えるための視点

○3つの「いきる」場

- ・次の学習に「いきる」→「見方・考え方」
- ・他の学習に「いきる」
- ・生活に「いきる」

} 教科等横断的な視点

○学習の基本的な指導事項

- ・「自己評価」

「わかる」「できる」「いきる」の視点の具体的な内容について

「生徒自身の学び」となるための視点「わかる」「できる」「いきる」

「わかる」

「できる」ための準備として学習への見通しもつことや、学習に必要な基礎・基本を習得し、「主体的な学び」を引き出すための視点

○学習の基本的な指導事項

- ・「学習目標」の提示
- ・「学習予定」の提示
- ・「学習に必要な基礎基本」の確認習得

「できる」

何がどのように「できる」かのイメージを具体的に「見方・考え方」による学習目標達成に向けた学習活動を工夫し、「対話的な学び」「深い学び」となるための視点

○授業者が学習目標に対して「ただできる」のではなく、どのように「できる」ことが目標の達成かのイメージを明らかにすること。
○そのような学習活動となるための、教材教具、体験などの「どのように学ぶか」を工夫すること。

「いきる」

育成された資質・能力が、どこでどのように「いきる」かを明らかにして、そこで「生きて働く力」となるために、どのような学習活動が「できる」ことが必要かを考えるための視点

○3つの「いきる」場

☆次の学習に「いきる」

→「見方・考え方」を生かした学習活動

☆他の学習に「いきる」

→教科等横断的な視点「学習の基盤となる力」

☆生活に「いきる」

→教科等横断的な視点「現代的な諸課題に対応する力」

※校訓の活用

○学習の基本的な指導事項

- ・「自己評価」

2年次の取組

副題：「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善～「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の作成～

「わかる」「できる」「いきる」の視点を具体的な指導に反映させるための「学習デザインガイドブック」の作成を開始。

「学習デザインガイドブック」と内容の一部を対応させた、生徒向けの説明資料「学習の手引き」も並行して作成。

【2年次のまとめ】

- ・「学習デザインガイドブック」では、授業における「学習目標、学習予定の提示」「基礎・基本となる知識・技能の確認と習得」「自己評価」の4項目を「学習の基本的な指導事項」として、各教師が日常の学習指導で実践することとした。
- ・「学習の手引き」は、「わかる」「できる」「いきる」の視点の他、「校訓について」「学習のルールとマナー」など、年度初めの学年集会や各授業のオリエンテーションでの活用をねらいとした内容も含めて構成した。

3年次の取組

4月

4月に「学習の手引き」を生徒へ配布し、学年集会で内容の説明

教師は「学習目標の提示」など、「学習の基本的な指導事項」とした4項目を日常実践で取り組むことを改めて共通理解

「学習の手引き」の
「わかる・できる・いきる」

授業の組み立て～3つの段階～ 「わかる」「できる」「いきる」

授業で学んだことが、生活の中で生かされる力となるためには、決められたことにただ取り組むのではなく、「何ができるようになるれば良いのか」「そのためにどんな努力や工夫が必要か」を考えながら、自分から積極的に学ぶことが大切です。

積極的に学ぶためには、授業の基本的な段階（組み立て）や、学習のポイントを理解することが大切です。

【第1段階「わかる」】

授業のはじめには、「^{がくしゅうよてい}学習予定」「^{がくしゅうもくひょう}学習目標」が^{しめ}示されます。また、学習に必要な「^{きそ}基礎・基本」を学び、これからの学習への^{じゅんび}準備をします。

この3つが学習に取り組むためにとっても大切です。しっかり理解しましょう。

1 「学習予定」

学習の期間や進め方を理解し、予定に合わせて学習を進めることができるように^{みとお}見通しをもちます。



2 「学習目標」

この授業でどんなことを学び、どんなことができるようになるかを表したのが「学習目標」です。

目標をよく理解^{りかい}して、学習中には常に意識^{つね}して、目標が達成^{たっせい}できるように努力しましょう。

3 「基礎・基本」

学習に取り組むためには、その基礎・基本となる知識^{ちしき}や技能^{ぎのう}があります。学習活動は、その基礎・基本を使いながら、さらに高いレベルの学習に取り組めます。

それぞれの授業では、どんなことが基礎・基本となるかを理解しましょう。

【第2段階「できる」】

第1段階^{だんかい}の「わかる」で理解した「学習目標」を達成するために、学習した基礎・基本となる知識・技能や、みなさんが今まで学習したこと、経験したことなどを基^{もと}に、理解を深めたり、技能を高めたり、問題を解決したりしながら、さらに発展させ、力を高める段階です。

この段階で大切なことは「学習目標」を理解して、「何ができるようにになれば良いか」を意識しながら、試行^{しこうさくご}錯誤したり、繰^くり返し練習したりすることです。

また、目標達成に向けて粘^{ねば}り強く取り組む意欲^{いよく}をもつことも大切です。



【第3段階「いきる」】

学習を振り返り、次の学習や生活に生かせるようにする、
まとめの段階です。

「自己評価」

「自己評価」は、学習目標に対して、自分がどの程度達成することができたかを、自分で評価するものです。

自分の取り組み方や課題を反省し、次の学習に生かしましょう。

学びのキーワード

授業の組み立て 3つの段階
「わかる」「できる」「いきる」

3年次の取組

副題：「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手びき」・「学習デザインガイドブック」の活用～

4月

4月に「学習の手引き」を生徒へ配布し、学年集会で内容の説明

教師は「学習目標の提示」など、「学習の基本的な指導事項」とした4項目を日常実践で取り組むことを改めて共通理解

10月

生徒、教師双方へ、質問を対応させたアンケート調査

11月

公開研究会にて本校の研究について外部からの評価をいただく

アンケートの質問項目

- 1 「学習目標」の提示状況
- 2 「学習目標」の提示の成果
- 3 「学習予定」の提示状況
- 4 「学習予定」の提示の成果
- 5 基礎・基本の指導
- 6 「自己評価」の実施状況
- 7 「自己評価」の成果
- 8 「わかる・できる・いきる」について

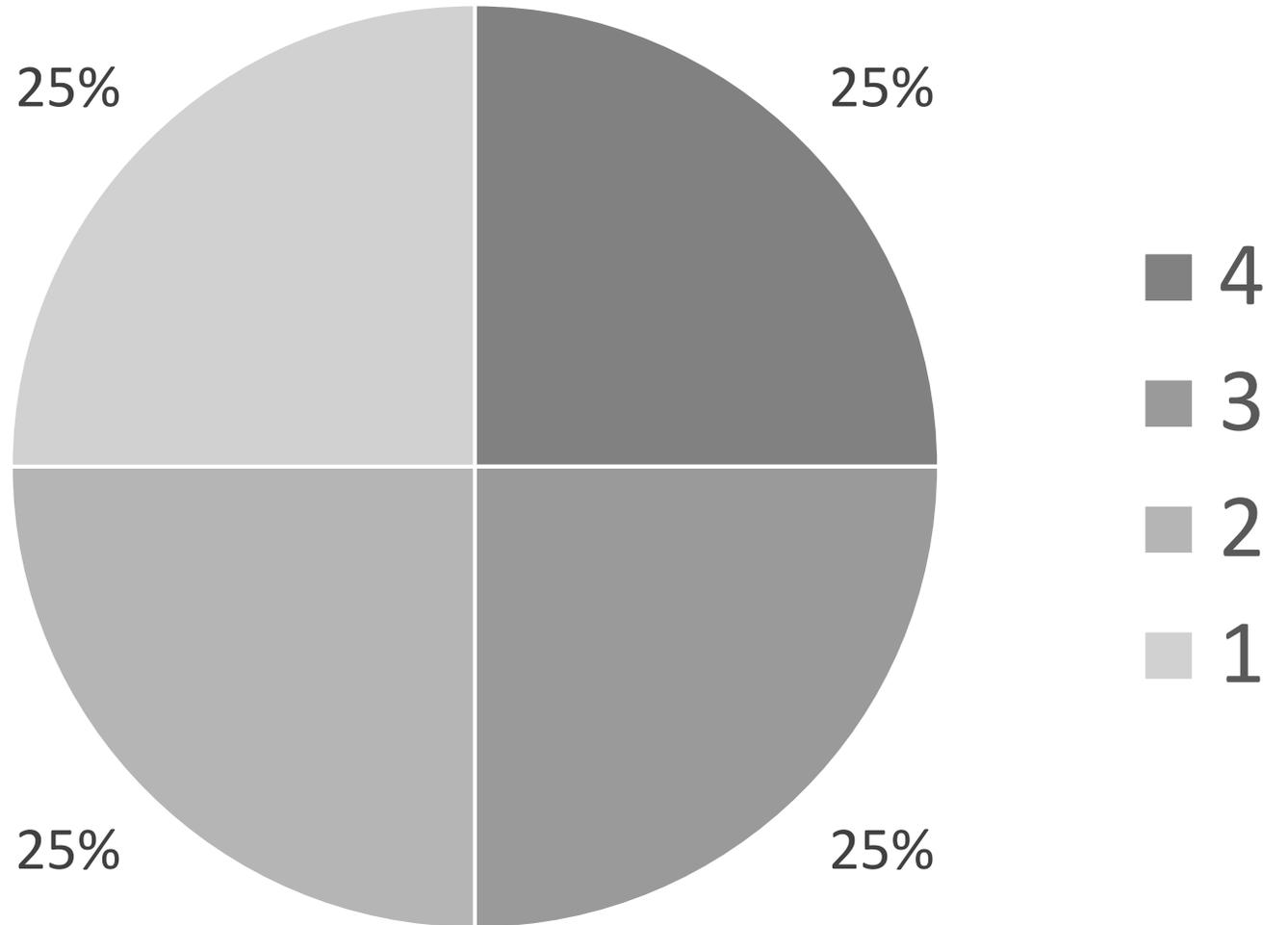
グラフの読み方

4段階評価 色が濃いほど評価が高い

- 4:十分に評価できる
- 3:概ね評価できる
- 2:あまり評価できない
- 1:全く評価できない

集計数

教師:43 生徒:65

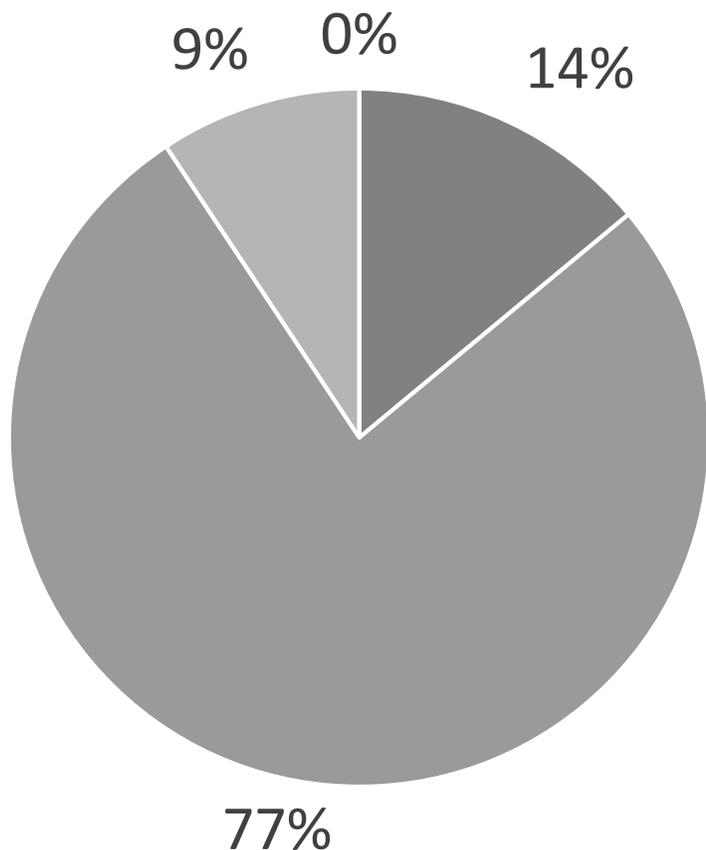


1 学習目標の提示の状況

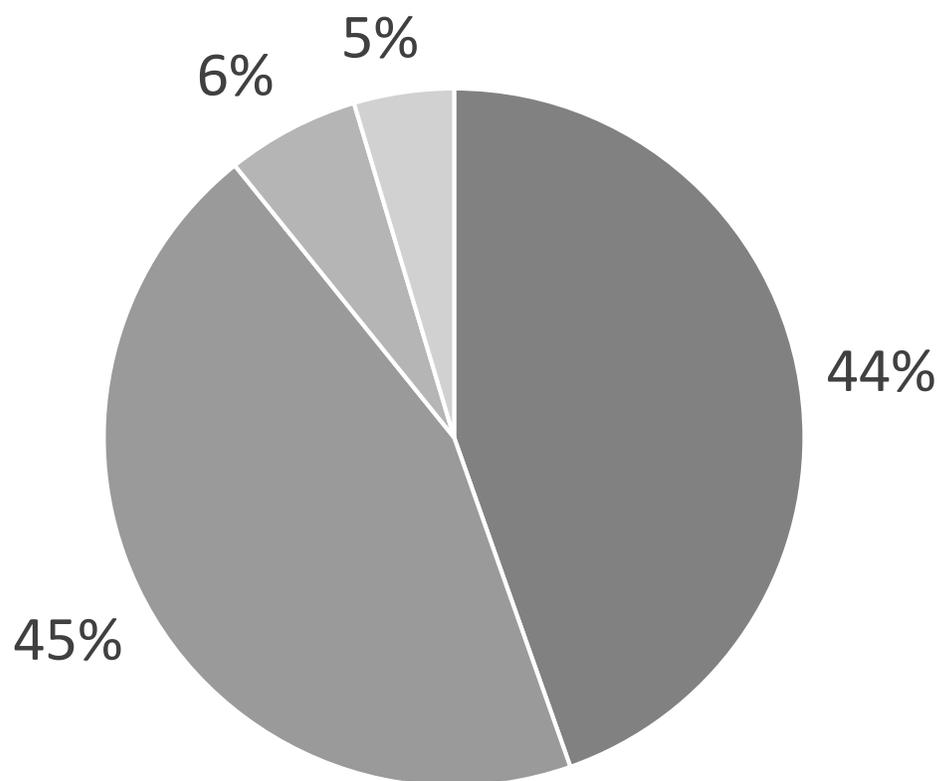
教師:教科の特性等に応じて適切に設定し提示しているか

生徒:どの授業でもわかりやすく提示されているか

教師の評価結果



生徒の評価結果



生徒のコメントから

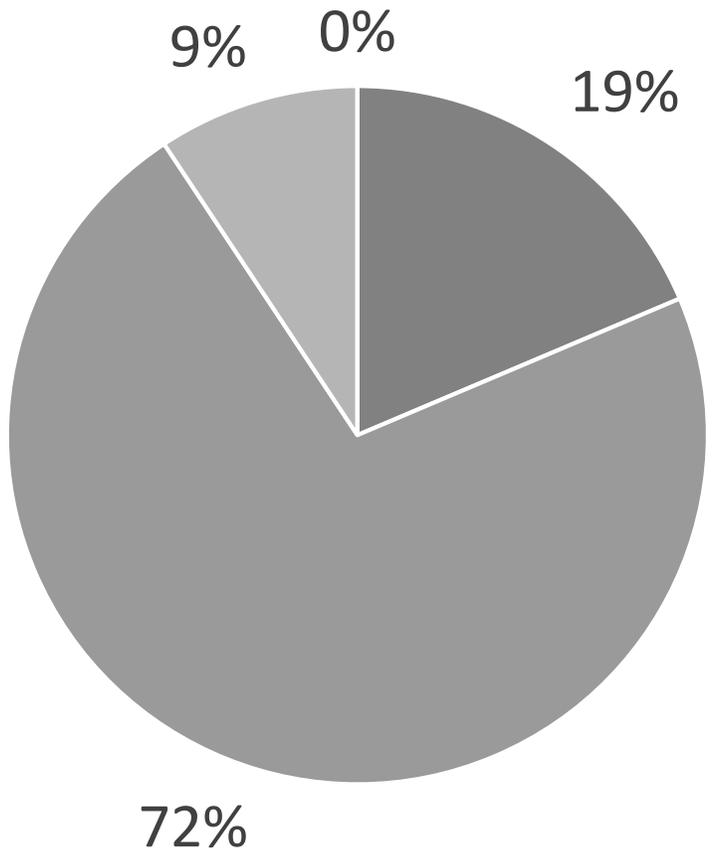
- 授業の最初にわかりやすく示されている
- 黒板やスライドに書いてあり理解しやすい
- 意識していない
- 目標が曖昧だから

2 学習目標の提示の効果

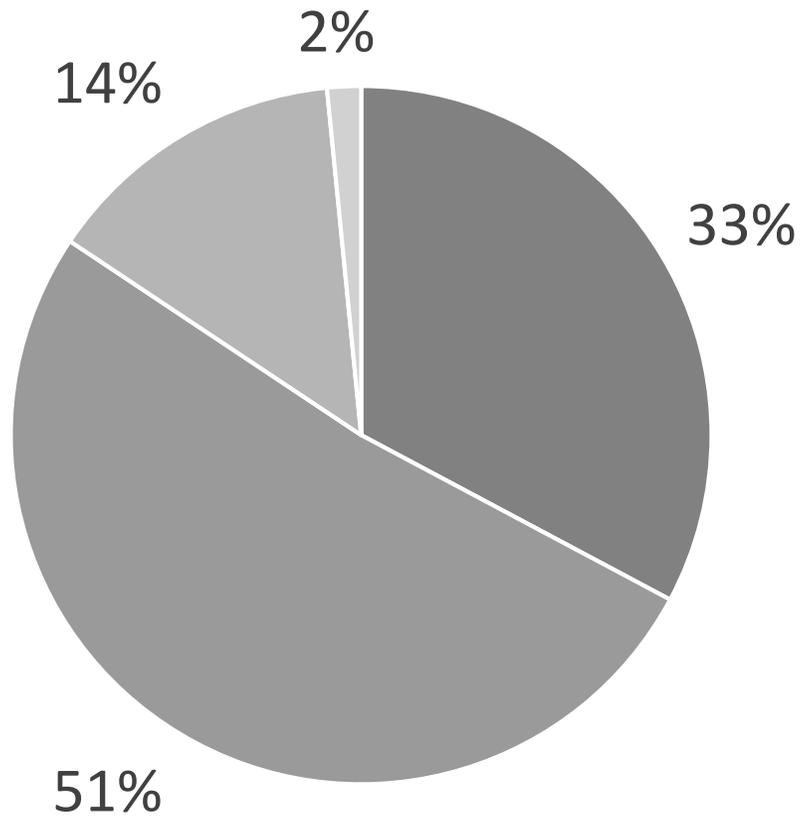
教師：提示により生徒が主体的に取り組んでいるか

生徒：何が出来るようになるか理解し見通しをもって取り組んでいるか

教師の評価結果



生徒の評価結果



生徒のコメントから

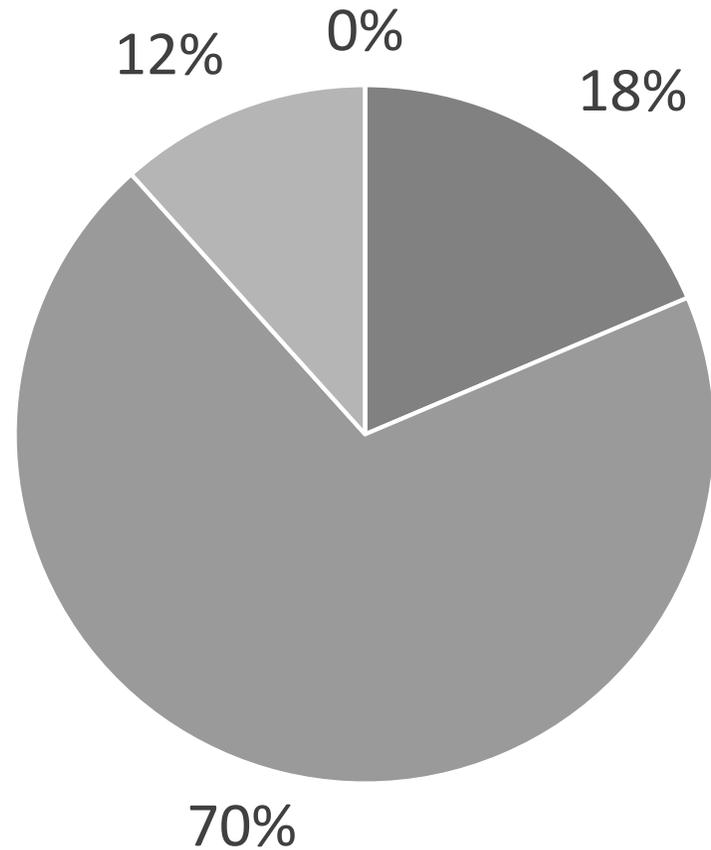
- 一つの目標に向かって進めていると思う。
- モチベーションにつながりやすくなります。
- 先生に言われてやっている。
- 見通しをあまり持っていない。

3 学習予定の提示の状況

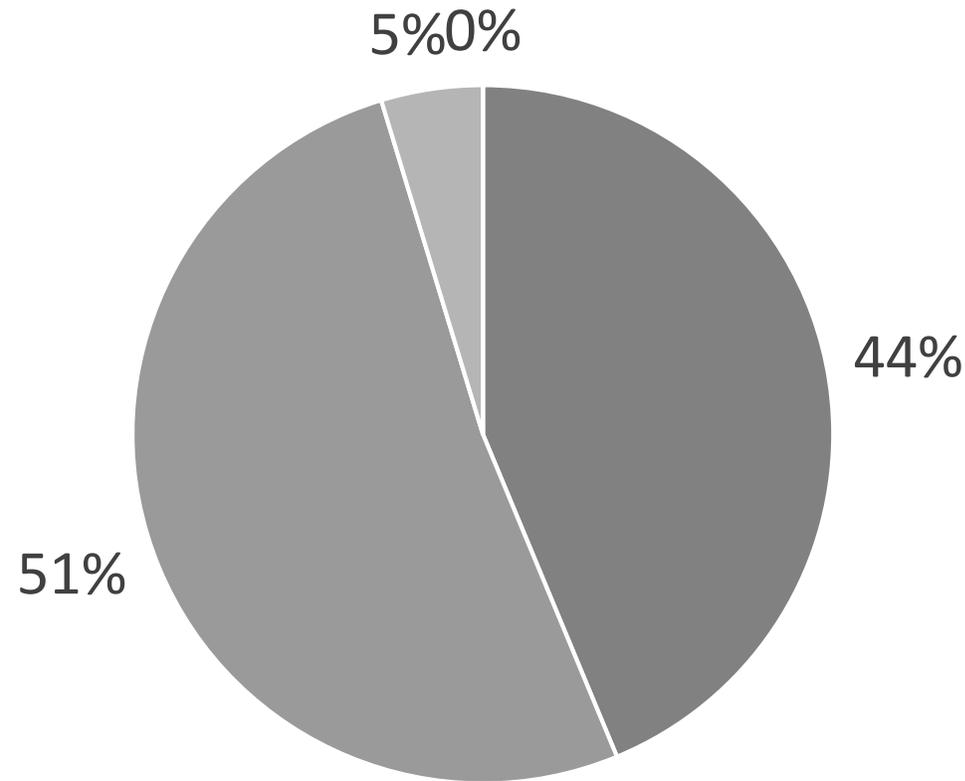
教師:教科の特性等に応じて適切に設定し提示しているか

生徒:どの授業でもわかりやすく提示されているか

教師の評価結果



生徒の評価結果



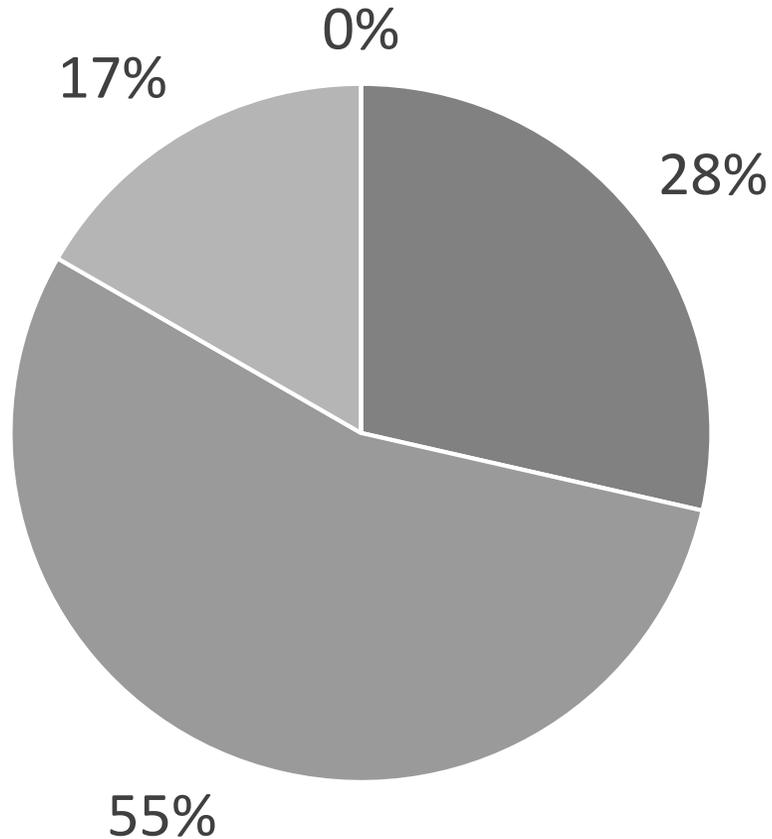
生徒のコメントから
○授業の最初にしっかりと教えてくれる。
○よくわかりやすく理解がしやすい。
●時々変更があった

4 学習予定の提示の効果

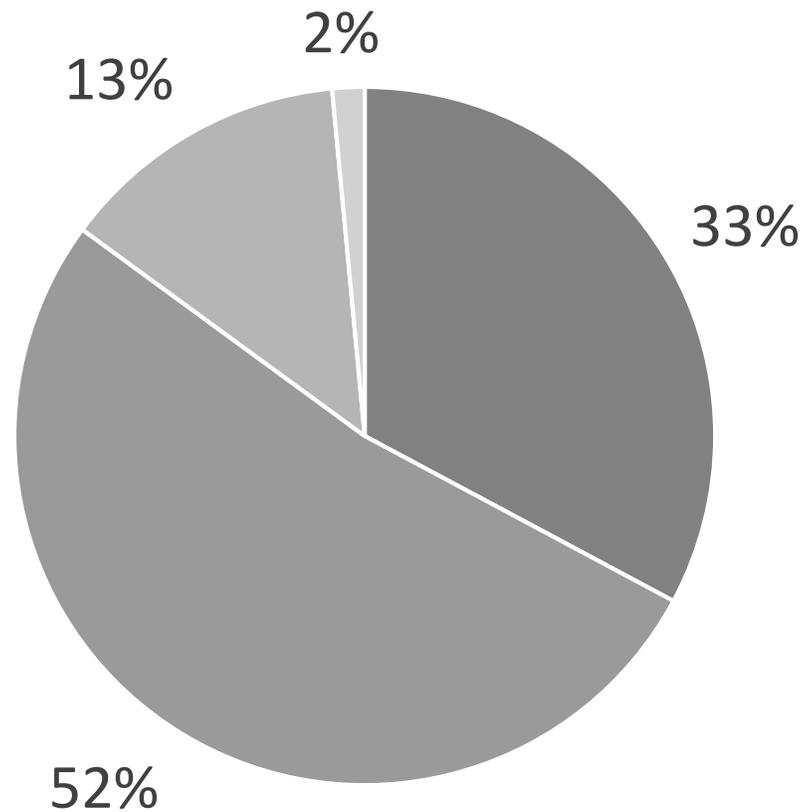
教師：提示により生徒が主体的に取り組んでいるか

生徒：学習の進め方を理解して見通しをもって取り組めているか

教師の評価結果



生徒の評価結果



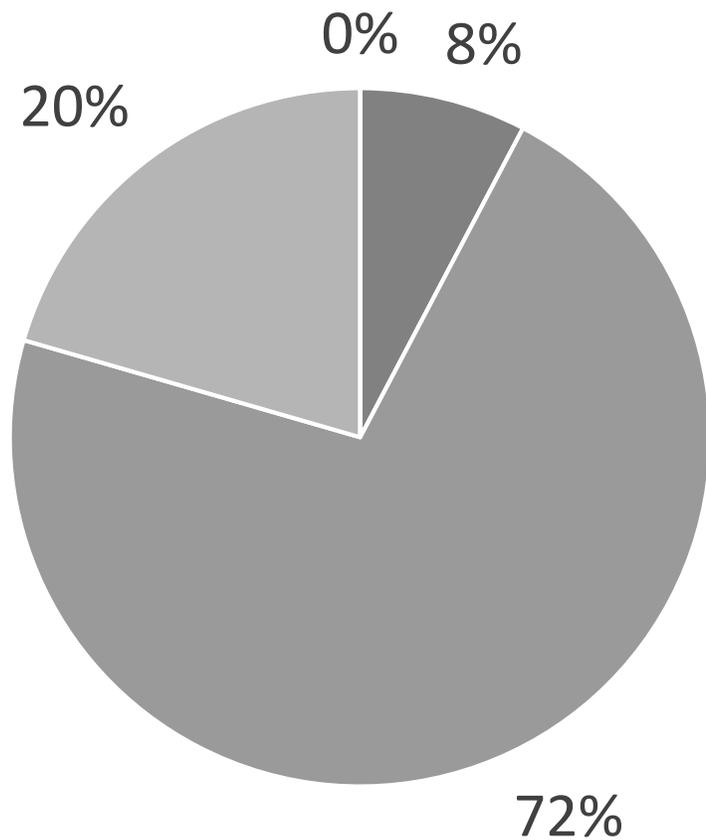
- 生徒のコメントから
- 授業の進め方がわかりやすい。
 - ちよつと無視してしまうことがある。
 - 見通しをもっても忘れてしまいます。
 - 授業が潰れて納得しないことがあった。

5 基礎・基本の指導

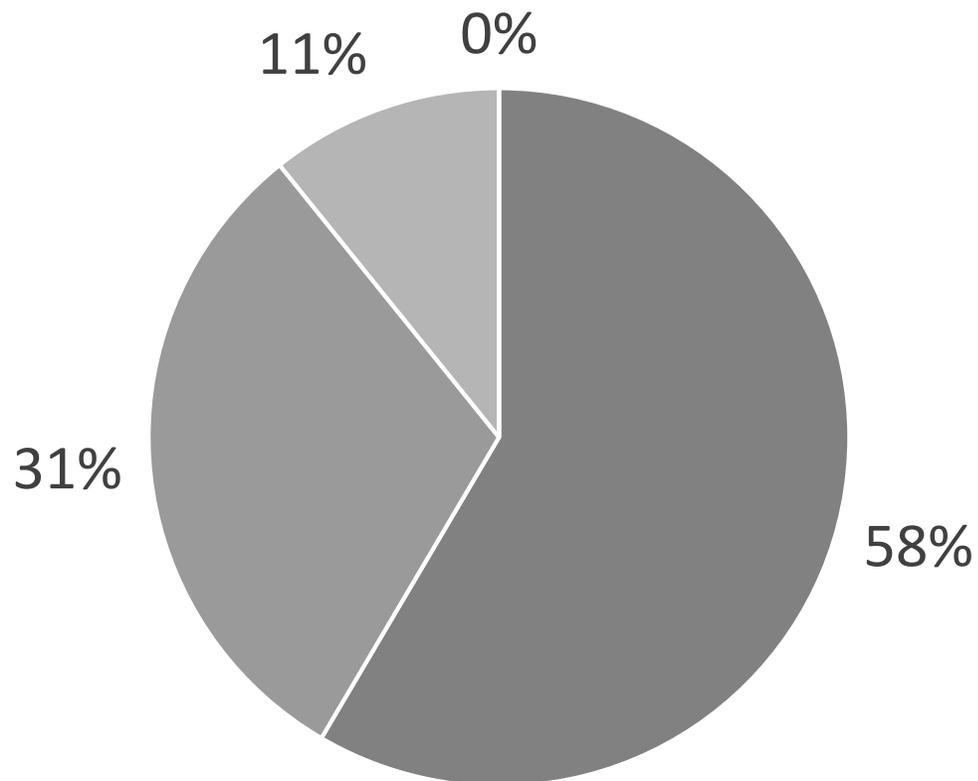
教師：基礎基本を十分に身につけた状態で学習に取り組んでいるか

生徒：どの授業でも基礎基本がわかりやすく指導されているか

教師の評価結果



生徒の評価結果



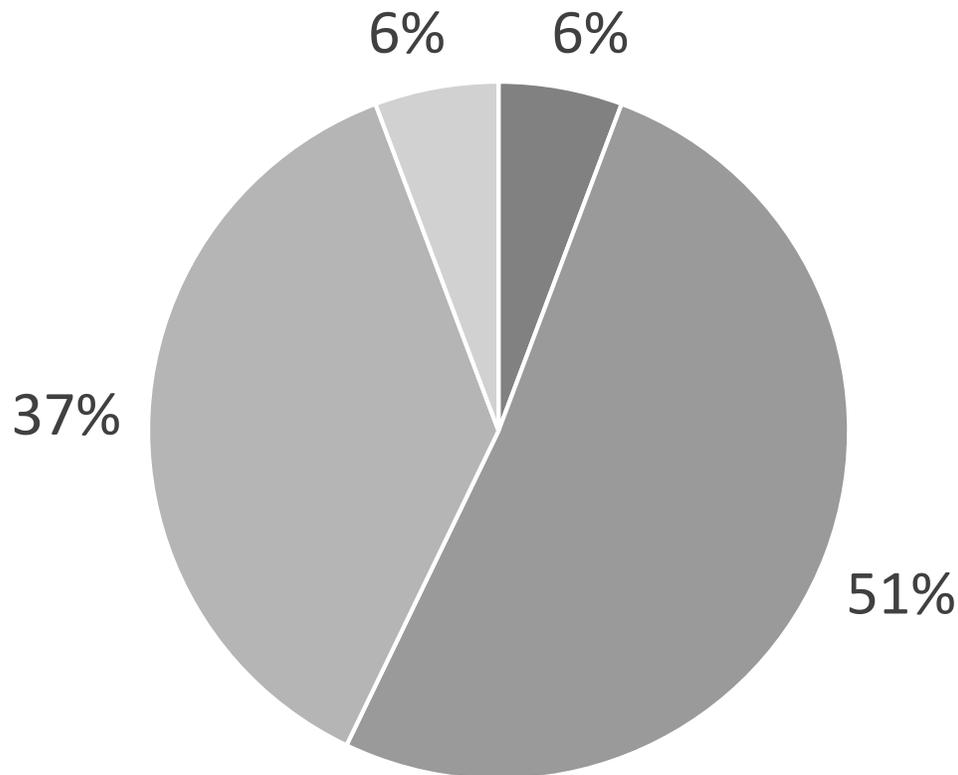
生徒のコメントから

- 重要なことは初めのうちに指示される。
- スライドなどで説明してくれる。
- 作業学習ではそう思う。
- たまに早く言ってくれればと思うことがある。

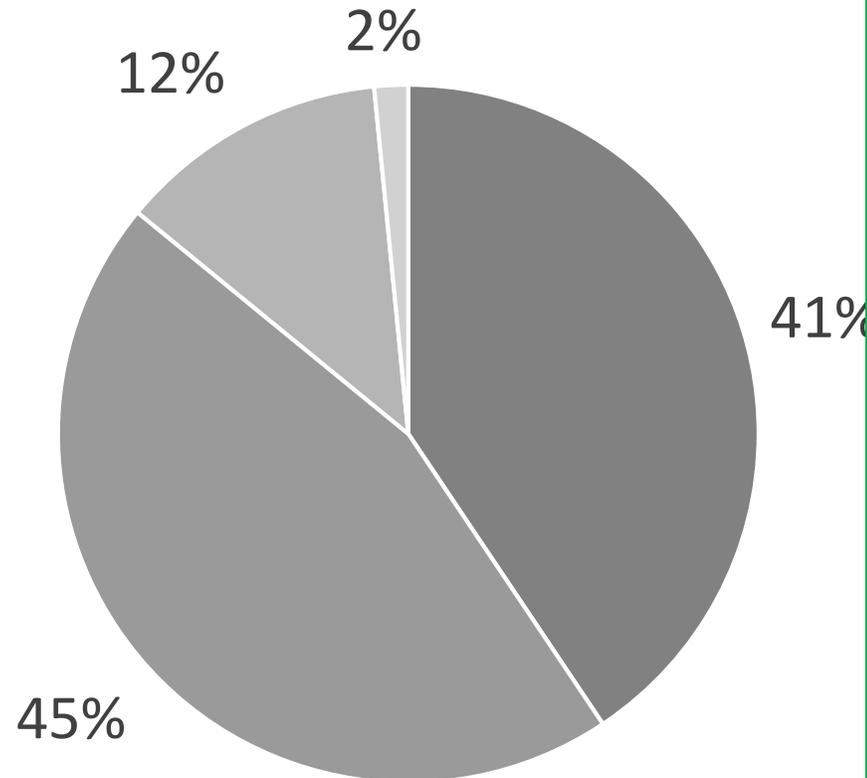
6 自己評価の実施状況

教師：‘学習のまとめり’の中で適切に設定しているか
生徒：どの授業でも行われているか

教師の評価結果



生徒の評価結果

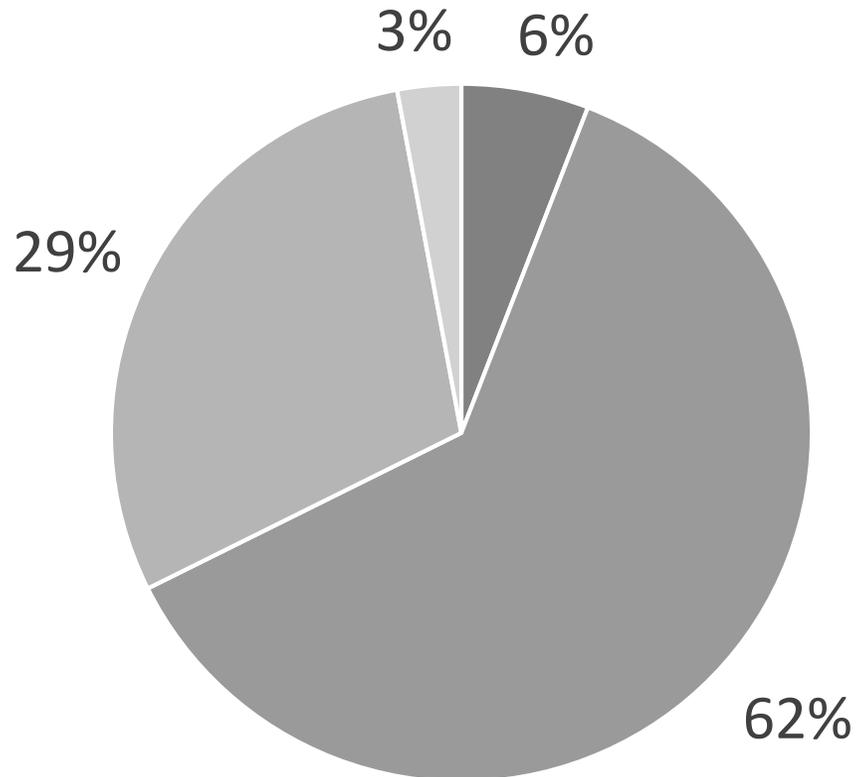


生徒のコメントから
○ 良い点、課題がわかるので大切だ
● 作業学習で行われている。
● 授業による。
● 行わない授業もある。

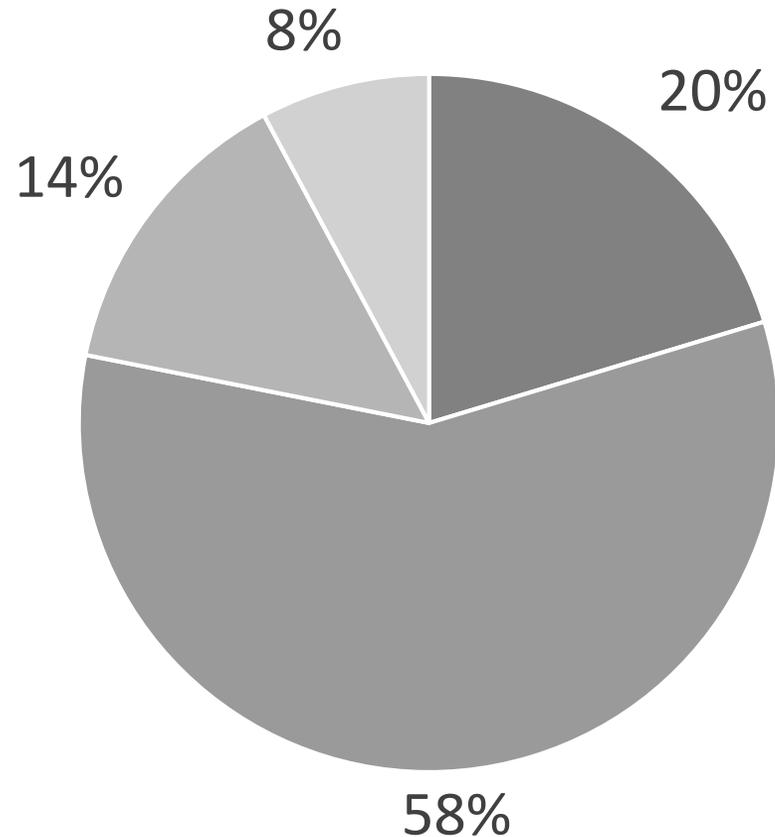
7 自己評価の成果

教師：次の学習や他の授業、日常生活に生かしているか
生徒：次の学習や他の授業、日常生活に生かしているか

教師の評価結果



生徒の評価結果



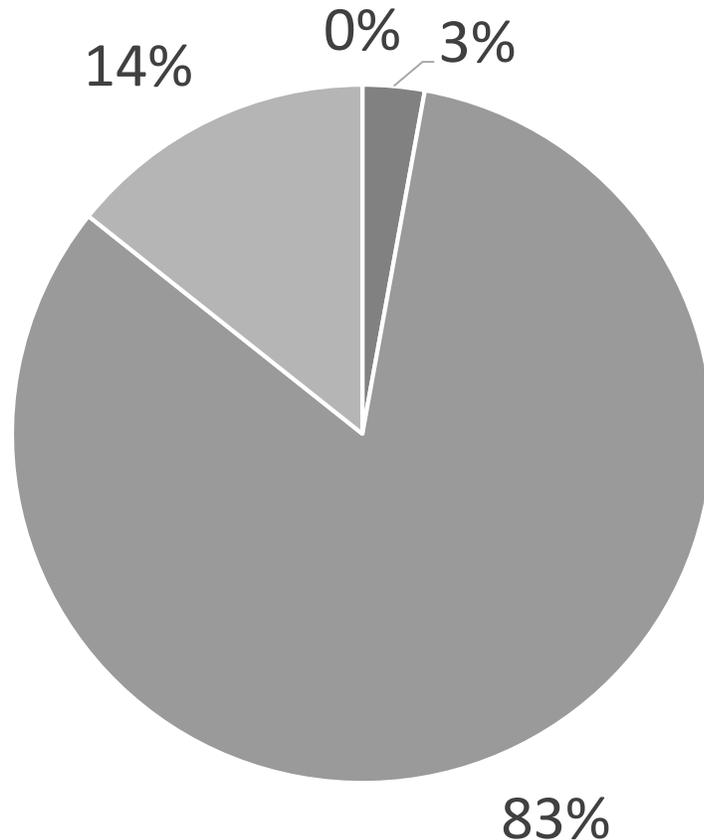
- 生徒のコメントから
- 自己評価を意識して日常生活を送っている。
 - 作業効率が始めより早くなっている。
 - 次の学習に生かすため日誌を書いている。
 - 次の日で忘れず。
 - なおすことがあまりできていない。

8 授業を「わかる」「できる」「いきる」で組み立てていることについて

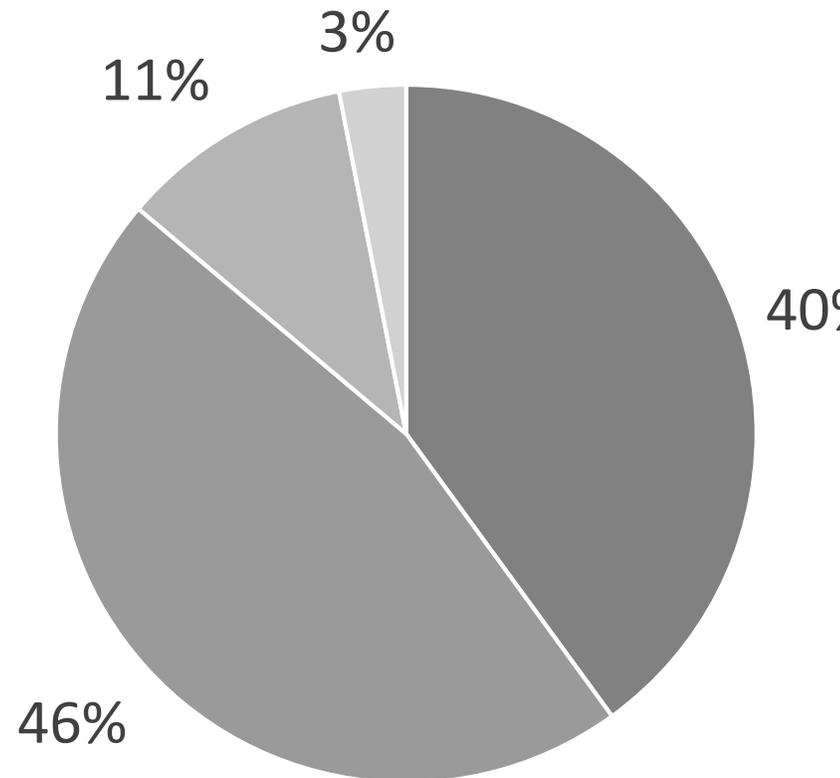
教師：概ねこの組み立てに沿った学習展開をしているか

生徒：このような授業の進め方で授業がわかりやすくなっているか

教師の評価結果



生徒の評価結果



生徒のコメントから
○一つの目標に向かって進めていると思う。
○分かりづらい授業もあるがほとんどがわかりやすい。
●何でこうなるのと思う場面が結構あった。
●全部が全部そうではない。

アンケートの読み取り(成果につながる結果)

① 「学習目標」「学習予定」の提示とその効果、「基礎・基本」の取組については、4、3と評価した割合が生徒、教師とも8割以上である。

②「わかる」「できる」「いきる」による授業については、教師の8割が、「この組み立てで授業を進めているか」、について4、3と評価し、生徒の8割が授業が「わかりやすくなっている」と評価している

アンケートの読み取り(課題につながる結果)

- ① 教師の43%が「自己評価」の実施について2、1と評価した。
- ②生徒の41%が「自己評価」の実施について、4(どの授業でも実施している)と評価したが、その効果(評価が次の授業などに生かされている)について4と評価した生徒は20%であった。
- ③「わかる…」による授業について4(十分に実践できている)と答えた教師は3%であった。

アンケートのまとめ

①「わかる・できる・いきる」の視点による授業改善は、教科の特性や、個々の教師の取組の程度により差はあるが、全体としては概ね取り組むことができた。

②生徒は授業の基本的な組み立てや「学習目標」「学習予定」「基礎・基本」の大切さなどを意識できた。

③「自己評価」については‘学習のまとめり’での実施が十分でないことと、次の活動、他の活動に生かされる評価の在り方に課題があることが改めて確認できた。

3カ年の研究の成果と課題

【成果】

①「主体的・対話的で深い学び」について、学習指導要領の趣旨に基づきながら、授業改善のポイントを「生徒自身の学びになる」ととし、その学びとなるための視点を「わかる」「できる」「いきる」として「学習デザインガイドブック」を作成し、その妥当性を、日常実践を経て考察するなかで、本校としての「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の在り方をまとめることができた。

②「わかる」「できる」「いきる」の視点を生徒にも理解してもらい、授業の組み立てについて生徒、教師が同じ理解をするための「学習の手引き」を作成し、本校における「主体的・対話的で深い学び」の授業改善を試行した。

3カ年の研究の成果と課題

【課題】

①「学習の手引き」は今年度の春から使用を始めたばかりなので、生徒のアンケートでは高い評価であったが、それが研究の成果であるかは疑問である。継続して取り組む中で有用性を評価し、更に活用できるように改善していきたい。

②各教師の授業が、より「生徒自身の学び」となるよう、「わかる」「できる」「いきる」の視点での授業改善に引き続き取り組み、それぞれの日常実践の充実を図りたい。特に‘学習のまとめり’における自己評価を適切に行い、学んで得た力を次の学習や日常生活などに、より生かせるようにしていきたい。

③本校の研究の妥当性については、これまでもいくつかの外部評価をいただいていたが、3か年のまとめとして、改めて客観的な評価を参考に、研究の成果をまとめたい。

※研究仮説の検証は公開研究会の参加者アンケートをもとに行います。

結び～3カ年の研究に取り組んで～

- ・「主体的・対話的で深い学び」とはどういうものか、に答えられる研究になったとはっきりとは言えないが、そのポイントを「生徒自身の学びとなる」こととし、その視点を「わかる」「できる」「いきる」とまとめたことが良かった。

- ・日常実践で学校全体で取り組むということで、内容の協議や共通理解のための時間が十分に確保できなかったが、みんなで協力しながら取り組んできた。研究の充実と、時間の確保、みんなで意欲的に取り組める内容や進め方の設定が難しい。

公開研究会 アンケート結果のまとめ

- ・外部参加者、本校職員いずれも、どの項目においても、4段階に換算して平均が‘3’以上となっていることから、良い評価が得られている。
- ・「3」の、(1)本校の研究が「主体的...な学び」の実現に向けた授業改善の趣旨に沿った取組となっているか、についてと、(2)「わかる...」の視点及び「ガイドブック」「手引き」の活用については、外部参加者から‘3.5’、‘3.6’の評価を受けており、研究の内容は客観的にもプラスの評価を受けることができた。
- ・各公開授業および分科会（研究協議）」についても‘3’以上の評価を得ていることから、公開授業による実践発表においても、研究に沿った取組が評価されていると考える。
- ・研究のまとめは、公開研の外部評価を得て最終的なまとめを行うこととしていたので、アンケート結果を踏まえた上で、研究仮説の検証及び校内研究の最終的なまとめを行う。

研究仮説の検証

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方を、学習活動が「生徒自身の学び」になることと押さえ、そのような学習活動となるための基礎・基本としてまとめた「わかる」「できる」「いきる」視点による学習指導と「学習の手引き」の活用により、生徒と教師が同じイメージをもって学習に取り組んだことは、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善として、その趣旨に沿った取り組みとして妥当であり、実践を経て、ある程度の成果を得ることができたものと判断し、仮説は検証されたとするが、今後も各教師がこの視点を活用しながらそれぞれの授業改善を更に充実させていくことが肝要であることを全体で確認し、仮説の検証とする。

「4 今年度の研究の視点
(3)単元・題材指導計画の
作成、改訂作業」について

校内研究での単元・題材指導計画 の取組各グループの反省から

質問	回答の選択肢	回答数
(1)担当教科等の単元・題材指導計画の作成状況は？	①全て・概ね作成できている	0
	①②の間	1
	②5割程度できている	4
	②③の間	5
	③ほとんどできていない	7
	④確認していない(→理由記入)	1
(2)今後の作成についての見通しは？(複数回答可)	①作成担当者を決めるなど見通しあり	6
	②教科会議で作成することは確認した	7
	③作成上の課題があり進展していない	6
	④作成の見通しを確認していない	7
(3)「(2)」で③と回答した方は、どのような課題があるかご記入ください。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文言などを少し変えるとよい ・ 指導配列表は制作したが指導計画の作成は少し負担を感じている。 ・ 教科会議いつも3～4名のみ ・ 行事を担当する部署で制作していく方向で検討中のはず。 	
(4)校内研究で単元・題材指導計画の作成についてグループで取り組んだことの成果は？(複数回答可)	①計画作成が進んだ	4
	②作成上の課題が明確になった	8
	③時間が足りなかった	10
	④やることが分からなかった	0
	⑤取り組んだが成果はなかった	0
	⑥グループ編成に難があった	0
	⑦その他	・ 公開研と絡めて制作できた

単元・題材指導計画作成の18グループの報告から

①作成状況

- ・5割程度制作：4グループ
- ・多少～ほとんど制作していない：12グループ

②今後の見通し

- ・担当者を決めている、教科会議で作成を進める確認をした：13
- ・課題があり進めていない、見通しを確認していない：13

③取組の成果等

- ・制作が進んだ 4
- ・課題が明らかになった8
- ・時間が足りなかった10

単元・題材指導計画作成の取組の成果と課題

【成果】

- ・各教科等の作成状況をそれぞれ確認し、作成上の課題を明らかにできた教科もあった。
- ・カリキュラム・マネジメントの視点からも、シラバスの学習内容に対応して、各教科等で作成するものとすることを全体で確認した。

【課題】

- ・作成の課題の解決の見通しがもてない。
- ・時間の確保

再確認(校内研究5で確認した内容)

本校における単元・題材指導計画についての押さえ

「単元・題材指導計画」は、カリキュラム・マネジメントの視点および、各教科等の指導内容について、教育課程上の位置付けや育成すべき資質・能力を明らかにし、学習目標の達成に向けて学習活動を効果的に計画するために、シラバスの学習内容に対応して各教科等で作成するものである。

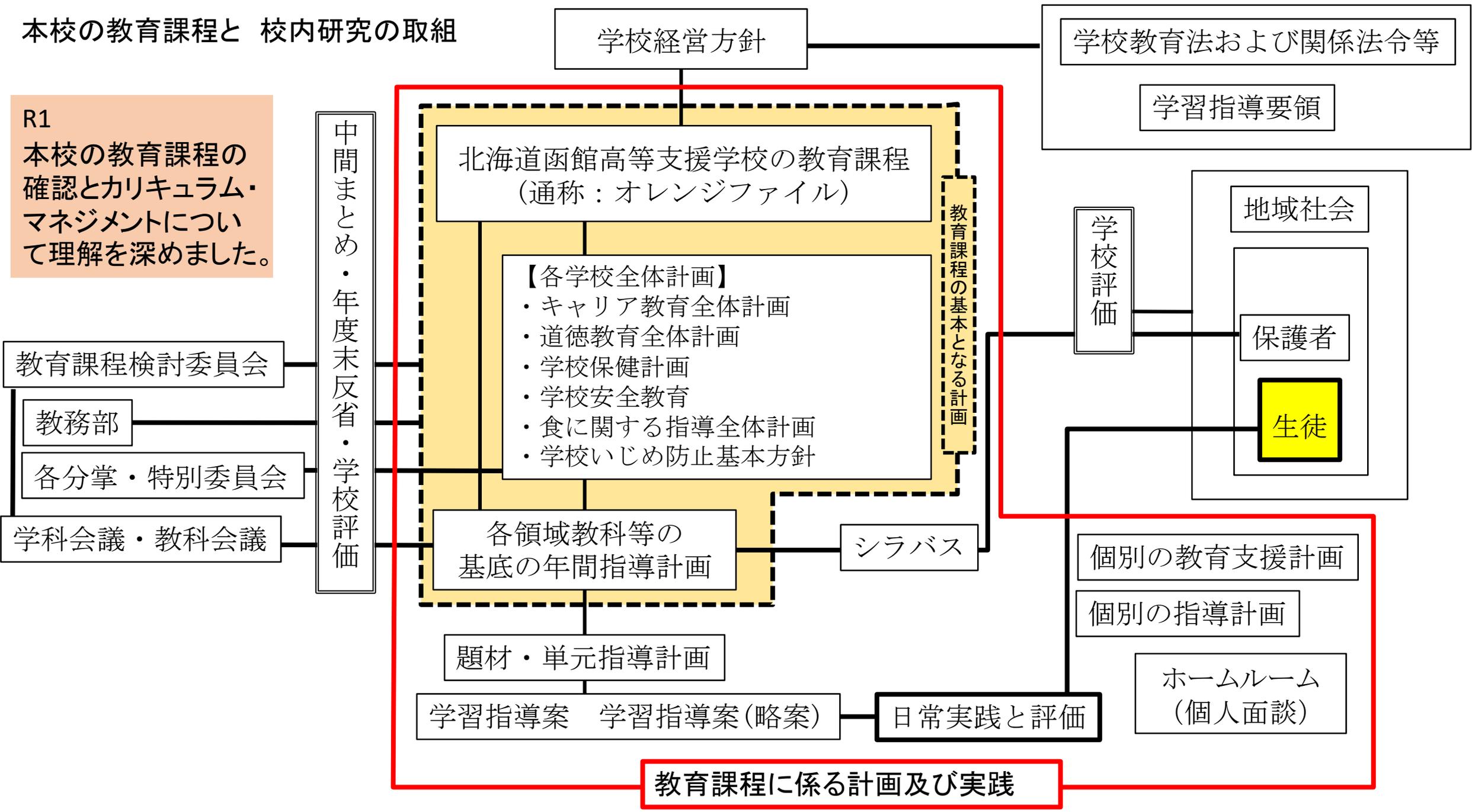
今後の単元・題材指導計画の作成について

- ①「本校における単元・題材指導計画についての押さえ」に基づいて制作する。
- ②計画の作成、整備については各教科会議で行う。
- ③制作した計画は共有フォルダの、「6教科」内の各教科のフォルダに保存する。(保管場所の統一)
- ④行事や他教科との関連のある内容については分掌、教科等関係部署と連携して計画の内容を整理する。
- ⑤作成上の課題がある場合は教科担当者間で共有し、協力して解決を図る。

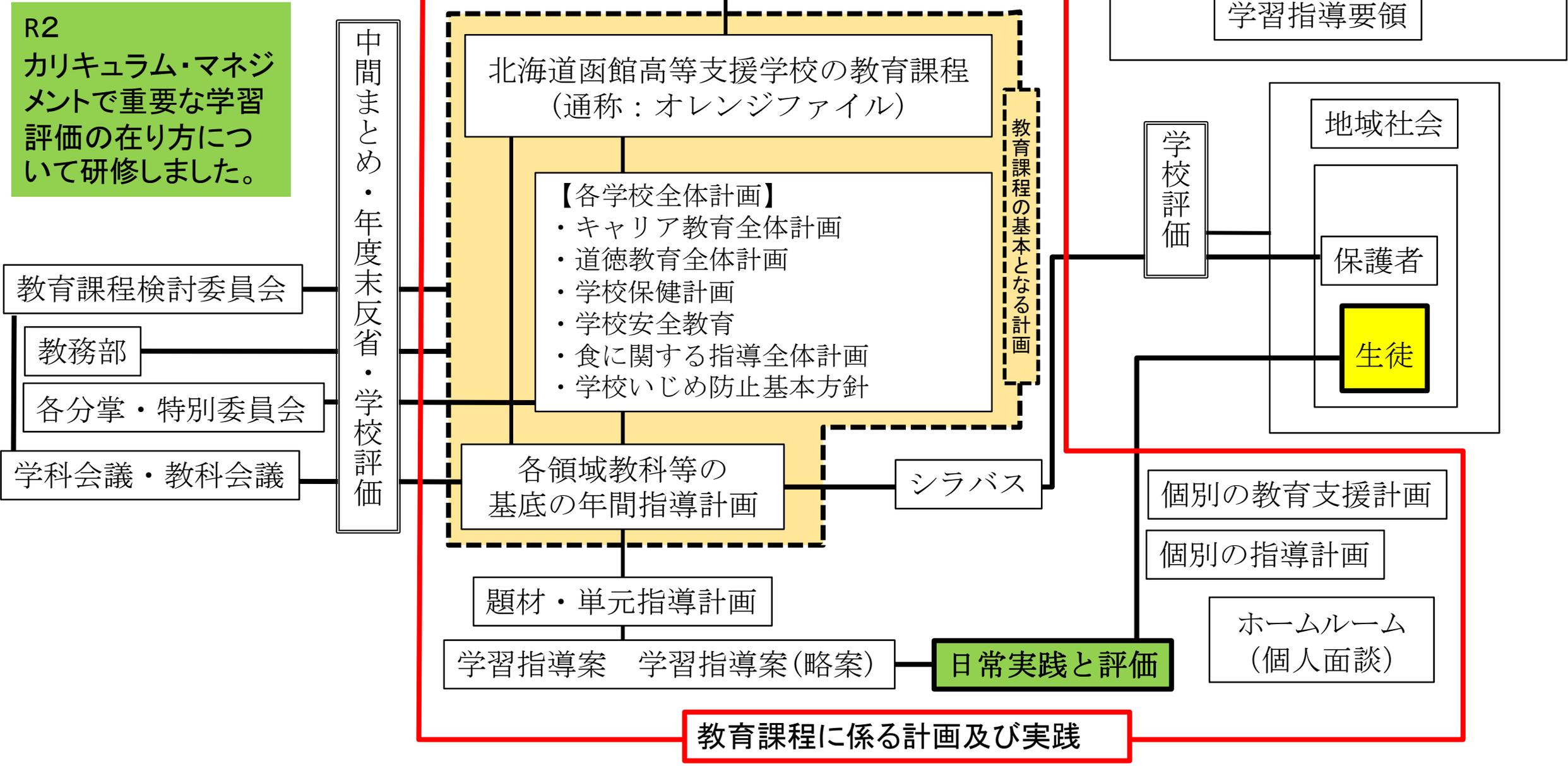
2 次年度の校内研究について

開校からの研究の取組

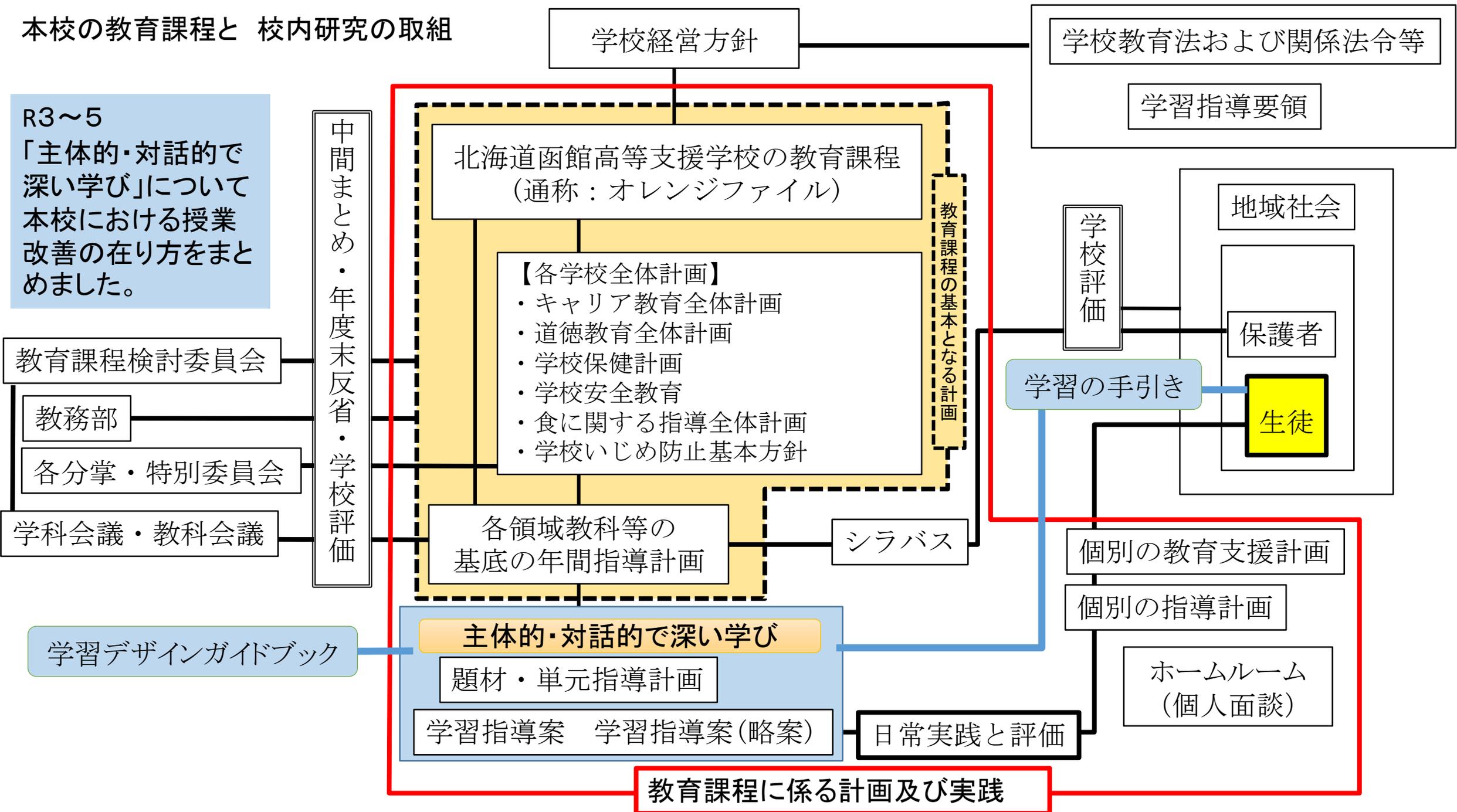
本校の教育課程と 校内研究の取組



本校の教育課程と 校内研究の取組



本校の教育課程と 校内研究の取組



これまでの研究の取組から...

- ・学習指導要領の趣旨に沿い、教育課程の構造や授業改善の在り方について共通理解を図った。

 - カリマネ、評価、「主体的...学び」

- ・今後は、各教科等における内容の整理・充実が必要である。

 - 教科等横断的な視点による学習の充実

 - 各全体計画や単元配列表の活用

 - 単元・題材指導計画の作成、学習のまとまりにおける評価

研究の進め方の課題(アンケートなどから)

- ・より教師のニーズに合った内容に
 - 生徒理解・支援の在り方について研修したい
 - より日常実践に生かされる研修を
- ・研修時間・量の設定
 - 負担感がある 活動量が多い
 - 研究以前に、通常の教育課程整備の時間もなかなか取れない
 - 取組内容の説明を聞くので精一杯。みなさんで意見を交流したり、考えたりする場が持てない。参加意欲の低下。
- ・進める側にも困難さがあります
 - スタッフ不足 1分掌並の業務量を3人で。

今後の研究の在り方

1 本校の校内研究の目的（今年度までの内容）

- ①本校の教育課程の改善充実を目指す。
- ②教職員の専門性の向上を図る。
- ③教職員の協働意識を高め、チーム学校力を向上させる。
- ④研究の成果を日常実践に活かすと共に、研究成果を積み重ね、指導・支援におけるHKSスタンダードの確立を目指す。

→次年度も踏襲

2 校内研究計画の方向性

①単年度研究

- ・学校課題に即し、実効性のある成果の出せる内容としたい。

②実践研究(研究授業の実施)

- ・日常の学習指導力の向上のため、開校以来の研究授業の実施を継続

③教師が主体的に取り組める内容、進め方

- ・必要性が感じられる内容。研修の時間と量の適切な設定
- ・係主導ではなく、グループが主体となって進める。
- ・年間を通して1つの研究に取り組むことにこだわらず、学校課題に関連する複数の研究に取り組む。

3 令和6年度校内研究について(案)

1 研究テーマ

教育課程と学習指導の改善充実～開校から5年間の成果と課題を基に～

2 研究内容

(1)学科・教科研究(4回)

(2)生徒理解、支援方法についての研究(2回)

(3)授業研究

研究内容の概要 (1)学科・教科研究

ア 研究グループ

- ①自立活動 ②道徳 ③TKK ④普通科職業及び総合
- ⑤職業学科作業学習 ⑥その他(アンケートにより設定)

イ 研究内容:「主体的...学び」に向けた授業改善

○教材開発

○シラバス・単元・題材指導計画の作成、見直し

○教科等横断的な視点による指導の充実

ウ 進め方

- ・教育課程検討委員会、教科会議と連携
- ・希望を集約しグループを編成
- ・年度末に各グループの研究成果を発表

研究内容の概要 (2)生徒理解、支援方法についての研究

- ・これまでのアンケートの中で実施を希望する声がありましたので、ご意見をいただき、実施を検討したいと思います。
- ・ただ、ねらいややり方を工夫しないと、ただそれぞれの指導観を述べて終わりということになりかねません。
- ・このような取組が必要か、どのような形で行えばよいか、広くご意見をいただき、実施について検討します。

＜取組み方の例＞

- ①支援の方法についてみんなで話し合いたいと思う生徒を数名抽出する。
 - ②グループに分かれ、抽出生徒への支援の在り方を話し合う。
 - ③グループで話し合ったことをまとめて全体で交流する。
- 実施の賛否、方法等アンケートでお寄せください。

研究内容の概要 (3)研究授業

ア 校内研究として、本校在籍中に1人5年に1回研究授業を行うのはどお？

イ 研究授業のテーマは、各年度の研究主題、内容に合わせて設定します。

次年度：「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善」

ウ 次年度1回目目の校内研究で各自の実施年度を決めます。(くじ引き・談合)

エ 研究授業で制作するもの：単元・題材指導計画・学習指導略案(校内研究用)

オ 研究授業の実施日は、①校内研究会を設定 ②校内研究授業週間を設定

③授業者が任意に設定 などから考え、今後計画。(当面公開研はしない)

カ 初任段階対象者は3年目までは、毎年研究授業を実施します。(来年いない)

4 研究としては取り組みませんが・・・

1 学習デザインガイドブックと学習の手引きの扱いについて

(1)学習デザインガイドブックについて

ア 基本的な指導事項4項目(学習目標・予定、基礎基本、自己評価) は、教科等に合わせた形で日常の指導で継続。

イ 新赴任者には着任時の研修で配布、説明。

ウ 内容の見直しについては教務部研究係で行っていく。

(2)学習の手引きについて

ア 2, 3学年は学習のルールとマナーの確認を年度始め、学期末等に学年集会等で実施。

イ 1学年については年度始めの学年集会等にて内容全般について説明。

ウ 内容の見直しは教務他、各教科、分掌等に割り振る。(今後提案)

「学習の手引き」 R6年度版について

「学習のルールとマナー」の
後に、「メモを取ろう」という
項目を付け加えることをこの
場を借りて提案します。

ご意見ください。



人は話を聞いて覚えてつもりでいても、時間が経つと忘れてしまいます。

学校生活の中ではいつもメモを持参し、必要なときにすぐにメモを取る習慣を身に付けましょう。

【メモを取る場合のポイント】

- 授業の終わりや SHR で連絡のあった持ち物、提出物などは必ずメモする。
- 講演などの話を聞きながら参考になる内容などをメモする。
- 聞いたこと、見たこと全てをメモしようとしなくて、大切なこと、必要なことだけ、ポイントを絞ってメモを取るように心がける。
- いつでもメモがとれるように、ペンとメモ帳を携行する。



公開研究会研究授業
学習指導案

令和5年度 総合的な探究の時間 学 習 指 導 案

日 時 令和5年11月17日(金) 2.3校時
9時50分～11時40分

場 所 視聴覚室

生 徒 学科 普通科

学年 3学年 7名

指 導 者 教諭 祐川 建一郎 (MT)

教諭 三 笠 加奈子 (ST1)

教諭 岩 本 信 也 (ST2)

1 単元名(題材名) 「本校でできるゼロカーボン」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観「一人一人の発達をどのように支援するか」

本学級は、男子生徒5名、女子生徒2名の計7名で構成されており、知的障害の他に、学習障害や自閉スペクトラム症などを併せ有している。

授業では、日常からタブレット端末を活用しており、全体的に文字の入力や写真撮影などの機器の扱いについて基礎力が身に付いている。何事にも比較的積極的に取り組むことが多く、特に調べ学習については、様々な視点からの見方や考え方が育まれつつある。授業に取り組む姿勢は、活気があり質問に対する反応が良く、記述や入力も概ねできている。

一方、自己完結してしまう傾向にあることから、意図的に協働学習を行い、物事を客観的に捉えることや、他者の意見を柔軟に取り入れることができるような活動が必要であると考えている。

また、探究活動においては、個人で進度に差があることから、課題の量を調整したり内容をさらに詳しく深掘りしたりするなど、最終的にバランスが取れるような工夫や配慮が不可欠である。

さらに、一部、集中力に欠ける生徒もいるため、飽きることなく取り組めるように、個別最適な学びに結びつけられるような課題の提示の仕方などを心掛けている。

卒業後の生活を見据え、日常から、環境問題に結びつけられるような題材を設定しているが、理想と現実を結びつけることに苦慮することが多く、持続的且つ継続的にできる取組を模索している最中である。

(2) 単元(題材)観

ア「何を学ぶか」

近年、地球温暖化が問題視されており、温室効果ガスの実質的排出量をゼロにすることや環境問題への取組は、世界各国の共通認識となっており、日本でも積極的な取組を行っていることを報道等で目にする機会が多い。本校の近くで活動している団体でも、雑草や撤去した花などから堆肥を作り、緑を増やして二酸化炭素の吸収を促進する取組がされており、本校生徒もボランティアで参加させていただくことで、ゼロカーボンについての取組に携わる機会を得ている。

昨年度、S-TEAM教育推進事業の一環で、ゼロカーボンをテーマに、学校ごとに課題を設定し、その解決に向けた探究活動に取り組み、活動計画の作成、探究活動の実施、発表会の実施、他校との意見交流などを経験することができた。この経験を機会に、「本校でできるゼロカーボン」についての活動を継続してきた。

今年度については、地域で取り組まれているゼロカーボンを見聞し、別の視点から本校でできる取組を考え、具体化を目指している。

収集した情報を整理・分析してまとめる、発表する、意見を出し合うなどの学習に取り組むとともに、総合的な探究の時間だけで完結するのではなく、学校生活に生かしたり、教科等横断的な視点による学習で理解を深めたりなど、生徒の興味関心と関連させながら幅広い視点で物事を捉え、卒業後の就労生活にも生かせるような学びとなることを期待している。

イ「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

(ア)「わかる」の視点による授業改善

「学習の手引き」については、使用してからまだ日が浅いが、学習目標を理解することや、自己評価の大切さ、授業の基本的な組み立て、学習のルールやマナーなどの内容を授業の中でも意識できるように指導している。

特に学習目標については、今ある環境の中で実現可能な活動として、「生徒自身が何ができるようになれば良いか」を常にイメージできる目標となるように、最終目的を明確にし、情報共有や視覚化での整理などの工夫を図っている。

(イ)「できる」の視点による授業改善

これまでの学習は、報道や新聞、インターネットの情報、学校の状況を調べて得た情報を基に行ってきた。

校外学習で飲食店に取材し、企業の実践を学ぶことで、新たな視点で「本校でできることは何か」を考え、後日集めた情報を基に整理し、まとめではスライドによるプレゼンテーションを行う計画である。

(ウ)「いきる」の視点による授業改善

昨年度から継続している「環境問題に生かす」こと並びに、地域の飲食店での取組を探究することでの「カフェなど本校での活動に生かす」の2つを探究活動の柱として、主体的に学習に取り組めることができるよう、生徒の興味関心によるグルーピングなども工夫し、生徒の主体的な学びにつなげていきたい。

この学習で付けた2つの力が、卒業後への生きる力になってほしいと願い指導している。

一つ目が、地球環境問題への意識である。自分たちでできる取組があることが分かれば、主体的な学びにつながり、卒業してからも意識的にエコロジーや温室効果ガス排出量の軽減につながる取組を、主体的に継続することにつながるのではないかと考える。

二つ目が、話し合いの力を高める意識である。話し合いのルールやマナーを明確にし、建設的に話し合う経験を積み重ねることで、内容を深める話し合いを意識できるようになってほしいと思う。

また、ツールとしてのクラウドサービスの活用は、情報の共有化をリアルタイムに行えることから、時や場、状況を考えた対応が求められるが、相手に合わせたり自分が主導したりする場面をバランス良く経験することで、主体性だけではなく、他者の意見も受け入れることや、自分の言動に責任をもつことなどの協調性を育むことにもつながり、様々な考え方、見方のあることも実感することができると考えている。

(3) 評価観

「何が身についたか」

学習目標としてキーワードを掲げ、簡潔にまとめられているか、聞き手も作り手もワクワクする内容に整理されているか、本校での取組につなげるために実現可能な内容になっているかの3点について、達成できているかを評価フォームを活用し共有して評価につなげる。

探究した内容が、本校でできるゼロカーボンの具体的な取組になっているかを、他者評価も踏まえて話し合い、現状や環境から分析して評価につなげる。

まとめの発表後にクラウドサービスの共有機能を利用して自身を振り返ると同時に、他者評価を受け入れて改善点を見いだすことができたかの評価につなげる。評価時には、建設的・肯定的な意見になるような評価を心掛けたいと考える。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	高総(6)ア	ゼロカーボンについて理解を深め、本校でできる具体的な取組を調べ、まとめることができる。	地球環境問題に対し当事者意識をもって考え、課題の発見や解決に向けてまとめている。(Google form スライド)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高総(6)イ	情報を収集したり、仲間と話し合ったりしながら、ときには折り合いをつけて取り組み、まとめた内容を発表することができる。	課題の解決に向けて、情報を収集、整理・分析して、まとめ、他者と積極的に肯定的に関わりながら、分かりやすく発表している。(Google form スライド)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高総(6)ウ	課題についての探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組を構想することができる。	地球環境問題と自分の生活とのつながりから、本校で実現可能な方法を見出し、主体的に考えている。(観察)

4 指導計画（全33時間扱い）

月日	時数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
6/20(火) 2~4校時	3	○本校でできるゼロカーボンについて流れを知る。【わかる】 ・昨年度に作った物を思い出し、今後何に取り組むかを確認する。 ○昨年度の発表を振り返る。【わかる】 ・全道の普通科を設定している特別支援学校6校によるS-TEAM教育推進事業での発表会を思い出し、今後の予定を知る。	・訪問する店舗への打診は職員が行う。
6/27(火) 2~4校時 9/5(火) 3.4校時	5	○地域にある地球環境問題に取り組んでいる店舗での探究活動を考える。【わかる】 ・地域の店舗での取組を調べ、質問内容を考える。 ・見学先を選定する ○店舗で質問する内容を考える。【できる】 ・インターネットなどの情報を調べ、調べきれない疑問点を整理し、質問内容を考える。 ※訪問する店舗が変更になったことから、質問内容を再考する。見学は行えないが飲食店で昼食を摂りながら取組を確認する。	・学校祭及び夏休み明け
10/10(火) 1~4校時	4	○質問内容の確認、修正をする。【できる】 ・内容の重複、回答が明らかに分かるものなどは、再考する。 ○本校でできることへつなげる質問の整理・分析を行う。 【できる】 ・予想する回答から、本校で実現可能な取組がないかを考える。	20日間の前提実習明け
10/23(月)	1	○校外学習時のスケジュールの確認を行う。【わかる】	

3.4校時		<ul style="list-style-type: none"> ・タイムスケジュール、流れを確認し、見通しをもつ。 ○質問者の順番を決める。【わかる】 ・順番やマナーなどを決めることで見通しや安心感をもたせる。 	
10/24(火) 1~4校時	3	<ul style="list-style-type: none"> ○実店舗の見学と質問を行う。【できる】 ・あらかじめ準備した質問を担当者に行き、回答をまとめ、整理する。 ○先駆的な地球環境問題への取組を行っている店舗で昼食を摂る。【できる】 ・リサイクルループや安心・安全等の視点で取組を探究し、まとめ、整理する。 	校外学習
11/7(火) 2~4校時 ・ 11/14(火) 2~4校時	6	<ul style="list-style-type: none"> ○質問への回答のまとめ①②【できる】 ・質問への回答を整理し、本校でできるゼロカーボンへの取組につなげられる内容を考え、スライドにまとめる。 	
11/17(金) 2.3校時	2	<ul style="list-style-type: none"> ○探究課題のまとめと発表を行う。【できる】 ・時間や伝え方、表情などを意識した発表を心掛ける。 ○他者評価から次への改善点を探る。【いきる】 ・評価を可視化したもので振り返り、改善等につなげられるようにする。 	本時 (24/33)
11/21(火) 2~4校時 11/28(火) 2~4校時	6	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の発表から、本校でできるゼロカーボンへの取組を考える。①②【できる】 ・前時の発表から具体性のある取組を選択し、役割分担などを決めてスライドなどにまとめる。 	
12/12(火) 2~4校時	3	<ul style="list-style-type: none"> ○本校でできるゼロカーボンへの取組を考える。③【できる】 ・具体性のある取組を選択し、役割分担などを決めてスライドなどにまとめ、可能であれば実践する。 ○単元を通しての振り返りを行う。【いきる】 ・振り返りフォームを活用し、全体で今回の取組の総括を行う。 	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気になりたいという気持ちが先立ち、場にそぐわない言動にあることがあるが、基本的には与えられた役割を全うすることができる。 ・簡潔にまとめて相手に伝えることを現在取り組んでいる最中。 ・タブレット端末を活用し、幅広く検索できる強みをもっている。 	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容を端的にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、聞き手のことを考えながらわかりやすく説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を押し通そうとする傾向にあるが、周りの意見を柔軟に受け入れられるようになってきた。 ・思い通りにいかなかったときに不機嫌になる傾向があるが、本人が課題として自覚できるようになってきてからは、改め切り替えられるようになってきている。タブレット端末の操作は得意である。 	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。

C	<ul style="list-style-type: none"> 本人にとって興味関心が低い事柄に関しては、指導を受け入れられないことがあるが、自分の好きなジャンルのことであれば集中が持続する。 周りのペースに合わせてようと努力できるようになってきている。 調べる内容を絞ることで、時間内にまとめることができる。 	知技	ゼロカーボンについて基本的な内容を理解し、本校でできることをまとめることができる。
		思判表	課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えを織り交ぜながら説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、具体的な探究活動に取り組むことができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> 物事を難しく考えてしまう傾向があるが、自分の言葉で伝えることを優先することで、簡潔にまとめることができるようになってきた。 自分の考えよりも相手の考えを優先するところがあるため、周りと同じ意見であっても、自分の言葉で考えを伝えるように環境設定する必要がある。 指示の理解に時間を要することもあるが、理解することができれば作業速度は速めることができる。 	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、インタビューなどを通し、本校でできる内容にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えに自信をもち、わかりやすく説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> 話しを自分主導で進めていこうとする傾向にあるが、リーダーの役割を他者へお願いするなど意図的に環境を設定することで、話し合いなどでも協調性をもちながら参加することができるようになってきた。 自分の経験の中で物事を完結させようとする傾向があるため、多くの経験を通して学びを深めている。独自の観点で物事を考えている傾向にある。 	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容を丁寧にまとめることができる。
		思判表	課題の解決に必要な集めた情報を仲間と折り合いを付けながら整理し、聞き手のことを考えて説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、みんなでできる具体的な取り組みにつなげることができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをまとめるのに時間を要するが、作り上げたものは考え込まれた内容に仕上がることが多い。 周りの意見を取り入れながら自分の意見も交え考えることができる。 与えられた役割を責任をもち全うすることができる。 	知技	調べ学習を通してゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる具体的な内容にまとめることができる。
		思判表	仲間と協働しながら課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えを盛り込みながら説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、仲間と協働しながら具体的な探究活動に取り組むことができる。
G	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に与えられた指示に対して否定的な考え方をもっているが、忠実に対応しようとする真面目さがある。 文章などにまとめることを苦手としているが、イメージをもちながら、タブレット端末で検索した内容から必要な語句を抜き取りまとめることで負担感少なく取り組むことができる。 	知技	ゼロカーボンについての理解を深め、本校でできる内容にまとめることができる。
		思判表	課題の解決に必要な集めた情報を、助けを求めながら自分の言葉で整理し、自信をもって説明することができる。
		学人	本校でできるゼロカーボンの実現に向けて、現実的な探究活動への取り組みにつなげることができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	調べた内容を整理し、わかりやすくスライドなどにまとめることができる。	調べた内容が正確で、わかりやすさの工夫を図ってまとめている。(スライド等、観察)
思考力、判断力、表現力等	課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えも交えながらまとめ、発表することができる。	情報を整理し、自分の考えを交えながら発表している。(振り返りフォーム、観察)
学びに向かう力、人間性等	探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組について、具体的で現実的な内容を考え、実践につなげようとするすることができる。	実践可能なゼロカーボンへの具体的な取組を考え、実践につなげている。(観察)

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

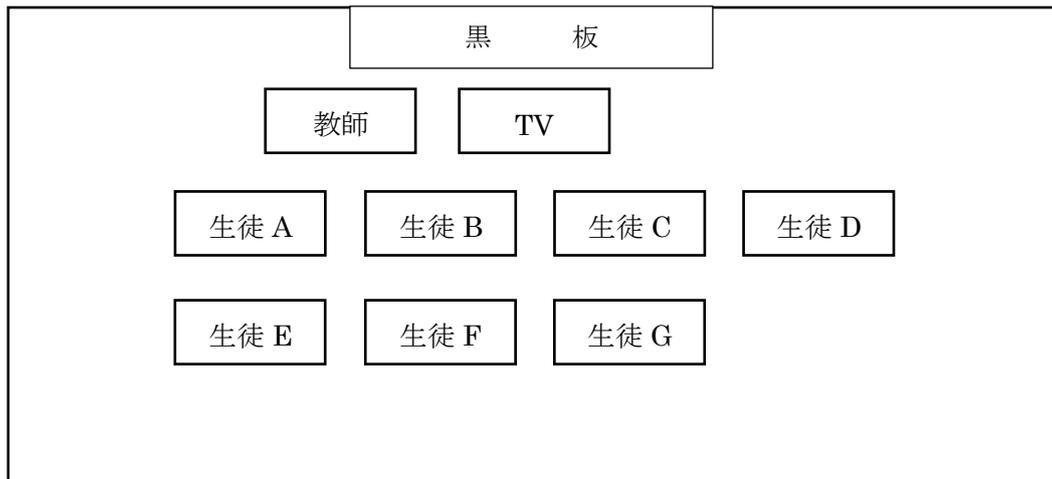
生徒		本時の個別目標	個別の手立て
A	知技	・端的に整理することを心掛け、わかりやすいまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・相手にわかりやすい表現でまとめられるように援助する。 ・仲間との意見交換や外部講師、文献を活用し、情報を収集する。
	思判表	・写真やイラストを活用し、見やすさの工夫を図りながら作成し、発表することができる。	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの取組を構想することができる	
B	知技	・調査活動において、目的に応じて正確にまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的で実現可能な視点から外れないよう適宜援助する。 ・ルールとして肯定的・建設的な意見でやり取りすることを設ける。
	思判表	・インタビューやインターネットで集めた情報を整理し、わかりやすくまとめ、説明することができる。	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの具体的な取組を考えることができる。 ・他者の意見を素直に受け入れ、他者にも肯定的意見を伝える。 	
C	知技	・調査活動において、わかりやすくまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分も分かる内容になっているかを確認しながら進める。 ・聞き手が聞きやすい話し方を意識して発表するよう促す。
	思判表	・インタビューした内容を整理し、聞き取りやすい声を意識して発表することができる	
	学人	・本校でできるゼロカーボンへの現実的な取組を考えることができる	
D	知技	・調査活動において、自分でも理解できる内容にまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめた内容がどこまで理解できているかを適宜確認する。 ・文献等の内容を自分の考えに変換した内容になっているかを確認する。
	思判表	・インタビューやインターネットなどで集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの具体的な取組を構想することができる	
E	知技	・調査活動において、テーマを意識し、テーマに沿ってまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを意識し、適切な表現でまとめ、発表するよう促す。 ・丁寧な作業を心掛けるよう促す。
	思判表	・課題の解決に必要な集めた情報を丁寧に整理し、聞き手の気持ちを考えてわかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、カフェなどで活用できるゼロカーボンへの具体的な取組を考えることができる	
F	知技	・調査活動において、目的に応じて正確にまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい内容になるよう適宜援助する。 ・どの部武運がテーマと関連しているかを確認する。
	思判表	・課題の解決に必要な集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの取組を構想することができる	
G	知技	・調査活動において、調べた内容を教師と相談しながら具体的にまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを盛り込んで整理できているか確認しながら進める。 ・教師に何らかの形で援助を求めるよう促す。
	思判表	・課題の解決に必要な集めた情報を整理し、わかりやすく説明することができる	
	学人	・探究活動を通し、本校でできるゼロカーボンへの実現可能な取組を考えることができる	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 10分	1 号令	●Google へのログインをあらかじめ行い、Google classroomに接続する。 ●日直の号令で挨拶を行う。	○Google classroomへの接続を指示する。	○必要に応じて、Google classroom への接続支援を行う。	・タブレット端末、キーボード
	2 前時の振り返り (4分)	●Google classroomでこれまでとこれからの学習の流れを確認する。 ●前時の学習内容を思い出す。【わかる】	○学習計画のスライドを示し、注視を促す。 ○挙手し指名されてから発言を促す。	○画面に注視しているか確認を行う。 ○発言に迷った場合は、ヒントを与える。	・タブレット端末、キーボード、テレビ
	3 本時の説明 (6分)	●本時の学習目標と学習予定を知る。【わかる】 ●本時の授業のキーワードを確認する。 ・簡潔、ワクワク、実現可能	○Google classroomで提示する。	○必要に応じて、タブレット操作の支援を行う。	・タブレット端末、キーボード ・学習の手引き
<p>【本時の目標】(仮)</p> <p><input type="checkbox"/> 【知】 調べた内容を整理し、わかりやすくスライドなどにまとめることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 【思】 課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えも交えながらまとめ、発表することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 【学】 探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組について、具体的で現実的な内容を考え、実践につなげようとするができる。</p>					
展開 70分	4 まとめ、最終確認 13分	●スライドへのまとめ作業と最終確認を行う【できる】 ●完成したら MT へ報告を行う。	○確認のポイントとして、誤字・脱字、著作権の侵害がないかなどを中心に確認を促す。		・タブレット端末、キーボード ・学習の手引き

	5 発表 32分	<ul style="list-style-type: none"> ●発表する際、発表を聞く際の約束を確認する。 ・発表の順番を生徒間で話し合い決める。 ①タブレット操作しながら、聞き手にわかりやすく伝えることを意識して、スライドを発表する。【できる】 ②聞き手は、発表時の良い点や改善点をGoogle formに入力する。【できる】 ③AI テキストマイニングで全員の意見を確認する。 ・発表者より意見等も踏まえて感想を述べる。 ・全員の発表が終わるまで①②③を繰り返す。 ※切りの良いところで休憩を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発表者は相手への聞きやすさ、聞くときは肯定的な捉え方を意識することを約束し、守るよう促す。 ・発表はプレゼンテーション形式で行うことを説明する。 ・入力する際に、改善点においても肯定的な意見（○○したらもっと良いなど）になることを心掛けるよう促す。資料1参照。 	<ul style="list-style-type: none"> ○約束の遵守を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末、キーボード ・学習の手引き ・テレビ
	休憩 10分				<p>【評価の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■【知】自分の役割を意識して、整理してまとめているか、スライドを発表しているか、スライドや観察を基に評価する。 ■【思】調べた内容が整理されていて、自分の考えが盛り込まれているかフォームや観察を基に評価する。 ■【学】他者からの評価を受け入れ、仲間と協働して本校での具体的なゼロカーボンへの取組を目指していこうとしているか、フォームや観察を基に評価する。
	6 修正作業 15分	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な視点からの意見を受けて、必要に応じて改善を図る。 			
まとめ 20分	7 本時の振り返り 15分	<ul style="list-style-type: none"> ●本時の学習内容を振り返る。【いきる】 ・Google formで振り返りシートに評価を入力する。 ・AIテキストマイニングで今日の発表について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入力する際に、改善点においても肯定的な意見（○○したらもっと良いなど）になることを心掛けるよう促す。資料2参照。 		
	8 次時の予告 3分	<ul style="list-style-type: none"> ●次時の予告を行う。 			
	9 号令	<ul style="list-style-type: none"> ●日直の号令で挨拶を行う。 			

(4) 配置図



(5) 本時の評価

知識及び技能	調べた内容を整理し、わかりやすくスライドなどにまとめることができたか。
思考力、判断力、表現力等	課題の解決に必要な集めた情報を整理し、自分の考えも交えながらまとめ、発表することができたか。
学びに向かう力、人間性等	探究活動を通し、本校でできる地球環境問題への取組について、具体的に現実的な内容を考え、実践につなげようとすることができたか。

分科会

公開授業	授業者	助言者
普通科3年 「総合的な探究の時間」	教諭 祐川 建一郎	北海道北斗高等支援学校教頭 渡辺 祐介氏

司会(厚谷) 記録(能代)

研究協議記録

1 授業者から

○学習指導案の概要

- ・生徒はタブレット端末を使う基礎能力があり、調べ学習でも多様な視点をもつことができる。
- ・ゼロカーボン卒業後の生活に生かせるように考えた。
- ・単元目標については、わかる一最終目標を明確にした。できる一情報整理するためにスライドを活用した。いきる一地球環境、話し合う経験、多様な意見を受け入れて言動に責任をもつ。
- ・本時の目標について評価として、知識・技能について、生徒の目標に応じてできたことでAとする。思考・判断・表現について、同様にAとする。学びに向かう人間性は生徒の目標に応じて概ねできていたことでBとした。

○本日の授業の振り返り

- ・目標を明確にすることができた。
- ・共有機能を活用することで互いの状況を理解することができた。
- ・目標の明確さが大切なことを改めて感じた。
- ・否定的ではなく、肯定的になっている。日常から意識して続けていきたい。
- ・授業者として、参加者に質問がある。①探究テーマは他校ではどうしているか②教科横断的にできた事例を教えていただきたい。

2 研究協議

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について」

- ・個々が発表できていたのが素晴らしい。発表スタイルを生徒に委ねられていた。発表方法はスライドがあるためなのかと感じた。各生徒の目標手立てが記載されていて感銘を受けた。
→グループで質問内容を考えるが、聞くのは個人としている。場面、状況に応じている。
- ・AIテキストで全員の意見がわかった。将来に向かっての願いと はあるのか。
→「わかる」は今日まで、「できる」はこれから、できることは何か情報共有していきたい。近隣養鶏場とコーヒー殻の再利用について話し合った。今後のSDGsの観点としても考えていきたい。生徒と生活で中々ない困り感を生かしたい。現在、具体的な活動として節電から意識していければと考えている。
- ・大きなテーマをもって取り組んでいる。上ノ国高校では、地域課題探究型で上ノ国町役場や住民を巻き込んで学習活動を展開している。例として1年生は地域のことを学び、2年生はふるさと高校生議会で提言し、どう課題解決を図ろうと取り組んでいる。主体的・対話的で深い学びについて「広げる観点」も必要ではないかと感じた。地域に聞くと新しい発見と展開、深い学び+広さがある。コミュニティスクールもそのような形で進めている。
→STEAMは終わったわけではなく、現2年に引き継いで学習している。校内の職員にアンケート配布し、分析している。今の助言を基に進めていきたい。

3 助言者から

○単元、題材として

- ・総合的な探究の時間は、教科書がなく、自由度が高い。難しさがある分、生徒の実態や地域の課題、特性を題材にできると感じた。こういった部分がカリキュラムマネジメントである。難しい単元に確実に取り組んでいる。
- ・横断している教科を整理する必要がある。「いい発表をした。」で終わることがないように思う。

- ・カフェでゼロカーボンを繋げたのは学校の特徴を生かしていた。普通科3学年の発表だったが、全校に波及し、他学科と連携した取り組みになると、新たなものが見えるのではないか。

○生徒の様子から

- ・今日の授業から、生徒が何をやるのかがわかっている。それが伝わる。普段の積み重ねが授業の中に見える。授業担当者の雰囲気づくりが良い。生徒自身が、なにができるか、自分ごとにできていて、一人一人に価値付けが込められていると感じられた。
- ・ICTを用いて臨機応変に授業者が対応していた。生徒は、発表を聞くのも対話的であった。授業の組み立てが工夫されていた。
- ・総合的な探究の時間で工夫して取り組めるか、日常生活を社会生活に絡められるように教師側も世間で起きていることにアンテナを張れると良い。
- ・学習活動が対話的な学び、深い学びとしてどう單元化していくかが大切である。
- ・生徒が工夫して自分が何をしたいか、より発展していけるようになると良い。単元の見通しを教師が伝えて、生徒が理解できるようになると良い。

令和5年度 作業学習 学習指導案

日 時	令和5年11月17日(金) 2～3校時 9時50分～11時40分
場 所	食品デザイン科実習室
生 徒	学科 食品デザイン科 学年 2学年 6名
指 導 者	教諭 小 川 マ キ (MT) 教諭 構 口 美 保 (ST1) 指導実習助手 山 本 寿 之 (ST2)

1 単元名(題材名) 「11月ハコカフェクローバー ランチデザイン」

2 単元(題材)設定の理由

(1) 生徒観

本学級の生徒は男子3名女子3名で構成され、知的障害のほかにも自閉スペクトラム症を併せ持つ生徒が数名いる。お互いの距離感がつかめずトラブルになることが散見されるが、全員明るく素直であり、ホームルーム内でどの生徒ともうまくコミュニケーションを図ることができる、行動力のある生徒もいる。

作業学習の調理はとても興味関心が高く意欲的に取り組む生徒が多い。入学時から挨拶や時間厳守や身だしなみ、衛生面、体調管理を継続して指導しているが、いまだに課題の残る生徒もいる。調理の基本的な操作性に能力差はあるが、不得手な作業にも挑戦させたり経験を増やしたりして取り組んでいる。日常的に家庭で手伝いをしている生徒は、段取りを考えて柔軟に対応ができるため、調理経験の少ない生徒のよき見本となっている。また、食通の生徒は味見における表現力での味の表現が豊かで話し合いのきっかけになることがあり、それぞれの生徒が互いの不得手な部分を補いあって、自分の強みを生かすことができる場面も増えてきた。

一般就労やA型作業所を希望する生徒が半数以上いるため、社会で必要とされる力として「長時間働く体力」「仲間や上司とのコミュニケーションの力」「作業中に仕事を見つける力」を重点に作業学習を行ってきた。

作業学習ではパン作りの工程の理解、完成した製品の販売、味や見た目などの振り返りと次の販売に向けての改善というサイクル「ランチデザイン」としている。

今回で3回目の取り組みとなり、作業学習の流れを概ね理解できていることから、お客様から頂いたアンケートを基に改良する点や次回につなげる工夫点を、自分たちで気付けることを期待している。

(2) 単元(題材)観

ア「何を学ぶか」

・学年が上がったことで、ハコカフェクローバーのランチ提供も年間で計画しており、ランチデザインも繰り返し取り組んできた。お客様のアンケート結果や作業工程の振り返りにより、自ら気付いたり工夫したりする作業と、お互いの考えや情報を共有してより完成度の高い製品作りを目指しながら達成感を得られる授業に取り組んでいる。

イ「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

(ア)「わかる」の視点による授業改善

- ・単元のスケジュールが分かり見通しをもつことが重要である。(メニューを考える、パン販売、練習計画、評価と振り返り、次回の見通しとヒント等)
- ・個人の作業分担は概ね固定して繰り返し作業をすることで、自分の作業スピードや作業量が分かり自信をもてるようにする。

(イ)「できる」の視点による授業改善

- ・作業内容によって個別または複数で協働作業を行うこともあるが、一人一人が存分に活動できるように作業量と互いの作業が確認できる配置、実態にあった調理道具の工夫をする。
- ・複数で協働作業を取り組む場合は、進捗状況を確認して、励ましたり手伝ったりできる雰囲気づくりをする。

(ウ)「いきる」の視点による授業改善

- ・作業パターンを繰り返すことで、経験を互いに教え合えるようになり、自信を付けて次も頑張ろうとする意欲につながられるようにする。
- ・繰り返しの作業で実現性の高い作業学習となることで、ハコカフェと、生産技術科との2科協働カフェ・単独カフェとの比較を行い、具体的な違いを理解して、より良い緊張感、責任感をもてるようにしたい。

{3} 評価観

「何が身についたか」

- ・生徒自身で考え、安全や衛生面に注意し、道具や食材の準備を行い作業開始ができること。また、個別に作業準備の確認を行う場合は忘れずに報告ができること。
- ・個々の作業途中で間違いや指示通りに進められない時に、教師や仲間に相談をして解決や改善できること。
- ・お客様のアンケート結果を受けて、具体的な改善策や工夫点を表現することができ、全員で情報を共有できること。

3 単元(題材)の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	探究協働	専農(1)ア① 専家(5)アエ① 専農(4)アイ①	①食品の種類や調理に必要な道具準備、完成までの工程について自分の役割を理解して作業することができる。 ②製品を作るための改良点があり、確認しながら調理に取り組むことができる	・完成までの工程について理解して作業している。 ・製品を作るための改良点があり調理をしている。 (作業観察、自己評価)
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	専家(5)アエ② 専農(4)アイ②	①調理に関する身支度や準備、効率的に作業ができるように状況を判断して自ら活動することができる。 ②時間内に生産品ができるよう教師や仲間に相談をしたり、協力を求めたりできる。	・調理に関する基礎基本の作業に取り組んでいる。 ・適切に相談や協力を依頼している。 (自己評価、作業観察)
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	専家(5)ウ③ 専農(4)イ③	①時間や期日までに規格通りに製造することを意識して、主体的にパン製造に取り組むことができる。 ②よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができる。	・販売に関する決まりや規格を知り協力して取り組んでいる。 ・よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組んでいる。 (作業観察、自己評価)

4 指導計画（全 27 時間扱い）

月 日	時 数	学 習 予 定 【わかる】【できる】【いきる】の視点	備 考
11/1(水)	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 月ハコカフェクローバーのランチの生産スケジュールや作業分担を知る【わかる】 ・ 役割分担を知り調理を行う【できる】 ・ 作業に必要な情報を教師に質問する【できる】 ・ メニューの方向性を話し合う【いきる】 	
11/7(火)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の流れや分担が分かる【わかる】 ・ 本時の調理分担を理解し安全に取り組む【できる】 ・ メニューの改善点を話し合い決定する【いきる】 	
11/8(水)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の流れや分担が分かる【わかる】 ・ 本時の調理分担を理解し安全に取り組む【できる】 ・ メニューの改善点を話し合い決定する【いきる】 	
11/14(火)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハコカフェクローバーの仕込みの手順や道具などを知る【わかる】 ・ 仕込みの順番を知り丁寧で正確な調理をする【できる】 ・ ハコカフェクローバーの流れや必要な物品についての話し合う【いきる】 	
11/15(水)	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割が分かり必要な活動や流れを知る【わかる】 ・ 自分の役割を責任をもって果たす【できる】 ・ 効率よく作業が進むことを考えて必要な行動をとる【いきる】 	ハコカフェクローバー
11/17(金)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業の目的や流れを知る【わかる】 ・ 自分の役割が分かり正確に作業をする【できる】 ・ 時間内に販売準備を終えるよう言葉を掛けあい協力する【いきる】 	本時（25/28）
11/21(火)	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々に評価や反省した内容を共有する【わかる】 ・ 今回のランチ提供の改善点を次回の運営に反映するための話し合いをする【いきる】 	

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 明るく前向きな気持ちがある。 ・ 作業指示を聞いたり実演を見たりしても手順や操作を理解できないことがある。また、プレッシャーを感じやすく 体調や情緒の安定への配慮が必要。 ・ 進路は接客を希望しているが実態から難しさもある。 ・ 作業後半は疲れが出やすい。 	知技	・ 自分の役割を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。
		思判表	・ 自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。
		学人	・ 自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要なことはメモを取り次回の作業に備えることができる。 ・ 失敗を回避するため徹底した練習や作業確認を行う。 ・ 初めての作業はより慎重になるため作業に時間がかかる。 ・ 周囲の状況を判断したり、率先して作業したりできる。 ・ 進路は一般就労で清掃や製造を希望しているが実態から難しさもある。 	知技	・ 自分の役割を知り自信をもち正確に取り組むことができる。
		思判表	・ 作業全体の状況を把握し適当な支援や協力を行うことができる。
		学人	・ 気付いた仕事を率先して行ったり仲間と情報を共有したりして取り組むことができる。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広く浅く知識はあるが、こだわりすぎるため時間がかかったり間違ったりすることがある。 	知技	・ 自分の役割を知り自信をもち正確に取り組むことができる。
		思判表	・ 自分の作業状況を知り時間を気にしながら作

	<ul style="list-style-type: none"> 自分からコミュニケーションをとることは少ない。 衛生面や忘れ物に課題があり継続した指導が必要。 進路は接客を希望しているが、実態から難しさがある。 	学人	<ul style="list-style-type: none"> 業することができる。 どの仕事をしていいか不明なときは自ら仲間に相談することができる。
D	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容や情緒が安定しない時には集中時間が変わり 30 分程度しか続かないこともある。 周囲の状況を判断し、率先して作業に取り組むことができる。 進路は希望する業種がよく変わり絞り込めない。実態と就労意欲が合致しない。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割が分かり落ち着いてできるだけ集中して取り組むことができる。
		思判表	<ul style="list-style-type: none"> 場面や状況に応じた発言をすることができる。
		学人	<ul style="list-style-type: none"> 自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。
E	<ul style="list-style-type: none"> 衛生面や忘れ物に課題があり継続した指導が必要。 調理経験があり手際は良い。慣れてくると、基礎基本を逸脱することができる。 言葉遣いが気を付けなければならないことが多い。 進路は自己理解ができず希望する職業がよく変わる。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を知り自信をもち正確に取り組むことができる。
		思判表	<ul style="list-style-type: none"> 作業全体の状況を把握し適当な支援や協力を行うことができる。
		学人	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に改良点などを丁寧な言葉遣いで発言することができる。
F	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活全般に経験が乏しい。 苦手な作業や急な作業依頼を回避する傾向がある。 器用さはなく作業の確認が多いが諦めず一生懸命取り組む。 進路は A 型を希望している。 	知技	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。
		思判表	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。
		学人	<ul style="list-style-type: none"> 自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。

6 本時の指導

(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> 製品を作るための改良点分かり、確認しながら取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 製品を作るための改良点分かり調理をしている。(作業観察、自己評価)
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> 作業状況を判断しながら、教師や仲間に相談をしたり協力を求めたりして調理をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 適切に相談や協力を依頼している。(作業観察、自己評価)
学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生製品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい生製品を作るために時間や状況を把握して取り組んでいる(作業観察、自己評価)

(2) 個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	本時の個別目標		個別の手立て
A	知技	<ul style="list-style-type: none"> 製品の改良点を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作業内容と手順の確認をする。必要なら工程表など確認できる教材を使用する。 時間内に終わらせる作業量を用意する。 自分の作業終了した場合は片付けをすることを事前に伝えておく。
	思判表	<ul style="list-style-type: none"> 自分の作業状況を知り時間を確認しながら作業することができる。 	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> 自分から仕事を見つけ進んで取り組むことができる。 	
B	知技	<ul style="list-style-type: none"> 製品の改良点を知り、正確に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の作業を復習するよう言葉がけをする。 周囲の状況で気が付いたことがあれば教師に確認または協力できる旨を伝えるよう促す。
	思判表	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の作業状況を判断しながら、適当な支援や協力をすることができる。 	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> 気が付いた仕事を率先して行ったり仲間と情報を共有したりして取り組むことができる。 	
C	知技	<ul style="list-style-type: none"> 製品の改良点を知り、正確に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の作業を復習するよう言葉掛けをする。 作業終了時間を確認する。 些細なことでも自己判断せずに教師に相談するよう伝える。
	思判表	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の作業状況を判断しながら、時間を確認しながら作業することができる。 	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> どの仕事をしていいか不安なときは自ら教師に相談することができる。 	

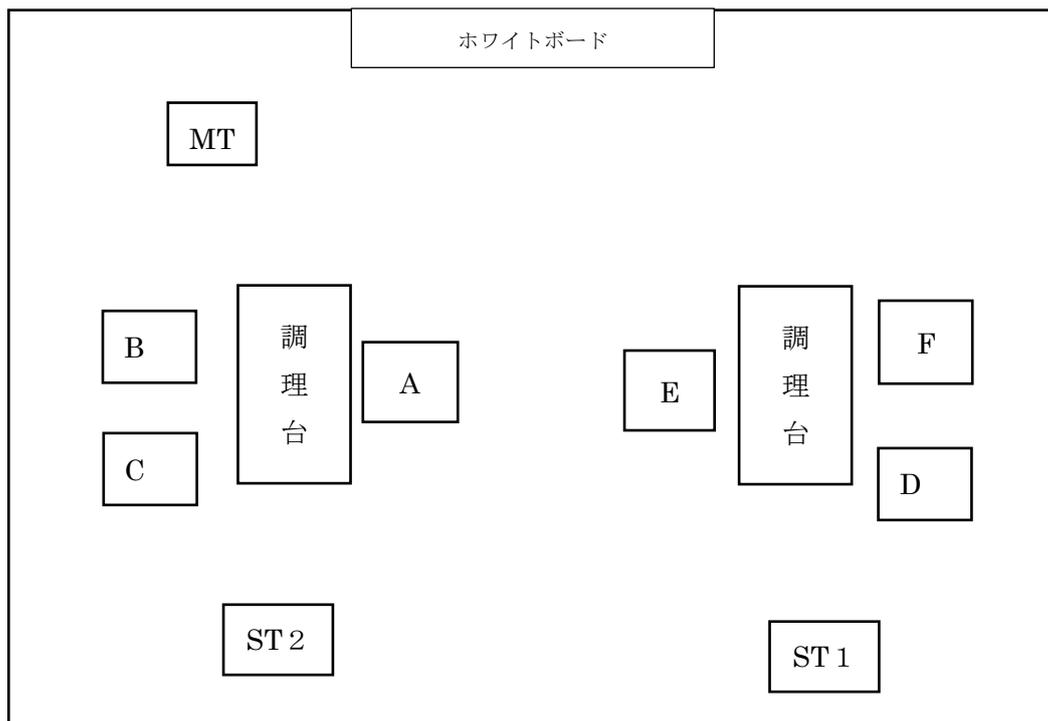
D	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の改良点を知り落ち着いて取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当日の心、体調の健康状態を確認する。本人が集中できる範囲を勘案して作業内容を提示する。 ・周囲の状況で気が付いたことがあれば教師に報告し、指示通りに動くように約束する。
	思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業状況を判断しながら、場面や状況に応じた発言をすることができる 	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から仕事を見付け進んで取り組むことができる。 	
E	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の改良点を知り、自信をもち正確に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の作業を復習し正す内容を反復してから作業を行う指示を出す。 ・周囲の状況で気が付いたことがあれば教師に確認または協力できる旨を伝えるよう促す。 ・職場であることを意識させ、正しい言葉遣いができない時には訂正を促す。
	思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業状況を判断しながら、適当な支援や協力をを行うことができる。 	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> ・改良点などを丁寧な言葉遣いで発言することができる。 	
F	知技	<ul style="list-style-type: none"> ・製品の改良点を知り、初歩的な調理を安全に取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容と手順の確認をする。必要なら工程表など確認できる教材を使用する。 ・時間内に終わられる作業量を用意する。 ・自分の作業が終了した場合は、率先して片付けをすることを事前に伝えておく。
	思判表	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作業状況を知り時間を気にしながら作業することができる。 	
	学人	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から仕事を見付け進んで取り組むことができる。 	

(3) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (10分)	0 衛生点検 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ●手洗い・消毒、身だしなみ、爪チェックを教員と行う。【できる】 ●入室の挨拶をして入室する。本時の教員全員へ挨拶をする。【できる】 ●乾燥機内の食器や布巾などを片付ける。【できる】【いきる】 	<ul style="list-style-type: none"> ○体調や気持ちの安定を確認する。 ■率先して調理道具の片付けを行っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○作業確認シートの確認を行う。 ○体調や気持ちの安定を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業確認シート ・消毒
	1 号令 本時の説明 (7分) 2校時開始	<ul style="list-style-type: none"> ●作業開始の会を日直が進める【できる】 ①声出し、日常の五心 ②作業内容や作業担当、タイムテーブルの確認 ③本時の目標の確認 ④担当教師から注意点 	<ul style="list-style-type: none"> ○目標を日直に確認をする。 ○△本時（公開研）の流れについてポイントを伝える。 ○水分補給は適宜摂取するよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○注意点を伝える △本時（公開研）の流れについてポイントを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タイムテーブル表 ・作業開始用
		<p>【本時の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品を作るための改良点があり、確認しながら取り組むことができる。 ・教師や仲間に相談をしたり、協力を求めたりして調理をすることができる。 ・よりよい生製品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができる。 			

展開 (100) 分	2 前時の振り返り (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ●ハコカフェの学習内容を振り返る。【わかる】 ●ハコカフェの感想や成果を発表する。【いきる】 <p>※自分の役割とランチを行った感想や手ごたえ,工夫点を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●評価や改善点を共有し本日の校内販売に向けた作業を行う。【できる】 	<p>○△感想や成果の発表の仕方を見せ、全員の発言を板書する。</p> <p>■自分の考えや意見を発言したり改善点を確認したりすることができたか。</p> <p>○△共有した方がよい情報をまとめるように言葉がけをする。</p>	<p>△共有した方がよい情報をまとめるように言葉掛けをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ハコカフェアンケート一覧 ・メモ用付箋 ・筆記用具 ・
	3 調理 (80分)	<ul style="list-style-type: none"> ●自分の担当する作業に取り組む。【わかる】【できる】 <p>①具材作り ②具材をはさめる ③袋詰め</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調理と同時並行して片付け（洗い物、乾燥）を行う。【できる】【いきる】 	<p>○安全、衛生に取り組むよう言葉掛けをする。</p> <p>■分からない点を自ら相談や質問をすることができたか。</p> <p>■状況を判断して作業することができたか。</p> <p>■よりよい生産品を作ろうと工夫することができたか。</p> <p>△質問の内容によってはヒントを与えて答えられるようにする。</p>	<p>△安全、衛生に気を付けて取り組むよう言葉掛けをする。</p> <p>△質問の内容によってはヒントを与えて答えられるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理道具 ・食材 ・ゴム手袋 ・ ・パン袋 ・買い物袋 ・バックシーラー ・番重（パン販売用） ・販売案内、金額のラミネート各種

(4) 配置図 (配置は変更あり)



(5) 本時の評価

知識及び技能	・製品を作るための改良点があり、確認しながら取り組むことができたか。
思考力、判断力、表現力等	・教師や仲間に相談をしたり、協力を求めたり調理をすることができたか。
主体的に学習に取り組む態度	・よりよい生産品を作るために時間や状況を把握して取り組むことができたか。

公開研究会 分科会記録

分科会

公開授業	授業者	助言者
食品デザイン科2年 「作業学習」	教諭 小川 マキ	渡島教育局教育支援課義務教育指導班指導主事 早坂 洋次郎 氏

司会(今村) 記録(構口)

研究協議記録

1 授業者から

○学習指導案の概要

- ・先週 11 月 15 日 (水) に 2 学年ハコカフェクローバーでランチを提供した。11 月頭から生徒とカフェで何を提供するのか話し合いながらメニューを決めた。今日の学習では、前回のカフェでのお客様アンケートを基に改善点の発表を行った。出てきた反省を今回の授業に生かして行くこの単元は来週の火曜日で終了し、その後は 12 月のカフェメニューを決める。
- ・生徒 6 名は全員調理に興味があるが、家庭での経験の差もあり、操作性に違いがある。作業では得意な事ばかりでなく、全員が一通りの作業を行うことができるようにする。

○本日の授業の振り返り

- ・わかる 今回で 3 回目の作業となるが、スープを作る作業がなかったので、2 人はブルドポークと卵グループに入った。サンドイッチを袋に入れる作業は今回が初めてだった。全体や個別に指示することで理解して、作業を進めることができた。
- ・できる 各グループが 3～4 の作業工程を行った。新しくグループに入った生徒に教えることができていた。また、分からないことは、同じグループのメンバーや教師に聞き、理解して作業を進めることができた。
- ・いきる 前回までと比較して、自分はどうか？自己評価を記入し、課題に気づき、次回に生かそうとすることができていた。

2 研究協議

「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について」

- ・付箋に反省点を記入するなど、活発な活動になっていた。
- ・黙々と作業を行っていた。自分の役割だけでなく、他の生徒の役割も理解していた。
- ・他の学年も、同じような作業をするのか？
→ 1 年生は基礎・基本を行う。3 年生になると、作業工程や扱う食材が増えていく。
- ・生徒達が先生の指示を聞きながら活動を行うことができていた。
調理が好きだから、食品デザイン科を選ぶ生徒が多いが、進路は食品関係なのか？→各科での活動は目的ではなく、手段である。調理を通して働く力をつける。今年度の食品デザイン科卒業生の内、食品関係に就労したのは 3 名。
- ・ブルドポークサンドイッチがおいしかった。味付けは生徒が考えているのか？→教員が市販のバーベキューソースと焼き肉のたれを用意し、生徒が味見しながら、配合を考えた。
- ・仲間や上司とのコミュニケーションはどのように高めて言っているか
→最初はクラスの中でも同じ中学校の仲間とだけ話をするなどの様子が見られたが作業学習を通して、クラスのメンバーとコミュニケーションが取れるようになってきた。
上司や目上の人に対する態度、作業学習を開始始めるときや、HR 活動などでも教えている。
- ・生徒が自分の役割を分かって作業ができていた。どのような意識を持って作業をしているか？
→将来に向けて必要な力を付けていく。言葉遣いや体調が悪いときの連絡、入浴や洗濯をしていない時の謝罪、忘れ物をした時にどのように改善するかなど。
- ・振り返りの付箋が、どんな内容が書いてあるのか、動画では分からなかった。サンドイッチの断面がきれいだったが、生徒が切っているのか？
→教員で切っている。
- ・カフェ運営で、原価や利益に関することも生徒は関わっているのか？
→教員が行い、学習活動としては行っていない。

3 助言者から

- ・令和 3 年からギガスクール構想を行っている。

ICT の視点取り入れた函館高等支援学校の取り組みを二つ紹介。

- ① アバターを介した接客練習の取り組み。
- ② 三密対策で、買い物かごがなくなったら、入場制限中と言う表示が出る。かごを補充したら、入場できるに変更する。

I C Tは手段であり、目的は生活の質を上げること。

今日の研究授業について

わかる、できる、生きるのねらいは、単元全体を通して達成を目指す。1 単位時間ではねらいを絞り、わかる→いきるが出来た上で、生きるにつながっていく。

授業を改善することで、学校目標が達成される。

令和5年度 保健体育科学習指導案

日 時 令和5年11月17日（金）2・3校時
場 所 体育館
生 徒 学年1学年（21名）
指 導 者 教諭 竹 口 輝（MT）
教諭 村 田 賢 吾（ST1）
教諭 大 町 利矢子（ST2）
教諭 加 藤 香 奈（ST3）

1 単元名（題材名） 「武道（空手道）」

2 単元（題材）設定の理由

(1) 生徒観「一人一人の発達をどのように支援するか」

○多くの生徒が自閉症スペクトラム、ADHD、アスペルガー症候群などを併せ持つ集団であるため、個々の特性に合わせた支援をチームティーチングで行う。

○男子15名、女子6名の計21名の学習集団で、男女比に差があるため、異性の目を気にせずに練習や演武ができる雰囲気作りをする。

○チームでの練習や演武発表により、自己の役割を自覚するとともに、他者への気付きや人前での発表を経験する。

(2) 単元（題材）観

ア「何を学ぶか」

- ・ 武道と日本人の関わりを知り、礼節（「道徳性」相手を尊重・相手への感謝・自分を律する）を学ぶことにより、普段の自分の言動を振り返り、日常生活に生かす。
- ・ 学校安全、学校保健、スポーツの観点から、生涯を通じて健康を保持増進する方法を学ぶ。

イ「どのように学ぶか」「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の工夫について

(ア)「わかる」の視点による授業改善

- ・ 学習したことを、自分の練習に生かすだけでなく、他者に対しての気付きや配慮ができる場面を設ける。

(イ)「できる」の視点による授業改善

- ・ 今まで経験したことのない技術に触れ、できないと思っている技術を基本動作から型の演武まで段階的に教えることにより、自分にもできるという感覚を養う。

(ウ)「いきる」の視点による授業改善

- ・ ICT 機器（タブレット端末）を使って自分たちの演武を撮影し、自他を評価し合うことによって、自分たちの良い点や改善点を次の活動に生かす。

(3) 評価観

「何が身についたか」

- ・ 空手道の技術だけでなく、武道を体験することで、礼節や相手を尊重する大切さや相手への感謝・自分を律する大切さを学び、日常生活や今後の学校生活にいかす。
- ・ 評価シートを使って、自他の技術面だけではなく、演武発表の構成や所作の工夫箇所などに気付き、称賛し合うことで集団内の和を育む。

3 単元（題材）の目標

3つの柱	校訓	学習指導要領の内容との対応	学習目標	評価規準（評価方法）
知識及び技能	探究協働	高保体1Fア	基礎的な技、作法、形演武の知識及び技能を身に付けることができる。	学習目標を理解して運動に取り組んでいるか。（観察）
思考力、判断力、表現力等	探究協働健全	高保体1Fイ	自分の課題や発表内容を仲間と考えたり、自己選択・自己決定したり練習・表現することができる。	正しい技術や振る舞いを理解して、行動を選択し、身に付けた技術や考えを表現することができたか。（観察）
学びに向かう力、人間性等	探究協働健全	高保体1Fウ	学習の意義を理解し、自分必要な身体面・精神面における要素は何かを考え、仲間と協力して取り組むことができる。	評価表による自己評価と他者評価を参考にし、授業態度や積極性を意識している。（観察・自己評価）

4 指導計画（全13時間扱い）

月日	時数	学 習 予 定		備 考
		【わかる】【できる】【いきる】の視点		
10/30(月)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション【わ】 ・正座、黙想、座礼その他作法【で・い】 ・空手道の歴史と今日の流れ【わ・い】 ※日誌の記入【わ・い】：毎授業後に記入する 		
11/6(月)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本稽古（立ち方、突き、受け技）【い】 ・基本形1【わ・で・い】 		
11/8(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・基本稽古（立ち方、突き、受け技）【い】 ・移動稽古（突き、受け技）【で・い】 ・基本形1【わ・で・い】 		
11/13(月)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム練習【わ・で・い】 ・基本形1【わ・で・い】 		
11/15(木)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・チーム練習【わ・で・い】 ・基本形1【わ・で・い】 		
11/17(金)	2	<ul style="list-style-type: none"> ・演武発表（グループ）【い】 ・自己評価と他者評価【い】 ・仲間と一緒に評価をし、良い点や改善点について意見を出し合う【わ・で・い】 		本時 (12/13)
11/20(月)	1	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り（動画視聴） ・自己評価（評価表）【い】 		

5 本単元（題材）における生徒の実態及び個別目標

※知・技：知識・技能、 思・判・表：思考・判断・表現、 主体的：主体的に学習に取り組む態度

生徒	単元（題材）に関する実態	単元（題材）の個別目標		備考
普通 1	個人の練習では、一生懸命取り組むことができるが、他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
2	技や型の意味を理解して練習することができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
3	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間の意見を聞いて、演武の内容を理解し、発表することができる。	
		学人	・積極的にチームの練習に加わり、自分の考えを伝えることができる。	
生産 1	練習して、技術を高めることに喜びを感じることができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
2	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがあるが、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
3	個人的な練習だけでなく、周囲と協力して技の技術を高め合い、一緒に演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
4	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
5	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがある。また、他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。	
		学人	・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
6	練習して、技術を高めることに喜びを感じること	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	

	とができる。他者とのコミュニケーションにやや不安がある。	思判表 学人	・仲間の意見を尊重して、練習や発表をすることができる。 ・自ら積極的に仲間と関わろうとすることができる。	
7	個人の練習は、積極的に取り組むことができる。また、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技 思判表 学人	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。 ・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。 ・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
8	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。また、周囲と協力し合うことを楽しみながら練習することができる。	知技 思判表 学人	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。 ・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。 ・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
食品 1	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがあるが、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
2	個人的な練習だけでなく、周囲と協力して技の技術を高め合い、一緒に演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
3	型を覚えることや技術面の理解が難しいことがあるが、周囲と協力し合うことを楽しむことができる。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
4	個人の練習は、積極的に取り組み技術面が高い。また、周囲に指導したり、協力し合ったりすることを楽しみながら練習することができる。	知技	・基本的な技術を形の動きの中に生かすことができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
5	練習して、技術を高めることに喜びを感じることができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
6	授業参加なし。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
7	授業参加なし。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
8	個人的な練習だけでなく、周囲と協力して技の技術を高め合い、一緒に演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
福祉 1	授業参加なし。	知技	・基本的な突き、受けの技術を身に付けることができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	
2	個人の練習では、一生懸命取り組むことができる。また、周囲と協力して演武することを楽しむことができる。	知技	・基本的な動きの意味を理解して演武することができる。	
		思判表	・仲間と協力して、より良い演武を作り発表することができる。	
		学人	・仲間と一緒に、自分たちの演武を評価し改善することができる。	

6 本時の指導

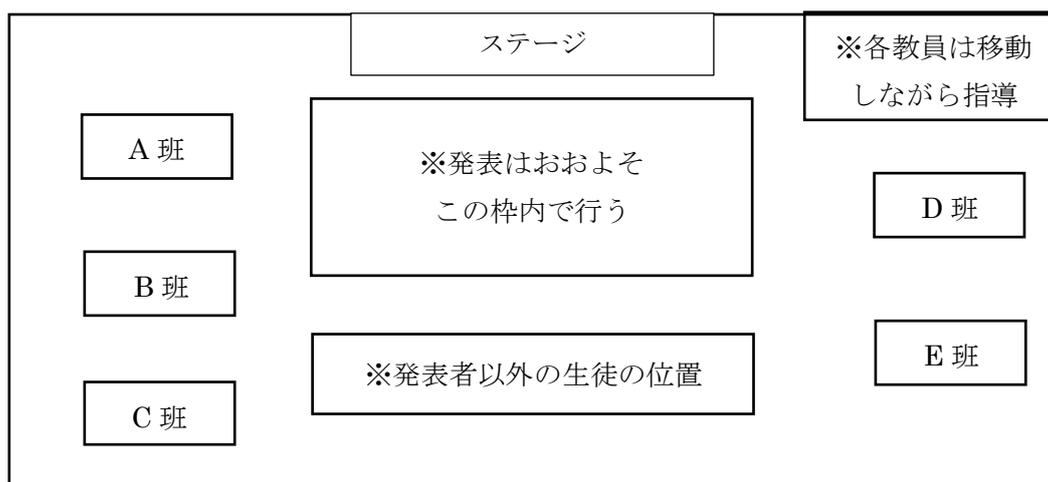
(1) 全体目標

3つの柱	学習目標	評価規準 (評価方法)
知識及び技能	基礎的な技、作法、形演武の知識及び技能など、身に付けた技術を発表に生かすことができる。	学習目標と到達目標を理解して運動に取り組んでいる。(観察、発表)
思考力、判断力、表現力等	演武内容を仲間と一緒によく考え、選択・決定して、表現することができる。	正しい技術について理解、判断、表現している。(観察、発表、自己評価)
学びに向かう力、人間性等	個々の生徒が学習内容と目的を理解し、個人およびグループとして主体的に取り組むことができる。	目標達成に向かって主体的に取り組んでいる。(観察)

(2) 本時の展開

段階	学習内容	生徒の活動 ●：活動内容 ※：予想される生徒の言動 【わかる】【できる】【いきる】の視点	教師の働きかけ ○：全体援助、△：個別の援助、■：評価の観点		援助・配慮事項、教材等 特記事項(関連チェック)
			MT	ST	
導入 (10) 分	●導入 1. 集合・整列・挨拶 2. 出欠確認・健康観察 3. 本時の説明	・授業前に体育館5周のランニングと体操を済ませる(体躯委員が前で号令と模範)	△生徒の健康観察(各担当)	○全体掌握 △健康観察	・各班の撮影係はタブレット端末を用意する。 ★事前配布済の「スキルテスト評価観点」を確認した練習を促す。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の目標】 【知】基礎的な技、作法、形演武の知識及び技能など、身に付けた技術を発表に生かすことができる。 【思】演武内容を仲間と一緒によく考え、選択・決定して、表現することができる。 【学】個々の生徒が学習内容と目的を理解し、個人およびグループとして主体的に取り組むことができる。</p> </div>		各各学科の生徒の様子を観察しながら、必要に応じて声掛けする。(全教員で巡回)	■話の理解度 ■時間を意識した行動ができて いるか。	
	(1)全体練習について(礼儀作法) (2)グループ練習について(基本形：自分の班の形) (3)演武発表について(ビデオ撮影)	・前回までの復習と振り返る。 ・本時の目標や活動について理解する。 ・授業1回目に配付した資料の確認 ※別紙参照 ・発表までの流れを再度確認 「わかる」			
展開 (85) 分	●展開【学習活動】 1. 礼儀作法(立礼・座礼・黙想) 2. グループ練習(基本形：自分の班の形) 3. 演武発表 ビデオ撮影(★教員が撮影)	・正しい所作を行う。「できる」 ・タブレットで撮影して、自分たちで確認しながら練習する。「できる」 ・生徒は他の班の発表を鑑賞し、評価表に記入。「できる」「いきる」	○授業の展開と全体掌握 △○体調に異変のあるものはいないか確認する。 △○発表前の練習についてアドバイスを行う。 ○演武発表の進行	○授業の展開の補助 ■参加する姿勢・態度・積極性 ■個の技術とチームの技術 ■友人に対する思いやり ■安全と環境への配慮 △生徒の自己評価にアドバイス △個別対応が必要な生徒のケア ※声かけや確認で緊張を緩和	・必要に応じた水分補給の指示。 ・演舞発表の前に「評価表」を配布する。 ・全ての班の発表を撮影する(大町T)。
まとめ (15) 分	●まとめ【自己評価】 1. 本時の評価 2. 健康観察 3. 挨拶(終了)	・本時の自己評価(学習ノートの記入)「いきる」 ・発表の評価表をまとめる。「いきる」 ・着替え	△生徒の健康観察(各担当)	○全体掌握と評価 ○健康観察 ■正しい自己評価と他者評価が できているか ※評価観点はMT/ST共通とする。	

(3) 配置図（練習時は各班のエリアで、発表時は図の通り）



(4) 本時の評価

知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・技の三要諦「力の強弱」「技の緩急」「体の伸縮」を意識して活動をすることができたか。 ・基礎的な技、作法、形演武の知識と技術を他者の前で発表することができたか。
思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい作法や所作を意識して練習に取り組み、演武を発表することができたか。 ・仲間と一緒に考え、練習した演武を練習通りに表現することができたか。
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒が学習の意味を理解し、主体的に取り組むことができたか。 ・他者の演武を見て、自分なりに評価をすることができたか。

分科会

公開授業	授業者	助言者
全学科1年 「保健体育」	教諭 竹口 輝	北海道七飯養護学校教頭 渡部 一博氏

司会(岡山努) 記録(鳴海潤一)

研究協議記録

1 授業者から

- ・学習指導案の概要
- ・とにかく人前で発表するというプロセスを重視している。3年間、空手の授業があるので発展性のあるものにしたい。また、行事などで発表しなければならない場面で生かして、経験を重ねられれば良いと思っている。
- ・怪我の心配はあるが、向かい合ってやる場面では距離を離す、マットを使うなどをし、安全に気を付けている。
- ・授業がない時間や終わった時間に、生徒がふざけて突きなどをやってしまわないように、(空手を)やる場所はここだけと指導している。
- ・本日の授業の振り返り
- ・やりたくない生徒にはタブレットを持ち(同じグループの演武を)撮影させるなどの役割を与えているが、やりたいと仕向けることが課題である。学年によっては、演武を見られたくない生徒がいるので、部屋を変えるなどしている。
- ・空手は畳一畳あればできると言われているので、卒業後もできるように教えていきたい。
- ・2年前に(新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため)リモートで配信し、連休までに覚えてくよう指導したことがある。

2 研究協議

- 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の在り方について」
- ・生徒が人前で発表する場面、特に外部の方々が見ている場面で演武ができるということは、自信を持っていたのかなあと思う。あるグループの先生は「あなただったらどうしたらよいと思う？」と生徒に考えさせる投げかけ方がとても良かったし、印象的であった。最後に演武の後に生徒に感想を書かせていたが、校訓にもあるように、毎回やらせているのだと思った。他のグループの発表に対して、良かったところなどを交流する場面が見られなかったがどうか？
→月曜日の体育の時間にやる予定である。今日、一番やってほしかったことは、自分で感じたことを書かせることであり、それをメインでやっていた。
 - ・時間が経過してからの交流もあると思うが、今すぐに交流することもあると思ったので質問してみた。
 - ・現在、高等部で体育を担当している。11名中9名が女子生徒で、運動が得意ではないし、人前で発表することが苦手である。今日の授業は女子生徒もしっかり発表していたのが印象的だった。人前で発表することが苦手な生徒の指導について教えていただきたい。
→動画を渡して練習をさせている。練習後の動画を「先生しか見ないからやってみて。」と言って、渡している。空手家の動画を見せている。「できない。」と言う生徒には「できることだけやってみよう。」と言っている。また、話しやすい先生にそばに付いてもらうなどしている。
 - ・私達が想像している以上に大変なこともあると思うので、あえて人前でやらせる経験をさせたいと思っている。
 - ・主体的・対話的で深い学びについて触れたいながら、ご意見をいただきたい。
 - ・PCを活用しているのか？タブレットシート(?)、ドキュメントなどの活用をしているのか？
→詳しくないため、そこまでできていない。YouTubeで動画を見せることはある。
 - ・生徒達が沢山の視点で話し合っていた。「息が揃っていたよね。」「カメラの角度が良かった。」など。私は、あらかじめ生徒達に項目を立ててからやらせているが、どんな方法で指導しているのか？
→目標が「周りと一緒に協働できるか」であり、一番大切なものとしているが、動画を見て、実はできていなかったり、できていたりしている。想像できるヒントを与えている。技の3要諦(力の強弱、体の伸縮、技の緩急)があるが、どの部分で仲間と協調しあえるか、例えば自分が上手だったら、少し置いて、周りと同じレベルにするなど。

3 助言者から

- ・テーマが「主体的・対話的で深い学びの実現」であり、副題が「わかる・できる・いきる」である。「学習デザインガイドブック」を作り上げ、大変すばらしいと思う。学習指導要領では、一方的な説明をするのではなく、何を学ぶか、何を身に付けるのが大事で、それが深い学びにつながる。他の体育の種目に比べ、空手は難しいと思っていた。より速くとか、より遠くに飛ばすとかとは違う。「蹴りが3で、引きが7」というのが、生徒にイメージしやすいのだろうと思う。声の加減を教えるのも難しいと思った。協働的ということだが、先生の具体的な指示がない中で取り組めるのは、まさに協働的だと思う。グループでやることが工夫されている。深い学びについては、生活にどう生きるかについて、人前での発表が目標につながっている。苦手な生徒もビデオを撮るなど、できることを取り組ませている。点数がまちまちであったので、どういう基準なのかが気になった。声の大きい生徒に声を出させない方法など指導困難な生徒に一工夫することが必要だろう。

資料

学習デザインガイドブック

学習の手引き

北海道函館高等支援学校

「学習デザインガイドブック」

「学習デザインガイドブック」について

「学習デザインガイドブック」(以降「ガイドブック」と表記)は、令和3年度の校内研究(テーマ「知的障害教育における主体的・対話的で深い学び(以降「主体的…学び」と表記)の実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～)の取組として、学習指導要領に示された趣旨に沿った指導の在り方を、研究授業を通して考察し、まとめたものです。

また、本書と併せて生徒向けに作成した「学習の手引き」(以降「手引き」と表記)は、校内研究を通して教師間で共通理解を図った基本的な授業の組み立てや学習の進め方について、生徒も同じように理解することで学習へのより主体的な取組を促すことをねらいとしています。年度初めの学年集会や各教科等のオリエンテーションや、LHRや各授業の指導資料として活用したいと思います。

本校の研究では、「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の在り方について、学習指導要領が示す「授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく」「基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、それを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることを重視すること。」※1 との考え方を取組の要点として研究を進めてきました。

この「学習デザインガイドブック」には、学習の基本的な組み立てや、それについて共通理解をし、各先生に日常的な実践に反映させていただきたい事項がまとめられています。

本書が、生徒と教師の共同作業による、本校の学びのスタンダードとして「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善にご活用いただければと思います。

※1 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 第2節 改定の基本方針 1③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 より

目次

I	本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方について	
1	本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善の在り方について……………	2
2	本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた 授業改善の在り方についての共通理解～「生徒自身の学びとな る」ことと「わかる」「できる」「いきる」の視点……………	2
3	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と「生 徒自身の学びとなる」ための視点「わかる」「できる」「いきる」 について（「学習の手引き」：授業の組み立て～3つの段階～）……………	3
(1)	「わかる」～「主体的な学び」を引き出すための視点……………	3
(2)	「できる」～「対話的な学び」や「深い学び」の場としての質の高い学び……………	4
(3)	「いきる」～学習で身につけた資質・能力が「いきる」場とそのための視点……………	6
(4)	単元・題材指導計画における「わかる・できる・いきる」の視点……………	7
(5)	「わかる」「できる」「いきる」の授業のイメージ……………	9
(6)	「いきる」の視点で「育成を目指す資質・能力」を明確にした学習計画の作成……………	10
(7)	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の配慮事項と 「わかる・できる・いきる」の視点の関連……………	11
II	「学習の手引き」の活用について	
1	「学習の手引き」を活用する場面……………	13
2	「学習の手引き」の改訂について……………	13
3	「学習の手引き」の内容と活用のポイント……………	14
III	「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項……………	25

I

本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方について

1 本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方について

本校では学習指導要領に示された「主体的…学び」の実現に向けた授業改善に照らして、本校の学校教育目標及び教育課程に係る諸計画と、本校生徒の実態を合わせて、本校における「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の在り方を次のようにまとめました。

【本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方】

- 1 これまで行ってきた学習指導を、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の趣旨に照らして整理し、学習活動の質を改善・充実させるものである。
- 2 生徒の実態に応じ、生徒自身の学びとなり、生徒の生活にいきる学力の育成を目指すものである。
- 3 本校における学習指導の基礎・基本として共通理解を図り、各授業の実践に反映させるものである。

2 本校における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の在り方についての共通理解～「生徒自身の学びとなる」ことと「わかる」「できる」「いきる」の視点

(1) 学習指導要領に示された「主体的…」の実現に向けた授業改善の趣旨の共通理解

- 1 これまで行ってきた学習指導を、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の趣旨に照らして整理し、学習活動の質を改善・充実させるものである。

学習指導要領及び学習指導要領解説に示された「主体的…学び」及び「知的障害教育における基本的な対応」を集約し、「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項としてまとめ、知的障害教育における「主体的…学び」の実現に向けた授業改善の基礎・基本として共通理解を図り、学習指導計画の骨子となるべき内容として押さえました。

【掲載場所～ガイドブック26頁】「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項（改訂版）

(2) 「主体的…学び」の実現に向けた授業改善のポイントは「生徒自身の学びとなる」こと

- 2 生徒の実態に応じ、生徒自身の学びとなり、生徒の生活にいきる学力の育成を目指すものである。

研究授業を通して、日常の実践を振り返ったときにまだまだ教師主導の学習が多く行われているという反省が先生方からあがりました。

生徒が教師の説明を聞いたり、プリントに記入したりしているときに、生徒は主体的に理解しようとしていたり考えたりする活動ができているのか。学習目標の達成に向けた主体的な取組になっているのだろうか。

そこで、「主体的…学び」となるためのポイントとして、「生徒自身の学びとなる」という言葉を用いて押さえました。

これは、生徒が単に教師の指示通りに取り組むだけではなく、「何を学んでいるのか」「何ができるようになるればよいのか」を理解し、学習目標の達成に向けて自ら考えたり、気づいたりしながら活動しているということです。

そして、そのような学びになるための視点を、実際の指導場面における指導内容と対応させて捉える試みとして「わかる」「できる」「いきる」としてまとめました。

【掲載場所～ガイドブック2頁】

(3) 「わかる」「できる」「いきる」による学習指導の基礎・基本の共通理解

- 3 本校における学習指導の基礎・基本として共通理解を図り、各授業の実践に反映させるものである。

学習指導の基礎的・基本的な事項を「わかる」「できる」「いきる」という表現を用いて「生徒自身の学びとなる」ために必要な視点とし、指導場面と対応させて整理しました。

また、「学習目標」、「学習予定」、学習に必要な「基礎・基本となる知識・技能の確認と習得」、「自己評価」による学習の振り返りを「学習の基本的な指導事項」とし、日常の学習指導で共通して指導する事項として、本校における『「主体的…学び」の実現に向けた授業改善』を目指しました。

【掲載場所～ガイドブック3頁】

3 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と「生徒自身の学びとなる」ための視点「わかる」「できる」「いきる」について（「学習の手引き」：授業の組み立て～3つの段階～）

生徒がより主体的に学習に取り組むことができるためには、授業における、いわゆる「できる状況作り」が重要となります。

本校では、本研究において、『「主体的…学び」の実現に向けた授業改善』として、「生徒自身の学びとなる」ための「できる状況作り」の視点を「わかる」「できる」「いきる」という言葉を用いてまとめました。

また、「わかる」「できる」「いきる」の視点を実践に生かすために、それぞれの視点に対する具体的な指導内容を「学習の基本的な指導事項」として設定しました。教科等の特性や、授業の進め方により、それぞれに合わせた形で指導されると思われませんが、「できる状況作り」のための、本校の学習活動の基礎的・基本的な支援の手立てとして、各教科等の指導で共通して取り組むこととします。

※「わかる」「できる」「いきる」は、学習の基本的な展開である「導入」「展開」「まとめ」と概ね同じ内容として捉えることができ、生徒向け資料の「学習の手引き」では、授業の進め方として理解できるように「授業の組み立て～3つの段階～」と表しましたが、ガイドブックの中ではあくまでも「主体的…学び」のための授業改善の視点として押さえました。

(1) 「わかる」～「主体的な学び」を引き出すための視点

学習指導要領解説では、「主体的な学び」の視点を次のように説明しています。

① 学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。 ※特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 158 頁より

どのような活動に取り組む際でも、主体的に活動していくためには、その内容や目的などを理解していることと、取り組むために必要な力をもっていることが必要です。

「わかる」は主に授業の導入段階において、生徒が学習の内容や方法を理解しながら学習に見通しをもつことと、学習に必要な基礎的、基本的な知識・技能を習得し、次の段階（「できる」）への準備を整えることで、「主体的な学び」を引き出すことを目的とした視点です。

「わかる」に関しては、生徒が主体的に学習に取り組んでいくために必要な「ア 『学習目標』の提示」「イ 『学習予定』の提示」「ウ 『基礎・基本となる知識・技能』の確認と習得」の3点を「学習活動の基本的な指導事項」としました。

ア 「学習目標」の提示

単元・題材や、毎時間における授業の導入段階で、学習目標を生徒に提示します。

学習目標の理解は、生徒が何を学ぶのかを意識して、主体的に学習に取り組むためのポイントとなるため、抽象的にならず、学習内容と合わせて具体的な取り組み方がイメージできるような表現を心掛けましょう。

また、学習目標は評価の際の観点(評価規準)となるので、自己評価の際に、目標に対して個々の生徒が達成の状況を判断できるようになることも大切です。

さらに、学習目標は、授業の中で常にそこに立ち戻り、学習の状況を振り返るためにも活用されますので、簡潔でわかりやすい表現とすることが必要です。

学習目標の設定や提示については、学習予定の提示などと合わせて、生徒が、何を学ぶかを十分に「わかる」ように工夫しましょう。

【学習目標】のポイント

- ・学習活動を踏まえ、達成すべき状況をわかりやすく、簡潔且つ具体的に示す。
- ・板書などで授業中に常に意識できるようにする。
- ・生徒が目標に対する達成度を適切に自己評価することができるようにする。

イ 「学習予定」の提示

単元・題材や本時における学習の導入段階や学習過程において、学習目標と合わせて、学習の期間、時間配分や活動内容、分量などを提示し、生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組めるようにします。

「学習予定」は、単にスケジュールを示すだけでなく、学習目標と合わせて単元等の大まかな組み立てを理解したり、前後の学習や前年の学習とのつながりを理解したり、学習の必要性や意義、他の教科等や行事との関連、生活に生かす視点などを合わせて理解させる目的もあります。

また、苦手意識のある生徒には、十分な練習や準備の時間が用意されていることを示して安心させたり、終了の目途を明らかにして意欲を継続できるようにしたりなど、生徒への動機付けや意欲を継続できるようにすることなどの目的も含んでいます。

学習予定は、授業のはじめに提示するだけでなく、学習の過程で、生徒が自分の学習の経過を振り返り、進度や取組方を調整したりする「学びに向かう力、人間性等に関する目標」の達成にも活用できます。

【学習予定】のポイント

- ・生徒が単元・題材、またはこの1時間に取り組む学習内容、方法（時間配分や学習の分量など）を理解し、取組への見通しをもち、意欲をもつことができるようにする。
- ・示された学習予定に対して、個々の生徒が自分の進度や活動の仕方を考え、調整できるようにする。
- ・前後の学習や他の教科、行事等とのつながりを理解することができるようにする。
- ・学習の意義や必要性、生活に活かす視点とのつながりを示す。

ウ 「基礎・基本となる知識・技能」の確認(基礎・基本の吟味と生徒の実態把握)と習得

特別支援学校学習指導要領解説には「オ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、それを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることを重視すること。」と示されています。

※特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 第2節 改定の基本方針 1③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進より

「わかる」は「できる」ための準備と押さえています。生徒が目標達成に向けて活動「できる」ためには、どのような「基礎・基本となる知識・技能」が必要かを考え、吟味することが大切です。

更に生徒がその「基礎・基本」をどの程度習得しているかを確認(実態把握)しておく必要があります。

また、生徒も今取り組んでいる学習の「基礎・基本となる知識・技能」を理解して、「どんな知識・技能を使って何ができるようになることを目指しているか」を意識しながら学習できるようにしましょう。

【基礎・基本となる知識・技能】のポイント

- ・学習活動に必要な「基礎・基本となる知識・技能」を吟味する。
- ・学習活動に必要な「基礎・基本となる知識・技能」についての生徒の実態を把握する。
- ・「学習目標」「学習予定」「基礎・基本となる知識・技能」を合わせて考え、「できる」ようになるための学習計画を立てる。
- ・生徒にも、学習活動に必要な「基礎・基本となる知識・技能」を示し、意識させる。

(2) 「できる」～「対話的な学び」や「深い学び」の場としての質の高い学び

学習指導要領解説では「対話的な学び」、「深い学び」を次のように説明しています。

- ② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。
- ③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科・科目等又は各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。 ※特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 158 頁より

「わかる」視点による指導が、生徒が学習内容に見通しをもち、主体的に取り組んでいくことのできる準備であるとする、「できる」は、学習目標の達成に向けた学習活動が、「生徒自身の学び」として「対話的な学び」や「深い学び」となるための視点と考えます。

そのために大切なのが「できる」の具体的なイメージをもつことと、「見方・考え方」です。

例えば美術の「食」をテーマとした啓発ポスターを作るという授業で、ある生徒が給食の絵を描き、「好き嫌いをなくそう」という言葉を画面に入れた作品を作ったとします。

確かにテーマに沿った作品にはなりましたが、アイデアとしてはあまり工夫があるとは思えません。

「できる」とは、「ただできる」のではなく、生徒が主体的に試行錯誤をしながら、学習を深めるような活動が「できる」ということです。

そのためには、「できる」ということが具体的にどのように「できる」ことなのか、学習を深めるというのはどういう活動ができていっていることなのかについて、教師がイメージをもち、その活動を引き出すための指導、支援を行うことが必要です。

そしてその支援により、生徒が「ただできる」と「できる」の違いを理解できれば、「できる」ようになるために主体的に取り組む、深い学びに向かうことができると考えられます。

ポスターの例では、まず生徒がアイデアの工夫について、感じたり判断したりできる力を付ける指導が必要でした。例えば参考作品を鑑賞して、絵や言葉の組み合わせを工夫することがポスターのメッセージを効果的に伝えることを理解できれば、“効果的に伝えているか”という視点をもって作品のアイデアを考えることができたかもしれません。このように考える視点が、「わかる」で示している「基礎・基本となる知識・技能」であり、これが、各教科等における「見方・考え方」ということができるのではないかと思います。

何がどのように「できる」かを具体的にイメージできることによって、そのために何が「わかる」必要があるかを考えることができるのだと思います。ですから、「わかる」で考えた視点は、この「できる」の視点をどのように押さえて考えるのが大切になってきます。

生徒の実態、教師がイメージする学習活動、そこで働かせる「見方・考え方」や取組に必要な「基礎・基本となる知識・技能」の指導を合わせて考えていくことで、生徒は学習目標の達成に向けた学習活動を、より「主体的…な学び」として取り組むことができると考えます。

また、「できる」で大切なもう一つの視点は、「どのように学ぶか」ということです。

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の配慮事項」として、「言語環境の整備と言語活動の充実」「コンピュータ等や教材・教具の活用」「体験活動」「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動」「学校図書館、地域の施設の利活用」をあげています。

「できる」ためには、これらを活用しながらより深い学びとなるような、学習活動の工夫が必要です。

様々な体験や、地域の方との関わりの中で学ぶことの有意義さについては、誰もが実感できるものです。深い学びが「できる」ためには、教材教具、体験、人材や施設利用など、「どのように学ぶか」という視点が重要です。

【できる】の視点

- 学習目標の達成に向けた学習活動を次の視点で捉えて計画する。
 - ・生徒の実態(何がどの程度できる)を押さえる。
 - ・教師が学習活動を具体的にイメージする。(何がどのようにできていることか)
 - ・そこで働かせる「見方・考え方」(「基礎・基本となる知識・技能」)を考え、習得できるようにする。
 - ・教材教具や体験を取り入れるなど「どのように学ぶか」を工夫する。

「見方・考え方」について

主体的・対話的で深い学びの実現を目指して授業改善を進めるに当たり、特に「深い学び」の視点に関して、各教科・科目等又は各教科等の学びの深まりの鍵となるのが「見方・考え方」である。各教科・科目等又は各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方である「見方・考え方」は、新しい知識及び技能を既にもっている知識及び技能と結び付けながら社会の中で生きて働くものとして習得したり、思考力、判断力、表現力等を豊かなものとしたり、社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりするために重要なものであり、習得・活用・探究という学びの過程の中で働かせることを通じて、より質の高い深い学びにつなげることが重要である。 ※特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 158 頁より

(3) 「いきる」～学習で身につけた資質・能力が「いきる」場とそのための視点

「できる」ために必要なことを考えることで「わかる」も考えることができるということを説明してきましたが、同じように「できる」を考えるために必要なのが「いきる」であると考えます。

つまり、学習を計画するときには、どこでどのように「いきる」力を付けようとしているのか、から発想して、そのために何がどのように「できる」ことが必要か、そのためには何を「わかる」必要があるか、というように考えていくことで、より「生きて働く力」を育てるための授業改善ができるのではないかとことです。

そのためにはまず、学習で身につける資質・能力を明らかにするとともに、それが「いきる」場を整理し、それぞれの場において「いきる」ための視点について考えてみました。

学習で身につけた資質・能力が「いきる」場については、次の3つにまとめてみました。

- ア 次の学習に「いきる」
- イ 他の学習に「いきる」
- ウ 生活に「いきる」

ア 次の学習に「いきる」～自己評価、学習評価を生かす

学習指導要領では、主体的な学びの視点として「自己の学習活動を振り返って次につなげている」こと、また、授業の構成のデザインについては「見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場を設定する」と示されています。

授業の終わりや、単元等のまとめで行われている「自己評価」（振り返り）は、このように学習目標の達成状況を評価し、成果や課題を確認したり、次の目標を考えたりする学習活動です。

「自己評価」で生徒が自分の達成状況を適切に評価できるためには、学習目標の「評価規準」が示されることが必要です。「評価規準」は学習目標を「～ができたか」で表しますが、生徒が適切に自己評価をするためには、“できたこと”をどこで判断するかを明確にした規準が必要になります。これに対応してくるのが前出の「できる」で説明されている、「ただできる」と「できる」の違いを理解することです。その違いを理解できている生徒は、目標の達成の状況を適切に評価することができると考えられます。

また、「ただできる」と「できる」の違いが分かるということは、生徒の各教科等の「見方・考え方」が広がり、深められているということもできると考えます。学習目標の達成は、次の学習に「いきる」「見方・考え方」が育成されることでもあると思います。

「自己評価」については、既に各授業で実践されていますが、「いきる」の視点として、「学習活動の基本的な指導事項」とし、各教科等で共通して取り組むこととします。

「自己評価」とともに、教師が振り返りシートにコメントを書いて生徒に評価を伝えることも行われています。教師の評価の総括は、通知表（個別の指導計画）により伝えられますが、日常的な評価が適切に行われることにより、総括された通知表の評価も生徒にとって意味のあるものとなります。

令和2年度の校内研究は「学習評価」をテーマとし、そのまとめでは、学習評価の在り方を「生徒の学力の伸長に資するためのもの」と押さえました。評価は達成の状況を示すだけでなく、次に「いかす」ために行うということを常に意識したいと思います。

イ 他の学習に「いきる」～「学習の基盤となる資質・能力」

本校では、「キャリア教育全体計画」等の各全体計画及び「新聞教育」等、重点を置く教育活動の計画を作成しています。

これらの計画は、本校の教育課程において、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成として、「重点を置く教育活動」の「学習の基盤となる資質・能力」に位置付けられ、各教科等の指導が相互に関連付けられ、より教育効果を上げることができるよう設定されていますが、十分に活用ができていない状況です。

今後は、各全体計画等に関連する教科等間で連携し、より組織的な取組を進めるため、各全体計画等および単元・題材配列表を活用し、カリキュラム・マネジメントによる教育課程の改善を進めていくことが求められます。

なお、本校の教育課程においては「学習の基盤となる資質・能力」として、「言語能力」、「情報活用能力」、「問題発見・解決能力」の3つが示されていますが、今回作成した「学習の手引き」では、言語能力に対応させて「話し合いのルールとマナー」を、情報活用能力に対応させて「調べ学習」を掲載し、「話し合い」や「調べ学習」の基本的な内容を共通理解できるようにしました。

特に「話し合いのルールとマナー」は、各授業の他、委員会活動など、様々な話し合いの場面で繰り返

返し確認することで、より建設的な話し合いのできるスキルを身につけることができると思いますので、学校全体で活用できればと思います。

ウ 生活に「いきる」～「校訓 探究・協働・健全」の活用

生活に「いきる」視点は大きく2つあります。一つは、現在の学校生活や家庭生活に「いきる」ことです。そしてもう一つは卒業後の社会生活に「いきる」ことです。

現在の学校生活や家庭生活に「いきる」内容を学習する場合は、生徒に学習の意義も理解され、具体的に体験的な指導により、より「いきる」学習を行うことができます。

難しいのは「いきる」場面が日常生活に具体的に対応しない場合です。

校内研究の中でも、「すぐに生活に生かすことが難しい内容もある」との意見が出されていましたが、各教科等の指導内容の中には、日常生活に直接関わらないような内容もあります。

「わかる」視点についての説明でも“学習の意義”を生徒に理解させることに触れていますが、生活上の必要性がわかりにくい学習内容ほど“学習の意義”を理解させることは難しいと思われま

す。そこで本校では「校訓の活用」に取り組みたいと思います。

授業の中で意識的に校訓を活用することで、校訓に込められた、生徒に身につけてほしい力や考え方を学習内容と関連させ、意識できるようにします。

校長が全校集会などの講話の始めに「健全ですか」と生徒に呼びかけることで、「健全」という言葉は生徒にとって今までより身近になっていると思われま

す。その「健全」に対して、例えば音楽の鑑賞で、個人個人が違った感想をもったときに、それが感性の「多様性」であり、そのような違いがあることを受容できる心の有り様は「健全」であると学習したとします。生徒にはまた新しい「健全」の意味が理解されます。

「校訓」が合い言葉のようにいろいろな場面で用いられることで、言葉の意味が膨らみ、その意味と学習内容がつながることで、学習したことが「いきる」ようになると考えられます。

「探究・協働・健全」の3つの言葉が、生徒にとって身近で、親しめて、重みのあるものとなることで、そこに結びつけられる学習活動のそれぞれが、“学ぶ意義のあるいきた学び”となるよう、意識して活用していきましょう。

なお、本校の教育課程では、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成について、「重点を置く教育活動」の「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」として「健康・安全・食に関する力」「主権者として求められる力」「新たな価値を生み出す豊かな創造性」の3つが示され、それぞれに対応した各全体計画が作成されています。

各教科等の指導においては、シラバス（年間指導計画）で設定されている単元・題材等について、それら各計画と関連付けながら、生活に「いきる」力を明確にした指導計画を作成することが大切になります。

【いきる】の視点

○学んだことが「いきる」ための「自己評価」のポイント

- ・「ただできる」と「できる」の違いがわかる＝評価規準に対する適切な自己評価ができる

○「いきる」の3つの場とその視点

ア 次の学習に「いきる」

- ・「見方・考え方」を深め、次の学習に生かす

イ 他の学習に「いきる」

- ・教科等横断的な視点による学習の充実：「学習の基盤となる資質能力の育成」

ウ 生活に「いきる」

- ・学んだことを生かす具体的な生活場面の設定
- ・教科等横断的な視点による学習の充実：「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」
- ・「校訓」の活用

(4) 単元・題材指導計画における「わかる・できる・いきる」の視点

実際の学習計画の作成手順と「わかる・できる・いきる」の視点を学習指導要領解説の「『主体的・対話的…な学び』による授業改善の配慮事項」と関連付けてまとめました。

「主体的…な学び」では、「単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して」単元等の授業全体の中で「主体的な学び」をはじめ3つの学びを効果的に組み合わせ、過程を大切に授業改善を目指すことが示されています。

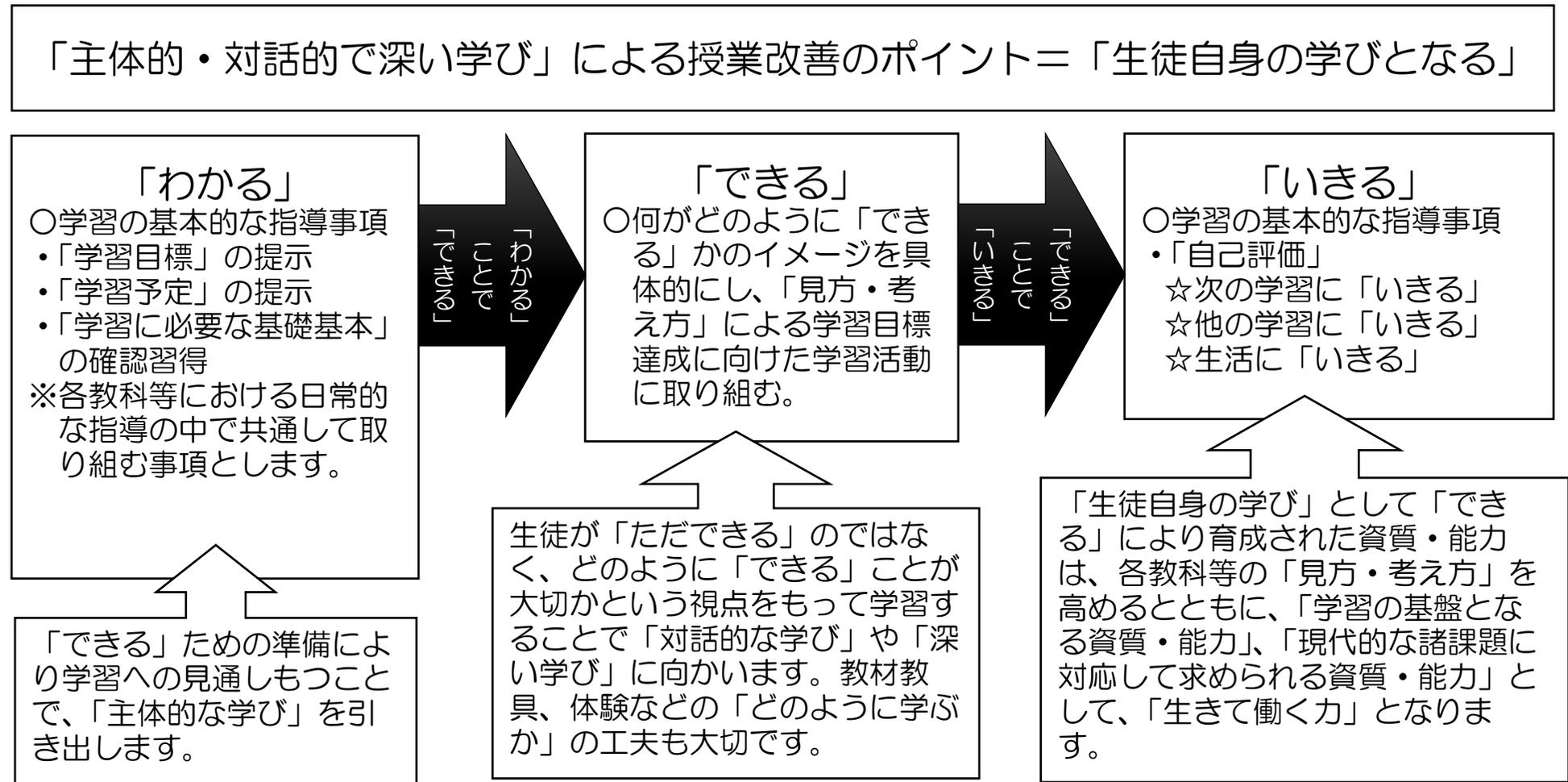
単元・題材指導計画では、その趣旨を踏まえながら、「わかる・できる・いきる」の視点で、より「生徒自身の学び」となるよう計画の見直しや作成を進めていきたいと思

作成手順	学習指導要領に示された「授業改善の配慮事項」及び本校の教育課程との関連	「わかる・できる・いきる」の視点
(ア)教育課程上の位置づけを確認	<ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに設定された単元・題材について、各全体計画や重点を置く教育活動全体計画との関連、位置づけを確認する。 	<p>【いきる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容についての意義や、生活にいかす視点(どこで「いきる」力か、3つの場)を考える。 ・校訓との関連を考える。
(イ)学習目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領との関連を確認して設定する。 ・(ア)の各全体計画等との関連を加味して設定する。 ・3つの柱を偏りなく実現されるように設定する。 ・学習目標についての評価方法(評価方法、規準規準)を明確にする。 	<p>【わかる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習目標」は「見方・考え方」と関連させ、何が、どのようにできることを目指すのか、具体的なイメージをもち、「できる」の視点を踏まえて設定する。 <p>【いきる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価」は生徒が適切に評価できるように、「学習目標」と合わせて指導の過程で評価規準や評価の方法を示す。
(ウ)単元・題材のデザイン	<p>①学習予定の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して計画する。 ・見通しを立てたり学習したことを振り返ったりして自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。 ・対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。 ・学びの深まりをつくり出すために、生徒が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるか考えて設定する。 	<p>【わかる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学習予定」は、学習活動の内容やつながりがわかるなど、学習の進め方に見通しもたせるとともに、生徒が意欲をもつことも大切。 ・目標達成に必要な「基礎・基本となる知識・技能」を明確にし、実態把握や習得のための指導を計画する。 <p>【できる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元等の全体を見通して、「見方・考え方」を効果的に働かせるように「対話的な学び」「深い学び」の場を設定する。 <p>【いきる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自己評価」の場面や方法を工夫し、学習評価を次の学習に生かすようにする。
	<p>②指導方法の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語環境の整備と言語活動の充実 ・コンピュータ等や教材・教具の活用 ・体験活動 ・学校図書館、地域の施設の利活用 	<p>【できる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できる」のイメージを具体的にもつこと。 ・学習活動を深めることが「できる」ための指導方法の工夫。(「どのように学ぶか」)

(5) 「わかる」「できる」「いきる」の授業のイメージ

「主体的・対話的で深い学び」による授業改善について、「生徒自身の学びとなる」ことをポイントとして、「わかる」「できる」「いきる」の視点により学習を進める授業のイメージです。

「わかる」ことで「できる」ようになり、「できる」ことで「いきる」ようになるという学習のつながりを考えて授業を組み立てることで、学習の骨子とそれぞれの学習内容の関連や一貫性を整え、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を引き出すことができると考えます。

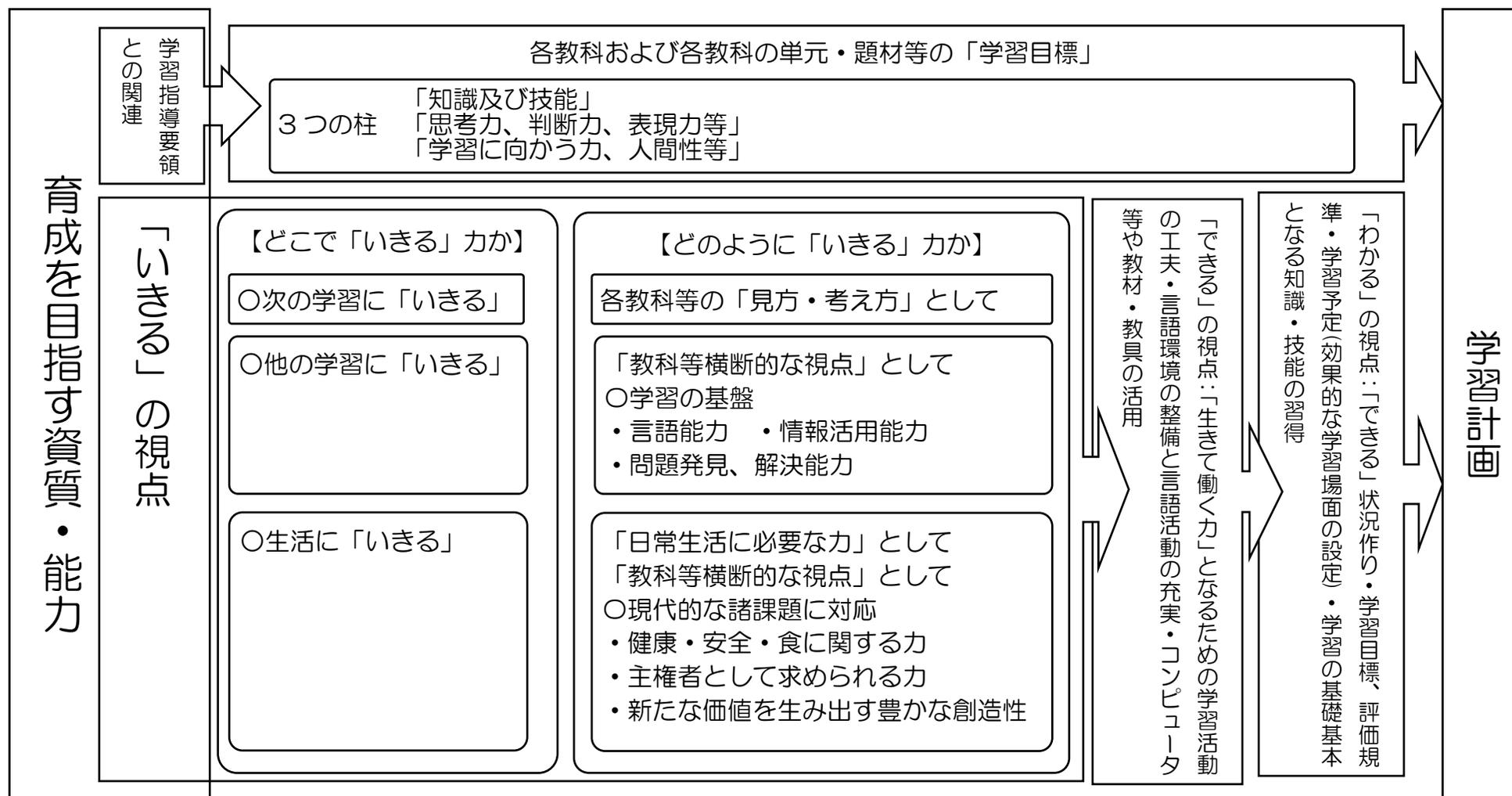


(6) 「いきる」の視点で「育成を目指す資質・能力」を明確にした学習計画の作成

学習活動が目指すのは、学んだことが「生きて働く力」となることです。

学習指導要領には、「育成を目指す資質・能力」を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学習に向かう力、人間性等」として分析的に捉え、それらをバランスよく指導することと示されています。

「いきる」の視点では、学習でつけたい力を、「どこでどのように『いきる』力なのか」から考えることで、適切な学習活動を選択したり、効果的な学習場面を設定したりすることができると思います。



(7) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の配慮事項と「わかる・できる・いきる」の視点の関連

※ は学習指導要領解説より、授業改善の配慮事項に示された事項 は「学習活動の基本的な指導事項」

		「わかる」 学習内容・方法を理解し、見通しをもつ	「できる」 学習目標達成に向け質の高い学びを実現する	「いきる」 学んだことを次の学習や生活に活かす
(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	主体的な学び	<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">学ぶことに興味や関心をもつ</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">見通しをもって粘り強い取組</div> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 2px;">学習目標・学習予定の提示</div>		<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自己の学習活動を振り返って次につなげる</div> <div style="border: 1px solid orange; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">自己のキャリア形成の方向性と関連付け</div> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 2px;">学習目標・学習予定の提示</div> <div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 2px;">自己評価</div>
	対話的な学び	<div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 2px;">学習活動の基礎・基本の確認、習得</div>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px;"> 自己の考えを広げ深める ・子供同士の協働 ・教職員や地域の人との対話 ・先哲の考え方を手掛かりに </div>	
	深い学び	<div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 2px;">学習活動の基礎・基本の確認、習得</div>	<div style="border: 1px solid orange; padding: 2px;"> 「見方・考え方」を働かせる ・知識を相互に関連付けてより深く理解 ・情報を精査して考えを形成 ・問題を見いだして解決策を考え ・思いや考えを基に創造する </div>	
(2) 言語活動	言語環境を整えるとともに、各教科・科目等又は各教科等の特質に応じて、生徒の言語活動を充実すること			
(3) 教材・教具	コンピュータなどの情報手段環境を整え活用した学習活動の充実、統計資料や新聞、視聴覚教材等教材・教具の適切な活用を図ること			
(4) 見通し・振り返り	学習の見通しを立て、振り返りをする活動を計画的に取り入れる			学習の見通しを立て、振り返りをする活動を計画的に取り入れる
(5) 体験活動		各教科等の特質に応じた体験活動を重視し、家庭や地域社会と連携し体系的・継続的に実施		
(6) 施設利活用		学校図書館の活用、読書活動の充実。地域の施設の活用、資料の活用、鑑賞等学習活動の充実		

II

「学習の手引き」の活用について

1 「学習の手引き」の活用について

「学習の手引き」は本校における学習の内容や進め方などについて生徒向けに制作したものです。

「学習の手引き」の内容は年度初めに生徒に説明する時間を設定しますが、一度に全てを説明するのではなく、日常の学習活動の中で折に触れて確認するなどしながら、書かれている内容が、生徒に十分理解され、学習活動の基本的な形として浸透することがねらいです。

そのためには、教師の指導についても、「学習活動の基本的な指導事項」をはじめとして、「わかる・できる・いきる」の視点による学習指導を日常的に実践していきましょう。

内容は、これまでの学習指導の基本的な考え方を整理したもので、本校独自に設定した特色のある内容ではありませんので、趣旨を踏まえつつ、各教科等の指導方法に沿って取り入れ、学校全体として取り組んでいきたいと思えます。

(1) 「学習の手引き」の構成と「学びのキーワード」について

第1章「この学校でつける力」、第2章「学習の取り組み方」、第3章「様々な学習について」、資料、で構成されています。

各章はいくつかの項目になっており、それぞれの項目には、最後に「学びのキーワード」が記載されています。

「学びのキーワード」は、日常の学校生活の中で用いることで、学習の意義やポイントなどを思い出したり確認したりできる“合言葉”のように使うことをねらいとして記載しています。ご活用ください。

(2) 「学習の手引き」の活用について

ア 「学習の手引き」を活用する場面

次の内容については、各学年等で指導することとします。

(ア) 指導時間を設定する内容

① 1学年

○入学後早い時期に学年集会などで次の内容について指導します。

- ・「校訓」について(7~9頁)
- ・「わかる・できる・いきる」(11~13頁)
- ・「学習のルールとマナー」(14~16頁)

② 2・3学年

○新年度はじめの学年集会等で次の内容について指導します。

- ・「学習のルールとマナー」(14~16頁)

③ 共通

○「学習のルールとマナー」について、学期末の学年集会等で「チェックリスト」を活用するなどして、学年の状況を確認し、よりルールやマナーが守れるように意識付けをします。

(イ) 上記以外の内容について

① 1学年

○LHRの個人面談の時間等を利用して、しおり全般について目を通すようにします。

② 共通

○「話し合いのルールとマナー」は、“話し合い”のある学習活動の際に、折に触れてみて確認します。

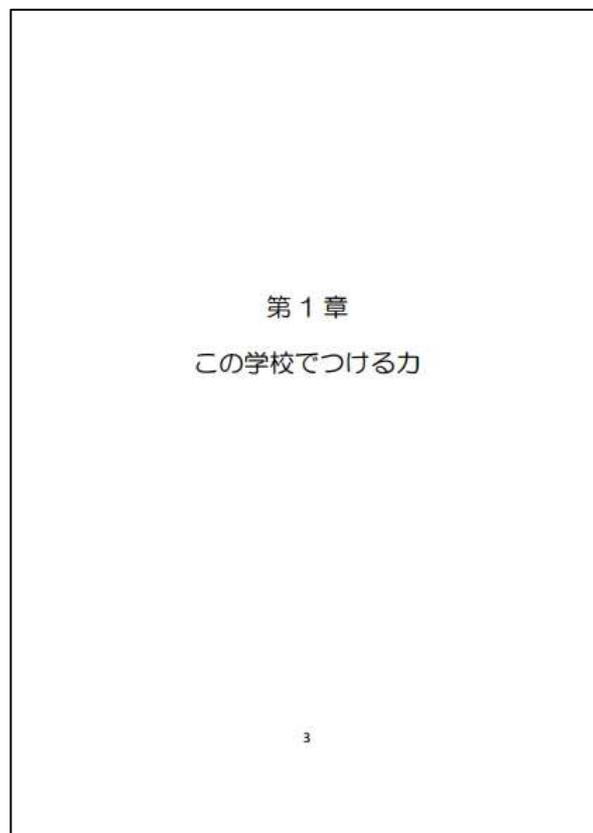
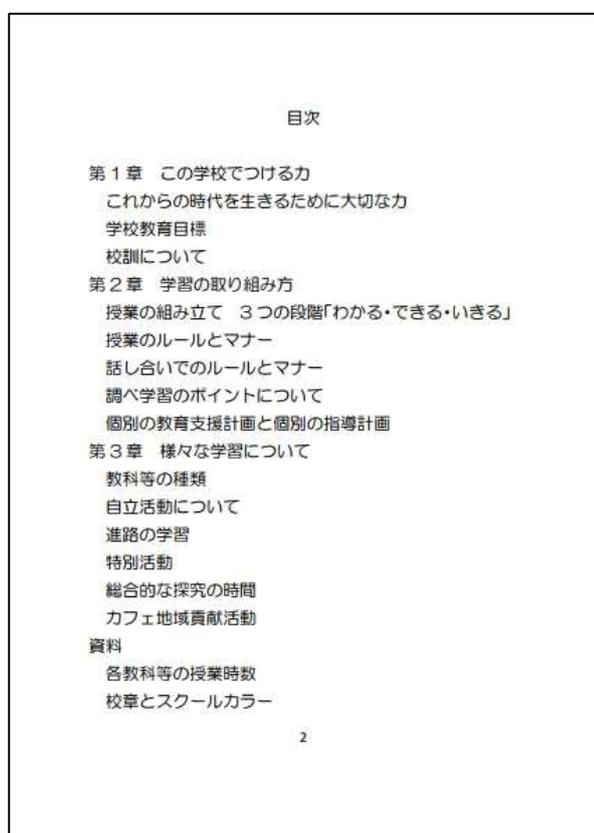
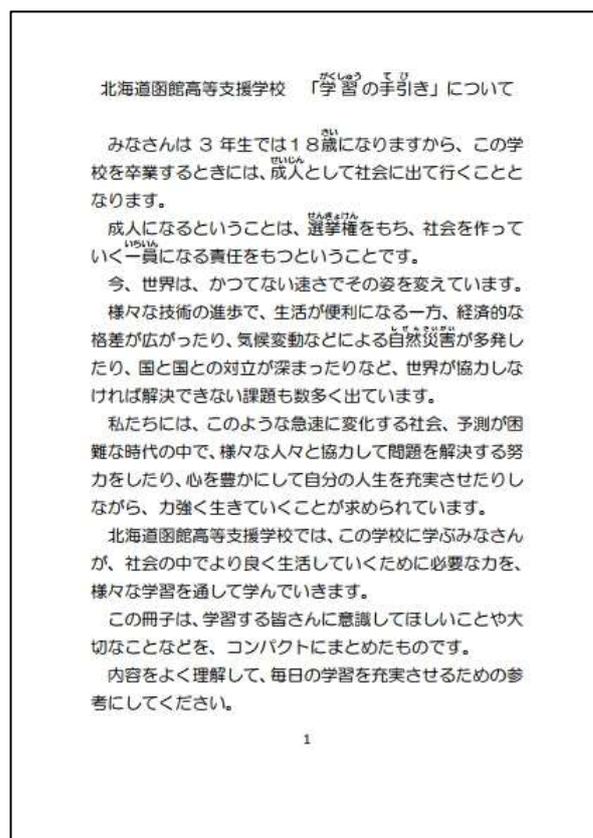
2 「学習の手引き」の改訂について

ア 担当部署 教務部研究係

イ 改訂時期 校内研究の取組として年度末に先生方から意見をもらい加除修正する。

3 「学習の手引き」の内容と活用のポイント

「学習の手引き」の各ページについて、各教科等における日常の指導に反映させるポイント等を示しています。



これからの時代を生きるために大切な力

これからの時代は予測困難な時代と言われています。次の6つの力は、そんな時代を生きていくために大切な力です。いろいろな学習を通して、この6つの力を付けていきましょう。

1 言語力(言葉の力)

- 文章を読み、書き、理解したり考えたりする力
- 話す力、聞く力、話し合う力

○言語力は全ての学習の基礎となる大切な力
〔特に関係する学習：国語他全ての学習〕



2 情報力(情報を使う力)

- 情報を得る力
- 情報を使う力
- ルールやマナーを守って情報を使う力

〔特に関係する学習：情報、総合的な探究の時間〕



3 問題解決力(問題を見出し解決する力)

- 問題を見つける力
- 問題を解決する力

○各授業の「学習目標」を達成するための学習活動は、「問題解決力」を付ける大切な活動
〔特に関係する学習：特別活動、総合的な探究の時間〕



4

学習の基盤となる資質・能力

現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

4 健康安全力(健康、安全に生活する力)

- 心身の健康を維持向上する力
- 衛生的な生活を管理する力
- 交通安全に関する力
- 防災に関する力
- 防犯に関する力

〔特に関係する学習：保健体育 家庭科 特別活動他〕



5 社会性(社会で生活するのに必要な力)

- 決まりやマナーを守る力
- 他人を尊重し、協力する力
- 社会的な責任と義務を果たす力
- 社会に貢献する力

〔特に関係する学習：社会 職業 家庭 総合的な探究の時間 特別活動他〕



6 創造性(生み出す力)

- 表現する力
- 発想したり工夫したりする力
- 様々な価値を感じる力

〔特に関係する学習：音楽 美術 職業 情報 他〕



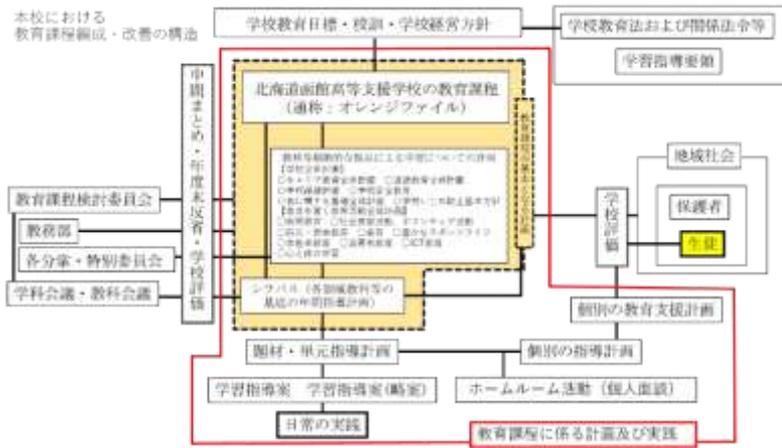
5

【「学習の手引き」活用のポイント】「これからの時代を生きるために大切な力」は、本校の教育課程に左のように位置付けられています。

各教科等における指導では、これらの資質・能力の育成について、各全体計画等との関連を図り、「いきる」の視点により、どのような力を付けるのかを明らかにして、指導内容、方法を計画することが大切です。

また、教科等横断的な視点による学習については、学校行事における指導内容、指導する教科等の明確化や、教科間の連携が課題となっている状況です。

カリキュラム・マネジメントの視点から、教育課程にかかる各計画作成の際に、より一層の改善充実を図ることが求められています。



学校教育目標について

北海道函館高等支援学校「学校教育目標」

「共生社会の一員として、

自ら社会に貢献する人間の育成」

学校教育目標は、学校がどのような生徒の育成を自指しているかを表した、学校の中で最も大切な目標です。

「共生社会」とはあらゆる人々がお互いを認め合い、助け合い、共に生きていく社会です。

この目標には、この学校で学んだみなさんが、社会の一員として、多くの人々とより良い関係を築きながら、自分から社会に貢献できる人になってほしいという願いが込められています。



学びのキーワード「学校教育目標」

共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成

6

校訓

「探究・協働・健全」について

函館高等支援学校では、「探究・協働・健全」の3つの言葉を校訓としています。

この3つの言葉は、みなさんが、学校教育目標にある「共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間」となるために必要な、様々な力を表しています。

それぞれの言葉が表している力を身につけることができるように、学校生活の様々な場面で校訓を意識して、学習に取り組んでください。

そうすることで、この3つの言葉のもつ意味を、しっかりと自分の力に変えていきましょう。

校訓は、この学校で共に学び生活するみんなをつなぐ大切な合言葉です。



7

【探究】

学び働き生きることを生徒にわたって探究する人間

「探究」とは探し求め、究めるということです。

「探究」が表す力

- ・自ら学ぼうとする力
- ・知識や技能を高め、深めようとする力
- ・より良く生きようとする力、努力し続ける力
- ・問題や課題を考え、解決しようとする力



【協働】

多様性を尊重し、互いのよさを認め合い協働する人間

「協働」とは、人々と一緒に協力しながら活動することです。

「協働」が表す力

- ・誰とでもより良い関係を築くことができる力
- ・人から学ぼうとする力
- ・人の気持ちや考えを認め尊重できる力
- ・誰とでも話し合い、協力できる力



【健全】

生涯にわたって健やかな心身と豊かな感性を磨く人間

「健全」とは、心と体が健康であるということです。

「健全」が表す力

- ・健康な心と体をつくり、保つ力
- ・善悪の判断ができ、適切な行動ができる力
- ・自分の心と体を磨く力



学びのキーワード「校訓」

校訓は学びの合い言葉
「探究」「協働」「健全」

【「学習の手引き」活用のポイント】

「校訓」は、「いきる」の視点として、学校全体の「学びの合言葉」として様々な場面で活用したいと思います。例えば、単元等の導入時の学習目標の提示のときに「今回の学習活動は特に「協働」する力が求められます」のように、授業のキーワードとしてイメージをもたせるなどのように使うことで、校訓を身近な言葉とし、授業の雰囲気や生徒の意識を高めたいと思います。

資料 「学習の手引き」説明資料 (PP)

第2章 学習の取組方

【「学習の手引き」活用のポイント】

「わかる」「できる」「いきる」は、どの授業でも、基本的な授業の組み立てや提示されるものが共通することにより、生徒に学習の見通しをもたせ、主体的な学びを促すことを狙いとしています。

目標をよく理解して、学習中には常に意識して、目標が達成できるように努力しましょう。

3 「基礎・基本」

学習に取り組むためには、その基礎・基本となる知識や技能があります。学習活動は、その基礎・基本を使いながら、さらに高いレベルの学習に取り組みます。

それぞれの授業では、どんなことが基礎・基本となるかを理解しましょう。

【第2段階「できる」】

第1段階の「わかる」で理解した「学習目標」を達成するために、学習した基礎・基本となる知識・技能や、みなさんが今まで学習したこと、経験したことなどを基に、理解を深めたり、技能を高めたり、問題を解決したりしながら、さらに発展させ、力を高める段階です。

この段階で大切なことは「学習目標」を理解して、「何ができるようになれば良いか」を意識しながら、試行錯誤したり、繰り返し練習したりすることです。

また、目標達成に向けて粘り強く取り組む意欲をもつことも大切です。



授業の組み立て～3つの段階～ 「わかる」「できる」「いきる」

授業で学んだことが、生活の中で生かされる力となるためには、決められたことにただ取り組むのではなく、「何ができるようになれば良いか」「そのためにどんな努力や工夫が必要か」を考えながら、自分から積極的に学ぶことが大切です。

積極的に学ぶためには、授業の基本的な段階(組み立て)や、学習のポイントを理解することが大切です。

【第1段階「わかる」】

授業のはじめには、「学習予定」「学習目標」が示されます。また、学習に必要な「基礎・基本」を学び、これからの学習への準備をします。

この3つが学習に取り組むためにとても大切です。しっかり理解しましょう。

1 「学習予定」

学習の期間や進め方を理解し、予定に合わせて学習を進めることができるように見通しをもちます。

2 「学習目標」

この授業でどんなことを学び、どんなことができるようになるかを表したのが「学習目標」です。



11

【第3段階「いきる」】

学習を振り返り、次の学習や生活に生かせるようにする、まとめの段階です。

「自己評価」

「自己評価」は、学習目標に対して、自分がどの程度達成することができたかを、自分で評価するものです。

自分の取り組み方や課題を反省し、次の学習に生かしましょう。

学びのキーワード

授業の組み立て 3つの段階
「わかる」「できる」「いきる」

その中でも、「わかる」についての「学習目標」の提示、「学習予定」の提示、「学習の基礎・基本の習得、確認」と、「いきる」についての「自己評価」はどの教科等の学習においても共通して指導する、「学習活動の基本的な指導事項」としました。

学習内容や、教科等の特性により、必ずしもすべてが設定されない場合もあると思いますが、本校における学習指導の基本として、全ての授業で取り組んでいただきたいと思ひます。

また、上記の指導事項については、生徒の混乱をなくすためにも、原則として共通した表記で使用するものとします。 資料 「学習の手引き」説明資料 (PP)

学習のルールとマナー

みなさんが通学にするバスは、走るコースやバス停が決まっていますが、同じように、北海道函館高等支援学校でも、3年間で学習する内容や時間数が決まっています。これを「教育課程」といいます。

みなさんは、入学のときに誓約書に署名をし、本校の生徒としての本分を守って学校生活を送ることを誓いました。ですから、この「教育課程」に沿って、いろいろな学習をしていくことになります。

また、この学校には、たくさんの生徒が学んでいます。

それぞれの生徒が、いろいろな考え方や、個性をもって生活しています。

「学習のルールとマナー」は、この学校で学ぶ誰もが、一緒に楽しく、充実して学ぶことができるための大切な約束事です。

自分のため、そしてみんなのために、必ず守ってください。

また、「学習のルールとマナー」は、社会に出てからも必要な内容ばかりです。社会生活を送る力として身に付けましょう。

14

【学習のルール】

〔授業の前後〕

- ・学習をする教室や服装、持ち物などは、自分で事前に確認すること。
- ・チャイムが鳴るまでに着席すること。
- ・トイレや授業の準備、着替え、教室移動は休み時間のうちに行うこと。

〔授業中〕

- ・先生の指示に従って活動すること。
- ・先生の説明は静かに聞いて、良く理解すること。
- ・発言や質問は、先生の説明の後に手をあげて、指名されてから行うこと。
- ・友達の発言も最後まで聞くこと。
- ・体調不良などで授業に参加することが難しい場合は、授業の前に先生に相談すること。
- ・授業中は私語や学習内容と関係のない活動、人に迷惑をかけるような活動はしないこと。
- ・物品の破損やケガなどは、すぐに先生に連絡すること。
- ・教室や教材など授業で使用するものを大切に扱うこと。



15

【学習のマナー】

- ・あいさつ、言葉遣い、振る舞いなど、礼儀正しくしましょう。
- ・道具やプリントなどを大切に扱い、机の上、中、ロッカーやファイルなど、常に整理整頓しましょう。
- ・間違ったり、失敗したりした友達に対して、馬鹿にしたり、批判したりせず、励ましたり、手伝ったりする気持ちを持ちましょう。
- ・体調が悪くても、参加する以上はしっかり取り組みましょう。参加が難しい場合は、自分から先生に相談しましょう。
- ・苦手なことでも、投げやりな態度をとらず、できるだけ努力しましょう。

学びのキーワード

学習のルールやマナーは社会のルールやマナー

16

【「学習の手引き」活用のポイント】

「学習のルールとマナー」は、年度初めなどに生徒に説明し、確認したり、意識付けをしたりして、学習への主体的な取組を学校全体で意識することでより良い授業を作る意識を生徒にも持たせたいと思います。

大切なのは、ルールやマナーが、自由を制限することや、先生の言うことを聞かせるためにあるのではなく、たくさんの人が共に生活するためには、「ルールやマナー」を守ることが大切であることや、所属する集団や社会がその目的を果たすためにも「ルールやマナー」が必要であることを学んでほしいと思います。

指導資料を活用し、学期の終わりに振り返りに活用するなど、常に意識付けを行い、学習する意識の高い集団作りを目指したいと思います。

資料・「学習の手引き」説明資料（PP）

- ・「学習のルールとマナー」チェックリスト

話し合いのルールとマナー

話し合いは、人々が共に生活していくために必要な、最も基本的な手段です。

話し合いのルールやマナーを理解して、話し合う力を高めましょう。

【話し合いのルール・マナー】

- ・ 友達の意見を否定しない。
- ・ 友達の発言は最後まで聞く。
- ・ 心ざけたりばかにしたりしない。
- ・ みんなが発言、意思表示をする。
- ・ みんなで決めたことは大切に守る。



【話し合いのポイント】

- ・ 何を話し合うか理解する。
- ・ 話し合っとうするか理解する。
- ・ 大切なことは何かをみんなで理解する。



※このほかに必要なことを、話し合いの時にみんなで考え、約束してから話し合いましょう。

学びのキーワード

話し合いは、社会生活の基本

17

調べ学習

調べ学習では、調べる内容や目的、まとめ方や発表の仕方などをしっかりと理解して取り組むことが大切です。

1. 調べ学習の進め方

- (1) テーマを決める
- (2) 調べ方(手段)を決める
- (3) 必要な情報を収集する
- (4) 調べたことをまとめる
- (5) 発表する



2. 調べ方(手段)について

インターネットだけで調べて終わりにするのではなく、本や新聞、雑誌など、様々な手段を使って調べることが大切です。

- | | |
|-------------|----------------|
| ① 本・雑誌・辞典など | ⑤ インターネット(サイト) |
| ② 新聞・チラシ | ⑥ 現地調査 |
| ③ ラジオ・放送 | ⑦ 実験 |
| ④ DVD・ビデオ | ⑧ インタビュー・アンケート |

学びのキーワード

調べ学習のポイント

何のために何を調べてどうまとめるかを理解する

18

iPadの活用方法

◎知って得するiPadの便利機能！ 【便利機能】

- 1 スクリーンショットに文字を追加
- 2 Apple Pencilでインスタントメモ
- 3 AirPrintで簡単印刷
- 4 マルチタスクジェスチャ(Dock)で一つの画面に二つのアプリを表示
- 5 AirDropを使って写真やデータを近くの人へ簡単送信

◎もっと勉強したいと思っている君へ！

【便利無料アプリ】

- 1 ノートアプリ「Nebo」
Neboは手書きのノートアプリですが、手書きが苦手な人でも「自動文字変換でテキスト化」ができるので安心です。
- 2 「PictureThis 撮ったら、判る 1秒植物図鑑」
写真を撮るだけで、人工知能(AI)が草花や木の名前を瞬時に判定してくれる。
- 3 「NightSky ナイトスカイ」
屋内・屋外関係なくリアルタイムで天体観測ができる。
- 4 「じしよ君」
和英・英和・ことわざ・国語辞典等がひとつになった総合辞書アプリ。シンプルな操作性で使いやすい。
- 5 「漢字検定・漢検漢字トレーニング」「毎日脳トレ」等々無料で使える便利無料アプリがいっぱいあります。

iPadは様々な授業で使用する大切な学習用具です。
乱暴に扱ったり、学習目的以外の不適切な利用の仕方をしないように十分注意してください。

19

【「学習の手引き」活用のポイント】

学習の基盤となる資質・能力の育成における、言語、情報の学習の資料として掲載しています。

特に、話し合いのルールとマナーでは、学校全体で共通理解ができることで、特に委員会活動など特別活動の話し合いをより建設的で活発なものにできるよう、内容を理解させ、折に触れて確認したり、活動の振りかえりに活用したりできればと思います。

二つの大切な計画について

「個別的教育支援計画」とは、みなさんが卒業してから使う大切なものです。現在の状況を把握し、自分の進路希望や将来の生活について学校と保護者、あなた自身、関係機関で確認し、その目標や手立てについて考えます。卒業後は、企業や支援を受ける関係機関でも使います。

「個別の指導計画」は、学校での学習における目標や手立てを学校で考え、保護者やあなた自身で確認し、学期末にはその達成度についてお知らせします。



学びのキーワード

2つの計画を自分のために活用しよう

【「学習の手引き」活用のポイント】

個別的教育支援計画と個別の指導計画は、生徒一人一人のニーズに対して適切な支援を行うための大切な指導計画ですが、生徒自身が自分の成長のために活用していくことが大切になります。

この頁では、2つの計画の概要に触れるのみですが、ガイダンスなどを通じて生徒の意識が高められるようにしていくことが大切です。

第3章

函館高等支援学校の 学習活動について

授業の種類

北海道函館高等支援学校には、大きく普通科と職業学科があります。さらに、職業学科には、生産技術科、食品デザイン科、福祉デザイン科の3つの学科があります。

授業の種類には、国語、数学などの教科や、作業学習、自立活動、特別活動、総合的な探究の時間、日常生活の指導などがあります。

ここでは、「自立活動」「特別活動」「総合的な探究の時間」「進路の学習」「地域貢献活動」について、どんなことを学習するのか、簡単に説明します。

また、他の授業の内容については、各授業のオリエンテーションで説明されるほか、配布される「シラバス」に1年間の学習内容などが載っています。

各学年の各教科等の授業数は、この資料の最後に表がありますので、そちらをご覧ください。

自立活動について

特別支援学校には、心や体の状態により、大変さや難しさを感じながら生活を送っている生徒が学んでいます。

その困難な状態を改善・克服するためにどうすればよいでしょう。

今現在の生活や、卒業後の社会生活で、より自立した生活を送るために必要な力は何かを考え、それをつけるために取り組む学習が「自立活動」です。



個別の教育支援計画で立てた「重点目標」などと関連させ、自分の課題に対して具体的な目標と達成するための学習活動を考えて取り組みます。

自立活動は、授業として1時間の学習を行います。自立活動の各自の目標を学校生活全体で意識して取り組むことが大切です。目標の設定とグループの選択は、先生とのガイダンスを行い、話し合いながら決めていきます。

学びのキーワード

自分のことを知り、課題を明確に

23

特別活動

【ホームルーム】

ホームルームには週2時間行う LHR（ロングホームルーム）と、毎日の朝、帰りに行う SHR（ショートホームルーム）があります。

LHR では、クラスで行事の取り組み方などをみんなで決める話し合いや、先生と、個別の教育支援計画の重点目標などについて話し合う「個別懇談（ガイダンス）」を行います。

【生徒会活動】

生徒会は、生徒会長、副会長、書記、会計の4役からなる生徒会執行部と、各委員会で構成されています。

生徒会は、各ホームルームで話し合われたことや、委員会で計画したことを生徒総会で決議し、それをもとに活動をしていきます。

生徒会活動は、議会制民主主義の考え方をモデルとして組織された活動です。社会の学習としても大変大切な活動ですから、みんなで協力して、積極的に取り組みましょう。

学びのキーワード

生徒会活動は社会の入口

24

総合的な探究の時間

総合的な探究の時間は、普通科では週 3 時間、職業学科は年に何回か、集中して学習します。

全校的な取組では「函館マラソンのボランティア活動」を総合的な探究の時間として取り組んでいます。

総合的な探究の時間のねらいは、テーマに沿って調べたことを基に、課題を考え解決したり、それをまとめて発表したりする力を付けることです。

総合的な探究の時間には、国語や他の教科などで学習した様々な力を使って学習に取り組みます。

また、みんなで話し合ったり、一緒に調べたりなど、協力して取り組む学習も多くあります。

みなさんがもっている、いろいろな力を発揮して取り組みましょう。

学びのキーワード

総合的な探究の時間はいろいろな力を総合的に使います

25

【「学習の手引き」活用のポイント】

第3章は、各教科以外の学習についての紹介です。

各授業のオリエンテーションに使用できるほど詳しい内容にはなっていませんので、クラスで個別面談を行っている間に、他の生徒に読んでもらい、授業について大まかに理解してもらったり、明日からこの授業が始まるというときに、どのような授業なのか確認するなどの活用ができるのではないかと思います。

進路の学習

高等支援学校は、小学校から続いてきた学校生活を終え、新たな社会生活に向かうための力を養う学校です。

その中で最も大切なのは、卒業後の社会生活の場を準備することです。社会生活とは、「働くこと」を通して、人や社会とかがわって生きていくことです。

さまざまな学習をとおして、自分のよさや苦手なことを知り、人とのかわり方を学びながら、「自分らしい生き方」を見つけましょう。

【その中心となる学習】

職業

作業学習(普通科は職業)

LHR

就業体験・現場実習

日常生活の指導(挨拶、言葉遣い、身だしなみなど)



学びのキーワード

卒業後の職業自立、社会自立を目指して

26

3年間の進路の流れ(未完成)



※それぞれの実習の意義を説明

【カフェ～ハコカフェ・クローバー】



学校教育目標にあるように、本校では地域のみなさんに貢献できる活動に取り組んでいます。

地域のみなさんの役に立ち、様々な場面で関わりをもちながら、将来の社会生活に必要な力を付けていきます。

「カフェ」は4つの学科が協働で運営し、日常の学習の成果を発揮し、地域のみなさんに喜んでいただけるような場所づくりを通して、地域のみなさんとつながっていくための、本校の特色のある学習活動です。



28

その他の社会貢献活動

【函館マラソン】

函館市が主催する「函館マラソン」でボランティア活動を行います。選手へのサポートのお手伝いをしたり、会場周辺の清掃活動などを行ったりしています。

総合的な探究の時間として取り組みます。

【地域清掃】

石川町、桔梗町の清掃活動を各学年、年1回、学科ごとに清掃区域を分担して実施します。

学びのキーワード

地域に貢献する学校

29

資料

- 1 各教科等の授業時数
- 2 本校の校章とスクールカラー

1 各教科等の授業時数

種類	授業の名称	1週当たりの時間数					
		普通科			職業学科		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
教科	国語						
	社会						
	数学						
	理科						
	音楽						
	美術						
	選択芸術						
	保健体育						
	職業						
	家庭						
	外国語						
	情報						
特別活動							
総合的な探求の時間							
自立活動							
日常生活の指導							

2 本校の校章とスクールカラー

校章は、北海道函館五稜郭支援学校と北海道函館校北高等学校の両校の歴史や精神に敬意を込め、新たな学校として新しい歴史を地域と協働し積み重ねることを中央の



五稜郭で表現しています。また、五稜郭の中に示す三角形は、「探究」「協働」「健全」の校訓を表現し、翼は、教育目標である「共生社会の一員として、自ら社会貢献する人間」として社会に力強く、かつしなやかに羽ばたく願いを込めています。中央の校名を表す「H」は、人と人が手を取り合い協働する社会を表しており、教育理念である「共生社会の創造」を追求することを象徴しています。校章は、北海道函館校北高等学校イラスト部と北海道高等専門学校専攻科情報デザイン科のコラボレーションにより作成しました。(監修：函館デザイン協議会 岡田 暁 氏)

スクールカラーは、セルリアンブルーです。本校所在地、石川町の高台より展望できる巴港の海の色と深いセルリアンブルーの青空。「知性」と「希望」を表すとされるブルーと、知性と希望をもって大空へ羽ばたき、未来という大海原へ船出しようとする北海道函館校北高等学校の理念を継承しています。

III

「主体的・対話的で深い学び」について
の基本的な事項（改訂版）

3 「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項（改訂版）

本資料の内容は、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組む際の、学習指導計画作成の視点となる基本的な事項を、学習指導要領およびその解説からまとめたものです。

（1）改定の基本方針より「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善推進について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する必要性と改善の留意点が示されています。

【引用】特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 第2節 改定の基本方針 1③「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進 より

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進

- 1 学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していく必要性
 - ・学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解するため
 - ・これからの時代に求められる資質・能力を身に付けるため
 - ・生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするため
- 2 授業改善の留意点
 - ア 授業の方法や技術の改善のみを意図するものではなく、生徒に育成を目指す資質・能力を育むために「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」の視点で、授業改善を進める
 - イ 通常行われている学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習など）の質を向上させることを主眼とする
 - ウ 1回1回の授業で全ての学びが実現されるものではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で実現を図っていく
 - エ 深い学びの鍵として学習と社会をつなぐ「見方・考え方」を働かせることが重要
 - オ 基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、それを身に付けさせるために、生徒の学びを深めたり主体性を引き出したりといった工夫を重ねながら、確実な習得を図ることを重視すること。

（2）学習指導要領より「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 その1

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の配慮事項が示されています。

【引用】特別支援学校高等部学習指導要領 総則第3款教育課程の実施と学習評価 1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 より

- 1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の配慮事項
 - (1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
 - 3つの柱を偏りなく実現されるように
 - 内容や時間のまとまりを見通して
 - 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行う
 - 特に「見方・考え方」を働かせる過程を重視する
 - (2)言語環境の整備と言語活動の充実
 - (3)コンピュータ等や教材・教具の活用
 - (4)見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする学習活動
 - (5)体験活動
 - (6)学校図書館、地域の施設の利活用

(3) 学習指導要領より「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 その2

「主体的・対話的で深い学び」のそれぞれの学びについての視点や、単元・題材の構成についての考え方、「見方・考え方」など、キーワードとなる内容についての視点が示されています。

【引用】特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部) 第4節教育課程の実施と学習評価 1
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善(1)より抜粋

1 「主体的・対話的で深い学び」の3つの視点

(1)「主体的な学び」が実現できているかという視点。

- ・自己のキャリア形成の方向性と関連付けている
- ・見通しをもって粘り強く取り組んでいる
- ・自己の学習活動を振り返って次につなげている

(2)「対話的な学び」が実現できているかという視点

- ・子供同士が協働している
- ・教職員や地域の人との対話をしている
- ・先哲の考え方を手掛かりに考え自己の考えを広げ深めている

(3)「深い学び」が実現できているかという視点

- ・「見方・考え方」を働かせる
- ・知識を相互に関連付けてより深く理解している
- ・情報を精査して考えを形成している
- ・問題を見いだして解決策を考えている
- ・思いや考えを基に創造している

2 「主体的・対話的で深い学び」の単元・題材の構成

- ・1時間で実現するものではなく内容や時間のまとまりのなかでデザインする
- ・基礎・基本の習得に課題がある場合は、主体性…を引き出しながら確実に習得

3 「見方・考え方」

- ・社会の中で生きて働くものとして習得
- ・思考力、判断力、表現力等を豊かなものとする
- ・社会や世界にどのように関わるかの視座を形成したりする学びの過程の中でより質の高い深い学びにつなげることが重要

4 「思考・判断・表現」の過程

(1)問題発見・解決につなげていく過程

(2)考えを形成したりしていく過程

(3)思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

(4) 学習指導要領解説より 知的障害教育の基本的な事項

知的障害領域における特性等に対する配慮や対応の基本が示されています。

【引用】特別支援学校学習指導要領解説知的障害教科等編(高等部)第2節指導の特徴について より

- (1) 知的障害のある生徒の学習上の特性等から次のようなことが重要である。
- ・知識や技能等を実際の生活場面に即しながら、継続的、段階的に身につける。
 - ・抽象的な内容の指導よりも、具体的に思考や判断、表現できるようにする。
 - ・教材・教具、補助用具、生徒への関わり方の一貫性や継続性の確保など環境的条件を整える。
- (2) 知的障害のある生徒の教育的対応の基本
- ①生徒の教育的ニーズを的確に捉え、育成を目指す資質・能力を明確にして指導目標を設定する。
 - ②生活に生きて働く知識及び技能、習慣や学びに向かう力が身に付くよう指導する。
 - ③将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等が育つよう指導する。
 - ④生活の課題に沿って、生活を工夫していこうとする意欲が育つよう指導する。
 - ⑤自発的、主体的な活動を促し、課題を解決しようとする思考力、判断力、表現力等を育む。
 - ⑥自ら見通しをもって主体的に行動できるよう、日課や学習環境などを分かりやすくする。
 - ⑦生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え成功経験を豊富にする。
 - ⑧生徒の興味や関心等に着眼し、段階的な指導を行うなど学習活動への意欲を育てる。
 - ⑨生徒が集団において役割が得られ活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるようにする。
 - ⑩生徒一人一人の課題に応じるとともに、生徒の生活年齢に即した指導を徹底する。

令和5年度版

HKS 学習の手引き



北海道函館高等支援学校

北海道函館高等支援学校 「学習の手引き」について

みなさんは3年生では18歳になりますから、この学校を卒業するときには、成人として社会に出て行くこととなります。

成人になるということは、選挙権をもち、社会を作っていく一員になる責任をもつということです。

今、世界は、かつてない速さでその姿を変えています。様々な技術の進歩で、生活が便利になる一方、経済的な格差が広がったり、気候変動などによる自然災害が多発したり、国と国との対立が深まったりなど、世界が協力しなければ解決できない課題も数多くあります。

私たちには、このような急速に変化する社会、予測が困難な時代の中で、様々な人々と協力して問題を解決する努力をしたり、心を豊にして自分の人生を充実させたりしながら、力強く生きていくことが求められています。

北海道函館高等支援学校では、この学校に学ぶみなさんが、社会の中でより良く生活していくために必要な力を、様々な学習を通して学んでいきます。

この冊子は、学習するみなさんに意識してほしいことや大切なことなどを、コンパクトにまとめたものです。

内容をよく理解して、毎日の学習を充実させるための参考にしてください。

目次

第1章 この学校でつける力

これからの時代を生きるために大切な力……………	4
学校教育目標について……………	6
校訓について……………	7

第2章 学習の取組方

授業の組み立て～3つの^{だんかい}段階～

「わかる」「できる」「いきる」……………	11
^{がくしゅう} 学習のルールとマナー……………	12
話し合いのルールとマナー……………	17
調べ学習……………	18
二つの大切な計画について……………	20

第3章 様々な学習について

授業の種類……………	22
自立活動……………	23
特別活動……………	24
総合的な探究の時間……………	25
進路の学習……………	26
カフェ～ハコカフェ・クローバー……………	28
その他の ^{ちいきこうけんかつどう} 地域貢献活動……………	29

資料

各教科等の授業時数……………	31
校章とスクールカラー……………	32

第 1 章

この学校でつける力

これからの時代じだいを生きるために大切な力

これからの時代は予測困難よそくこんなんな時代とされています。

次の6つの力は、そんな時代を生きていくために大切な力です。いろいろな学習とを通して、この6つの力をつけていきましょう。

1 言語力げんごりょく(言葉の力)

- 文章ぶんしょうを読み、書き、理解したり考えたりする力
- 話す力、聞く力、話し合う力

○言語力は全ての学習の基礎きそとなる大切な力

〔特に関係する学習：国語他全ての学習すべ〕



2 情報力じょうほうりょく(情報を使う力)

- 情報を得る力
- 情報を使う力
- ルールやマナーを守って情報を使う力

〔特に関係する学習：情報そうごうてき、総合的な探究たんきゅうの時間〕



3 問題解決力もんだいかいけつりょく(問題を見出し解決する力)

- 問題を見つける力
- 問題を解決する力



○各授業の「学習目標」を達成たっせいするための学習活動は、「問題解決力」を付ける大切な活動

〔特に関係する学習：特別活動、総合的な探究の時間〕

4 健康安全力(健康、安全に生活する力)

- 心身の健康を維持向上する力^{いじこうじょう}
- 衛生的な生活を管理する力^{えいせいてき}
- 交通安全に関する力
- 防災に関する力^{ぼうさい}
- 防犯に関する力^{ぼうはん}



〔特に関係する学習：保健体育 家庭科 特別活動他〕

5 社会性(社会で生活するのに必要な力)

- 決まりやマナーを守る力
- 他人を尊重し、協力する力^{そんちよう}
- 社会的な責任と義務を果たす力^{ぎむ は}
- 社会に貢献する力^{こうけん}



〔特に関係する学習：社会 職業 家庭 総合的な探究^{たんきゅう}の時間 特別活動他〕

6 創造性(生み出す力)^{そうぞうせい}

- 表現する力^{ひょうげん}
- 発想したり工夫したりする力^{はっそう くふう}
- 様々な価値を感じる力^{かち}



〔特に関係する学習：音楽 美術 職業 情報 他〕

学校教育目標について

北海道函館高等支援学校「学校教育目標」

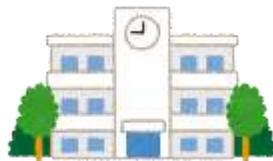
「共生社会の一員として、

自ら社会に貢献する人間の育成」

学校教育目標は、学校がどのような生徒の育成を目指しているかを表した、学校の中で最も大切な目標です。

「共生社会」とはあらゆる人々がお互いを認め合い、助け合い、共に生きていく社会です。

この目標には、この学校で学んだみなさんが、社会の一員として、多くの人々とより良い関係を築きながら、自分から社会に貢献できる人になってほしいという願いが込められています。



学びのキーワード「学校教育目標」

共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間の育成

こうくん 校訓について

たんきゅう きょうどう けんぜん
「探究・協働・健全」

函館高等支援学校では、「探究・協働・健全」の3つの言葉を校訓としています。

この3つの言葉は、みなさんが、学校教育目標にある「共生社会の一員として、自ら社会に貢献する人間」となるために必要な、様々な力を表しています。



それぞれの言葉が表している力を身につけることができるように、学校生活の様々な場面で校訓を意識して、学習に取り組んでください。



そうすることで、この3つの言葉のもつ意味を、しっかりと自分の力に変えていきましょう。



校訓は、この学校で共に学び生活するみんなをつなぐ大切な合言葉です。



【探究】

学び働き生きることを生涯しょうがいにわたって探究たんきゅうする人間
「探究」とは探さがし求もとめ、究きわめるといことです。

「探究」が表す力

- ・自ら学ぼうとする力
- ・知識や技能を高め、深めようとする力
- ・より良く生きようと求め、努力し続ける力
- ・問題や課題を考え、解決しようとする力



【協働】

多様性たようせいを尊重そんちょうし、互いのよさを認め合い協働きょうどうする人間
「協働」とは、人々と一緒に協力しながら活動すること
です。

「協働」が表す力

- ・誰とでもより良い関係を築くことができる力
- ・人から学ぼうとする力
- ・人の気持ちや考えを認め尊重できる力
- ・誰とでも話し合い、協力できる力



【健全】

生涯しょうがいにわたって健すこやかな心身しんしんと豊かんせいかな感性みかを磨く人間
「健全けんぜん」とは、心と体が健康であるということです。

「健全」が表す力

- 健康な心と体をつくり、保つ力
- 善悪の判断ができ、適切な行動ができる力
- 自分の心と体を磨く力



学びのキーワード「校訓」

校訓は学びの合い言葉
「探究」「協働」「健全」

第2章

学習の取組方

授業の組み立て～3つの段階～ 「わかる」「できる」「いきる」

授業で学んだことが、生活の中で生かされる力となるためには、決められたことにただ取り組むのではなく、「何ができるようになれば良いのか」「そのためにどんな努力や工夫が必要か」を考えながら、自分から積極的に学ぶことが大切です。

積極的に学ぶためには、授業の基本的な段階(組み立て)や、学習のポイントを理解することが大切です。

【第1段階「わかる」】

授業のはじめには、「学習予定」「学習目標」が示されます。また、学習に必要な「基礎・基本」を学び、これからの学習への準備をします。

この3つが学習に取り組むためにとても大切です。しっかり理解しましょう。

1 「学習予定」

学習の期間や進め方を理解し、予定に合わせて学習を進めることができるように見通しをもちます。

2 「学習目標」

この授業でどんなことを学び、どんなことができるようになるかを表したのが「学習目標」です。



目標をよく理解^{りかい}して、学習中には常に意識^{つね}して、目標が達成^{たっせい}できるように努力^{なつ}しましょう。

3 「基礎・基本」

学習に取り組むためには、その基礎・基本となる知識^{ちしき}や技能^{ぎのう}があります。学習活動は、その基礎・基本を使いながら、さらに高いレベルの学習に取り組めます。

それぞれの授業では、どんなことが基礎・基本となるかを理解^{りかい}しましょう。

【第2段階「できる」】

第1段階^{だんかい}の「わかる」で理解^{りかい}した「学習目標」を達成^{たっせい}するために、学習した基礎・基本となる知識・技能や、みなさんが今まで学習したこと、経験^{けんけん}したことなどを基^{もと}に、理解^{りかい}を深めたり、技能^{ぎのう}を高めたり、問題を解決^{かいけつ}したりしながら、さらに発展^{はつぜん}させ、力を高める段階^{だんがい}です。

この段階^{だんがい}で大切なことは「学習目標」を理解^{りかい}して、「何ができるようになれば良いか」を意識^{いし}しながら、試行錯誤^{しこうさくご}したり、繰返^くし練習^{れんしゅう}したりすることです。

また、目標達成^{たっせい}に向けて粘^{ねば}り強く取り組む意欲^{いよく}をもつことも大切です。



【第3段階「いきる」】

学習を振り返り、次の学習や生活に生かせるようにする、
まとめの段階です。

「自己評価」

「自己評価」は、学習目標に対して、自分がどの程度達成することができたかを、自分で評価するものです。

自分の取り組み方や課題を反省し、次の学習に生かしましょう。

学びのキーワード

授業の組み立て 3つの段階
「わかる」「できる」「いきる」

学習のルールとマナー

みなさんが通学つうがくに使うバスは、走るコースやバス停ていが決まっていますが、同じように、北海道函館高等支援学校でも、3年間で学習する内容や時間数が決まっています。これを「教育課程きょういくかてい」といいます。

みなさんは、入学のときに誓約書せいやくしょに署名しよめいをし、本校の生徒ほんぶんとしての本分を守って学校生活を送ることを誓ちかいました。ですから、この「教育課程きょういくかてい」に沿って、いろいろな学習をしていくことになります。

また、この学校には、たくさんの生徒が学んでいます。

それぞれの生徒が、いろいろな考え方や、個性をもって生活しています。

「学習のルールとマナー」は、この学校で学ぶ誰もが、一緒に楽しく、充実じゅうじつして学ぶことができるための大切な約束やくそくこと事です。

自分のため、そしてみんなのために、必ずかなら守ってください。

また、「学習のルールとマナー」は、社会に出てからも必要な内容ばかりです。社会生活を送る力として身みに付けましょう。

【学習のルール】

[授業の前後]

- 学習をする教室や服装^{ふくそう}、持ち物などは、自分で事前に^{じぜん}確認すること。
- チャイムが鳴るまでに着席すること。
- トイレや授業の準備^{じゆんび}、着替え^{きが}、教室移動^{いどう}は休み時間のうち^{おこな}に行うこと。

[授業中]

- 先生の指示^{しじ}に従って活動すること。
- 先生の説明^{せつめい}は静かに聞いて、良く理解すること。
- 発言や質問は、先生の説明の後に手をあげて、指名^{しめい}されてから行うこと。
- 友達の発言も最後まで聞くこと。
- 体調不良^{たいちようふりょう}などで授業に参加^{さんか}することが難しい場合は、授業の前に先生に相談^{そうだん}すること。
- 授業中は私語^{しご}や学習内容と関係のない活動、人に迷惑^{めいわく}をかけるような活動はしないこと。
- 物品の破損^{ぶっぴん}やケガ^{はそん}などは、すぐに先生に連絡^{れんらく}すること。
- 教室^{きょうざい}や教材^{きょうざい}など授業で使用するものを大切に扱^{あつか}うこと。



【学習のマナー】

- あいさつ、言葉遣い、振る舞いなど、礼儀正しくしましょう。
- 道具やプリントなどを大切に扱い、机の上、中、ロッカーやファイルなど、常に整理整頓しましょう。
- 間違ったり、失敗したりした友達に対して、馬鹿にしたり、批判したりせずに、励ましたり、手伝ったりする気持ちを持ちましょう。
- 体調が悪くても、参加する以上はしっかり取り組みましょう。参加が難しい場合は、自分から先生に相談しましょう。
- 苦手なことでも、投げやりな態度をとらず、できるだけ努力しましょう。

学びのキーワード

学習のルールやマナーは社会のルールやマナー

話し合いのルールとマナー

話し合いは、人々が共に生活していくために必要な、
もっとも基本的な手段です。

話し合いのルールやマナーを理解して、話し合う力を高めましょう。

【話し合いのルール・マナー】

- 友達の意見を否定しない。
- 友達の発言は最後まで聞く。
- ふざけたりばかにしたりしない。
- みんなが発言、意思表示をする。
- みんなで決めたことは大切に守る。



【話し合いのポイント】

- 何を話し合うか理解する。
- 話し合っどうするか理解する。
- 大切なことは何かをみんなで理解する。



※このほかに必要なことを、話し合いの時にみんなで考え、約束してから話し合しましょう。

学びのキーワード

話し合いは、社会生活の基本

調べ学習

調べ学習では、調べる内容や目的、まとめ方^{かた}や発表の仕方^{しかた}などをしっかりと理解して取り組むことが大切です。

1. 調べ学習の進め方

- (1) テーマを決める
- (2) 調べ方^{かた} (手段^{しゅだん}) を決める
- (3) 必要な情報^{じょうほう}を収集^{しゅうしゅう}する
- (4) 調べたことをまとめる
- (5) 発表^{はっぴょう}する



2. 調べ方 (手段) について

インターネットだけで調べて終わりにするのではなく、本^{ほん}や新聞^{しんぶん}、雑誌^{ざっし}など、様々な手段^{しゅだん}を使って調べる^{しら}ことが大切^{たいせつ}です。

① 本・雑誌・辞典など

⑤ インターネット (サイト)

② 新聞・チラシ

⑥ 現地調査

③ ラジオ・放送

⑦ 実験

④ DVD・ビデオ

⑧ インタビュー・アンケート



学びのキーワード

調べ学習のポイント

何のために何を調べてどうまとめるかを理解する

iPad の活用方法

◎知って得^{とく}する iPad の便利^{べんりきのう}機能！ 【便利機能】

- 1 スクリーンショットに文字を追加
- 2 Apple Pencil でインスタントメモ
- 3 Airprint で簡単印刷
- 4 マルチタスクジェスチャ (Dock) で一つの画面に二つのアプリを表示
- 5 AirDrop を使って写真やデータを近くの人へ簡単送信

◎もっと勉強^{べんきょう}したいと思っている君へ！ 【便利無料アプリ】

- 1 ノートアプリ「Nebo」
Nebo は手書きのノートアプリですが、手書きが苦手な人でも自動文字変換でテキスト化^{てきすとくわ}ができるので安心です。
- 2 「PictureThis:撮^とったら、判^はる 1 秒植物^{しょくぶつ}図鑑」
写真を撮るだけで・人工知能 (AI) が草花や木の名前を瞬時に判定してくれる。
- 3 「NightSky ナイトスカイ」
屋内・屋外関係なくリアルタイムで天体観測ができる。
- 4 「じしょ君」
和英・英和・ことわざ・国語辞典等がひとつになった総合辞書アプリ。シンプルな操作性で使いやすい。
- 5 「漢字検定・漢検漢字トレーニング」「毎日脳トレ」等々無料で使える便利無料アプリがいっぱいあります。

iPad は様^{さま}々な授業^{じゆぎょう}で使用する大切な学習用具です。
乱^{らんぼう}暴^{ぼう}に扱^{あつか}ったり、学習目的^{がくしゆもく}以外の不^ふ適^{てきせつ}切^{せつ}な利用^{りよう}の仕^し方をしないように十分注意してください。

二つの大切な計画について

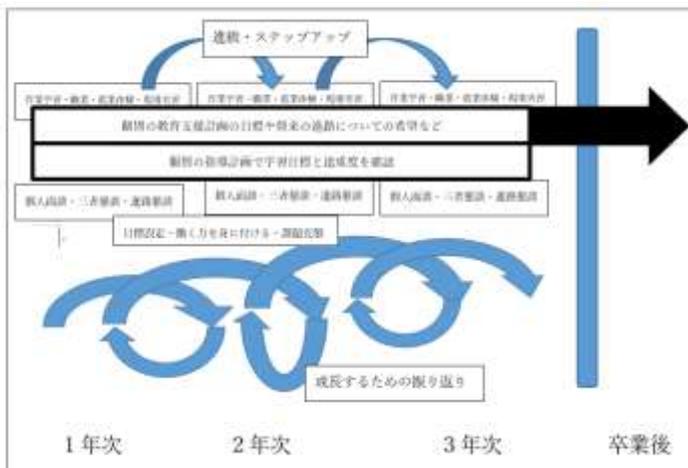
個別の教育支援計画と個別の指導計画

「個別の教育支援計画」とは、みなさんが卒業してからも使う大切なものです。現在の状況を把握し、自分の進路希望や将来の生活について学校と保護者、あなた自身、関係機関で確認し、その目標や手立てについて考えます。卒業後は、企業や支援を受ける関係機関でも使います。

「個別の指導計画」は、学校での学習における目標や手立てを学校で考え、保護者やあなた自身で確認し、学期末にはその達成度についてお知らせします。

学びのキーワード

2つの計画を自分のために活用しよう



第3章

函館高等支援学校の 学習活動について

授業の種類

北海道函館高等支援学校には、大きく普通科と職業学科があります。さらに、職業学科には、生産技術科、食品デザイン科、福祉デザイン科の3つの学科があります。

授業の種類には、国語、数学などの教科や、作業学習、自立活動、特別活動、総合的な探究の時間のほか、毎日の清掃活動や給食の配膳を行う日常生活の指導、体力づくりを行うTKK学習などがあります。

ここでは、「自立活動」「特別活動」「総合的な探究の時間」「進路の学習」「地域貢献活動」について、どんなことを学習するのか、簡単に説明します。

また、他の授業の内容については、各授業のオリエンテーションで説明されるほか、配布される「シラバス」に1年間の学習内容などが載っています。

各学年の各教科等の授業数は、この資料の最後に表がありますので、そちらをご覧ください。

じりつかつどう 自立活動

特別支援学校には、心や体の状態により、大変さや難しさを感じながら生活を送っている生徒が学んでいます。

その困難な状態を改善・克服するためにどうすればよいでしょう。



今現在の生活や、卒業後の社会生活で、より自立した生活を送るために必要な力は何かを考え、それをつけるため

に取り組む学習が「自立活動」です。



個別の教育支援計画で立てた「重点目標」などと関連させ、自分の課題に対して具体的な目標と達成するための学習活動を考え、取り組みます。

自立活動は、授業として1時間の学習を行います。自立活動の各自の目標を学校生活全体で意識して取り組むことが大切です。目標の設定とグループの選択は、先生とのガイダンスを行い、話し合いながら決めていきます。

学びのキーワード

自分のことを知り、課題を明確に

特別活動

【ホームルーム】

ホームルームには週2時間行う LHR（ロングホームルーム）と、毎日の朝、帰りに行う SHR（ショートホームルーム）があります。

LHR では、クラスで行事の取り組み方などをみんなで決める話し合いや、先生と、個別の教育支援計画の重点目標などについて話し合う「個別懇談（ガイダンス）」を行います。

【生徒会活動】

生徒会は、生徒会長、副会長、書記、会計の4役からなる生徒会執行部と、各委員会で構成されています。

生徒会は、各ホームルームで話し合われたことや、委員会で計画したことを生徒総会で決議し、それをもとに活動をしていきます。

生徒会活動は、議会制民主主義の考え方をモデルとして組織された活動です。社会の学習としても大変大切な活動ですから、みんなで協力して、積極的に取り組みましょう。

学びのキーワード

生徒会活動は社会の入口

そうごうてき たんきゅう 総合的な探究の時間

総合的な探究の時間は、普通科では週 3 時間、職業学科は年に何回か、集中して学習します。

全校的な取組では「函館マラソンのボランティア活動」を総合的な探究の時間として取り組んでいます。

総合的な探究の時間のねらいは、テーマに沿って調べたことを基に、課題を考え解決したり、それをまとめて発表したりする力を付けることです。

総合的な探究の時間には、国語や他の教科などで学習した様々な力を使って学習に取り組めます。

また、みんなで話し合ったり、一緒に調べたりなど、協力して取り組む学習も多くあります。

みなさんが持っている、いろいろな力を発揮して取り組みましょう。

学びのキーワード

総合的な探究の時間はいろいろな力を総合的に使います

進路の学習

高等支援学校は、小学校から続いてきた学校生活を終え、新たな社会生活に向かうための力を養^{やしな}う学校です。



その中で最も大切なのは、卒業後の社会生活の場を準備することです。社会生活とは、「働くこと」を通して、人や社会とかがわって生きていくことです。

さまざまな学習をとおして、自分のよさや苦手なことを知り、人とのかかわり方を学びながら、「自分らしい生き方」を見つけましょう。

【その中心となる学習】

職業

作業学習(普通科は職業)

LHR

就^{しゅうぎょう}業^{たいけん}体験・現場実習

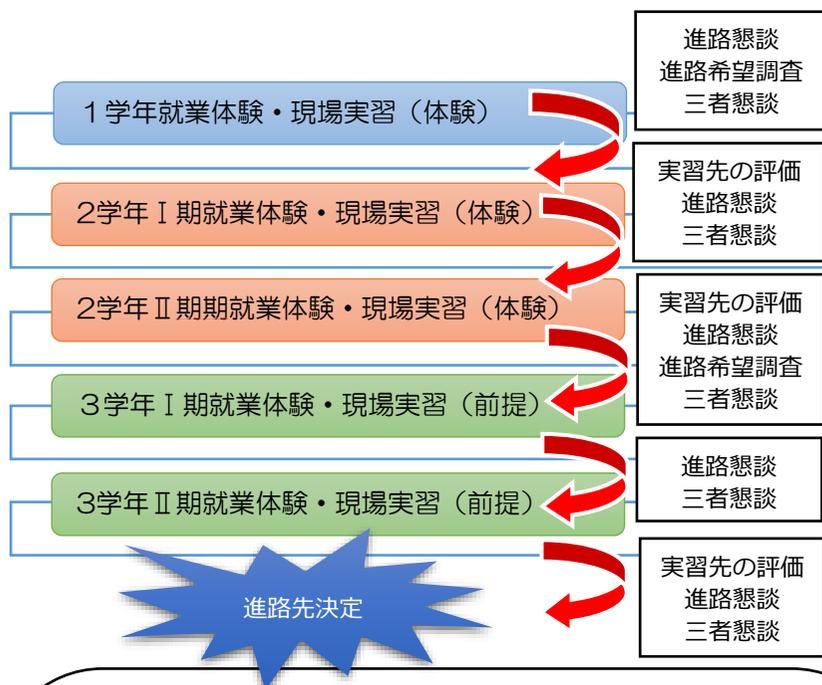
日常生活の指導(挨拶^{あいさつ}、言葉遣い^{つか}、身だしなみなど)



学びのキーワード

卒業後の職業自立、社会自立を目指して

3年間の進路の流れ



1 学年（体験実習）

- 先生の引率・2～4名のグループ
- 学校の近くの職場
- 実際の職場を知る、働く体験をする
- 普通科は1日×3か所
- 職業学科は8日間

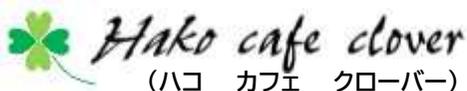
2 学年Ⅰ期・Ⅱ期（体験実習）

- 単独・基本的に引率はなし
- 自宅から通勤
- 進路希望に合わせた職場
- 自分の力を試す、自己理解
- 普通科は3日×2か所（Ⅰ期）、8日間（Ⅱ期）
- 職業学科は10日間（Ⅰ期）、13日間（Ⅱ期）

3 学年Ⅰ期・Ⅱ期（前提実習）

- 単独
- 進路希望先での実習
- 就職を前提とした実習
- 15日間（Ⅰ期）～1次試験
- 20日間（Ⅱ期）～最終試験

【カフェ～ハコカフェ・クローバー】



学校教育目標にあるように、本校では地域みなさんに貢献できる活動に取り組んでいます。

地域みなさんの役に立ち、様々な場面で関わりをもちながら、将来の社会生活に必要な力を付けていきます。

「カフェ」は4つの学科が協働で運営し、日常の学習の成果を発揮し、地域みなさんに喜んでいただけるような場所づくりを通して、地域みなさんにつながっていくための、本校の特色のある学習活動です。



その他の社会^{こうけん}貢献活動

【函館マラソン】

函館市が主催する「函館マラソン」でボランティア活動を行います。選手へのサポートのお手伝いをしたり、会場周辺の清掃活動などを行ったりしています。
総合的な探究^{そうごうてき たんきゅう}の時間として取り組みます。

学びのキーワード 地域に貢献する学校

【^{ちいきせいそう}地域清掃】

石川町、桔梗町の清掃活動を各学年、年1回、学科ごとに清掃区域^{くいき ぶんたん}を分担して実施^{じっし}します。

資料

- 1 各教科等の授業時数
- 2 本校の校章^{こうしょう}とスクールカラー

1 各教科等の授業時数

種類	授業の名称	1週当たりの時間数					
		普通科			職業学科		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
教科	国語	3	2	2	2	2	2
	社会	2	2	2	1	1	1
	数学	2	2	2	2	2	2
	理科	1	1	1	1	/	/
	音楽	1	1	1	1	1	1
	美術	2	2	1	2	2	1
	選択芸術	/	1	1	/	/	/
	保健体育	4	4	3	4	4	3
	職業	4	4	6	1	1	1
	家庭	2	2	2	1	1	1
	外国語	1	1	1	/	/	/
	情報	2	2	2	1	1	1
特別活動		1	1	1	1	1	1
総合的な探求の時間		3	3	3	まとめて実施		
自立活動		1	1	1	1	1	1
作業学習		/	/	/	11	12	14
日常生活の指導		毎日（清掃活動・給食当番）					
TKK 学習		1	1	1	1	1	1

2 本校の校章とスクールカラー

校章は、北海道函館五稜郭支援学校と北海道函館^{りょうほく}北高等学校の^{りょうこう}両校の歴史や^{せいしん}精神に敬意を込め、新たな学校として新しい歴史を^{れきし}地域と^{ちいき}協働し^{きょうどう}積み重ねることを中央の五稜郭で^{ひょうげん}表現しています。また、五稜郭の中に示す三角形は、「探究」「協働」「健全」の校訓を表現し、^{つばさ}翼は、教育目標である「共生社会の一員として、自ら社会貢献する人間」として社会に力強く、かつしなやかに^は羽ばたく願いを込めています。^{ちゅうおう}中央の校名を表す「H」は、人と人が手を取り合い協働する社会を表しており、^{りねん}教育理念である「共生社会の^{そうぞう}創造」を^{しょうちよう}象徴しています。校章は、北海道函館北高等学校イラスト部と北海道高等^{ろう}聾学校^{せんこう}専攻科情報デザイン科のコラボレーションにより作成しました。（^{かんしゅう}監修：函館デザイン協議会 ^{きょうぎかい}岡田 暁 氏）



スクールカラーは、セルリアンブルーです。本校所在地、石川町^{たかだい}の高台より^{てんぼう}展望できる^{ともえこう}巴港の海の色と深いセルリアンブルーの青空。「^{ちせい}知性」と「^{ちせいの}希望」を表すと言われるブルーと、知性と希望をもって^{おおうなばら}大空へ^{ふなで}羽ばたき、未来という^{おおうなばら}大海原へ^{ふなで}船出しようとする北海道^{けいしやう}函館北高等学校の理念を継承しています。

あとがき

北海道函館高等支援学校の教育活動に関わり多くの方々の御支援をいただいておりますことを心より感謝申し上げます。

さて、この度、多くの教育関係者の皆様と共に本校の3年間の研究の軌跡と教育活動の評価をいただきましたことにお礼申し上げます。そして、この3年間の研究のまとめとして本研究紀要が完成いたしました。

知的障害教育において昨今求められている「主体的・対話的で深い学び」の実現は、日々の授業の中で生まれ日常生活で生きるものであり、生徒たち同士や生徒と教師の間でこそ学びを深めることができるものであるとも考えます。本校で取り組んだ3ヵ年計画の研究は、2年次において「わかる」「できる」「いきる」というキーワードのもとにつくられた「学習の手引き」「学習デザインガイドブック」の活用評価を通して、生徒と教師が同じイメージを持ちながら生徒たちの学びを導いていくものです。

開校当初、「学校という『場』をイノベーションの発想で『学校のカタチ』にデザインしていくことが今の時代に最も必要」であることを礎に新学習指導要領の趣旨に沿って「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「何が身についたか」そしてそれを実践するために何が必要かという視点の基に生徒の「今」を大切にしてきたことが「カタチ」になってまいりました。

これからも一人一人の生徒が輝けるそんな学校であることを追い求め、我々教職員もまた、決してあきらめることなく、学び続けていくことを大切に歩んで行きたいと思えます。

結びになりますが、本校をあたたく支えていただいている地域の方々、関係機関の皆様、多くの方々の御理解と御協力に感謝申し上げますとともに、地域の景色の一部としての函館高等支援学校であり続けられるよう今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

北海道函館高等支援学校長 源 一 広

北海道函館高等支援学校 過年度研究の概要

年度	研究テーマ	取組内容	
		研究内容	研究会・研修会
令和元年度	社会に開かれた教育課程のつながりを確かめる ～1年次副題：教育実践をベースとしたカリキュラム・マネジメントの確立～	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育課程、各全体計画、基底の年間指導計画の確認と見直し 授業研究 	公開研究会 1 研究授業 総合的な探究の時間（普通1学年） 作業学習（生産・食品・福祉1学年） 2 講演 (1)演題「知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント」 (2)講師 北翔大学教育文化学部教育学科教授 磯貝 隆之 氏
令和2年度	社会に開かれた教育課程とカリキュラム・マネジメントの充実～副題：育成を目指す資質・能力と単元・題材の計画と評価～	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育課程の基本となる計画に基づいた単元・題材の計画、実践 学習評価の在り方 授業研究 	1 地域教職員研修促進費に係る地域連携研修 (1)本校の実践発表 「函館マラソンのボランティア活動に係る実践」 (2)講演 ア 演題「知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント」～教科等横断的な視点による学習の実践的展開～講演講師 イ 講師 弘前大学大学院教育学研究科教授 菊地 一文 氏 2 校内研究会 研究授業 美術(全学科1学年) 国語(食品2学年) 作業学習(福祉2学年)
令和3年度～5年度	「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」 [1年次副題] 主体的・対話的で深い学びの基礎・基本の共通理解 [2年次副題] 「わかる」「できる」「いきる」授業のための授業改善 「学習の手引き」・「授業デザインガイドブック」の作成 [3年次副題] 「わかる」「できる」「いきる」視点による授業改善～「学習の手引き」・「学習デザインガイドブック」の活用～	[1年次] ・「主体的・対話的で深い学び」の視点の確認 ・授業研究 [2年次] ・「主体的・対話的で深い学び」についての基本的な事項を基に、「わかる」「できる」「いきる」の視点を設定 ・「学習デザインガイドブック」と「学習の手引き」の作成 [3年次] ・「学習の手引き」と「授業デザインガイドブック」の活用	[1年次] 1 地域教職員研修促進費に係る地域連携研修 (1)講演 ア 演題 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～体験的な学習・生活に結びついた学習の在り方について～」 イ 講師 北海道教育大学函館校 教授 北村 博幸 氏 (2)本校の実践発表 「地域とつながる4学科協働によるカフェの実践」 2 校内研究会 研究授業 英語(1年普通科) 音楽(全学科3年) 理科(食品1年) [2年次] 1 地域教職員研修促進費に係る地域連携研修 (1)講演 ア 演題 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」 イ 講師 横浜市立本郷特別支援学校 副校長 坂本 征之 氏 (2)本校の実践発表 「普通科の実践」 [3年次] 公開研究会 1 研究授業 体育(全1年) 作業学習(食品2年) 総合的な探究の時間(普通3年) 2 講演 (1)講師 弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻 教授 菊地 一文 氏 (2)演題 「知的障害教育における主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～学びをつなぐためのカリキュラム・マネジメントとキャリア・パスポート～」

令和5年度 研究紀要

「探究」

第2号

令和6年(2024年)4月発行

発行者 北海道函館高等支援学校校長

源 一 広

〒041-0802

北海道函館市石川町181番地8

TEL/FAX 0138-34-2110

<http://www.hakodatekoushi.hokkaido-c.ed.jp/>